

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第218集

お お ぐ り
大栗遺跡

2022

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

平成 26 年度より本格化してきた設楽ダム事業にともなう発掘調査は、現在ようやくそのピークを超えようとしています。

本報告書である大栗遺跡は、平成 27 年度と 28 年度の 2 カ年にわたって発掘調査を行ないました。

その結果、今からおよそ 1 万 5000 年から 7000 年前にあたる縄文時代早期の陥し穴や煙道付炉穴、5000 年前の縄文時代中期の竪穴建物などの遺構を確認しました。

特に煙道付炉穴は極めて遺存状態が良く、縄文人の生活様式を知るうえで重要な手がかりとなることでしょう。

また、近世～近代の大規模な柵列は、もともとの傾斜地を居住地に変えるための先人たちの努力のあとを窺わせます。

このように重要な調査成果を収めた本報告書が多くの方々目に触れ、利用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、本遺跡の調査と報告書作成にご協力いただいた関係諸機関ならびに地元住民、そして研究者の皆様方には、深く感謝を申し上げます。

令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 森田 利洋

例言

1. 本書は、愛知県北設楽郡設楽町川向に所在する大栗遺跡（おおぐりいせき：県遺跡番号 700163）の発掘調査報告書である。遺跡の所在地は、北緯 35 度 6 分 40 秒、東経 137 度 33 分 52 秒（世界測地系）である。
2. 発掘調査は、設楽ダムにともなう事前調査として、国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じて、公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが管理委託を受けて実施した。調査対象面積は 5,550 m²である。
3. 発掘調査は、平成 27 年 7 月から 9 月、平成 28 年 9 月から 12 月にかけて実施し、整理および報告書作成作業は令和 2 年 4 月から 3 年 3 月にかけて実施した。
4. 現地における発掘調査は、平成 27 年度が（株）二友組の支援を受けて樋上 昇（調査研究専門員—調査当時）・早野浩二（調査研究主任—調査当時）、平成 28 年度が安西工業（株）の支援を受けて樋上 昇・鈴木恵介（調査研究主事—調査当時）が担当しておこなった。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室（現・愛知県県民文化局文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、設楽町教育委員会、国土交通省中部地方整備局をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆は、樋上 昇、鬼頭 剛、川添和暁、早野浩二、鈴木恵介、田中 良、古澤 明、（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ、伊藤 茂、佐藤正教、廣田正史、山形秀樹、Zaur Lomtavidze、小林克也、安 昭炫、小林紘一、中村賢太郎、黒沼保子、バンドリ・スダルシャン、（株）第四紀地質研究所が分担し、編集は樋上がおこなった。執筆分担については、目次および本文文末に執筆者名を記した。
7. 整理作業は、樋上 昇が担当した。作業にあたっては次の方々、諸機関の助力を得た。
堀田祐美・山田亜紀子（整理補助員）、原田恵理（事務補助員）、金子知久（写真工房 遊）、（株）イビソク、（株）文化財サービス、（株）ラング、（株）第四紀地質研究所、（株）パレオ・ラボ
8. 本書に示す座標数値は、国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠し、表記は世界地系を用いている。海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。
9. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理をおこなった。
10. 写真および図面などの調査にかかわる記録類は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4161)
11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4164)
12. 本書作成するにあたり、次の方々から多くのご指導とご助言を得た。記して感謝したい。
大塚達朗・高橋三郎・増子康眞・綿田弘実（敬称略・50 音順）

目次

第1章 調査の概要

1. 設楽地域の歴史的環境（川添和暁）……………1
2. 調査にいたる経緯と調査の経過（樋上 昇）……………4
3. 基本層序（樋上）……………6

第2章 遺構と遺物

1. はじめに（樋上）……………9
2. 縄文時代早期の遺構（早野浩二・鈴木恵介・樋上）……………9
3. 縄文時代中期の遺構（樋上）……………19
4. 縄文時代の土器（川添和暁）……………19
5. 縄文時代～弥生時代の石器（田中 良）……………24
6. 縄文時代以降の遺構（早野・樋上）……………39
7. 弥生時代～近代の土器・陶磁器（樋上）……………51
8. 中世以降の石器（樋上）……………51
9. 近代の木製品（樋上）……………51

第3章 自然科学分析

1. 大栗遺跡における層序と古環境（鬼頭 剛・古澤 明ほか）……………96
2. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その1）
（伊藤 茂ほか（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ）……………112
3. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その2）
（伊藤 茂ほか（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ）……………126
4. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その3）
（伊藤 茂ほか（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ）……………130
5. 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定（小林克也）……………134
6. 大栗遺跡から出土した炭化材の樹種同定（黒沼保子・バンダリ・スダルシャン）……………138
7. 大栗遺跡出土黒曜石の蛍光 X 線分析（XRF）による原産地同定
（（株）第四紀 地質研究所）……………142

第4章 総括

- 大栗遺跡の遺構変遷について（樋上）……………146

- 一覧表……………149

遺構写真図版

遺物写真図版

抄録

挿図 目次

図 1-1	大栗遺跡と周辺の遺跡	2	図 2-28	15 調査区柵列 064SA (S=1:100)	51
図 1-2	大栗遺跡 2015・16 年度調査区位置図 (S=1:2,000)	5	図 2-29	15 調査区 042SK・043SK・044SK・046SK・ 048SK・051SK・055SK (S=1:50)	45
図 1-3	大栗遺跡全体図 (S=1:800)	7	図 2-30	16 調査区 石組 001SX (S=1:50)	46
図 1-4	2016 年度調査区西壁土層断面図 (S=1:100)	8	図 2-31	16 調査区 002SX・003SX・005SX・ 006SX・007SX (S=1:50)	47
図 2-1	15 調査区略測図 (S=1:500)	10	図 2-32	16 調査区柵列 070SA (S=1:50)	49
図 2-2	16 調査区略測図 (S=1:500)	11	図 2-33	16 調査区柵列 071SA (S=1:50)	50
図 2-3	15 調査区遺物集中地点 (S=1:100)	13	図 2-34	15 調査区 043SK・046SK・検出 I・表面採取 出土陶磁器 (S=1:4)	52
図 2-4	16 調査区煙道付炉穴 042SL・119SL (S=1:20)	14	図 2-35	15 調査区表土掘削・表面採取 / 16 調査区 006SX・015SK・表土掘削 / 試掘トレンチ出土土器・陶磁器 (S=1:4)	53
図 2-5	16 調査区煙道付炉穴 246SL (S=1:20)	15	図 2-36	15 調査区表土掘削・046SK・038SK 出土の砥石 (S=1:3)	54
図 2-6	16 調査区屋外炉 088SL・266SL (S=1:20)	16	図 2-37	15 調査区表面採取・051SK 出土木製品 (S=1:4)	54
図 2-7	16 調査区陥し穴 137SK・141SK・ 154SK・164SK (S=1:50)	17	図 2-38	16 調査区 008SK・009SK・010SK・011SK・ 012SK・013SK・014SK・015SK・016SK (S=1:50)	55
図 2-8	16 調査区陥し穴 165SK・210SK・289SK・ 290SK・291SK (S=1:50)	18	図 2-39	16 調査区 017SK・018SK・019SK・020SK・ 021SK・022SK・025SK・026SK・ 027SK・029SK・030SK (S=1:50)	56
図 2-9	16 調査区竪穴建物 090SI-1 (S=1:50)	20	図 2-40	16 調査区 031SK・033SK・034SK・ 035SK・037SK・039SK・040SK・041SK (S=1:50)	57
図 2-10	16 調査区竪穴建物 090SI-2 (S=1:50)	20	図 2-41	16 調査区 043SK・047SK・049SK・050SK・ 053SK・055SK・056SK・057SK・060SK (S=1:50)	58
図 2-11	16 調査区竪穴建物 090SI の 石囲炉 230SL-1 (S=1:20)	22	図 2-42	16 調査区 061SK・062SK・075SK・063SK・ 065SK・067SK・069SK・072SK・073SK (S=1:50)	59
図 2-12	16 調査区竪穴建物 090SI の 石囲炉 230SL-2 (S=1:20)	23	図 2-43	16 調査区 072SK・073SK・074SK・076SK・ 077SK・079SK・081SK・083SK・105SK (S=1:50)	60
図 2-13	15・16 調査区出土の縄文土器 (S=1:3)	25	図 2-44	16 調査区 083SK・085SK・086SK・087SK・ 089SK・091SK・092SK・094SK・095SK (S=1:50)	61
図 2-14	15 調査区中央トレンチ・5623-5625 グリッド 出土の石器 (S=2:3)	27	図 2-45	16 調査区 090SK・097SK・098SK・099SK・ 100SK・101SK・102SK・103SK・104SK (S=1:50)	62
図 2-15	15 調査区 5625・5723・5724 グリッド 出土の石器 (S=2:3)	28	図 2-46	16 調査区 107SK・108SK・109SK・110SK・ 111SK・112SK・116SK・121SK・126SK (S=1:50)	63
図 2-16	15 調査区 5724 グリッド 出土の石器-1 (S=2:3)	29	図 2-47	16 調査区 127SK・128SK・129SK・130SK・ 131SK・132SK・133SK・134SK・135SK (S=1:50)	64
図 2-17	15 調査区 5724 グリッド 出土の石器-2 (S=2:3)	30	図 2-48	16 調査区 136SP・138SK・139SK・142SK・ 143SK・144SK・145SK・147SK・151SK (S=1:50)	65
図 2-18	15 調査区 5724 グリッド 出土の石器-3 (S=2:3)	31	図 2-49	16 調査区 152SK・188SK・296SK・156SK・ 157SK・158SK・159SK・160SK・161SK	
図 2-19	15 調査区 5725・5824・5826・5925・6025 グリッド出土の石器 (S=1:3/2:3)	32			
図 2-20	15 調査区 063SK・042SK・5524・5424 グリッド出土の石器 (S=1:4/2:3)	33			
図 2-21	16 調査区 011SK・095SK・5626 グリッド・ 090SI 出土の石器 (S=1:3/2:3)	34			
図 2-22	16 調査区 090SI・230SL 出土の石器 (S=1:4/2:3)	35			
図 2-23	16 調査区 266SL・284SK・5626・5726 グリッド出土の石器 (S=1:3/2:3)	36			
図 2-24	16 調査区 5726 グリッド・164SK・270SK 出土の石器 (S=1:3/2:3)	37			
図 2-25	16 調査区 5828・5926・6127 グリッド・表面 採取・ テストトレンチ出土の石器 (S=1:3/2:3)	38			
図 2-26	15 調査区 002SK・003SK・012SK・018SK (S=1:50)	41			
図 2-27	15 調査区 019SK・021SK・032SK・042SK・ 049SK・060SK・061SK (S=1:50)	42			

	163SK (S=1:50) ……………66	図 2-76	16 調査区遺構全体図 -8 (S=1:100) ……………93
図 2-50	16 調査区 166SK・167SK・168SK・169SK・ 170SK・171SK・172SK・174SK・176SK 177SP (S=1:50) ……………67	図 2-77	16 調査区遺構全体図 -9 (S=1:100) ……………94
図 2-51	16 調査区 178SK・179SK・180SK・182SK・ 183SK・184SK・185SK・186SK・187SK (S=1:50) ……………68	図 2-78	15 調査区遺構全体図 -10 (S=1:100) ……………95
図 2-52	16 調査区 190SK・193SK・195SK・196SK・ 197SK・198SK・199SK・201SK・202SK (S=1:50) ……………69	図 3-1-1	大栗遺跡における分析試料採取地点……………97
図 2-53	16 調査区 203SK・205SK・206SK・207SK・ 211SK・213SK・215SK・217SK・218SK (S=1:50) ……………70	図 3-1-2	地点 1 (15A 区) の柱状図……………97
図 2-54	16 調査区 219SK・221SK・222SK・224SK・ 225SK・226SK・231SK・232SK・233SP 234SK・235SK (S=1:50) ……………71	図 3-1-3	地点 1 (15A 区) の分析試料採取状況……………97
図 2-55	16 調査区 236SP・237SK・238SK・243SK・ 244SK・247SK・248SK・249SK・250SK (S=1:50) ……………72	図 3-1-4	地点 2 (15A 区) の柱状図……………98
図 2-56	16 調査区 251SK・252SK・253SK・254SK・ 255SK・258SK・259SK・261SK・262SK (S=1:50) ……………73	図 3-1-5	地点 2 (15A 区) の分析試料採取状況……………99
図 2-57	16 調査区 264SK・265SK・267SK・268SK・ 269SK・270SK・271SK・272SK・273SK (S=1:50) ……………74	図 3-1-6	地点 3 (15A 区) の柱状図……………99
図 2-58	16 調査区 276SK・277SK・278SK・279SK・ 280SK・283SK・284SK・286SK・293SP (S=1:50) ……………75	図 3-1-7	地点 3 (15A 区) の分析試料採取状況……………99
図 2-59	15 調査区遺構全体図 -1 (S=1:100) ……………76	図 3-1-8	地点 4 (15A 区) の柱状図……………100
図 2-60	15 調査区遺構全体図 -2 (S=1:100) ……………77	図 3-1-9	地点 4 (15A 区) の分析試料採取状況……………100
図 2-61	15 調査区遺構全体図 -3 (S=1:100) ……………78	図 3-1-10	地点 5 (15B 区) の柱状図……………101
図 2-62	15 調査区遺構全体図 -4 (S=1:100) ……………79	図 3-1-11	地点 5 (15B 区) の分析試料採取状況……………101
図 2-63	15 調査区遺構全体図 -5 (S=1:100) ……………80	図 3-1-12	地点 6 (16 区) の柱状図……………102
図 2-64	15 調査区遺構全体図 -6 (S=1:100) ……………81	図 3-1-13	地点 7 (16 区) の柱状図……………103
図 2-65	15 調査区遺構全体図 -7 (S=1:100) ……………82	図 3-1-14	地点 8 (16 区) の柱状図……………103
図 2-66	15 調査区遺構全体図 -8 (S=1:100) ……………83	図 3-1-15	地点 6～地点 9 (16 区) の 分析試料採取状況……………104
図 2-67	15 調査区遺構全体図 -9 (S=1:100) ……………84	図 3-1-16	地点 9 (16 区) の柱状図……………105
図 2-68	15 調査区遺構全体図 -10 (S=1:100) ……………85	図 3-1-17	地点 10 (16 区) の柱状図…………… 105
図 2-69	16 調査区遺構全体図 -1 (S=1:100) ……………86	図 3-1-18	地点 10 (16 区) の 分析試料採取状況……………105
図 2-70	16 調査区遺構全体図 -2 (S=1:100) ……………87	図 3-1-19	地点 11 (16 区) の柱状図…………… 107
図 2-71	16 調査区遺構全体図 -3 (S=1:100) ……………88	図 3-1-20	地点 11 (16 区) の 分析試料採取状況……………107
図 2-72	16 調査区遺構全体図 -4 (S=1:100) ……………89	図 3-2-1	マルチプロット図 -1……………113
図 2-73	16 調査区遺構全体図 -5 (S=1:100) ……………90	図 3-2-2	マルチプロット図 -2……………114
図 2-74	16 調査区遺構全体図 -6 (S=1:100) ……………91	図 3-2-3	暦年較正結果 -1……………121
図 2-75	16 調査区遺構全体図 -7 (S=1:100) ……………92	図 3-2-4	暦年較正結果 -2……………122
		図 3-2-5	暦年較正結果 -3……………123
		図 3-2-6	暦年較正結果 -4……………124
		図 3-2-7	暦年較正結果 -5……………125
		図 3-3-1	暦年較正結果……………127
		図 3-3-2	マルチプロット図……………128
		図 3-4-1	暦年較正結果……………133
		図 3-5-1	大栗遺跡出土炭化材の 走査型電子顕微鏡写真……………137
		図 3-6-1	大栗遺跡から出土した炭化種実……………140
		図 3-6-2	炭化材の走査型電子顕微鏡写真……………141
		図 3-7-1	大栗遺跡出土黒曜石写真 -1……………144
		図 3-7-2	大栗遺跡出土黒曜石写真 -1……………145
		図 3-7-3	大栗遺跡・強被熱 EDS 写真……………145
		図 4-1	大栗遺跡の遺構変遷図 (S=1:1,500) ……………147
		図 4-2	2016 年度調査区西壁土層断面図 (S=1:100) ……………148

表 目 次

表 1-1 大栗遺跡と周辺の遺跡 …………… 3	表 3-5-1 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定結果 …… 134
表 1-2 大栗遺跡の調査・整理事業工程 …………… 4	表 3-5-2 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧 … 136
表 3-1-1 大栗遺跡 15 区における 放射性炭素年代測定結果 …………… 98	表 3-6-1 大栗遺跡から出土した炭化材種実 …… 138
表 3-2-1 測定試料および処理 -1 …………… 115	表 3-6-2 樹種同定結果 …………… 139
表 3-2-2 測定試料および処理 -2 …………… 116	表 3-7-1 化学分析表 -1 …………… 143
表 3-2-3 測定試料および処理 -3 …………… 117	表 3-7-2 化学分析表 -2 …………… 143
表 3-2-4 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 -1 …………… 118	表 3-7-3 原産地対照表 …………… 144
表 3-2-5 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 -2 …………… 119	2015 年度遺構一覧表 -1 …………… 149
表 3-2-6 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 -3 …………… 120	2015 年度遺構一覧表 -2 …………… 150
表 3-2-7 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 -4 …………… 121	2016 年度遺構一覧表 -1 …………… 151
表 3-3-1 測定試料および処理 …………… 126	2016 年度遺構一覧表 -2 …………… 152
表 3-3-2 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 …………… 127	2016 年度遺構一覧表 -3 …………… 153
表 3-4-1 測定試料および処理 …………… 131	2016 年度遺構一覧表 -4 …………… 154
表 3-4-2 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果 …………… 132	2016 年度遺構一覧表 -5 …………… 155
	2016 年度遺構一覧表 -6 …………… 156
	縄文時代土器一覧表 …………… 157
	木製品一覧表 …………… 157
	縄文時代石器一覧表 -1 …………… 158
	縄文時代石器一覧表 -2 …………… 159
	土器・陶磁器（縄文以外）一覧表 -1 …… 160
	土器・陶磁器（縄文以外）一覧表 -2 …… 161
	砥石（縄文以外）一覧表 …………… 161

写真図版

遺構写真図版 1 カラー図版 1	遺物写真図版 1 縄文土器
遺構写真図版 2 カラー図版 2	遺物写真図版 2 石器 (1)
遺構写真図版 3 カラー図版 3	遺物写真図版 3 石器 (2)
遺構写真図版 4 カラー図版 4	遺物写真図版 4 石器 (3)
遺構写真図版 5 15 調査区 1	遺物写真図版 5 土器・陶磁器 (1)
遺構写真図版 6 15 調査区 2	遺物写真図版 6 土器・陶磁器 (2)
遺構写真図版 7 15 調査区 3	遺物写真図版 7 土器・陶磁器 (3)
遺構写真図版 8 15 調査区 4・16 調査区 1	遺物写真図版 8 土器・陶磁器 (4)
遺構写真図版 9 16 調査区 2	遺物写真図版 9 土器・陶磁器 (5)
遺構写真図版 10 16 調査区 3	遺物写真図版 10 土器・陶磁器 (6)
遺構写真図版 11 16 調査区 4	
遺構写真図版 12 16 調査区 5	
遺構写真図版 13 16 調査区 6	
遺構写真図版 14 16 調査区 7	
遺構写真図版 15 16 調査区 8	
遺構写真図版 16 16 調査区 9	

第1章 調査の概要

1. 設楽地域の歴史的環境

まずは、設楽町内で知られている遺跡などについて、整理しておく（図 1-1・表 1-1）。

後期旧石器時代 設楽町津具地区に接した豊根地域には、茶白山遺跡の所在が知られている。茶白山遺跡は、昭和 36・38（1961・1963）年に組織的に発掘調査された、愛知県を代表する後期旧石器時代遺跡である。ナイフ形石器・搔器や剥片石核が、まとまりのある良好な状態で出土した。

設楽ダム関連調査対象区域付近でも、後期旧石器時代の遺跡の所在が知られている。川向坂の上にある市場口遺跡（82）では、ナイフ形石器のほか、剥片・石核が 20 点以上とまとまって出土している。注目すべきはその使用石材であり、黒曜石の比率が極めて高いことは、この遺跡の特殊性を示すものと言える（川合・平井・堀木・川添 2019）。

また、川向東貝津遺跡（27）でも後期旧石器時代に属する石器群が確認されている（愛知県埋蔵文化財センター 2020）。

縄文時代草創期 縄文時代草創期については、川向東貝津遺跡（27）のほか、八橋地区の滝瀬遺跡（31）では、縄文時代草創期末から早期初頭に遡る可能性のある、竪穴建物 10 棟以上で構成された集落跡が確認されている。

縄文時代早期 設楽地域では、縄文時代早期の土器が各遺跡で採集されている。名倉地区の星野神田遺跡では、ネガティブ押型文土器の出土が古くから知られている。川向東貝津遺跡（27）のほか、滝瀬遺跡（31）では集石炉跡が調査されており、状況から縄文時代早期に属する可能性がある。特

に滝瀬遺跡では境川に接する緩斜面上に、10 基以上がまとまって見つかった。滝瀬遺跡や大名倉遺跡（2）では、早期前半に属するトロトロ石器も出土している。

また万瀬遺跡（20）でも、竪穴建物跡と炉穴群からなる早期前半の集落跡が調査されている。**縄文時代前期** 稲武地区の大安寺遺跡では縄文時代前期前半の竪穴建物跡の調査が行われており、津具地区の鞍船遺跡では前期後半の竪穴建物跡が調査されている。しかし、現在、設楽ダム関連調査などでは、縄文時代前期を主体とする遺構や包含層を良好な状態で確認することはできていない。各遺跡で土器片などは散在的に確認できており、今後の調査で良好な資料群が見つかるものと考えられる。

縄文時代中期 縄文時代中期については、前半でも北屋敷式以降の土器片は、各遺跡で散在的に確認されている。近年、川向地区の石原遺跡（24）では山田平式期頃を主体とする竪穴建物群の調査が行われた。

中期後半になると、小松地区の笹平遺跡（42）、八橋地区の滝瀬遺跡（31）でも竪穴建物跡の調査が行われている。複数の竪穴建物群による集落跡としては、川向東貝津遺跡（27）のほか、大畑遺跡（26）がある。両遺跡は、前者が丘陵裾部の南斜面、後者が同一丘陵の頂部に展開する遺跡である。両遺跡とも、竪穴建物跡埋没途上で、配石行為などが行われている。川向東貝津遺跡では、蓋石のある埋甕が見つかっており、一方、大畑遺跡では副炉をもつ竪穴建物跡も見つかるなど、信州下伊那地域との関連性が考えられる遺構も確認されている。

縄文時代後期 設楽地域では、大名倉地区の大名倉遺跡（2）、小松地区のマサノ沢遺跡（41）・笹

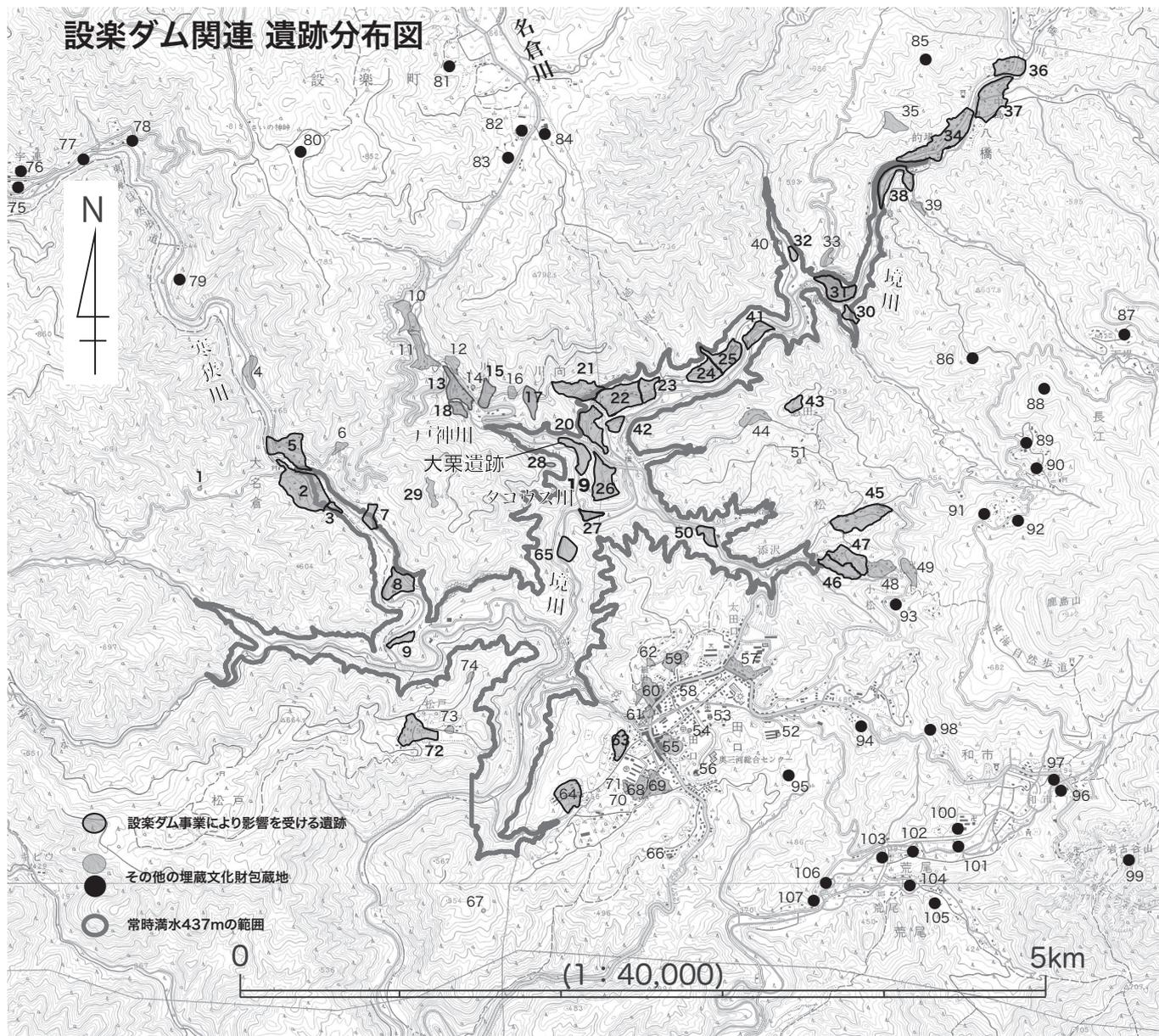


図 1-1 大栗遺跡と周辺の遺跡 (国土地理院 1:25,000 田口・海老を使用)

平遺跡 (42)・杉平遺跡 (94)、さらに豊邦貝津の神谷沢遺跡など、古くから、縄文時代後期以降の遺物が多く採集されてきた。笹平遺跡では、後期初頭～中葉にかけての集落跡が見つかり、竪穴建物跡 30 基以上が調査された。マサノ沢遺跡では後期前葉～中葉にかけての埋葬遺構群と遺物集積が調査され、特に配石墓の存在が特筆される。縄文時代晩期 縄文時代晩期の遺物は、大名倉遺跡 (2)・笹平遺跡 (42)・滝瀬遺跡 (31) など

で散発的に確認される。大名倉遺跡や笹平遺跡では、耕作など後世の作用によって、包含層や遺構の残存状況が不明瞭になっている可能性が考えられる。滝瀬遺跡では、榎原文様を有する石刀が出土している。マサノ沢遺跡 (41) では、晩期後葉の良好な遺物包含層が確認されている。弥生時代 弥生時代前期の条痕文土器は縄文時代晩期と同様に、各遺跡で散発的に見つかっている。遺構としては、マサノ沢遺跡 (41) や笹平遺跡 (42)

表 1-1 大栗遺跡と周辺の遺跡 (愛知県埋蔵文化財センター 2019『西地・東地遺跡』を元に作成)

地区 (旧大字)	番号	遺跡名	読み	県遺跡番号	所在地	時代
大名倉	1	沢入り遺跡	ざわいり	700155	大名倉字沢入り	縄文/弥生?
大名倉	2	大名倉遺跡	おおなぐら	700297	大名倉字滝ノ上・滝ノ下・下谷・南貝津	縄文/弥生/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	3	日掛遺跡	ひかげ	700328	大名倉字日掛	縄文
大名倉	4	稻の久保遺跡	かやのくぼ	700151	大名倉字新蔵	縄文
大名倉	5	西地・東地遺跡	にじじ・ひかしじ	700152	大名倉字西地・東地	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	6	後沢遺跡	うしろざわ	700154	大名倉字後沢	縄文
大名倉	7	ハラビ平遺跡	はらびだいら	700157	大名倉字ハラビ平	縄文/平安/鎌倉/戦国～近世
大名倉	8	胡桃産遺跡	くるみくぼ	700158	大名倉字胡桃産・丸山	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	9	大名倉丸山遺跡	おおなぐらまるやま	700347	大名倉字丸山	戦国～近世?
川向	10	川向田ノ入遺跡	かわむききたのいり	700351	川向字田ノ入	平安
川向	11	三軒屋遺跡	さんげんや	700159	川向字三ゲンヤ	縄文/鎌倉
川向	12	梨子谷下遺跡	なしやげ	700329	川向字梨子谷下	平安/鎌倉
川向	13	上戸神遺跡	かみとがみ	700160	川向字上戸神・下戸神	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	14	道合遺跡	みちあひ	700161	川向字道合	縄文
川向	15	川向萩ノ平沢遺跡	かわむきはぎのひらさわ	700352	川向字萩ノ平沢・小方	縄文/平安
川向	16	道上遺跡	みちあげ	700345	川向字萩ノ平沢・小方	縄文/平安
川向	17	川向石道遺跡	かわむきしちみち	700353	川向字萩ノ平沢・小方	平安/鎌倉
川向	18	川向山遺跡	かわむきむかいやま	700354	川向字山	戦国～近世
川向	19	大栗遺跡	おおぐり	700163	川向字大栗	縄文/弥生/平安/室町/戦国～近世
川向	20	万瀬遺跡	まんぜ	700165	川向字マンゼ	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	21	大空前遺跡	おおぞらまえ	700166	川向字大空前・新直	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	22	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	かみをろう・しもをろう	700167	川向字上ヲロウ・下ヲロウ	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	23	川向近沢遺跡	かわむきちかざわ	700355	川向字近沢・馬道	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	24	石原遺跡	いしはら	700170	川向字石原・ヒチコ	縄文
川向	25	下延坂遺跡	しもべさか	700171	川向字下延坂・上延坂	縄文/弥生/平安/鎌倉
川向	26	大畑遺跡	おおはた	700164	川向字大畑・東貝津	縄文
川向	27	川向東貝津遺跡	かわむきひしがいつ	700348	川向字東貝津	旧石器/縄文/平安/鎌倉
川向	28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ	700162	川向字南ヶ岳	縄文?/平安
川向	29	光石山候補地	みつ(ひかり)いしやま	700349	川向字山	戦国～近世?
八橋	30	八橋大平遺跡	やつはしおひら	700349	八橋字大平	縄文/平安
八橋	31	滝瀬遺跡	たきせ	700174	八橋字タキセ	縄文/弥生/室町/戦国～近世
八橋	32	根道外遺跡	ねみちそと	700173	八橋字根道外	縄文
八橋	33	長久保遺跡	ながくぼ	700331	八橋字長久保	縄文
八橋	34	中村遺跡	なかむら	700176	八橋字道上・道下・西路	縄文/平安/鎌倉/室町
八橋	35	八橋アテ遺跡	やつはしあて	700356	八橋字アテ	縄文/平安/戦国～近世
八橋	36	八橋谷合遺跡	やつはしやわせ	700350	八橋字谷合	平安
八橋	37	向橋遺跡	むこうばし	700178	八橋字向橋	平安/鎌倉
八橋	38	永江沢遺跡	ながえさわ	700175	八橋字崩沢	縄文/鎌倉/室町
八橋	39	八橋崩沢遺跡	やつはしなざさわ	700357	八橋字崩沢	縄文
八橋	40	境川林道遺跡	さかいがわりんどう	700330	八橋字コハツカ	縄文 (黒石石の原石のみ採取)
小松	41	マサノ沢遺跡	まさのさわ	700172	八橋字マサノサワ	縄文/弥生
小松	42	笹平遺跡	ささだいら	700169	小松字笹平	縄文/弥生/平安
小松	43	丸瀬遺跡	まるせ	700184	小松字丸瀬	縄文
小松	44	小松沢上ヶ遺跡	こまつざやげ	700358	小松字沢上ヶ	平安/室町/戦国～近世
小松	45	柿平遺跡	かきだいら	700189	小松字波根・東沢	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	46	中屋地遺跡	なかやじ	700190	小松字中屋地	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	47	下り道遺跡	くだりみち	700191	小松字下り道・中貝津・下中熊	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	48	下中熊遺跡	しもなかぐま	700192	小松字下中熊・中貝津	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	49	上中熊遺跡	かみなかくま	700193	小松字上中熊	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
田口	50	添沢遺跡	そえざわ	700188	田口字添沢	縄文/弥生
田口	51	添津遺跡	そえづ	700187	田口字添津	縄文/弥生?
田口	52	一ノ橋遺跡	いちのはし	700197	田口字杉平向	縄文
田口	53	向木屋遺跡	むかいぎや	700201	田口字向木屋	弥生
田口	54	城下遺跡	しろした	700202	田口字小木山	鎌倉?
田口	55	天白遺跡	てんぱく	700203	田口字広貝津	縄文/弥生/鎌倉
田口	56	向木屋城跡	むかいぎやじょうあと	700206	田口字向木屋	戦国～近世?
田口	57	東遺跡	ひがし	700198	田口字谷下・白根土	鎌倉/室町/戦国～近世
田口	58	稲場遺跡	いなば	700333	田口字辻前	縄文
田口	59	中島遺跡	なかじま	700199	田口字中島	縄文/平安/室町/戦国～近世
田口	60	居立屋跡	いでて	700200	田口字居立	弥生/古墳
田口	61	半兵衛屋敷 (田口村古屋敷)	はんべいえやしき (たぐちむらふるやしき)	703001	田口字小貝津	戦国～近世
田口	62	田口大久保遺跡	たぐちおおくぼ	700359	田口字大久保	縄文
田口	63	田口西貝津遺跡	たぐちにしがいづ	700360	田口字西貝津	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
田口	64	田口シウキ遺跡	たぐちしうき	700361	田口字シウキ	平安/鎌倉/室町
田口	65	大崎遺跡	おおさき	700195	田口字大崎	縄文/平安
清崎	66	根ノ後遺跡	ねのご	700344	清崎字根ノ後	縄文
清崎	67	大塚遺跡	おおみね	700226	清崎字大塚	縄文/弥生?/平安/鎌倉
清崎	68	広畑遺跡	ひろはた	700204	清崎字広畑・狐割	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
清崎	69	萩平遺跡	はぎだいら	700205	清崎字山本・水口	戦国～近世
清崎	70	萩平村古屋敷	はぎだいらむらふるやしき	703005	清崎字狐割	戦国～近世?
清崎	71	重原藤代官所	しげはらはんたいかんしょ	703002	清崎字狐割	近代
清崎	72	松戸遺跡	まつど	700334	松戸字家郷・向畑	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
清崎	73	松戸下畑遺跡	まつどしたばた	700362	松戸字下畑	鎌倉/室町
清崎	74	松戸城跡	まつどじょうあと	703004	松戸字イサケトチ	戦国～近世?
東納庫	75	大塚下遺跡	おおやした	700147	東納庫字岩クラ	鎌倉/室町
東納庫	76	澄川口遺跡	すみかわぐち	700146	東納庫字澄川口	室町
東納庫	77	岩クラ遺跡	いわくら	700148	東納庫字岩クラ	縄文
東納庫	78	長根遺跡	ながね	700149	東納庫字長根	縄文
東納庫	79	長尾遺跡	ながお	700150	東納庫字長尾	縄文
東納庫	80	菅沢山遺跡	すげさわやま	700143	東納庫字菅沢山	弥生 (水神平式)
川向	81	モロ田遺跡	もろだ	700137	川向字モロ田	古墳/飛鳥・奈良/平安
川向	82	市場口遺跡	いちばぐち	700138	川向字市場口	旧石器
川向	83	西長沢遺跡	にしながざわ	700139	川向字市場口	縄文
川向	84	庄之子呂遺跡	しょうのこ	700140	川向字庄之子呂	縄文
八橋	85	八橋杉平遺跡	やつはしすぎたいら	700177	八橋字杉平	縄文
長江	86	御堂山遺跡	みどうやま	700181	長江字御堂山	平安/鎌倉
長江	87	天堤遺跡	あまづつみ	700180	長江字天堤	弥生 (水神平式)
長江	88	長江城跡	ながえじょうあと	700296	長江字松ヶ根	鎌倉/室町
長江	89	尊手平遺跡	そんでびら	700182	長江字尊手平	縄文
長江	90	本江遺跡	ほんえ	700183	長江字本江	平安/鎌倉
長江	91	寺トコ遺跡	てらとこ	700185	長江字田平	鎌倉
長江	92	田平遺跡	たひら	700184	長江字田平	鎌倉/室町
小松	93	下湯分沢遺跡	しもゆぶんざわ	700197	小松字下湯分沢	縄文/鎌倉
小松	94	小松杉平遺跡	こまつすぎだいら	700196	小松字杉平	縄文/平安/鎌倉/室町
田口	95	オリジ遺跡	おりじ	700207	田口字オリジ	縄文
和市	96	清水遺跡	しみず	700209	和市字清水	縄文/鎌倉/室町
和市	97	和市場遺跡	わいちば	700210	和市字和市場	縄文/室町
荒尾	98	寒相遺跡	かんぞう	700208	荒尾字寒相	弥生 (水神平式含む)
荒尾	99	岩古谷城址	いわごやじょうし	700211	荒尾字岩古谷	戦国～近世
荒尾	100	室ノ久保遺跡	むろのくぼ	700212	荒尾字室ノ久保	縄文/鎌倉
荒尾	101	鐘跡場跡	かねいばあと	700298	荒尾字欠田	近世
荒尾	102	欠田遺跡	かけだ	700213	荒尾字欠田	縄文/室町
荒尾	103	上杉沢遺跡	かみすぎのさわ	700214	荒尾字上杉沢	縄文
荒尾	104	中村遺跡	なかむら	700215	荒尾字下貝津	縄文/平安/室町
荒尾	105	上万場遺跡	かみまんば	700216	荒尾字上万場	縄文
荒尾	106	野々瀬遺跡	ののせ	700217	荒尾字野々瀬	縄文
荒尾	107	川向遺跡	かわかど	700218	荒尾字川向	縄文/室町

での土器棺墓が主体となる。川向地区の下延坂遺跡では、弥生時代中期の土器が採集されている。

古墳時代 古墳時代の活動は、不明瞭な部分が多い。名倉地区の丸根古墳や根古屋古墳などの後期古墳は戦前から知られており、昭和7（1932）年刊行『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告10』にその重要性が指摘されている。

古代・中世 古代以降では、南ヶ岳遺跡（28）で古代の清郷甕の出土が以前から知られていた。滝瀬遺跡（31）では、灰釉陶器とともに、古代の土坑・柱穴やカマドを伴う竪穴建物跡が見つかっている。八橋地区では、さらに北側に向かって当該時期の資料が見つかる可能性がある。また、中世の野鍛冶などを行った活動の場が、万瀬遺跡で見ついている。西地・東地遺跡では、中世～近世の遺構が見つかっており、野鍛冶の跡が調査された。

江戸時代以降 滝瀬遺跡では、発掘調査によって、近世以降と考えられる道路状遺構が見ついている。遺跡内には伊那街道が走っており、見つかった遺構は旧の伊那街道跡の可能性が高い。（川添）

引用文献

川合剛・平井義敏・堀木真美子・川添和暁 2019 「市場口遺跡出土石器群の研究」『研究紀要』20、11-28 頁、愛知県埋蔵文化財センター
 愛知県埋蔵文化財センター 2020 『川向東貝津遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第213集

2. 調査にいたる経緯と調査経過

大栗遺跡は、愛知県教育委員会文化財保護室の分布調査により、『設楽ダム関連遺跡総合事前調査 詳細遺跡分布調査報告書』に事前調査が必要な遺跡として記載された（北村・木川 2007）。国土交通省中部地方整備局による設楽ダム事業の事前調査として、愛知県教育委員会からの委託を受けて、（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

遺跡は、国道 257 号の南側の路肩からおおよそ 5 m 南までは比高差 10m 以上の急斜面となり、そこから南は石垣を築いて 2～3 段の平坦面を造成しつつ、戸神川へとゆるやかに下っていく地形となっている。平坦面は、ある時期まで住居や棚田として利用されてきたが、住居が移転したのち、1950 年代前半には杉の植林がなされて現在に至っている。

本センターとして最初の調査は平成 26（2014）年 6 月である。本遺跡の西部に 14 ヶ所、中央部に 10 ヶ所、南部に 17 ヶ所のテストトレンチを入れた。

西部（図 1-2 の 15 調査区より西側）は土石流堆積を確認したのみで、遺物も 17 世紀以降のものが主体であった。中央部（図 1-2 の 15・16 調査区の北半部）は、最も北側の急傾斜面こそ遺物・遺構はみられなかったが、黒色土の堆積が戸神川近くまで存在し、特に戸神川左岸の緩斜面では縄文時代の石器が出土している。南部（図 1-2 の 15・16 調査区の南半部とそれより南）では、南

表 1-2 大栗遺跡の調査・整理作業工程

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当者
平成26（2014）年度			範囲確認調査										鈴木正
平成27（2015）年度				本発掘調査 2,360 m ²							一次整理		樋上・早野
平成28（2016）年度						本発掘調査 3,190 m ²					一次整理		樋上・鈴木恵
令和 2（2020）年度					2次整理・報告書作成作業								樋上
令和 3（2021）年度												刊行	樋上

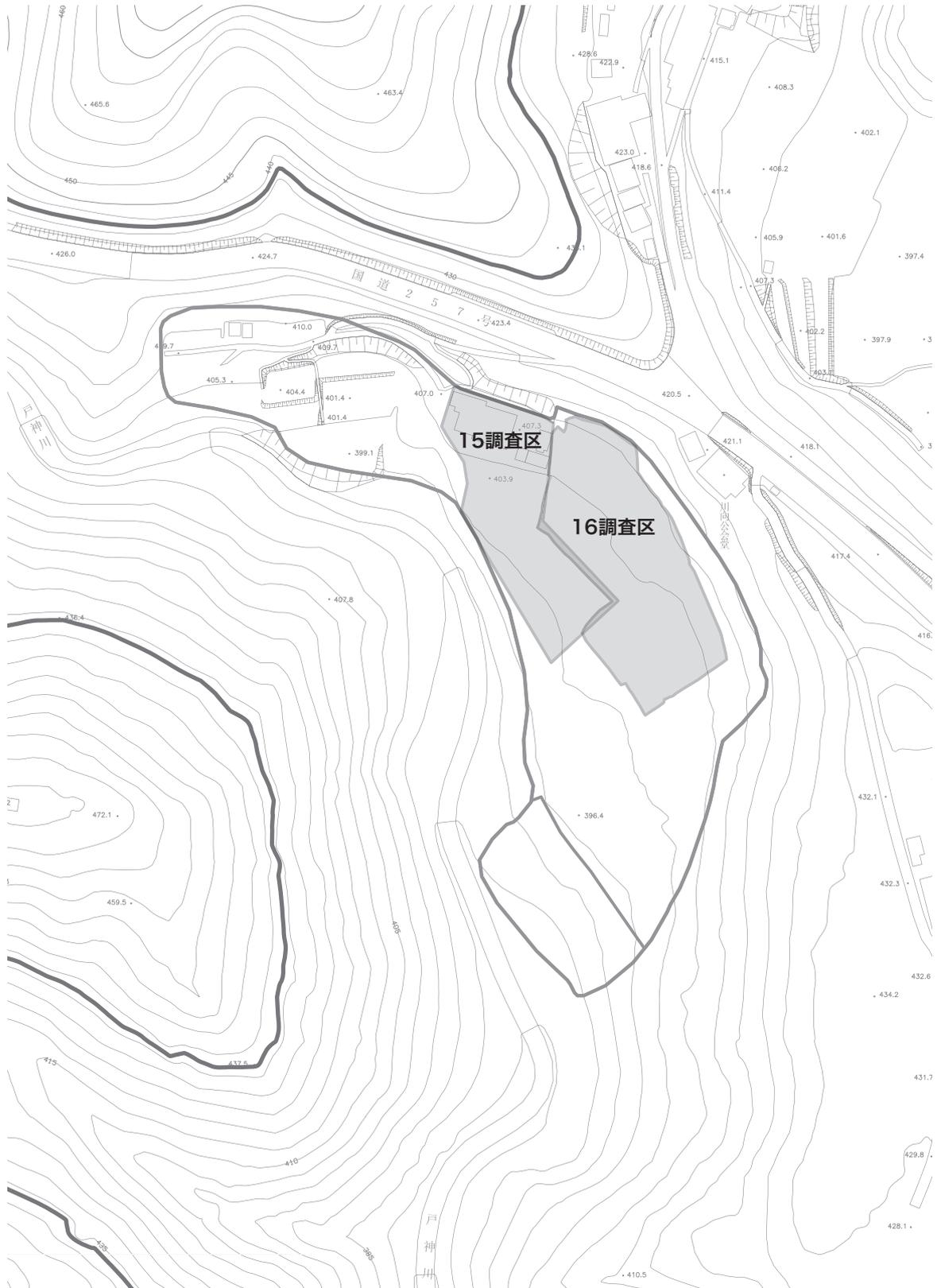


图 1-2 大栗遺跡 2015・16 年度調査区位置図 (S=1:2,000)

西側の棚田では表土直下で地山面が露出するとともに遺構・遺物はないが、それ以外の緩斜面では黒色土の堆積を確認し、縄文土器も採取した。

以上の結果を踏まえて、本調査は中央部および南部の北東側を調査範囲とすることが決定した。

本調査は平成 27 (2015) 年の 7～9 月に 2,360 m² (15 調査区)、平成 28 (2016) 年 9～12 月に 3,140 m² (16 調査区) の、合計 5,500 m² の発掘調査を実施した (表 1-2)。

その結果、15 調査区では近代 (19 世紀代) に属する柵列 1 条と土坑多数、さらにほぼ平坦面となる調査区南半部で縄文時代の遺物集中地点を確認した。また 16 調査区では、同じく近代に属する柵列 2 条と土坑多数、縄文時代中期の竪穴建物 1 棟、縄文時代早期の煙道付炉穴 3 基、集石炉 1 基、陥し穴あるいは貯蔵穴とみられる土坑 9 基などを確認した。

遺構図の整理と個別遺構についての記述は設楽地区で現地調査ができない 2 月と 3 月に愛知県埋蔵文化財センターの本部で行い、遺物の整理作業は令和 2 (2020) 年度に行った。縄文土器のトレースについては㈱イビソク、縄文時代の石器の実測・トレースについては㈱ラング、弥生時代以降の土器・陶磁器と木製品の実測・トレースは㈱文化財サービスに作業を委託した。(樋上)

2015 年度調査体制

支援業者：(株) 二友組、現場代理人：吉田哲也、
土木施工管理技士：岡嶋宏明、調査補助員：杉山敬亮、土木測量士：白木宏幸

2016 年度調査体制

支援業者：安西工業 (株)、現場代理人：榊 幸治、
土木施工管理技士：小田晋吾、調査補助員：坂口尚人、土木測量士：北畠誠司

4. 基本層序

大栗遺跡の基本層序については、16 調査区と 15 調査区の境界に設定した 16 調査区西壁土層

断面図 (図 1-4) で説明する。

図 1-3 は、かつての地形図に 15・16 調査区で確認した遺構を重ねたものである。本地形図にはこの一体に杉の植林が行なわれる 1950 年代より以前に存在した住宅のための平坦面と、それを保護するための石垣が表現されている。調査開始時点においてもこの石垣は遺存していたが、16 調査区では遺構面までの比高差が 4 m を超えるため、これを残したままでの調査は危険度が高いことから重機による表土掘削の時点で石垣については除去せざるを得なかった。図 1-4 の破線が調査開始前の地表面の高さである。

この西壁土層断面図によると、石垣は表土直下の 1 層と 2 層が終結する位置にあたる。この石垣より約 5 m 北には柵列 070SA の最西端の柱穴掘方 120SP が 1 層と 2 層の境目にある。この 120SP は本来、1 層上面から掘り込まれていたものである。つまり、15・16 調査区で確認された 3 基の柵列は地形図に残る宅地の石垣よりも古い時期に掘削されていたと推測できる。

5・6・9・16・17 層は水田耕作土で、11・12・13・19・21 層はその畦畔である。120SP は明らかにこの水田耕作土より上から掘り込まれていることから水田が営まれたのは柵列より古いことがわかる。つまり縄文時代よりのちの大栗遺跡の土地履歴は、水田 (棚田) →柵列→宅地と石垣→杉の植林で現在に至る。ただし、水田および柵列に関しては、これに伴う確実な出土遺物がなことから、明確な時期を決めることはできない。

縄文時代中期の遺構は残存状況が悪く、竪穴建物 090SI は水田耕作土の直下で確認している。おそらくは近世の水田造成時に、大幅に削平された可能性が高い。

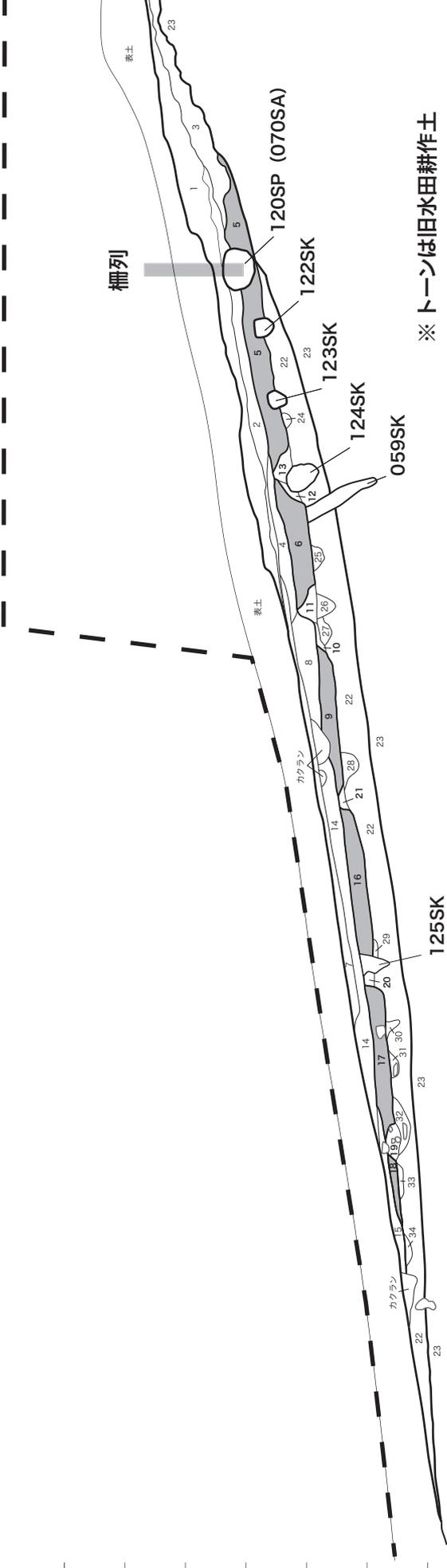
それに対し、縄文時代早期の煙道付炉穴や陥し穴は傾斜面に掘削されていることから、水田造成時の影響は少ない。ただし、陥し穴の深さは検出面から 1 m 程度であることから、縄文時代早期のもともとの地表面よりは少なくとも 1 m 以上削られていると想定できる。(樋上)

16調査区西壁土層断面図

0.0000m 5.0000m 10.0000m 15.0000m 20.0000m 25.0000m

8
大瀬 礎跡

石垣



※ トーンは旧水田耕作土

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。φ10cm以下の角礫が少量混じり少ない。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 明黄褐色土ブロック状に混じる。
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト φ10cm以下の礫、明黄褐色土ブロック状に混じる。
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫（一部の礫は凝結し赤色化）。
- 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫少量混じる。耕作土と混じる。
- 6 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫、明黄褐色土が粒状に混じる。耕作土。
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫多く混じる。
- 9 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の角礫、明黄褐色シルトを粒状に混じる。耕作土。
- 10 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強く固くしめる。畦。
- 11 10YR3/2 暗褐色シルト 粘性やや強い。固くしめる。畦。
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。固くしめる。畦。
- 13 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。畦。
- 14 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫少量混じる。耕作土。
- 15 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫混じる。
- 16 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫混じる。
- 17 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。耕作土。
- 18 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性やや強い。耕作土。
- 19 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫多く混じる。畦。
- 20 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。畦。
- 21 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。畦。

- 22 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。φ10cm以下の角礫が少量混じり下位の23層との境界は漸移的な変化。23層の土壌化層。
 - 23 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黒褐色シルトがブロック状に多く混じる。
 - 24 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト φ5cm以下の礫多く混じる。
 - 25 10YR3/2 黒褐色シルト φ5cm以下の礫多く混じる。
 - 26 10YR3/2 黒褐色シルト φ5cm以下の礫多く混じる。
 - 27 10YR3/2 暗褐色シルト φ10cm以下の礫少量混じる。
 - 28 10YR3/3 暗褐色シルト φ10cm以下の礫少量混じる。
 - 29 10YR2/3 暗褐色シルト φ10cm以下の礫少量混じる。
 - 30 10YR3/3 暗褐色シルト φ20cm以下の角礫多く混じる。石の抜き取り痕か。
 - 31 10YR3/3 暗褐色シルト φ20cm以下の風化岩混じる。上層の影響による変化か。
 - 32 10YR3/3 暗褐色シルト φ5cm以下の礫明黄褐色土がブロック状に混じる。
 - 33 10YR3/1 黒褐色シルト φ5cm以下の礫少量混じる。
 - 34 10YR3/3 暗褐色シルト φ5cm以下の礫少量混じる。
- 059SK
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫を含む。
- 120SK
1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり弱い (070SAの続き)
- 122SK
1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土粒状に混じる。
- 123SK
1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土粒状に混じる。
- 124SK
1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。
- 125SK
1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。

図 1-4 2016年度調査区 西壁土層断面図 (S=1:100)

第2章 遺構と遺物

1. はじめに

大栗遺跡で確認した遺構・遺物は、縄文時代早期・縄文時代中期・弥生時代・古代・中世・近世・近代と極めて幅が広い。

ただし、このうち明確に遺構と遺物の所属時期が合致するのは縄文時代早期・縄文時代中期・古代～近代の3時期にとどまる。

以下、遺構については上記3時期に分けて特に注目すべきものを記述し、遺物は縄文時代の土器、縄文時代の石器、弥生時代～近代の土器・陶磁器、近代の木製品の順に記述を進める。(樋上)

2. 縄文時代早期の遺構

縄文時代早期の遺構としては、15調査区で確認した遺物集中地点のほか、煙道付炉穴3基、屋外炉2基、陥し穴とみられる土坑9基を数える。

15調査区 遺物集中地点 (図2-3)

遺構ではないが、15 A区中央やや北寄りの南西向きの緩斜面、5724グリッドから5824グリッドにかけて縄文時代から弥生時代の遺物がやや集中して出土する範囲を検出した。

遺物は巨礫を含む礫層の上位を被覆する10YR3/4暗褐色シルト層、10YR6/1褐色細粒砂層に多く包含されていた。

出土遺物として、押型文土器を含む縄文土器、熔結凝灰岩、チャート、黒曜石製の剥片、石鏃等がある。(早野)

16調査区 042SL (図2-4)

16調査区西壁中央近くの5425グリッドに位

置する被熱を伴う炉跡。平面形は長軸0.6m、短軸0.4mを測る。長軸が等高線に直交する状態で検出された。埋土は炭を多く含む。内部の炭化物複数をサンプリングし分析を行った結果、縄文時代早期前葉(約8900年前)の年代が得られた。これにより042SLは煙道付炉穴の一部と考えられる。

煙道付炉穴の底面の一部が残存したと考えられるが、本調査により掘削を行った窪み状の部分、炉穴の崩落等により形成された可能性があり、本来の構造とは異なるかもしれない。赤変した被熱部分の規模は、119SL、246SLとほぼ同じであり、本来は246SLと同様の規模と想定される。

16調査区 119SL (図2-4)

16調査区北側中央付近の5526グリッドに位置する。長軸0.61m、短軸0.41mを測る。042SL同様、検出当初は鍛冶炉の可能性を考えていたが、長軸が等高線に直交する状況からも煙道付炉穴の残欠である可能性を考えたい。サンプリングした炭化物の分析結果によれば、遺構の年代は縄文時代早期前葉(約8900年前)を示す。

16調査区 246SL (図2-5)

16調査区南西寄りの5727グリッドに位置する煙道付炉穴。長軸1.77m、短軸1.17m、深さ0.54mを測る。検出当初は平面形から遺構を完全には把握できず、断ち割りを行った結果、煙道付炉穴と判明した。上層部分は植栽等の影響を受け、トンネル上位の掘り残し部分は確認できなかったが、下層には強く被熱した底面および側面、煙道が確認できる。層中には炭化物を多量に含んでおり、量は下層ほど多い。

以下、残存部分よりの推定だが、煙道は最

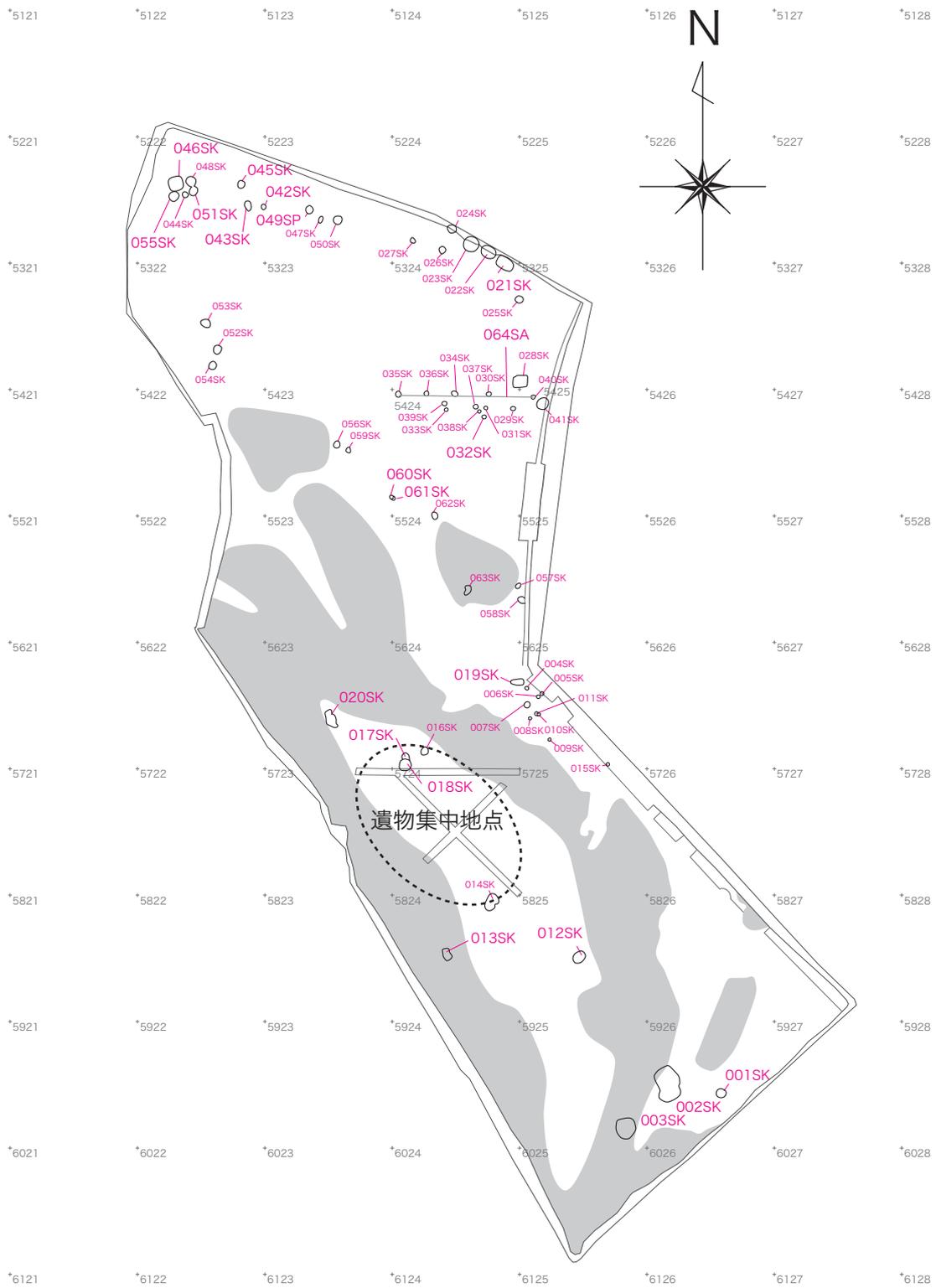


图 2-1 15 調査区略测图 (S=1:500)

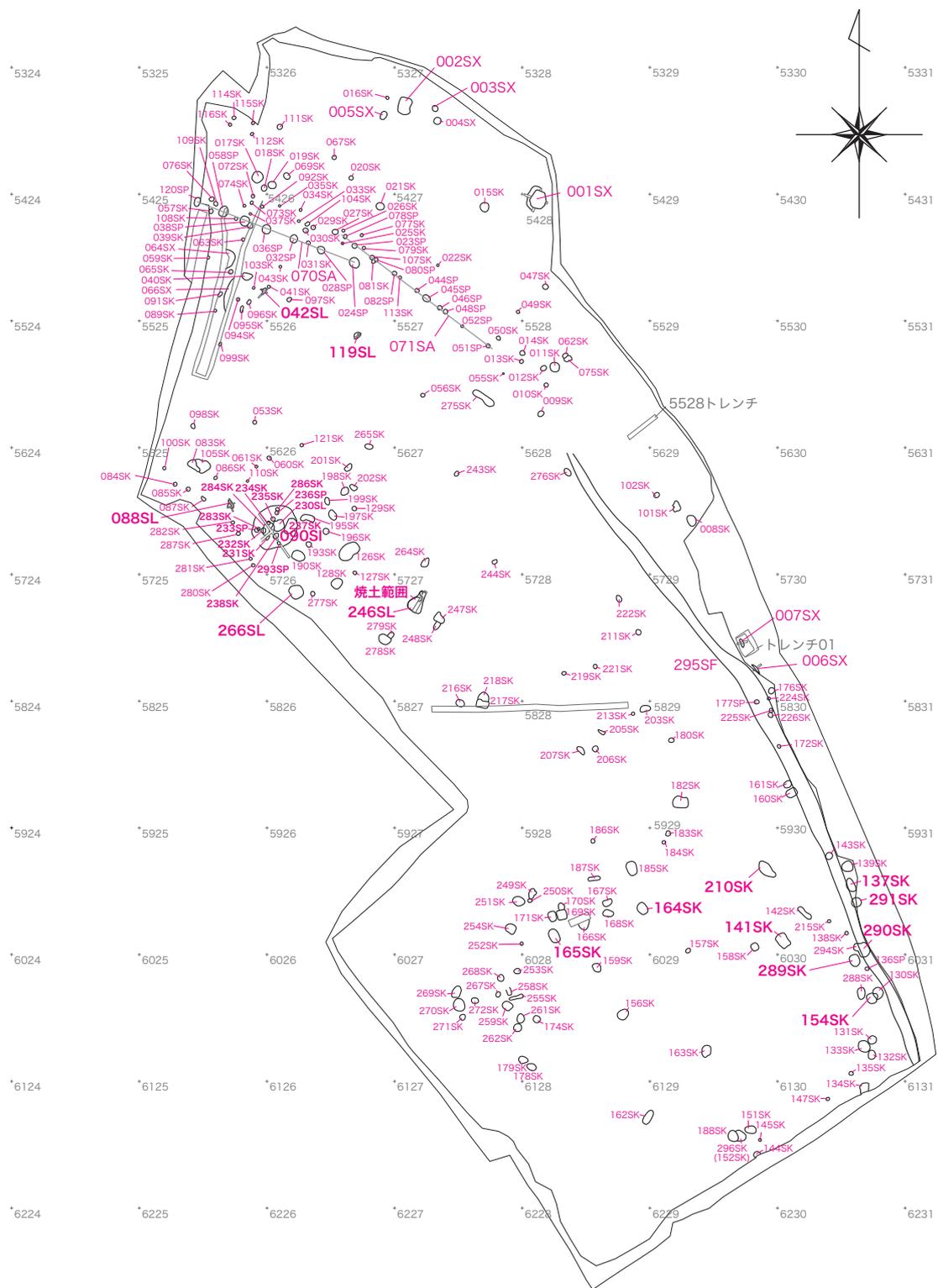


図 2-2 16 調査区略測図 (S=1:500)

も狭い部分で 12cm × 15cm、煙道開口部は径 35cm、燃烧部側焚き口は幅 40cm、高さ 20cm、燃烧部の底面部平面形は奥行き 80cm、幅 60cm である。遺物の出土は見られなかった。

近隣での煙道付炉穴の検出事例は、豊田市域の旧稲武町ヒロノ遺跡、下り山遺跡。同じ豊川流域では新城市石座神社遺跡に見られる。

16 調査区 088SL (図 2-6)

16 調査区北西角の 5625 グリッドに位置する。長軸 0.75m、短軸 0.49m を測る。内部は粘性の強い埋土であり、炭化物を多く含む。埋土部分の底部には被熱があまり強く見られず、縁辺部に強く被熱が集中し、一部は硬化している。

042SL や 119SL が等高線に直交する長軸線を持つのに対し、旧地形は不明ながら、088SL は検出面の現況ではこれらと異なる方位を持っているように見える。

サンプリングした炭化物の分析結果による年代は縄文時代早期前葉から現代に至る年代が示されており、再堆積した炭化材の可能性が指摘された。そのため遺構の年代は不明である。

16 調査区 266SL (図 2-6)

246SL 西の 5726 グリッドに位置する集石土坑である。長軸 1.06m、短軸 1.04m のほぼ円形の平面形で、深さは 0.38m を測る。上層部分には径 10cm 以上の垂角礫が多く入り、埋土全体には多量の炭が含まれる。含まれる垂角礫には赤変したものも見られた。礫は安山岩系の石材であり、遺構の周辺に存在する礫と見られる。サンプリングした炭化物の分析結果による年代は鎌倉～室町時代を示しており、所属時期には再考を要する。(以上、鈴木)

16 調査区 137SK (図 2-7)

16 調査区南東隅近くの 5930 グリッドに位置する開口部が楕円形の土坑。開口部は長軸 1.2m、短軸 0.65m で、底部は直径 1.2m の円形を測り、

断面が袋状を呈する。貯蔵穴の可能性もあるが、ここでは周辺の遺構から縄文時代早期の陥し穴と想定しておく。

16 調査区 141SK (図 2-7)

5929 グリッドの比較的急傾斜面に位置する平面が長方形の土坑で、長辺が 1.15m、短辺が 0.86m、深さは検出面から約 0.5m を測る。その平面形状と、同様の土坑がこのエリアに集中することから、縄文時代早期の陥し穴である可能性が高い。

16 調査区 154SK (図 2-7)

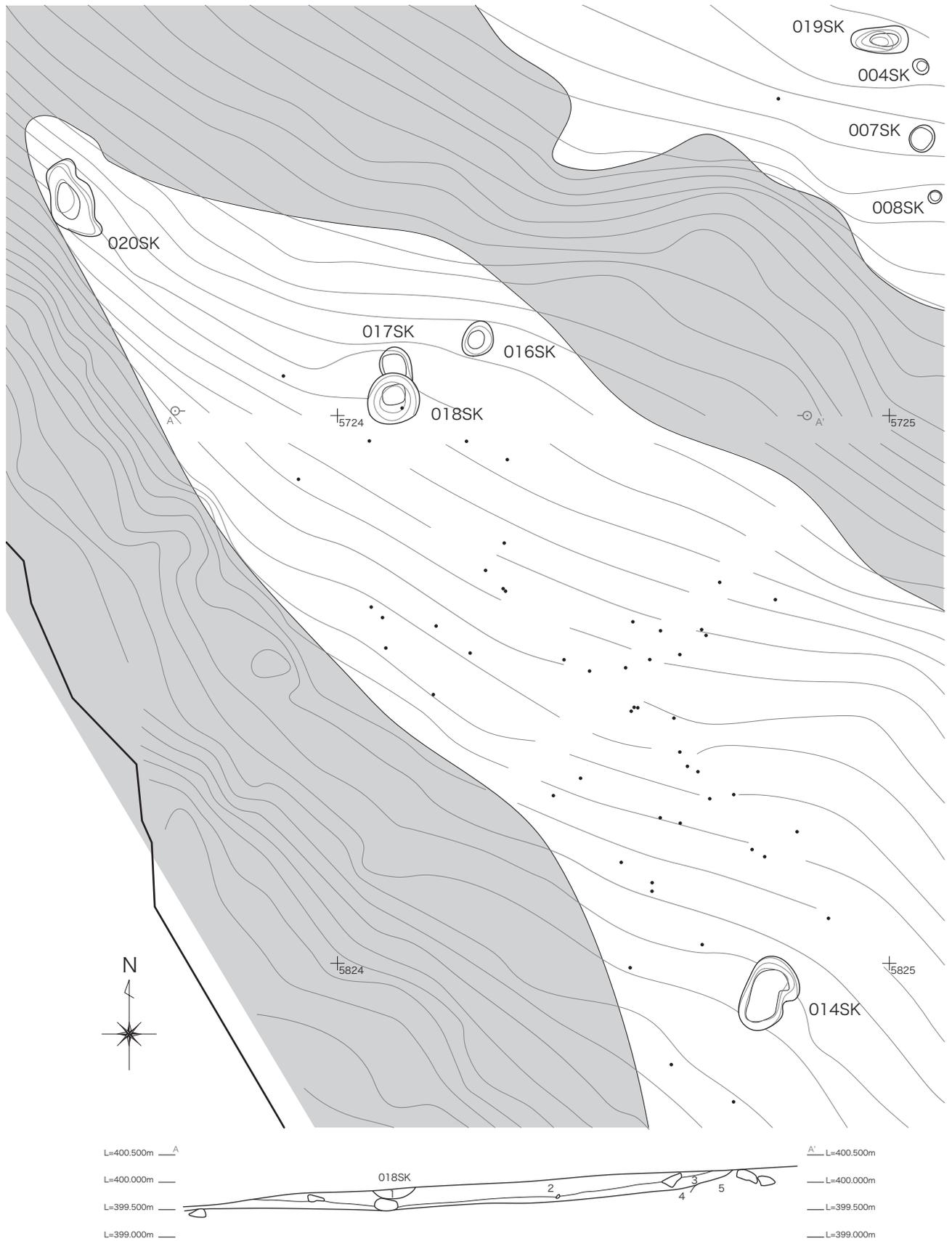
141SK の南東約 8m の 6030 グリッドに位置する土坑。開口部は直径およそ 7m の円形で底部は長軸 9.0m、短軸 8.0m を測る。断面形状は中央部がいったんすぼまる袋状を呈する。137SK と同様、貯蔵穴の可能性も有するが、ここでは縄文時代早期の陥し穴としておく。

16 調査区 164SK (図 2-7)

141SK 西側 5928 グリッドの急傾斜面から緩斜面に移る傾斜変換点に位置する平面が隅丸方形を呈する土坑で、長辺が 0.93m、短辺が 0.75m、深さは検出面から 0.83m を測る。この土坑はきわめて遺存状態が良く、周壁がほぼ垂直に落ち、かつ底部に杭の痕跡が認められることから、縄文時代早期の陥し穴であることはほぼ確実である。急傾斜面に掘削された 210SK と平坦面にある 165SK の中間に位置している。

16 調査区 165SK (図 2-8)

164SK の約 6m 南西側 5928 グリッドに位置する平面が楕円形の土坑で、長軸が 1.13m、短軸が 0.75m、深さは検出面から 0.6m を測る。この土坑も 164SK と同様に、底面の中央に杭の痕跡が残っており、縄文時代早期の陥し穴と考えられる。



- 1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。(018SK)
- 2 10YR3/4 暗褐色 中粒砂少量含む細粒砂層 黒色細砂の小ブロックを含み、にぶい黄褐色細砂ブロックを少量含む、黄褐色細砂の小ブロックを少量含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂少量含む細砂層 褐色細砂ブロックを多量に含む、黒色細砂の小ブロックを含む。
- 4 10YR6/1 褐灰色 中粒砂少量含む細粒砂層
- 5 10YR4/6 褐色 中粒砂含む細砂層 黒色細砂の小ブロックを少量含む。

図 2-3 15 調査区 遺物集中地点 (S=1:100)

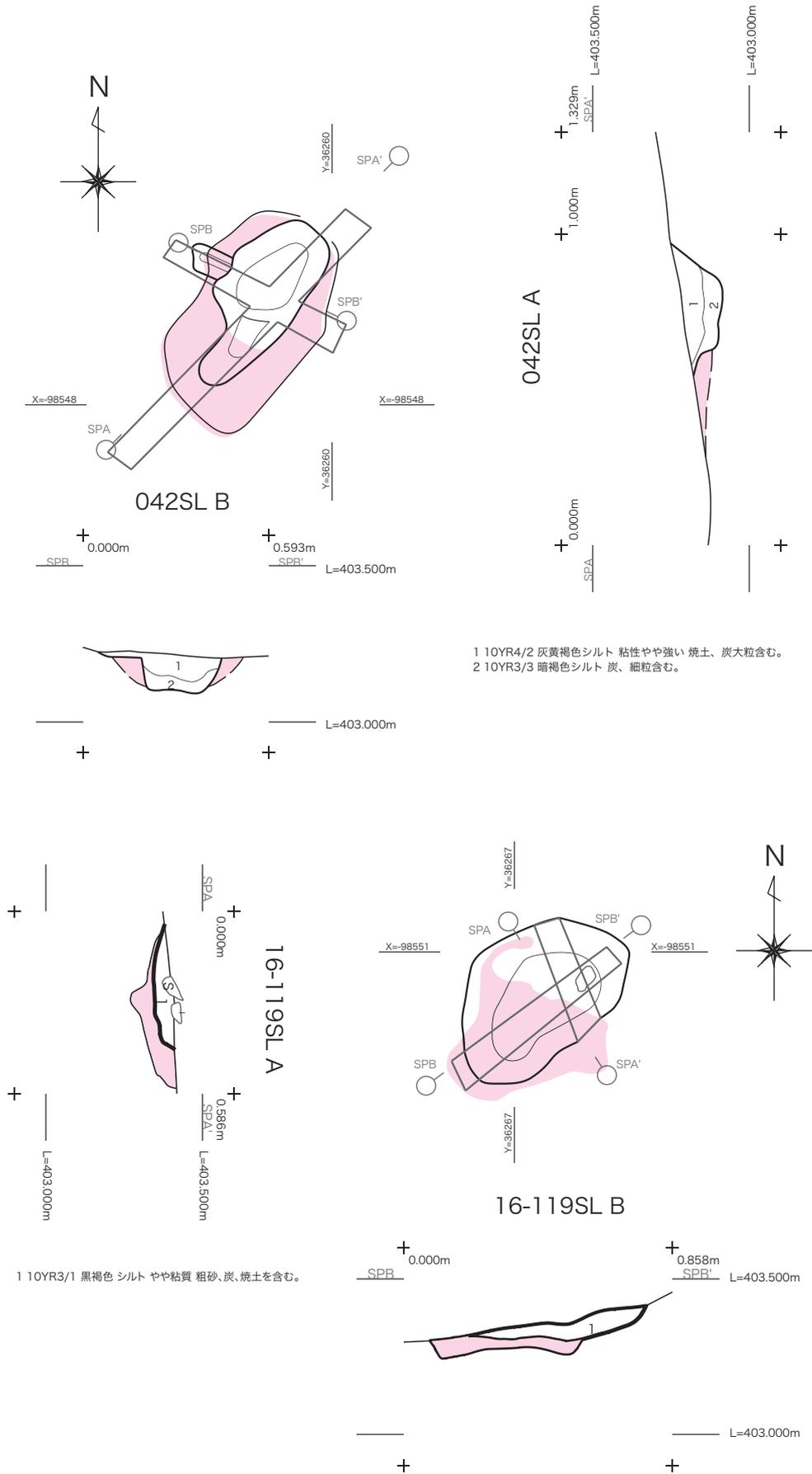
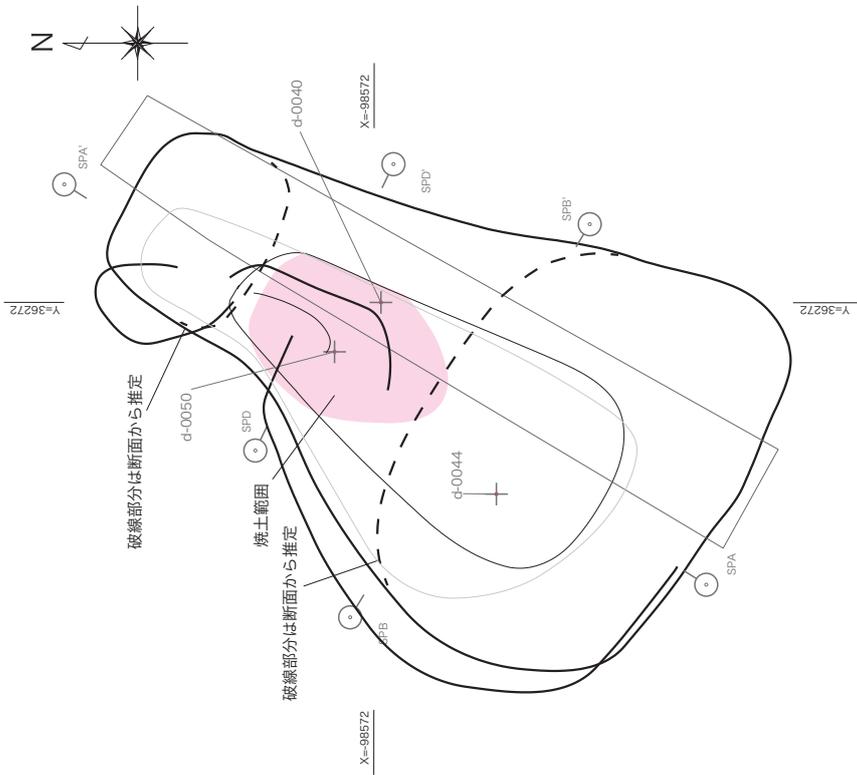
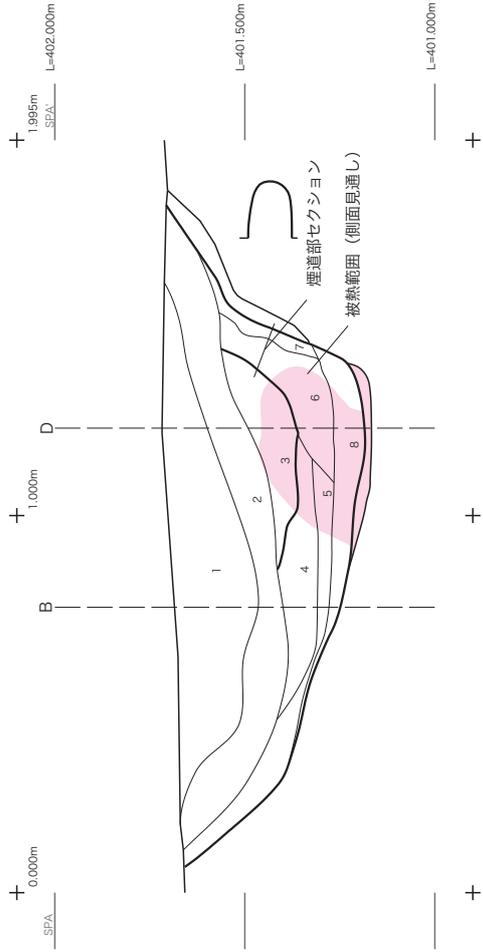


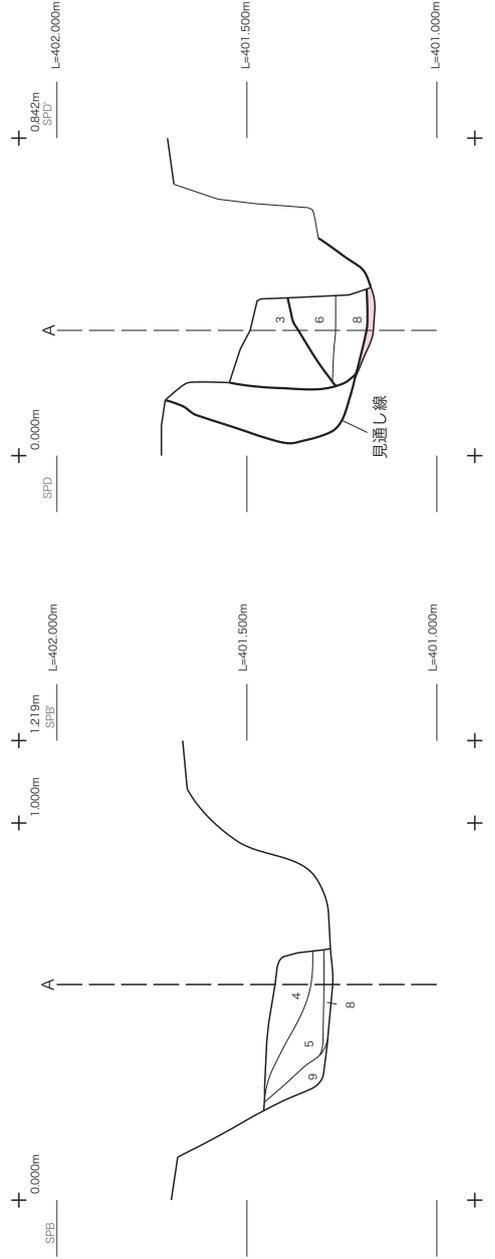
図 2-4 16 調査区 煙道付炉穴 042SL・119SL (S=1:20)



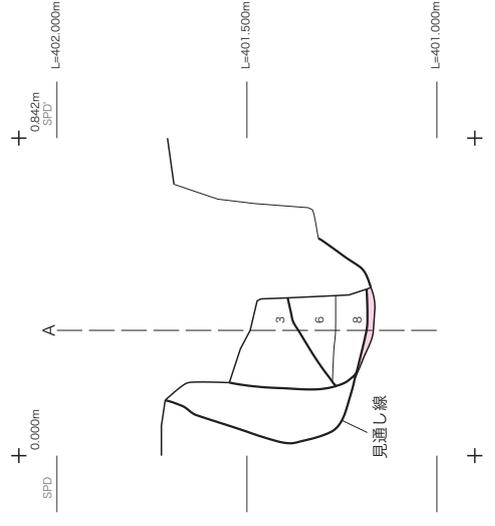
16-246SL A



16-246SL B

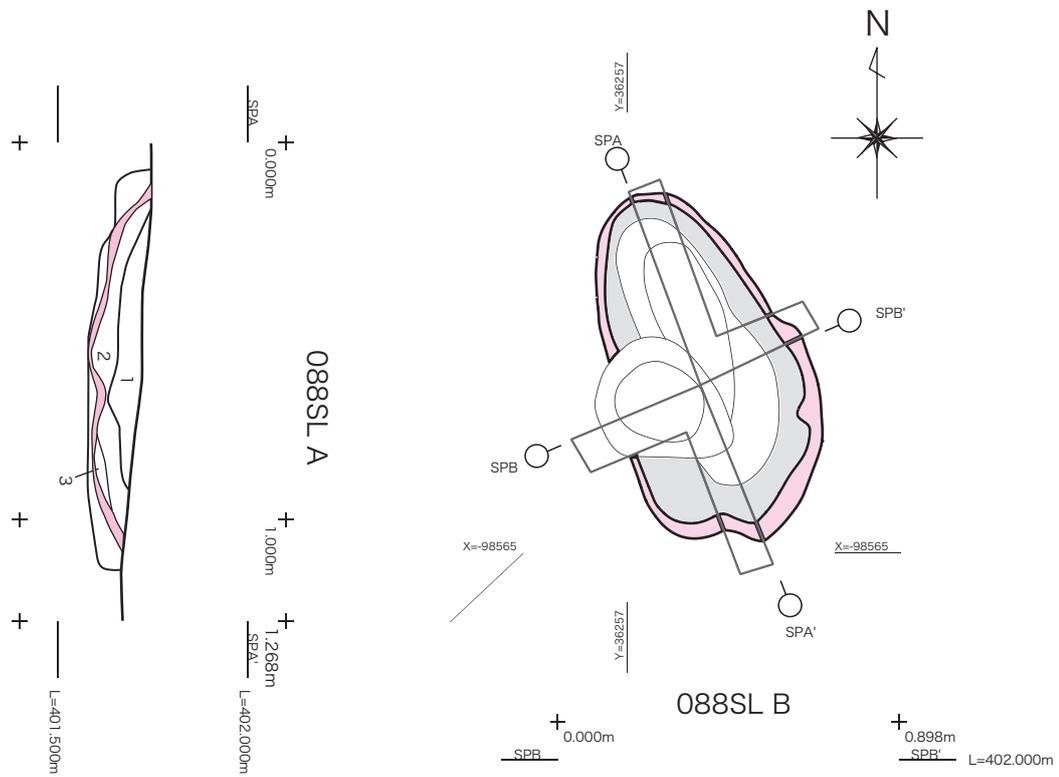


16-246SL D

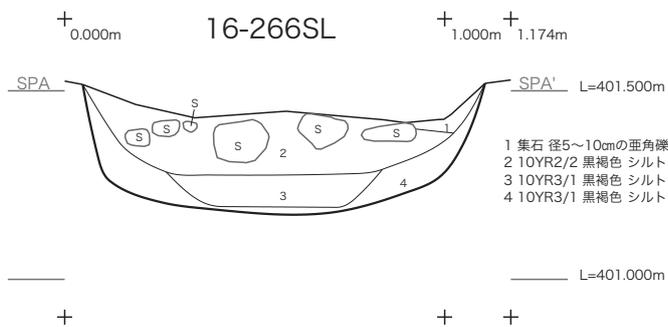
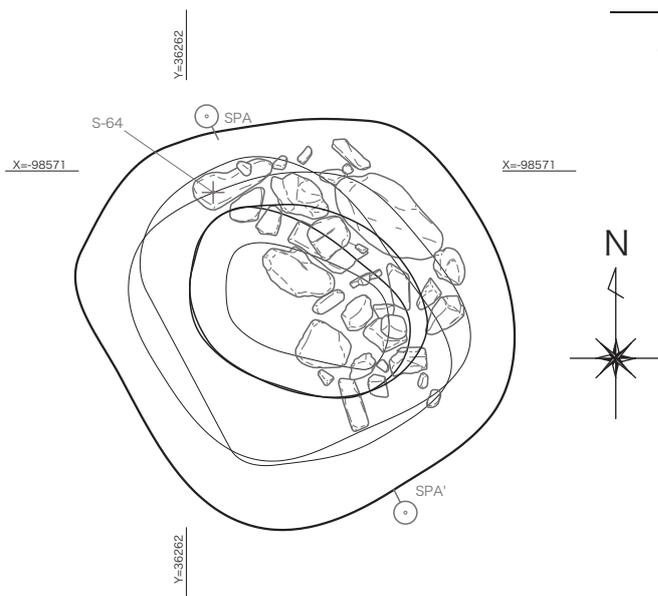
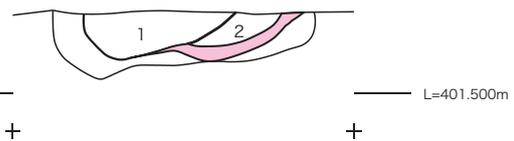


- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 中礫の亜角礫を多く含む。
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト やや粘質 細砂を多く含む。
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト やや粘質 粗粒砂、細礫を含む。
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト やや粘質 細砂、灰、焼土を含む。
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘質 細砂を含む。
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘質 粗砂を含む。
- 8 10YR5/6 黄褐色シルト やや粘質 灰、焼土を含む。
- 9 10YR5/6 黄褐色シルト やや粘質 細砂を含む。

図 2-5 16 調査区煙道付炉穴 246SL (S=1:20)

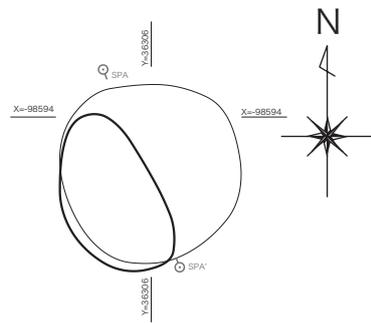


- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロック、2層ブロックを含む。
- 2 10YR6/2 灰黄褐色粘土質 シルト。
- 3 10YR6/2 灰黄褐色粘土質 シルト 炭少量含む。

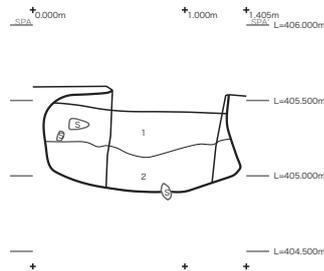


- 1 集石 径5~10cmの亜角礫。長さ30cmの礫あり。
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 炭を多く含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含み、中礫の亜角礫含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロック、中礫の亜角礫を含み、炭を少量含む。

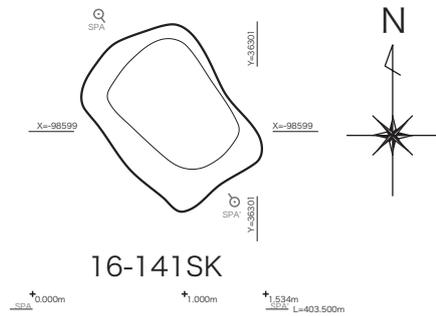
図 2-6 16 調査区 屋外炉 088SL・266SL (S=1:20)



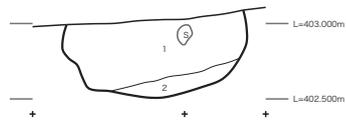
16-137SK



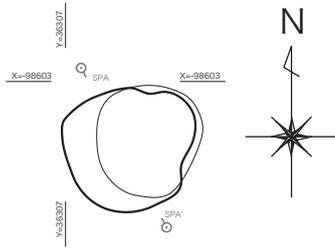
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 10YR5/6 黄褐色シルトブロック少量混じる。
 2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 10YR5/6 黄褐色シルトブロック多く混じる。φ10cm大礫含む。



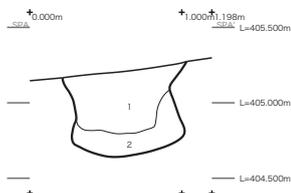
16-141SK



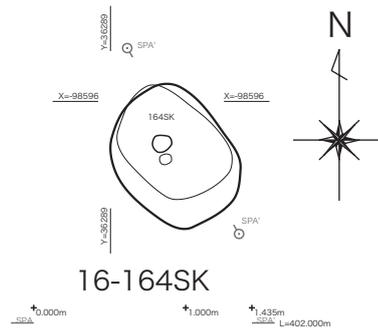
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量、中礫の歪角礫を含む。
 2 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性強い 極粗砂、中礫の歪角礫を含む。



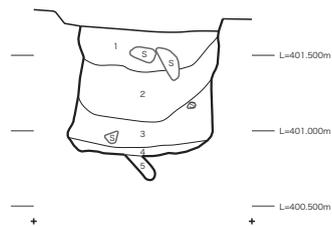
16-154SK



- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含み、炭を含む。
 2 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 黄褐色シルトブロックを少量含む。

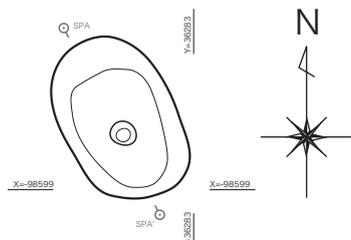


16-164SK

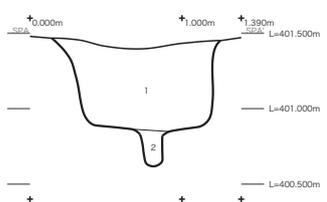


- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂含む。径20cmの大礫の歪角礫あり。
 2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含み、中礫の歪角礫を含む。
 3 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを多く含む。径20cmの大礫の歪角礫を含む。
 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。
 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量含む。

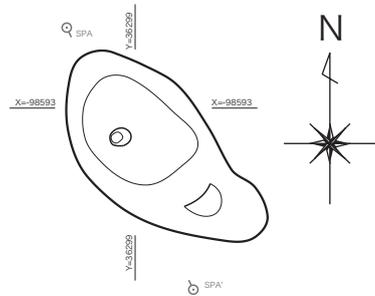
図 2-7 16 調査区 陥し穴 137SK・141SK・154SK・164SK (S=1:50)



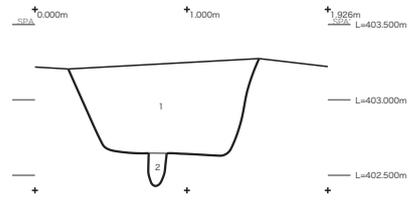
16-165SK



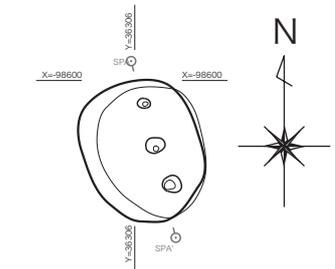
- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含み、炭を含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



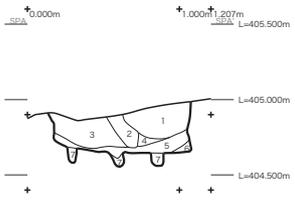
16-210SK



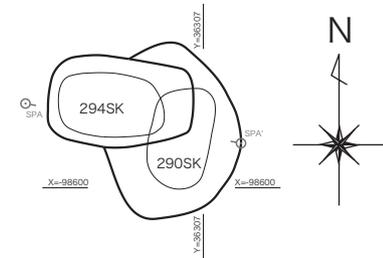
- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 下部に 黄褐色 シルトブロックを多く含む。
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト やや粘質 中礫の亜角礫を多く含む。



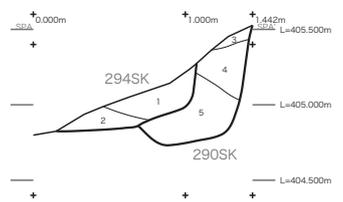
16-289SK



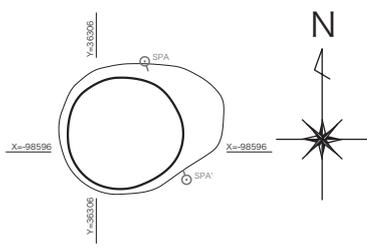
- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。
- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含み、細礫含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。
- 6 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。
- 7 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



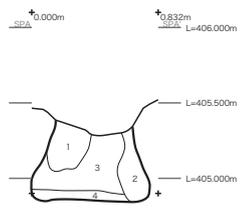
16-290SK 294SK



- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂 黄褐色 シルトブロックを少量含む。(294SK)
- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。(294SK)
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性強い 黄褐色 シルトブロックを多く含む。(290SK)
- 4 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強い 黄褐色 シルトブロック、炭を含む。(290SK)
- 5 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強い 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。(290SK)



16-291SK



- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。
- 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、黒色 シルトブロックを含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。

16 調査区 210SK (図 2-8)

141SK 北側 5929 グリッドの急傾斜面に位置する平面が楕円形を呈する土坑で、長軸が 1.7m、短軸が 0.85m、深さは検出面から 0.6m を測る。164・165SK と同様、この土坑にも底面に杭の痕跡があり、縄文時代早期の陥し穴である可能性がきわめて高い。

16 調査区 289SK (図 2-8)

16 調査区南東隅 6030 グリッドの急傾斜面に位置する平面が楕円形を呈する土坑で、長軸が 0.9m、短軸が 0.75m、深さは検出面から 0.35m を測る。底面には超軸方向に沿って 3ヶ所の小孔があり、杭の痕跡と考えられる。縄文時代早期の陥し穴である可能性が高い。

16 調査区 290SK (図 2-8)

289SK の北側 5930 グリッドに位置する平面が楕円形の土坑で、294SK に切られる。規模は長軸が 1.1m、短軸が 0.9m、深さは検出面から 0.75m を測る。杭の痕跡はないが、土坑の形状から縄文時代早期の陥し穴である可能性が高い。

16 調査区 291SK (図 2-8)

290SK の北約 2m の 5930 グリッドに位置する断面が袋状の土坑。開口部は直径 0.75m のほぼ正円で、底部は長軸 1.1m、短軸 0.85m の楕円形を呈する。これも 137SK・154SK と同様、貯蔵穴の可能性もあるが、ここでは縄文時代早期の陥し穴としておく。(以上、樋上)

3. 縄文時代中期の遺構

縄文時代中期に属する遺構は、16 調査区南西隅の平坦面で確認できた竪穴建物 090SI と、それに伴う石囲炉 230SL である。

16 調査区 090SI

16 調査区北西角付近の 5625・5626 グリッ

ドに位置する竪穴建物跡。長軸 3.66m。短軸 3.23m を測る。

上面に植林された杉が存在した他、耕作地として整備された後の攪乱を多く受けており、遺構の残存状況は悪く遺構底面を残すのみ。中央わずかに東寄りに石囲炉 230SL がある。柱穴の残存状況も明瞭では無いが、位置から 233SP、236SP、293SP が想定される。

遺物の出土は少なく、土器が数点確認されているがいずれも縄文時代中期と考えられ、090SI の年代もこれに伴うものと考えられる。

16 調査区 230SL

090SI の中央やや東よりに位置する石囲炉。長軸、短軸ともに 0.79m、深さ 0.29m を測る方形の掘方をもつ。底面と側面下半部は被熱して赤変しており、礫の下半部にも赤変が見られる。計 6 個の礫を用いて構築され、礫の並びはややいびつな五角形状となる。礫は最大で、長軸 58cm、短軸 22cm を測る。礫の一つ (S-63) は破損した石皿と考えられ、炉材として転用された可能性が考えられる。(以上、樋上)

4. 縄文時代の土器

大栗遺跡での縄文土器の出土点数は計 38 点で、37 点を図化した (図 2-13)。ここでは、出土別に土器の様相について報告していく。

15 調査区 002SK 出土土器 (1～3)

いずれも深鉢胴部細片で、1 は胴部下半と考えられる。1・2 は器面調整がナデ・ケズリであり、時期の特定は難しいものの、中期後半～後期前葉までのものと考えられる。3 は、器面表に巻貝条痕が認められることから、後期中葉～後葉に属するものと考えられる。

15 調査区 出土土器 (4～15)

いずれも深鉢胴部片である。

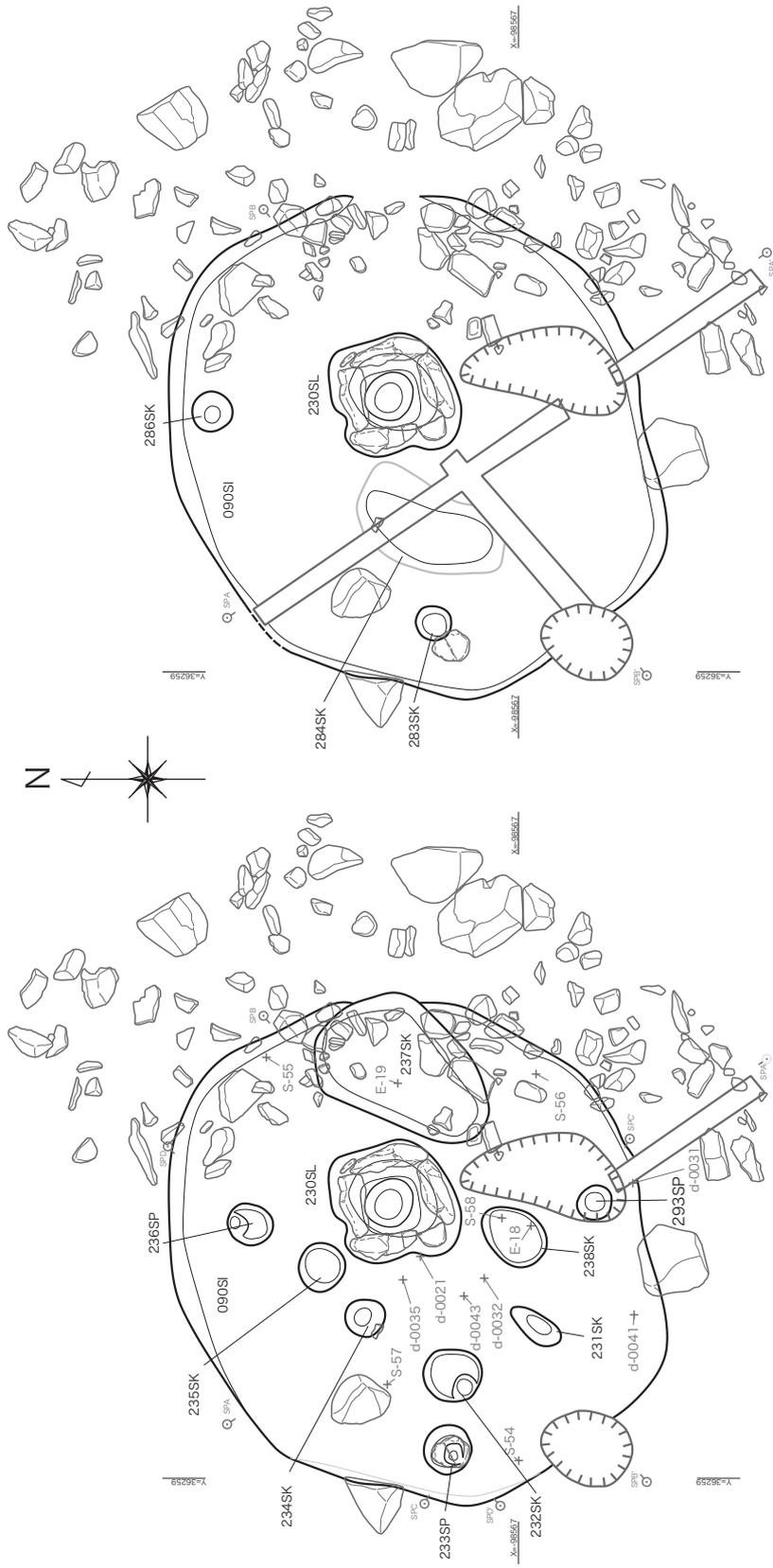
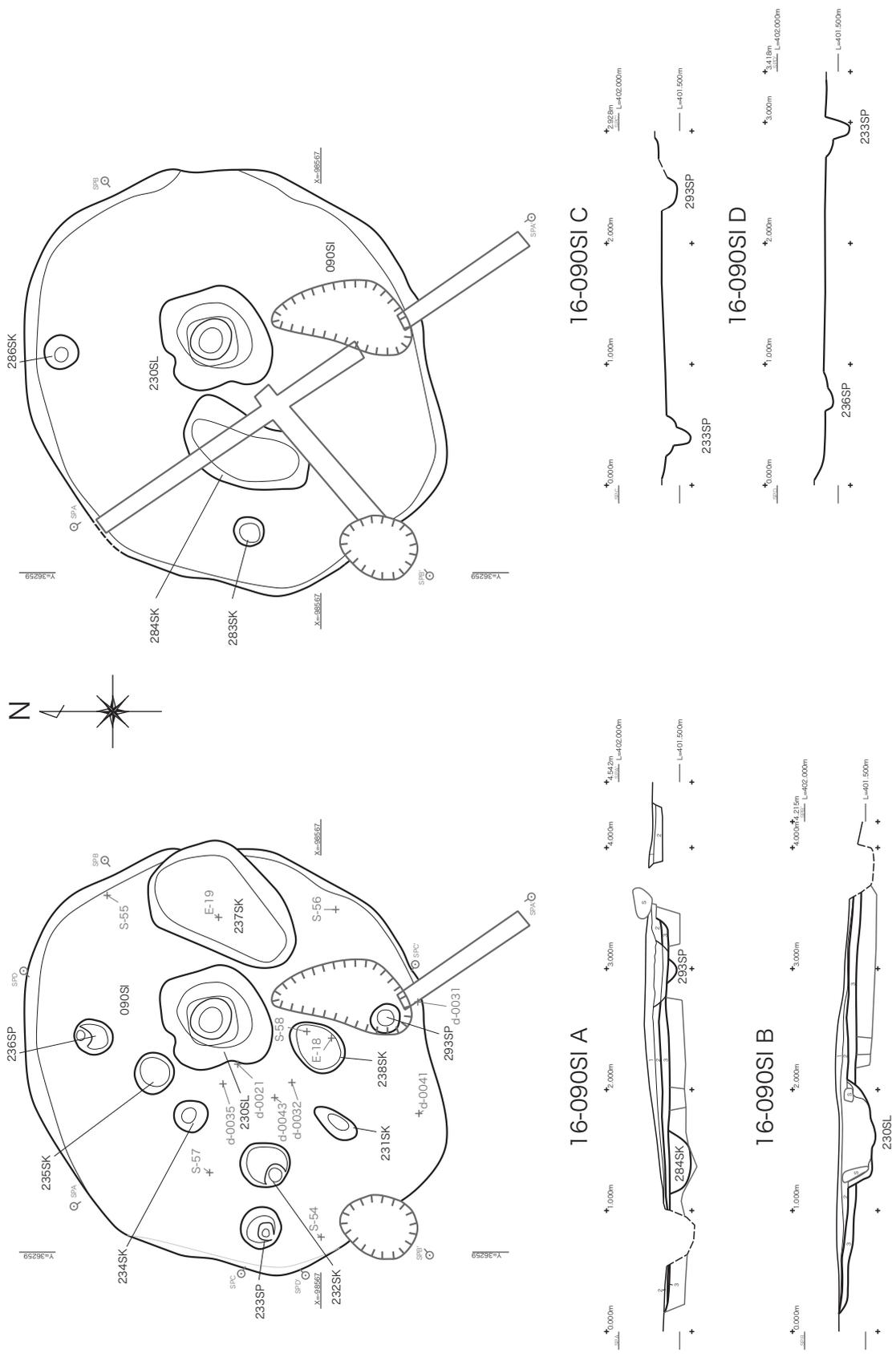
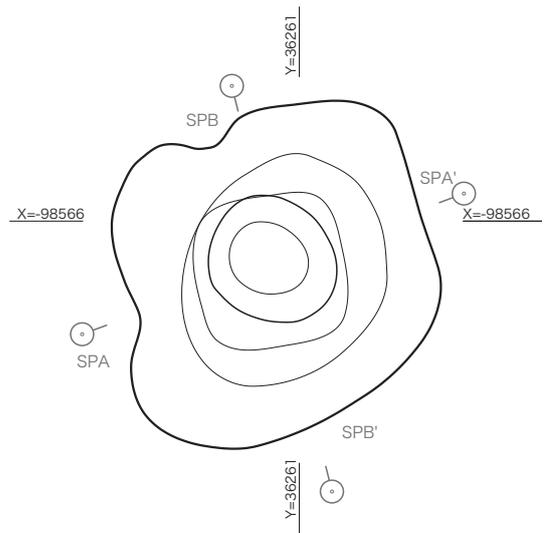
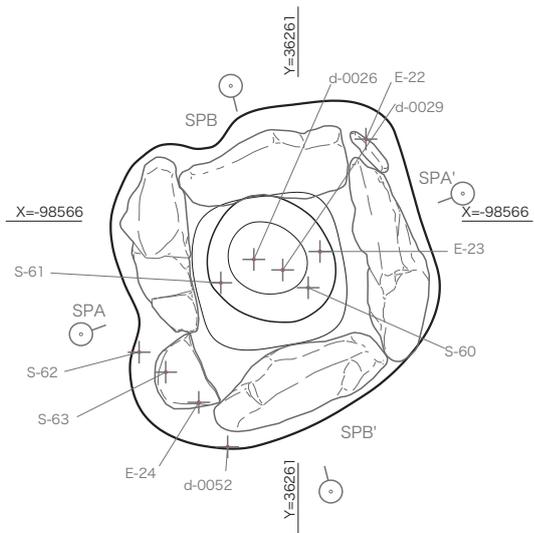


图 2-9 16 調査区 竪穴建物 090SI-1 (S=1:50)



- 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、細礫含む。耕作土
- 2 10YR5/1 補灰色シルト やや粘質 中粒砂、黄褐色シルトブロックを少量含む、炭を含む。(覆土)
- 3 10YR5/4 黒褐色シルト やや粘質 粗砂含む。(床層)

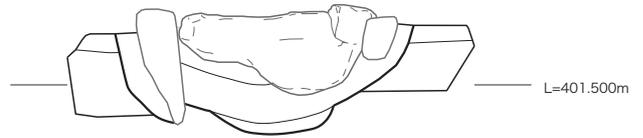
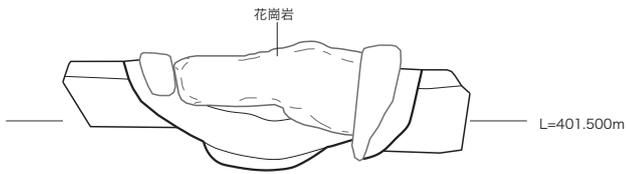
図 2-10 16 調査区 竪穴建物 090SI-2 (S=1:50)



16-230SL 立面図 A



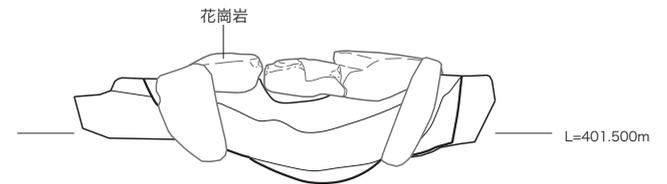
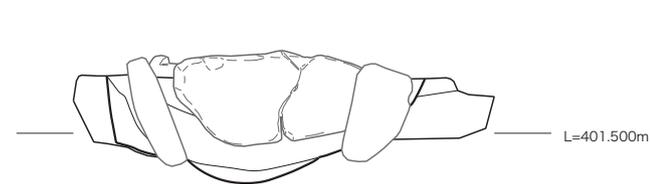
16-230SL 立面図 A'



16-230SL 立面図 B



16-230SL 立面図 B'



4～11は、遺構検出段階で出土した資料、12～15は表土掘削や表採された資料である。

4は早期前半で、方形のネガティブ押型文で、大川式（萩平タイプ）に比定されるものと考えられる。5・6は早期後半で、胎土内に繊維を包含する。

7は表面に沈線、内面に巻貝条痕の認められる土器で、後期中葉以降に属するものである。

8・9は詳細な時期特定は難しいものの、中期後半～後期前葉の資料と推定される。13も同様の時期に属するものと考えられるもので、表面に沈線区画が展開している。

10は、表面にハケ目認められる甕で、弥生時

代に属するものと考えられる。

11・14は表面に二枚貝条痕の認められるもので、胴部上半である11では横方向、底部に近い14では斜方向に施されている。晩期に属すると考えられるが、前半か後半かは不明である。

12は表面に半截竹管状工具によるカマボコ状の集合沈線の認められるもので、中期中葉に属するものである。山田平式に比定されるものか。

16 調査区 090SI 出土土器 (16～20)

17・18は深鉢口縁部片、16・19・20は深鉢胴部片である。

16は断面形状が四角く角張った幅広の沈線が、併行して弧状に施されているものである。図面右側から左側に向かって、同心円構造を持つものかもしれない。17はやや厚手の口縁部直下に横沈線が認められるもので、やや内傾する器形となっている。18は大きな波状を呈する深鉢で口縁端部のみやや内傾する器形と考えられる。やや薄手で、ナデ調整である。19は胴部下半と考えられるが、横方向沈線が認められる。以上、これらの土器は、いずれも中期後半の取組式以降と考えられるものであり、これが090SIの機能していた時期の土器であると考えられる。

20はやや長方形を呈するネガティブ押型文の認められる、早期前半に属するものか。竪穴建物跡付近にあった早期前半の包含層から入り込んでものと考えられる。

16 調査区 170SK 出土土器 (21)

21は、ナデ調整の深鉢胴部片で、胎土に繊維を包含するものである。早期後半に属する。

16 調査区 230SL 出土土器 (22～24)

いずれも深鉢胴部片で、ナデ調整を基本

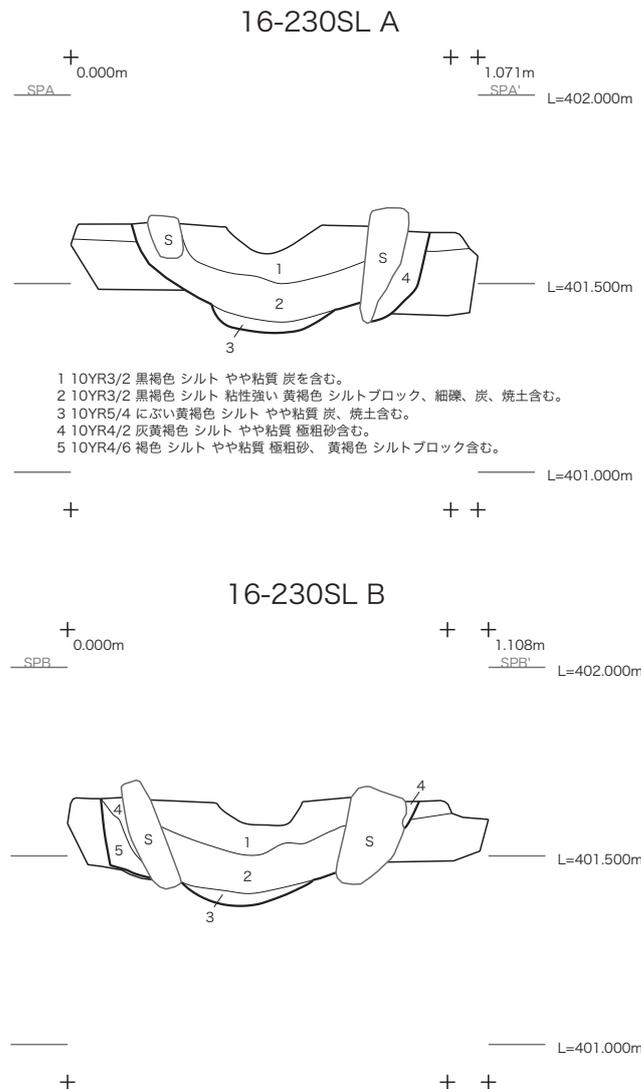


図 2-12 16 調査区 竪穴建物 090SI の石囲炉 230SL-2 (S=1:20)

とする。22は外面に縄文RLが横方向に展開するもので、後期初頭～前葉に属すると考えられる。

16 調査区 266SK 出土土器 (25)

深鉢胴部片で、表裏ともナデ調整である。表面には縦方向に条線が施されている。中期末まで遡る可能性もあるものの、これまでの設楽町内での出土事例を勘案すると、後期初頭～前葉に属する可能性が高い。

16 調査区 284SK 出土土器 (26)

深鉢胴部片で、若干長方形状を呈するネガティブ押型文のある早期前半に属するものである。大川式(萩平タイプ)に比定されるものか。

16 調査区 出土土器 (27～32)

いずれも深鉢胴部片であるが、早期に属するものが多い。27は縦位方向に撚糸文の施されているものである。28は表面に長細いネガティブ押型文が認められるもので、神宮司式に比定されるものか。29はや大きなポジティブな楕円押型文で、胎土に繊維を包含するものである。黄島式～高山寺式に比定されるものか。30・31は二枚貝条痕調整の認められるもので、胎土に繊維を含む。早期後半に属するものである。32は胴部ナデで、中期～後期に属するものと考えられる。

本調査 A 出土土器 (33～37)

これらも深鉢胴部片である。33は縦位方向に撚糸文の認められるもので、早期前半に属する。34は繊維を含む胎土で、表には半截竹管状工具による沈線と、縄文が施されている。茅山下層式に比定されるものと考えられる。35は表面に縦方向に条線が認められるもので、後期初頭～前葉に属するものであろう。36は表面に二枚貝条痕調整の認められる晩期の土器、37はナデ調整で時期不詳であるが、中期後半～後期前葉に属するものと考えられる。(以上、川添)

5. 縄文時代～弥生時代の石器

今回の調査で出土した石器は、144点で、そのほとんどが縄文時代に属するものである。内訳は、石鏃2点(39・40)、削器2点(66・54)、楔形石器1点(45)、加工痕ある剥片6点(1・6・7・55・80)、剥片113点((2～5・8～35・41～44・46・47・49・50・52・56・59～62・64・67～69・73・75・77～79・81)、碎片1点、石核4点(36・37・70)、打製石斧1点(57・76)、磨製石斧1点(74)、石錘1点(51)、礫器状石核1点(38)、磨石・敲石類7点(53・58・65・71・72)、台石3点(48・63)である。石器の大半が包含層中で出土しているが、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡090SI・230SLのように遺構一括の石器群(図2-21・22-54～63)もある。石器の出土量の少なさは、包含層の残存状況が希薄であったことに起因するが、剥片や石核、磨石・敲石類などが多い点は、居住域であった可能性を推察させる。有茎の石鏃(39)や磨製石斧(74)は、弥生時代の石器である可能性が高く、単発的に、弥生時代の遺構が形成された可能性がある。石材では、安山岩(B・Dも含む)と凝灰岩類がもっとも多く、在地系の石材で占められているが、サヌカイト製の削器(54)、黒曜石製の楔形石器(45)や剥片(5・12・46・56・77-79)、塩基性凝灰岩製の磨製石斧(74)など遠隔地石材を使用した石器も一部認められる。

石鏃 (39・40)

石鏃は5824グリッドから2点出土している。完形は39の一点のみで、有茎鏃である。両面とも周縁加工で整形しており、両面に一次剥離面を残す。40は先端部のみである。石材は39が溶結凝灰岩、40は凝灰岩である。

削器 (54・66)

削器は090SIから1点(54)、5626グリッド

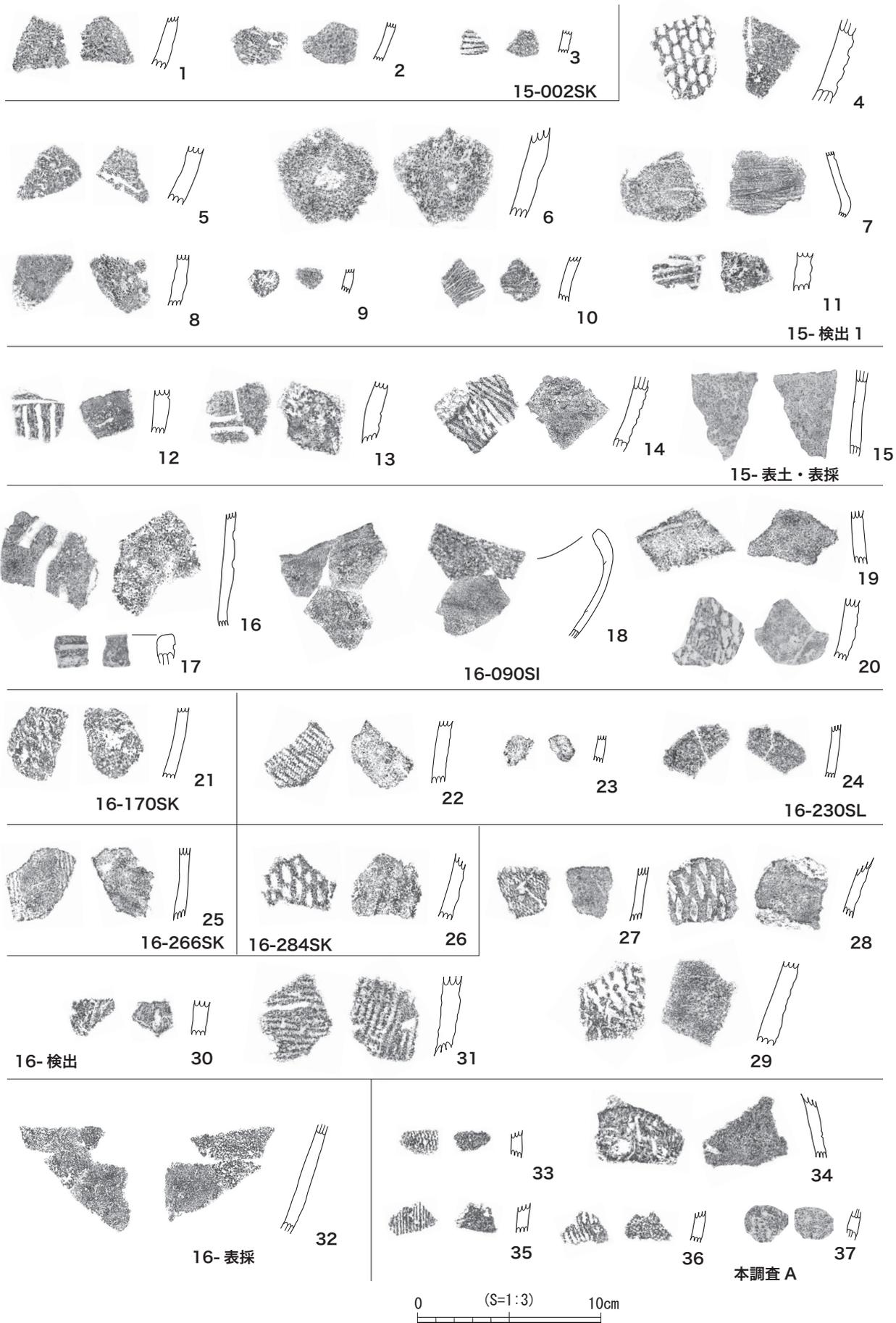


図 2-13 15・16 調査区出土の縄文土器 (S=1:3)

から1点の2点が出土している。54は、横長剥片の長軸を加工し、刃部を形成している。両側縁に加工があるが、左側縁に加工が集中している。66は縦長剥片の右側縁を加工し、刃部を形成している。表面右側縁を加工する一方、裏面は一次剥離面で構成される。石材は、54が風化したサヌカイト、66が泥質凝灰岩である。

楔形石器 (45)

楔形石器は6025グリッドから1点出土している。表面に素材面を大きく残し、下端部に下方向からの小さな剥離痕が連続する。裏面右側縁には加工が施される。断面は三角形状を呈する。石材は黒曜石である。

加工痕ある剥片 (1・6・7・55・80)

加工痕ある剥片は、5724グリッド中央トレンチから1点(1)、5625グリッドから2点(6・7)、090SI(69)から1点、表採で2点(80)出土している。加工が下端部に施されるもの(1・6・7)と側縁に施されるもの(55・80)がある。また、1は、左下端部にノッチ状の加工が施されている。石材は1が凝灰岩、6が溶結凝灰岩、7が安山岩D、55・80が安山岩である。

5. 剥片 (2 ~ 5・8 ~ 35・41 ~ 44・46・47・49・50・52・56・59 ~ 62・64・67 ~ 69・73・75・77 ~ 79・81)

剥片は、113点出土し、その内の56点を図化した(2 ~ 5・8 ~ 35・41 ~ 44・46・47・49・50・52・56・59 ~ 62・64・67 ~ 69・73・75・77 ~ 79・81)。

剥片は不定形な剥片が多数を占めるが、表面に複数方向からの剥離があり、側面はくの字状になる剥片(9・15・18・24・27・28・30・44・47・49)がある。このうち、5724グリッドでは、6点(15・18・24・27・28・30)が出土している。石材は、溶結凝灰岩が3点(9・15・49)、凝灰岩3点(18・28・30)、砂質凝灰岩2点(24・47)、泥質凝灰岩1点(27)、安山岩Bが1点と、

凝灰岩系の石材が9割を占める。両極剥離技法で剥がされたと考えられる剥片は3点(13・14・41)出土している。石核の打面再生剥片は、5点(34・43・62・68・81)出土している。34・43・62・68では、平坦な打面と剥片を剥がした剥離痕が認められる。

石核 (36・37・70)

石核は4点出土しており、3点(36・37・70)を図化した。36では、小型で縦長の剥片を剥がしており、37では、幅広で不定形な剥片を剥がしている。70は、小型で不定形な剥片を剥がしている。石材は、36が安山岩、37が凝灰岩、70が溶結凝灰岩である。

打製石斧 (57・76)

打製石斧は2点(57・76)出土しており、57は090SIから出土したもので、両面に線状痕が認められるほど摩耗しており、短冊形を呈している。刃部は、折損後に刃部再生が行われており、かなり使い込まれた打製石斧である。基部は折損後に裏面から加工が施される。76は刃部のみの資料である。裏面に一次剥離面を大きく残しており、剥片素材の打製石斧である。石材は57・76共に安山岩である。

磨製石斧 (74)

磨製石斧は、270SKから1点出土している(74)。研磨したのちに、敲打による整形がおこなわれ、刃部も敲打によって潰れている。刃部の形成が認められないため、敲石に転用されていた可能性が高い。

石錘 (51)

石錘は011SKから1点(51)出土している。長軸方向に溝状の加工が両面に施される、有溝石錘である。表面下部と裏面が摩耗しており、裏面は平坦な形状となる。

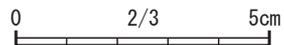
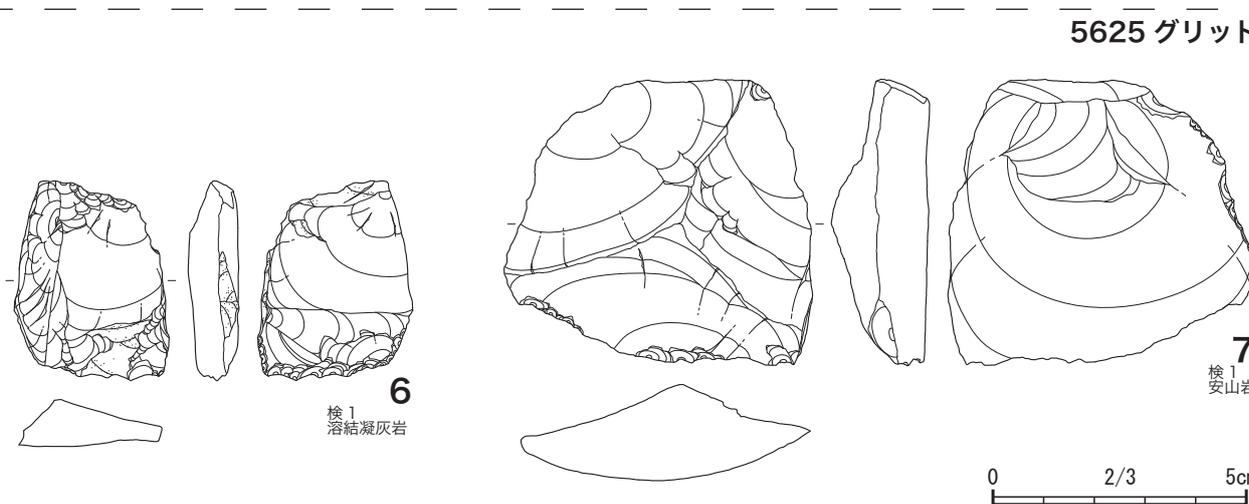
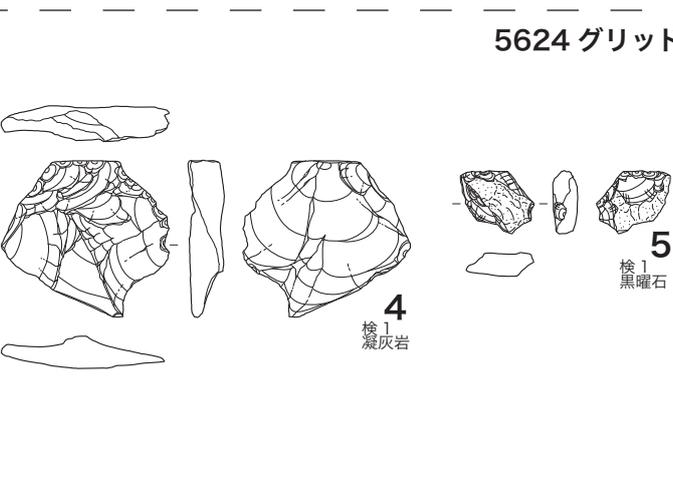
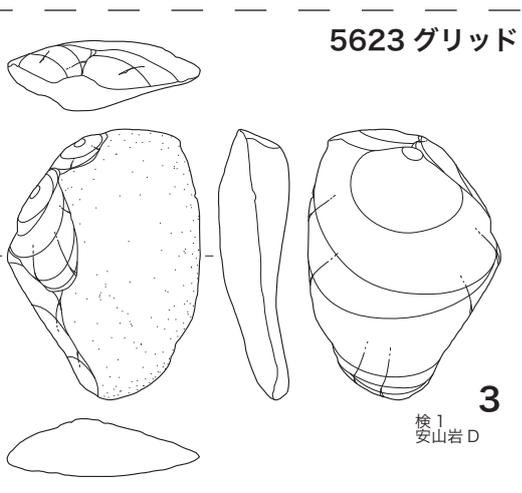
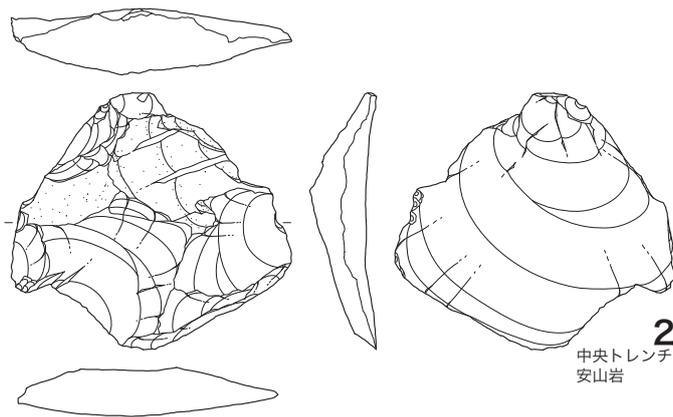
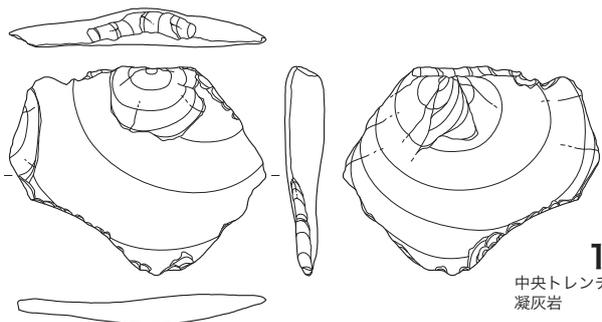
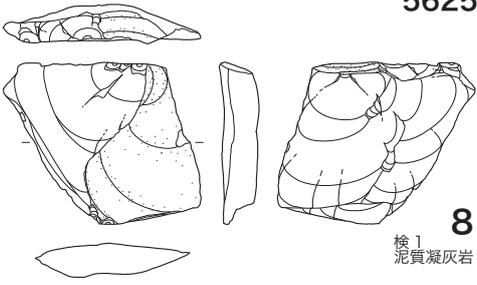


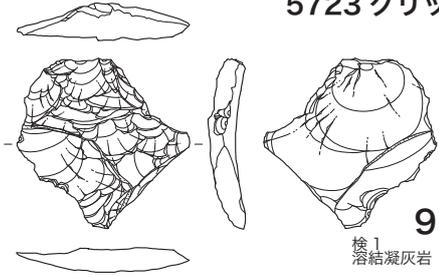
図 2-14 15 調査区 中央トレンチ・5623-5625 グリッド出土の石器 (S=2:3)

5625 グリッド



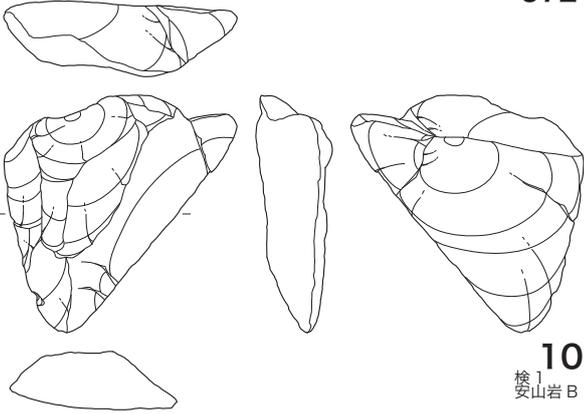
8
検1
泥質凝灰岩

5723 グリッド

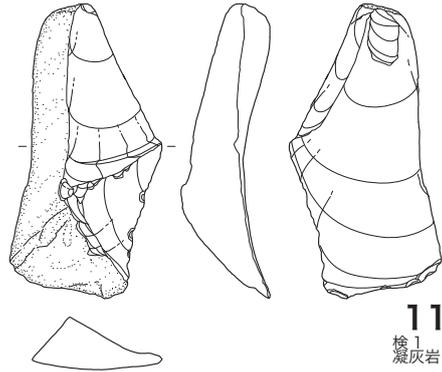


9
検1
溶結凝灰岩

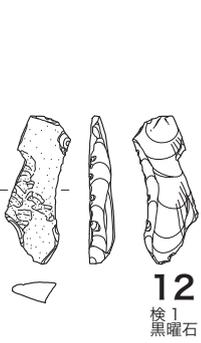
5724 グリッド



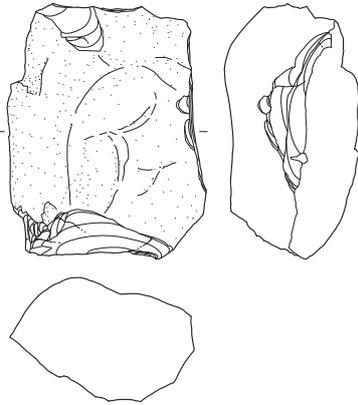
10
検1
安山岩 B



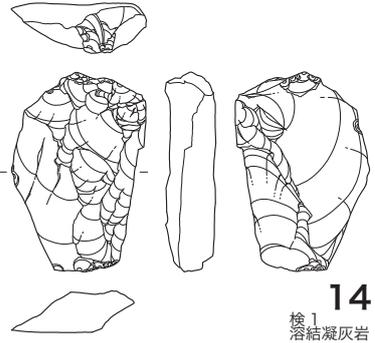
11
検1
凝灰岩



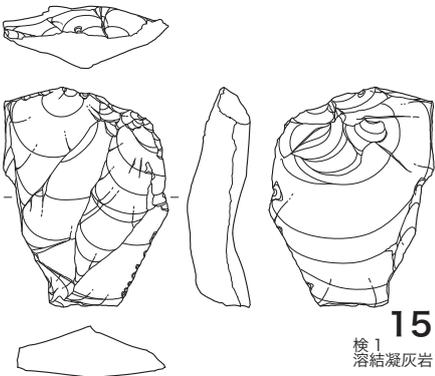
12
検1
黒曜石



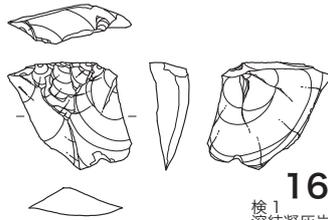
13
検1
溶結凝灰岩



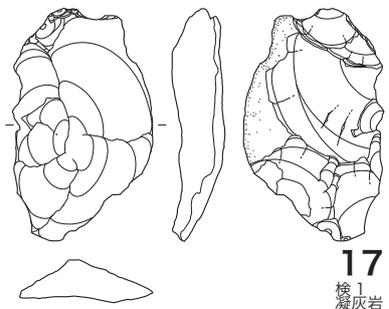
14
検1
溶結凝灰岩



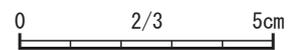
15
検1
溶結凝灰岩



16
検1
溶結凝灰岩



17
検1
凝灰岩



5724 グリッド

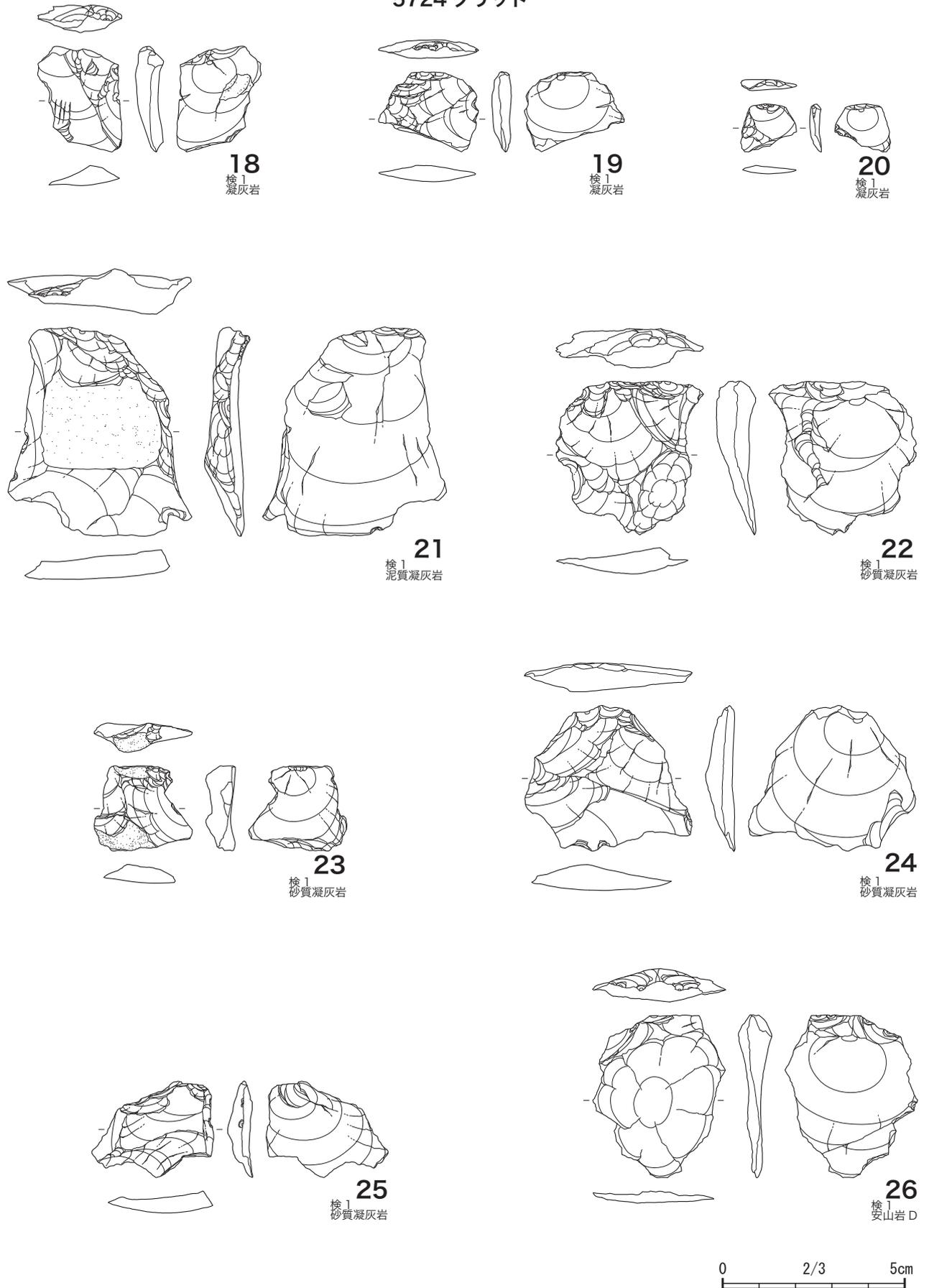
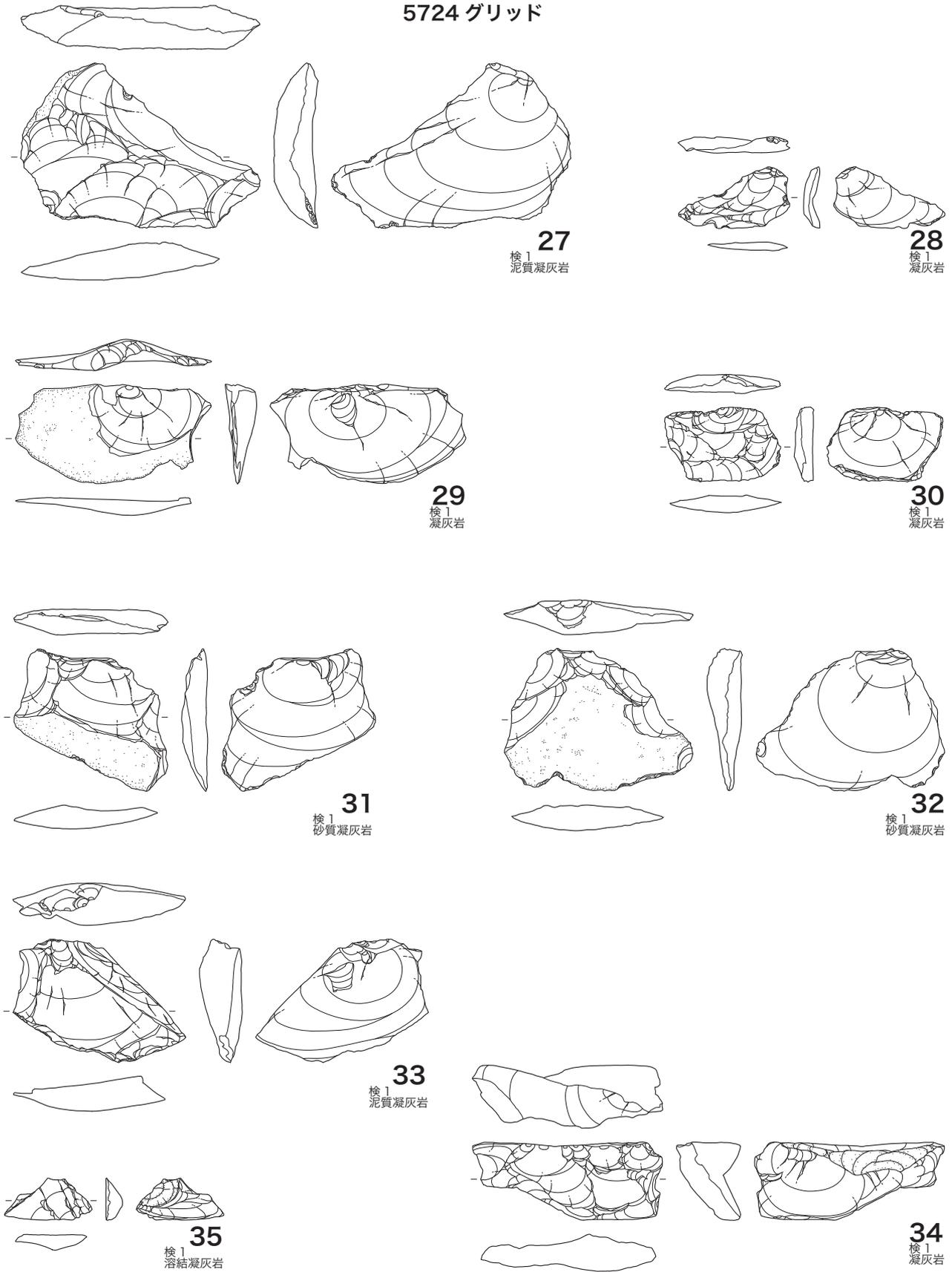


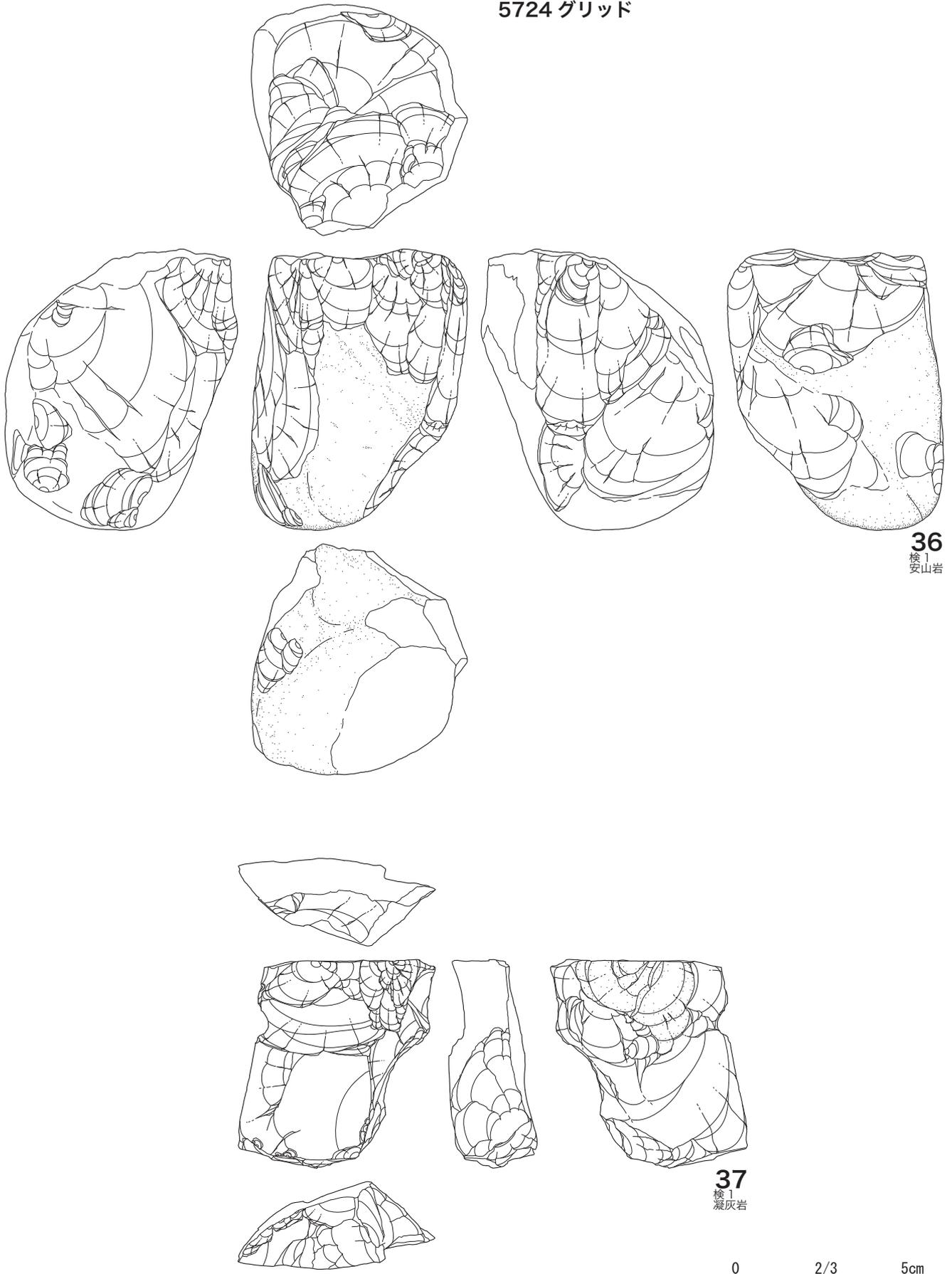
図 2-16 15 調査区 5724 グリッド出土の石器 -1 (S=2:3)

5724 グリッド



0 2/3 5cm

5724 グリッド



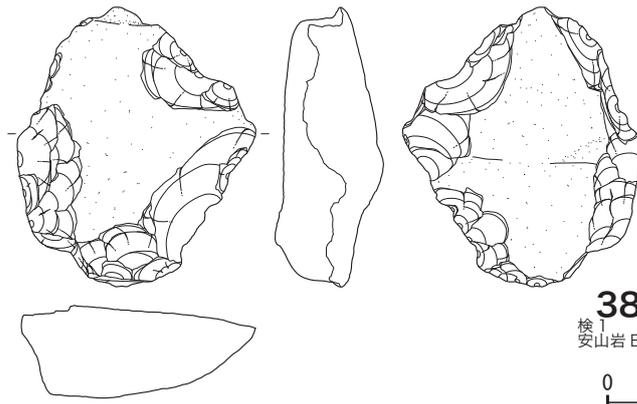
36
検1
安山岩

37
検1
凝灰岩

0 2/3 5cm

図 2-18 15 調査区 5724 グリッド出土の石器 -3 (S=2:3)

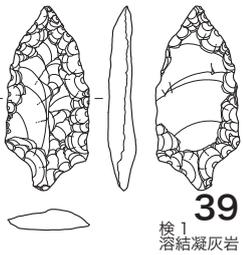
5725 グリッド



38
検1
安山岩 B

0 1/3 10cm

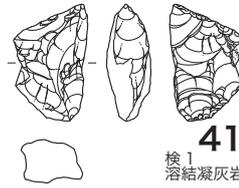
5824 グリッド



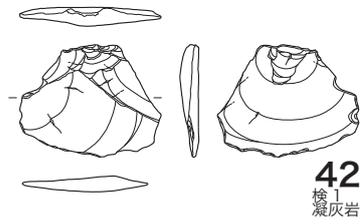
39
検1
溶結凝灰岩



40
検1
凝灰岩

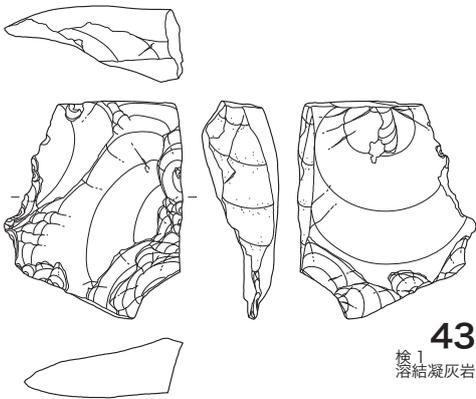


41
検1
溶結凝灰岩



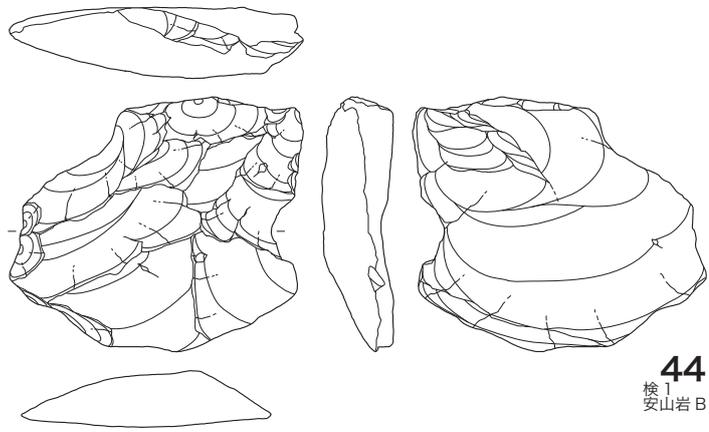
42
検1
凝灰岩

5826 グリッド



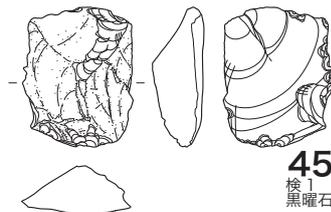
43
検1
溶結凝灰岩

5925 グリッド



44
検1
安山岩 B

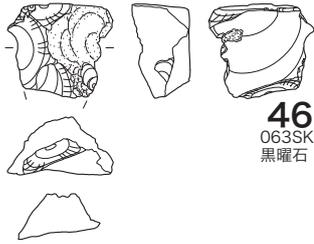
6025 グリッド



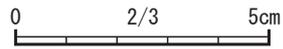
45
検1
黒曜石

0 2/3 5cm

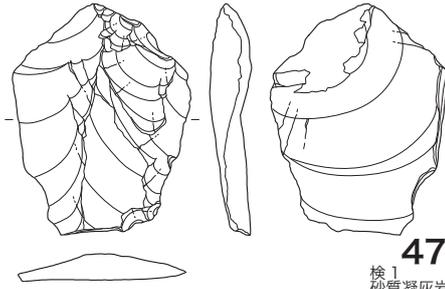
063SK



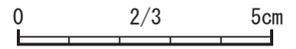
46
063SK
黒曜石



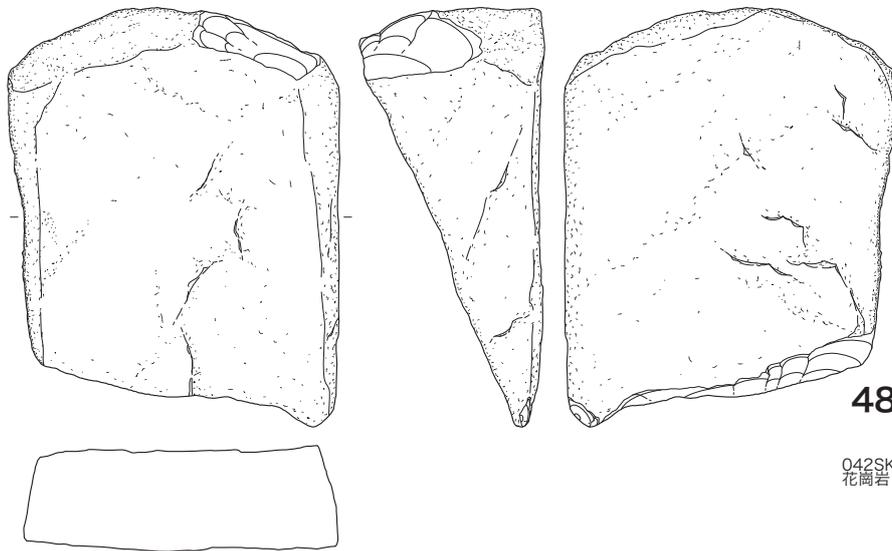
5524 グリッド



47
検1
砂質凝灰岩



042SK

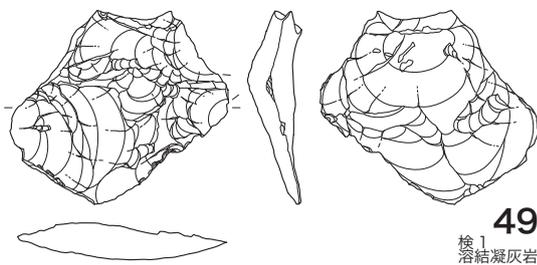


48

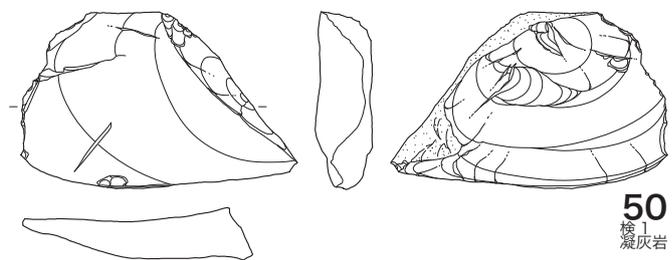
042SK
花崗岩



5424 グリッド



49
検1
溶結凝灰岩



50
検1
凝灰岩

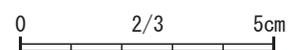
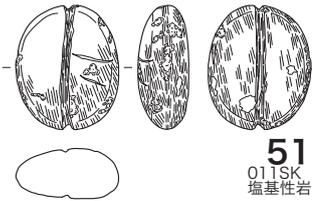
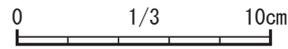


図 2-20 15 調査区 063SK・042SK・5524・5424 グリッド出土の石器 (S=1:4/2:3)

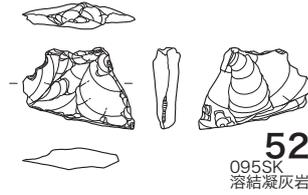
011SK



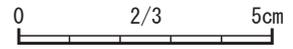
51
011SK
塩基性岩



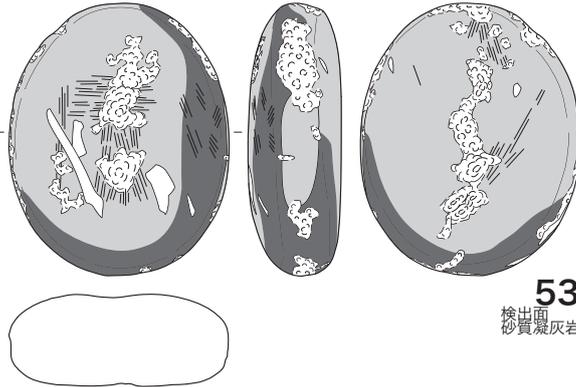
095SK



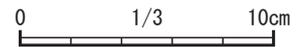
52
095SK
溶結凝灰岩



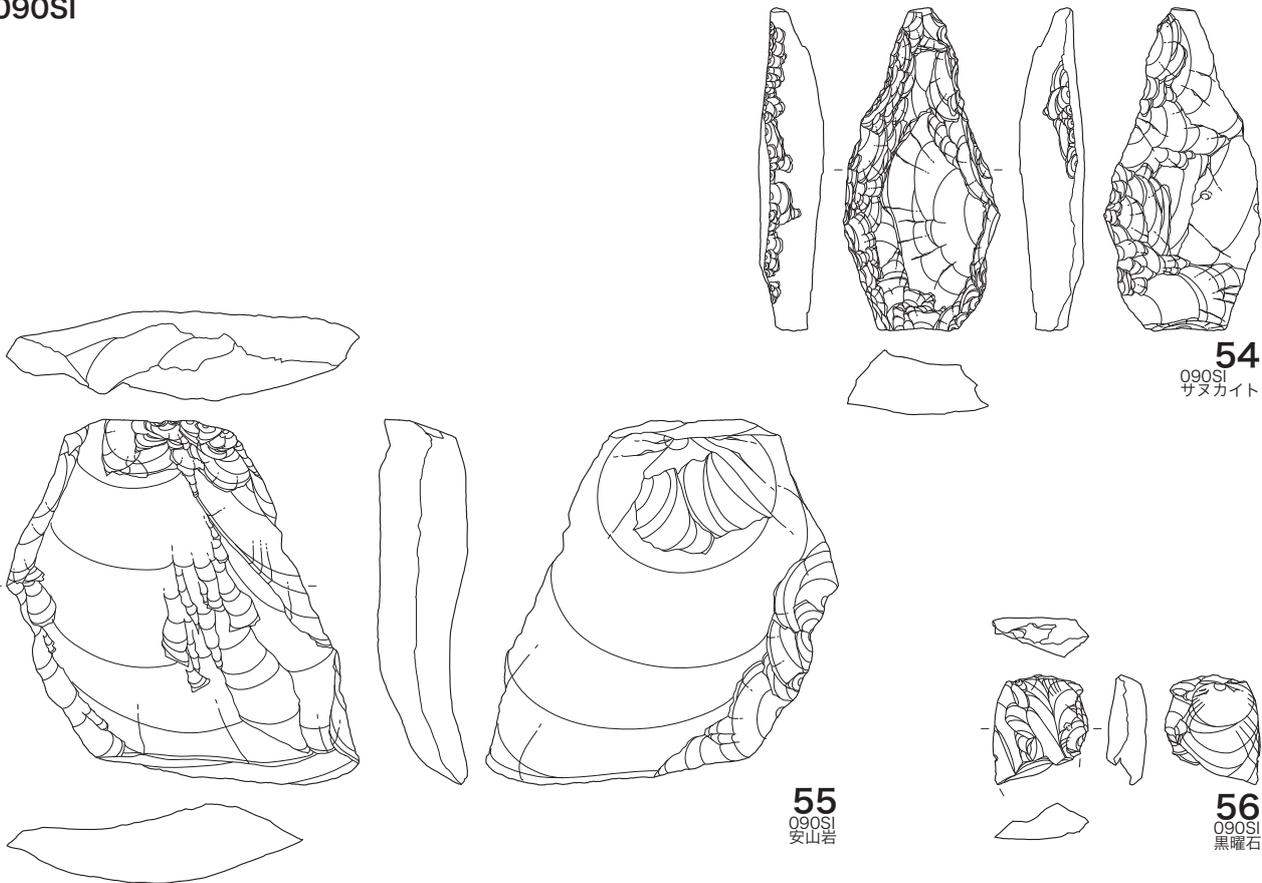
5626 グリッド



53
検出面
砂質凝灰岩



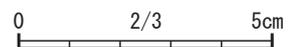
090SI



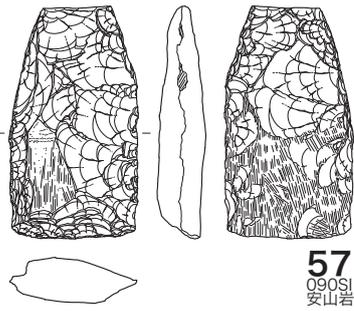
54
090SI
サヌカイト

55
090SI
安山岩

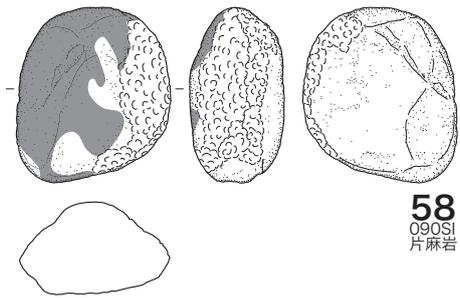
56
090SI
黒曜石



090SI



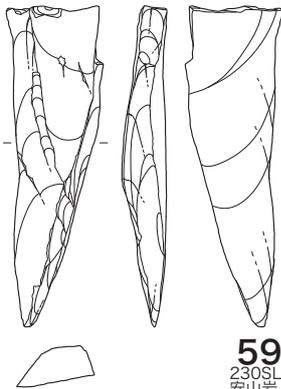
57
090SI
安山岩



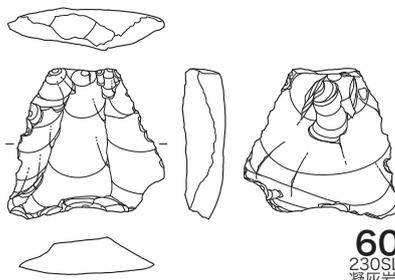
58
090SI
片麻岩

0 1/3 10cm

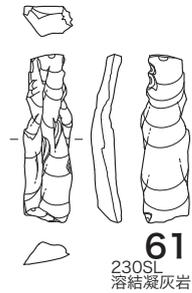
230SL



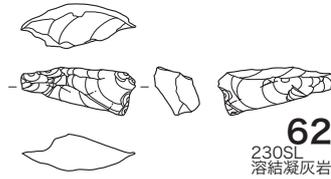
59
230SL
安山岩



60
230SL
凝灰岩

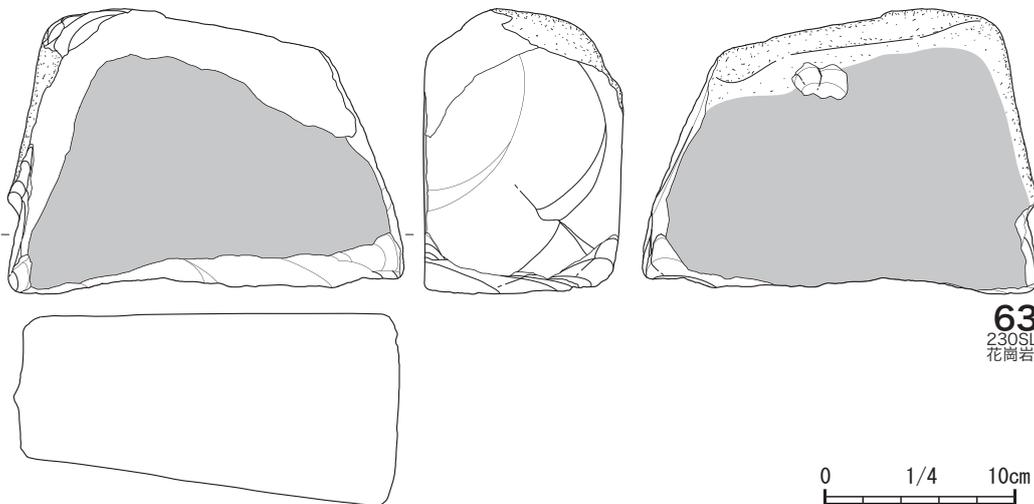


61
230SL
溶結凝灰岩



62
230SL
溶結凝灰岩

0 2/3 5cm

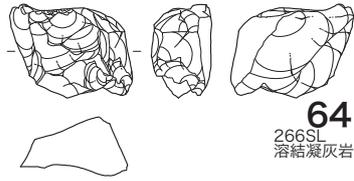


63
230SL
花崗岩

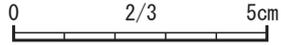
0 1/4 10cm

図 2-22 16 調査区 090SI・230SL 出土の石器 (S=1:4/2:3)

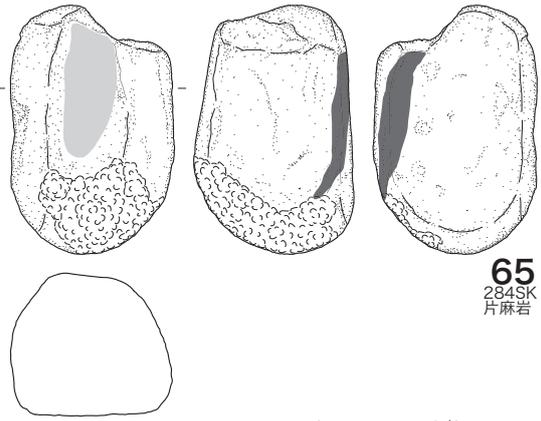
266SL



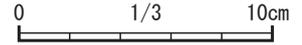
64
266SL
溶結凝灰岩



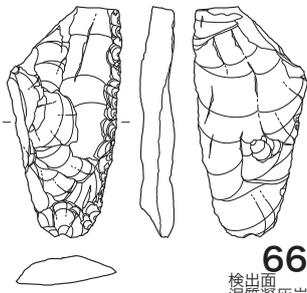
284SK



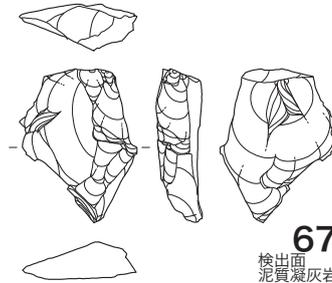
65
284SK
片麻岩



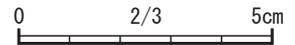
5626 グリッド



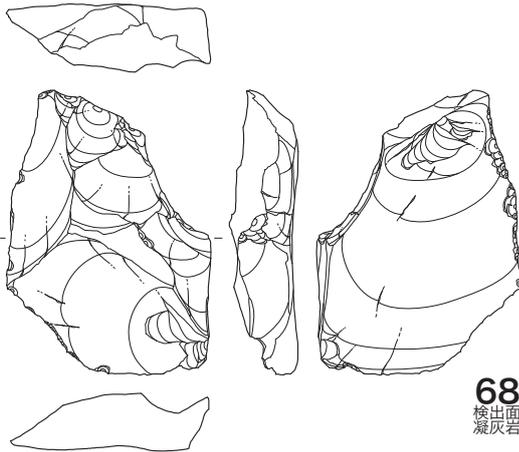
66
検出面
泥質凝灰岩



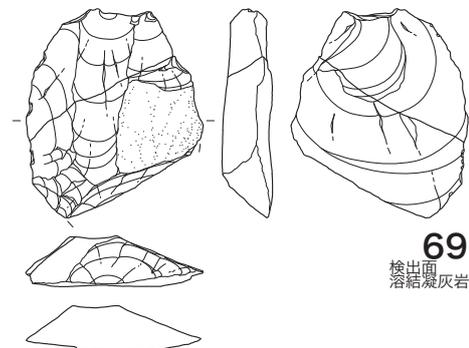
67
検出面
泥質凝灰岩



5726 グリッド



68
検出面
凝灰岩



69
検出面
溶結凝灰岩

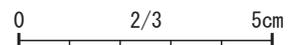
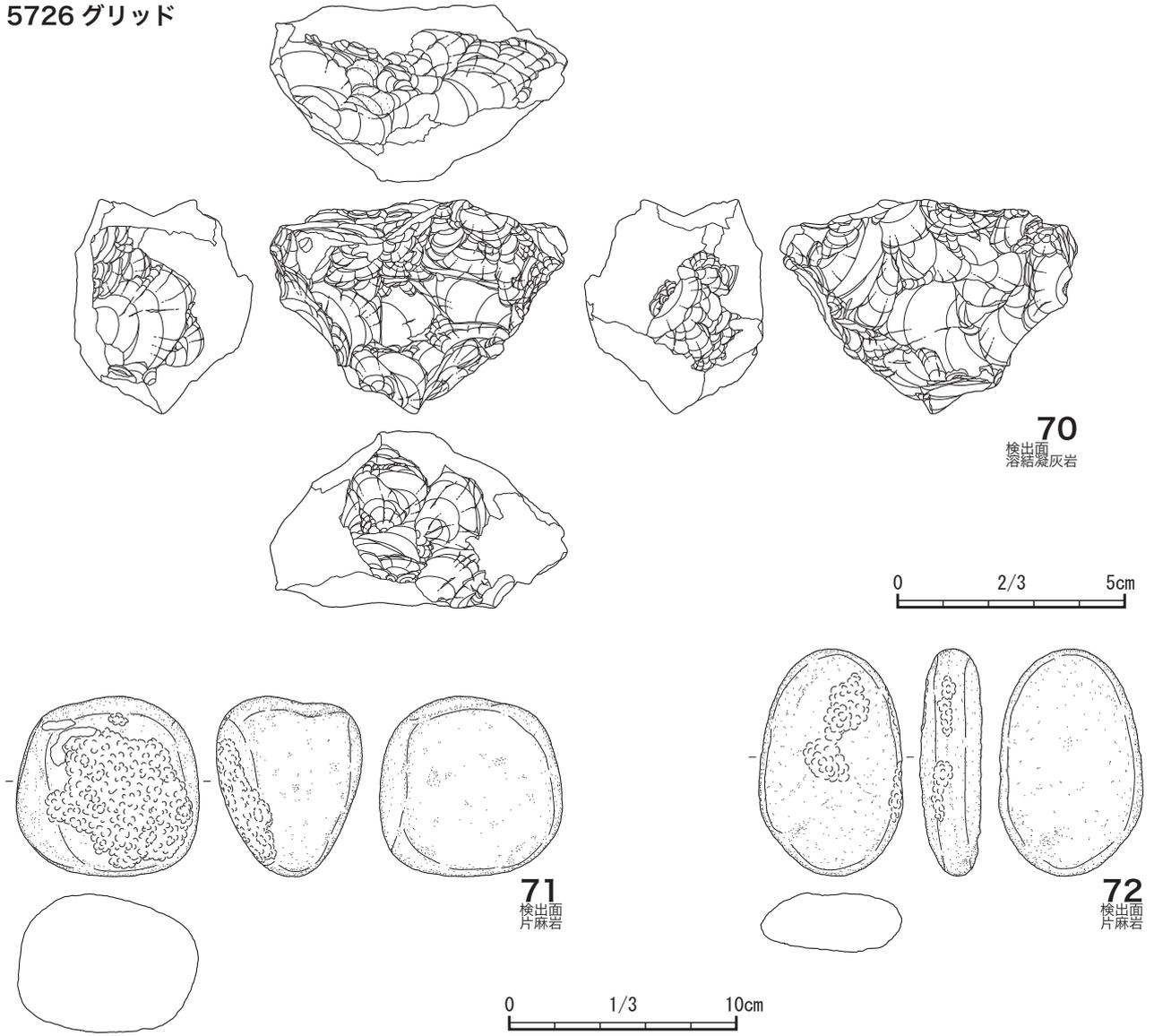
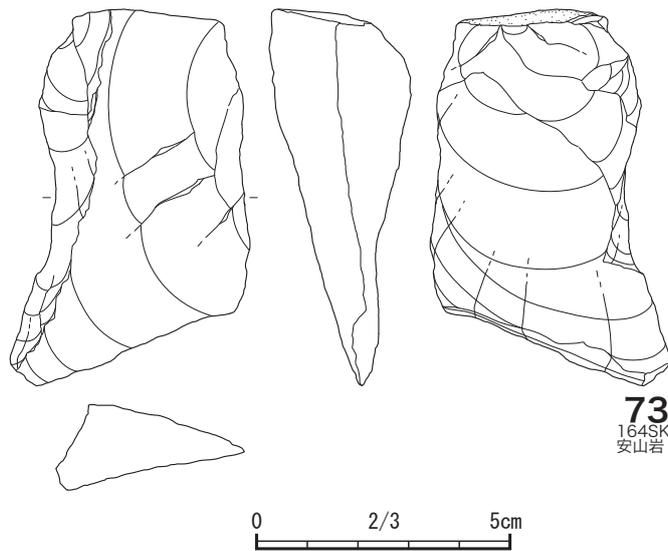


図 2-23 16 調査区 266SL・284SK・5626・5726 グリッド出土の石器 (S=1:3/2:3)

5726 グリッド



164SK



270SK

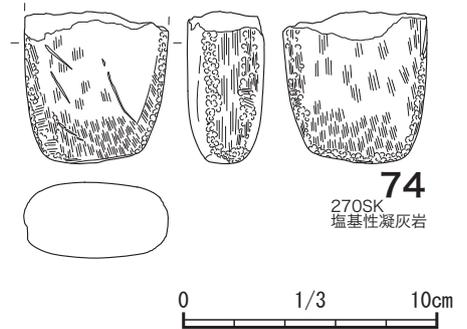
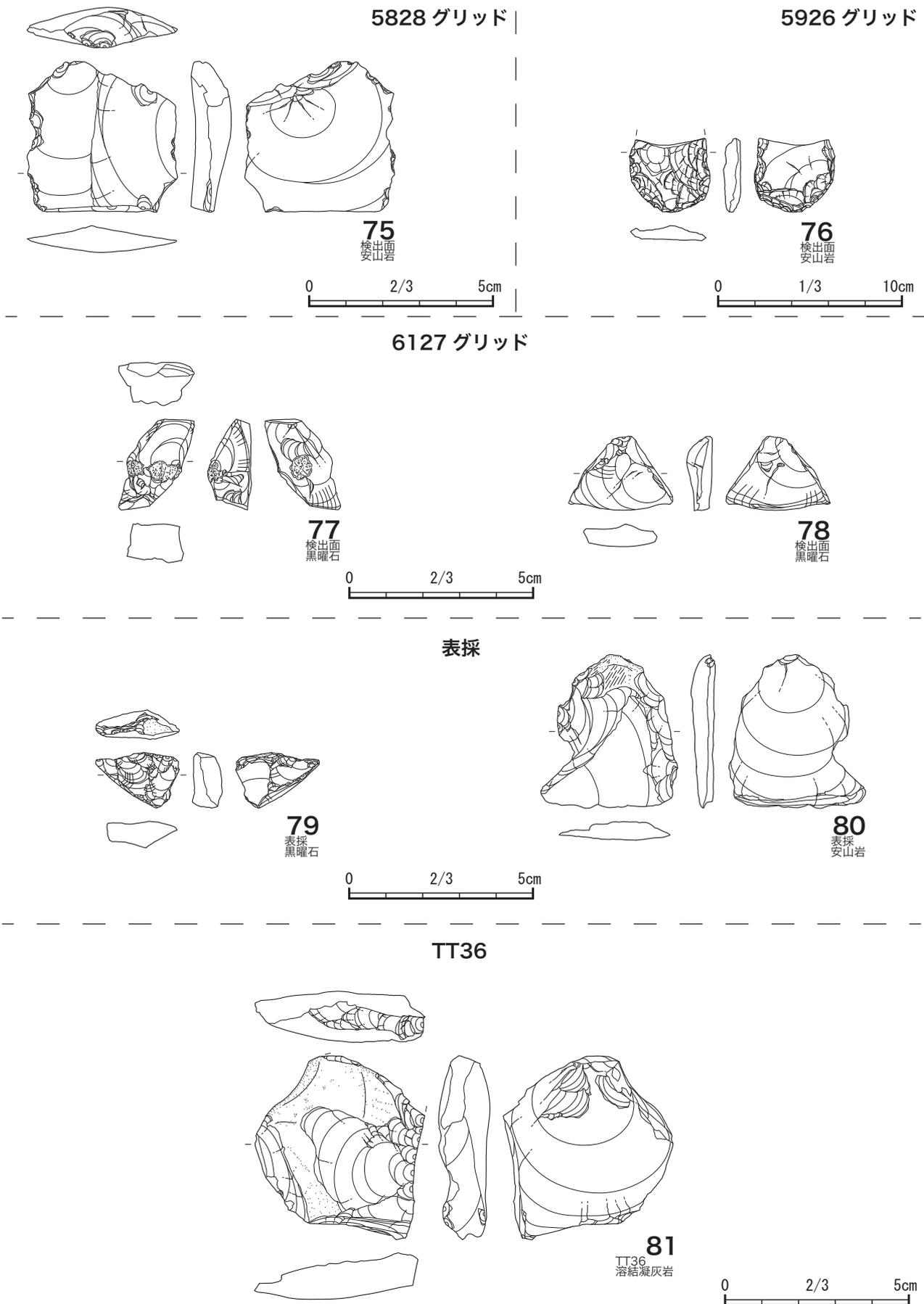


図 2-24 16 調査区 5726 グリッド・164SK・270SK 出土の石器 (S=1:3/2:3)



38 図 2-25 16 調査区 5828・5926・6127 グリッド・表面採取・テストトレンチ出土の石器 (S=1:3/2:3)
大栗遺跡

礫器状石核 (38)

礫器状石核は、5725 グリッドから 1 点 (38) 出土している。両面とも原礫面を大きく残す。両面とも求心的な剥離で構成されるが、刃部に相当する部分ではあまり連続的な加工が施されておらず、刃部の形成が認められないため、礫器状石核とした。石材は、風化の進んだ安山岩 B 類である。

磨石・敲打類 (53・58・65・71・72)

磨石・敲打類は 6 点出土している。磨面や敲打痕が 1 つの石器から複合的に確認されることが多いため、磨石・敲打類として報告する。090SI からは 1 点 (58)、284SK から 1 点 (65)、5626 グリッドから 1 点 (53)、5726 グリッドから 2 点 (71・72) が出土している。礫の形状から、丸みのある円礫 (58・65・71) と扁平な円礫 (53・72) に分類できる。丸みのある円礫では、端部と側面に敲打痕や磨面が認められる。これには、敲打痕と磨面があるもの (58・65) と敲打のみのも (71) がある。扁平な円礫では、中央と側面に敲打痕と磨面がある (53・72)。53 の裏面では、溝状の窪みが隣接して 2 条認められる。石材は、53 が砂質凝灰岩、58・65・71・72 が片麻岩である。

台石 (48・63)

台石は 042SK から 1 点 (48)、230SL から 1 点 (63)、TT13 から 1 点出土している。48 では、顕著な使用痕は認められないが、表面に軽微な敲打痕? が認められる。また、被熱して一部変色し脆くなっている。63 は、両面に顕著な磨面をもつ。表面は被熱により一部に変色が認められる。石材は、48・63 共に花崗岩である (以上、田中)

6. 縄文時代以降の遺構

15 調査区 001SK

15 調査区南部の西向き緩斜面、5926 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 0.792m、短

軸 0.724m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.309m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調として、明黄褐色シルトの小ブロックを多く含む。遺構底面には小土坑が検出されたが、植栽痕の可能性が高いと思われる。

出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しい。黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 002SK

001SK の西側、5826 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 2.882m、短軸 1.982m の不整な楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.757m である。

遺構埋土は 10YR2/1 黒色シルト層を基調とする。

土坑内には人頭大の礫が密集して検出されていることから、縄文時代の集石土坑の可能性もある。しかし、遺構は礫層付近に掘削されていることから、礫は埋没する過程で混入した可能性もある。

出土遺物として、黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器 (図 2-35-61) が包含されることから、古代 (9 世紀後半頃) に帰属する可能性もある。

15 調査区 003SK

002SK の南西、5925 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 1.844m、短軸 1.668m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.6695m である。

遺構埋土は上層が 10YR2/1 黒色シルト層、下層が 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調とする。

出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しい。黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 012SK

003SK の北約 10m、5825 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 1.074m、短軸 0.812m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.477m である。

遺構埋土は 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、下位には黄褐色シルトの小ブロックを含む。

土坑内には人頭大の礫が密集して検出されていることから、縄文時代の集石土坑の可能性もある。しかし、遺構は礫層付近に掘削されていることから、礫は埋没する過程で混入した可能性もある。出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しい。黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 013SK

012SK の西側、5824 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 0.979m、短軸 0.639m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.558m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒色シルト層を基調として、暗褐色シルトブロックを多く含む。

出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しい。黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 017SK

15 調査区中央部の南西向きの緩斜面、5624 グリッドにおいて検出した。018SK と重複し、切り合い関係は 018SK → 017SK である。平面形は（残存）長軸 0.739m、（残存）短軸 0.581m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.176m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調として、明黄褐色シルトの大ブロックを多く含む。出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しい。黒色から黒褐色を基調とする遺構埋

土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 018SK

017SK と重複しており、掘削の前後関係は 018SK → 017SK である。平面形は長軸 1.033m、短軸 0.95m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.389m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調として、下層は黒色シルトブロック、暗褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックをわずかに含む。

出土遺物として、黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 019SK

018SK 北東側の南西向きの緩斜面、5624 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 1.057m、短軸 0.475m のやや不整な長楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.357m である。

遺構埋土は上層が 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、炭化物を含む。下層は 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調として、黄褐色シルトの小ブロックを多く含む、炭化物をわずかに含む。

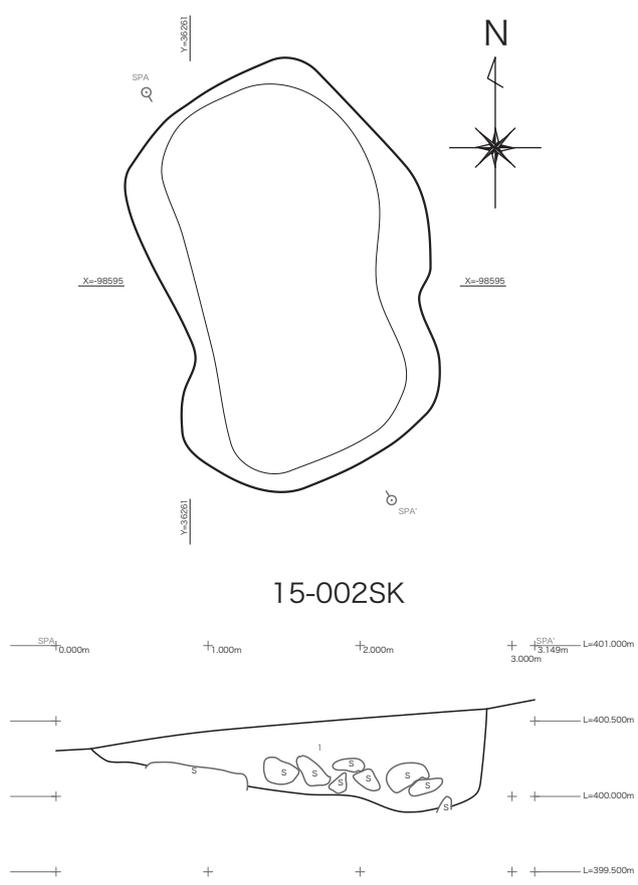
出土遺物として、黒色から黒褐色を基調とする遺構埋土や遺跡内の堆積層には灰釉陶器が包含されることから、古代に帰属する可能性もある。

15 調査区 020SK

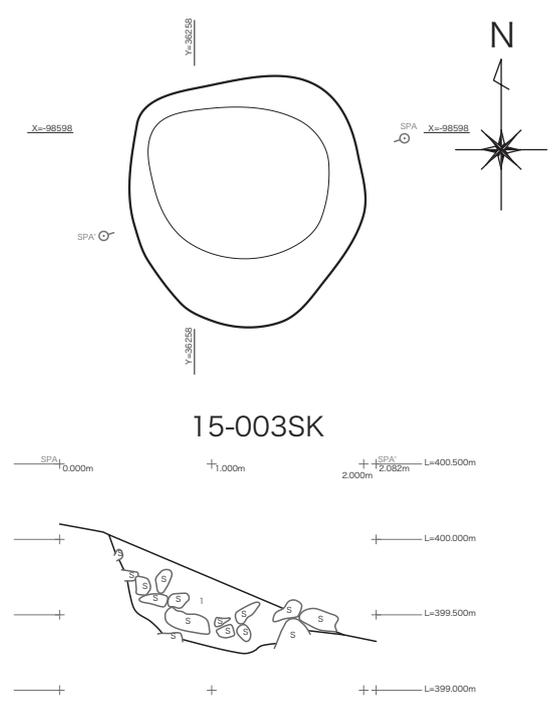
017SK 北西側の南西向きの緩斜面、5623 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 1.512m、短軸 0.82m のやや不整な長楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.3765m である。

遺構埋土は上層が 10YR3/3 暗褐色シルト層を基調として、黄褐色シルトの大ブロックを多く含む。

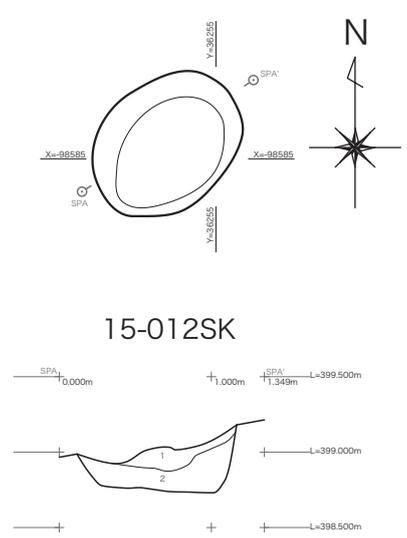
15 調査区 060SK



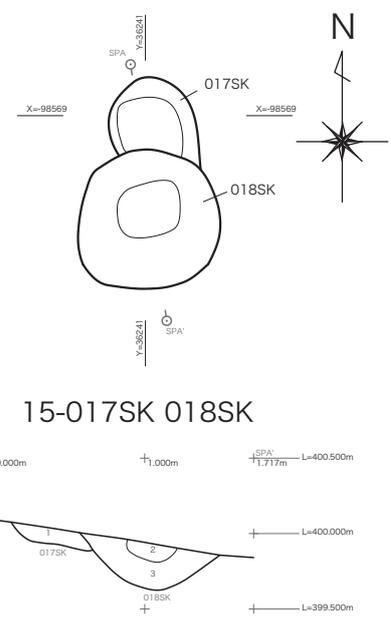
1 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層 明黄褐色シルトの小ブロックを少量含む、大礫の歪角礫を含む。



1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 大礫の角礫を含み、中礫の歪円礫を含む。

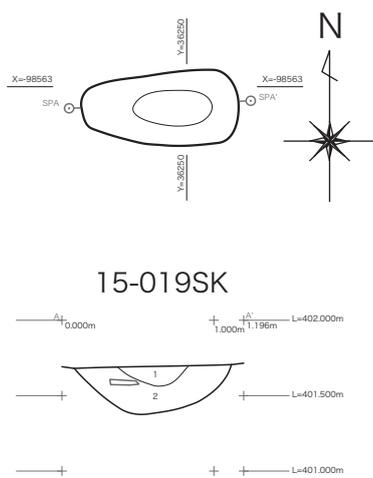


1 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層
2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。

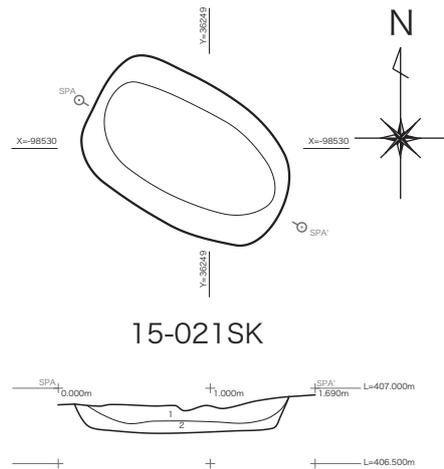


1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 明黄褐色シルトの大ブロックを多量に含む。(017SK)
2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。(018SK)
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを含み、褐色シルトの小ブロックを少量含む。(018SK)

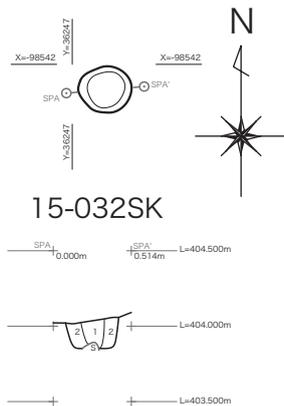
図 2-26 15 調査区 002SK・003SK・012SK・018SK (S=1:50)



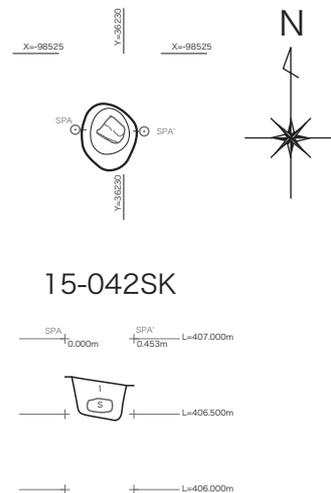
- 1 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層 炭化物を少量含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。



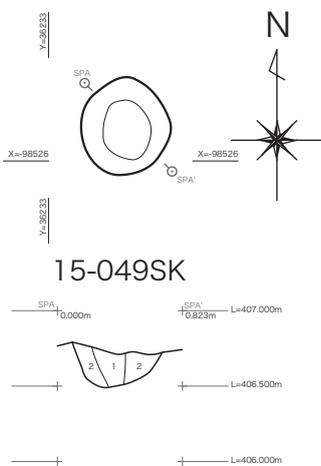
- 1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 明黄褐色中粒砂の小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
 2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色細粒砂の大ブロックを多量に含む。



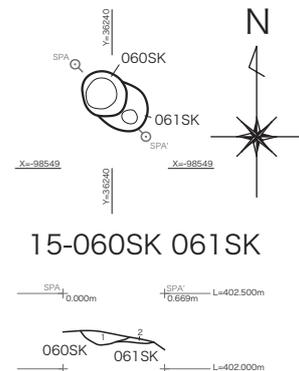
- 1 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトブロックを多量に含む。



- 1 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。炭化物を少量含む。



- 1 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 中礫の角礫を含む。
 2 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトブロックを含む。



- 1 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。(060SK)
 2 7.5YR4/3 褐色 シルト少量含む粘土層 炭化物を極少量含む。(061SK)

図 2-27 15 調査区 019SK・021SK・032SK・042SK・049SK・060SK・061SK (S=1:50)

15 調査区北寄り中央の南向きの緩斜面、5423 グリッドにおいて検出した。061SK と重複し、切り合い関係は 061SK → 060SK である。平面形は長軸 0.377m、短軸 0.353m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.1155m でごく浅い。

遺構埋土は 10YR3/4 暗褐色シルト層を基調とする。

出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断することは難しいが、遺構の埋土、周囲の状況から近世から近代に帰属する可能性が高い。

15 調査区 061SK

北東の南向き斜面、5424 グリッドにおいて検出した。060SK と重複し、切り合い関係は 061SK → 060SK である。平面形は長軸 0.398m、短軸 0.325m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.106m でごく浅い。

遺構埋土は 10YR4/3 褐色粘土層を基調とする。

出土遺物はなく、遺構の時期、性格を判断する

ことは難しいが、遺構の埋土、周囲の状況から近世から近代に帰属する可能性が高い。

15 調査区 021SK

15 調査区北東隅の南西向きの緩斜面、5324・5424 グリッドにおいて検出した。平面形は長軸 1.457m、短軸 1.019m の長楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.4335m である。

遺構埋土は上層が 10YR3/2 黒褐色シルト層を基調とする。

15 調査区 032SK

061SK と重複して検出した。なお、周辺には小土坑が多く検出されている。平面形は長軸 0.392m、短軸 0.293m の楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.248m である。

遺構埋土は中央が 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、その周囲は 10YR3/1 黒褐色シルトを基調として、黄褐色シルトブロックを多く含む。

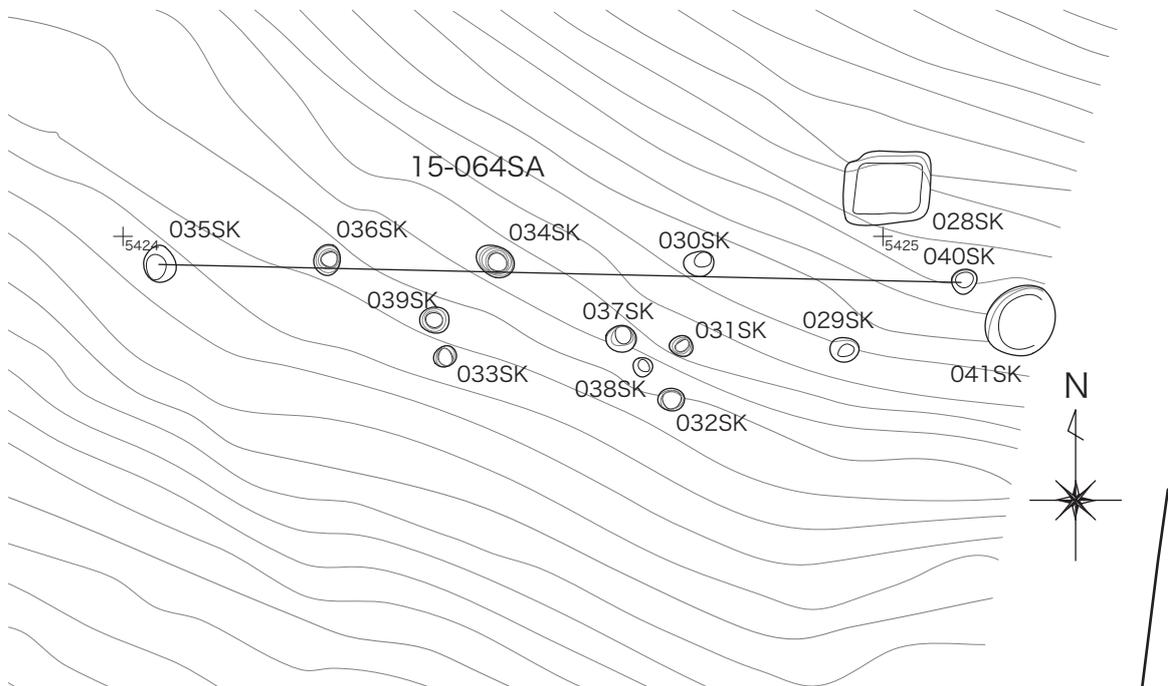


図 2-28 15 調査区 柵列 064SA (S=1:100)

遺構埋土の状況から、中央が柱痕で、周囲が柱掘方と判断される。

出土遺物はないが、遺構は周辺の小土坑と同様、近世から近代に帰属する柱穴と推定される。

15 調査区 064SA

15 調査区北東寄りの南向き斜面、5424 グリッドにおいて検出した。小土坑状の遺構がほぼ東西方向に 2.2m の間隔で列状に配されることから、これらは柱列を構成するものと判断した。

遺構出土遺物はないが、遺構の配置状況、掘方の形状、埋土の状況等から近世から近代に帰属する遺構と推定される。

035SK は長軸 0.487m、短軸 0.443m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.1865m である。

遺構埋土は 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、黄褐色シルト、黒褐色シルトのブロックを含む。

036SK は長軸 0.409m、短軸 0.369m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.267m である。

遺構埋土は 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、黄褐色シルトの小ブロックを含む。

034SK は長軸 0.533m、短軸 0.404m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.4035m である。

遺構埋土は 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、黄褐色シルトの小ブロックを含む。

030SK は長軸 0.404m、短軸 0.333m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.8225m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒色シルト層を基調として、黄褐色シルトの大ブロックを含む。

15 調査区北西部の遺構群

15 調査区北西隅の南向き斜面、5222 グリッドから 5223 グリッドにかけては、近世から近代の造成面が検出された。

15 調査区 042SK

5222 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 0.437m、短軸 0.366m の楕円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.3185m である。

遺構埋土は中央が 10YR2/1 黒色シルト層を基調として、黄褐色シルトの小ブロックを含む。

遺構内のほぼ中央、遺構底面からやや浮いた位置に扁平な礫が残されていた。礫は出土状況から根石と推定される。

遺構は周辺の状況と遺構内に根石が検出されているから、近世から近代に帰属する柱穴であった可能性が高い。

15 調査区 043SK

5222 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 0.807m、短軸 0.518m の倒卵形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.33m である。

遺構埋土は中央が 10YR3/3 暗褐色シルト層を基調として、黄褐色シルトブロックを含む。

出土遺物としては大窯 2 段階の天目茶碗（図 2-34-40）がある。遺構は出土遺物から、戦国時代に帰属すると判断される。

15 調査区 046SK

5222 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 1.298m、短軸 1.255m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.34m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調とする。

検出面付近には近代の陶磁器類が集積されていた。遺構は近世の整地層の上面から掘削されていること、近代の陶磁器類が出土していることから、近代に帰属すると推定される。

15 調査区 049SP

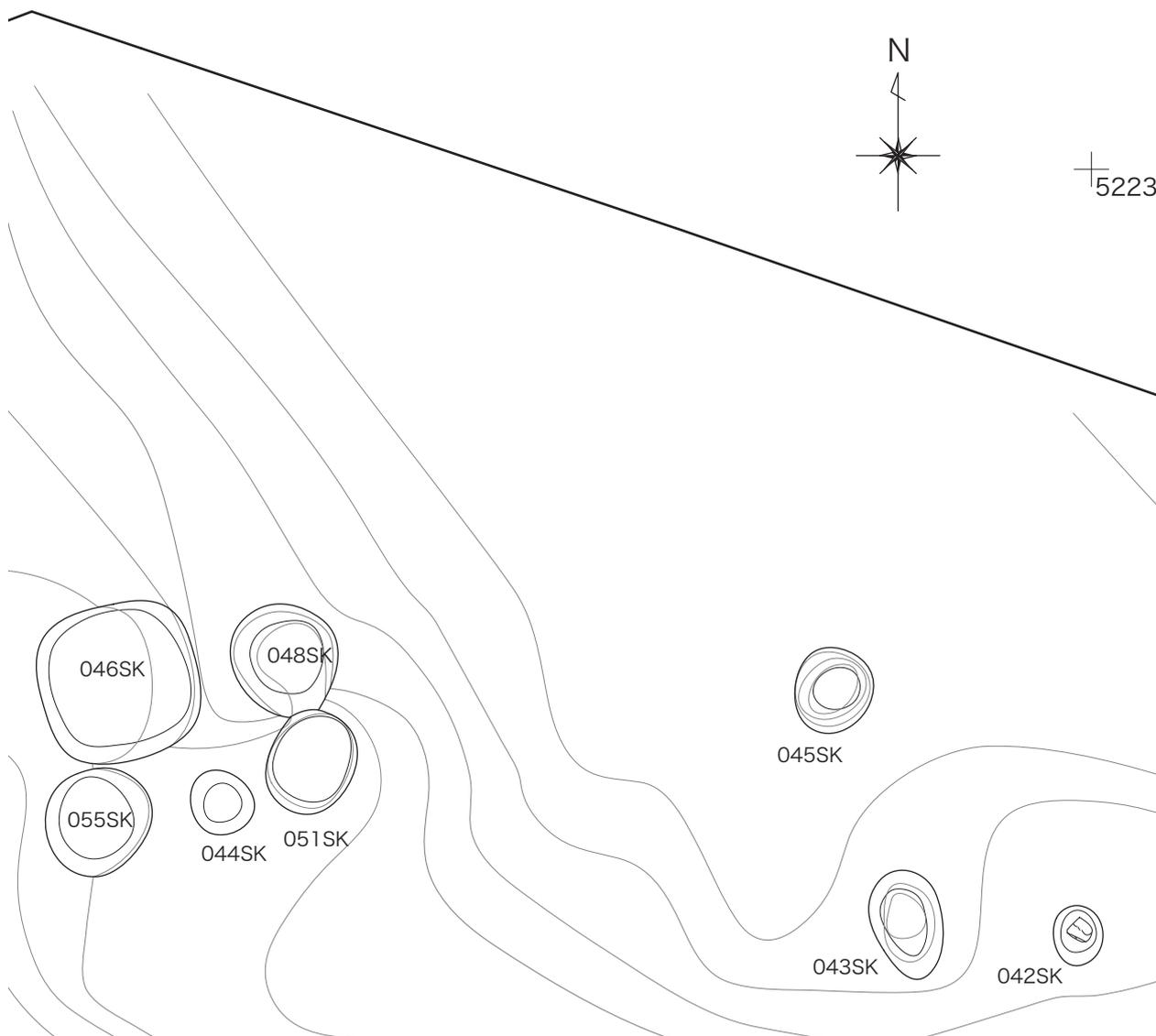


図 2-29 15 調査区 042SK・043SK・044SK・045SK・046SK・048SK・051SK・055SK (S=1:50)

5223 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 0.651m、短軸 0.592m のやや不整な円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.3365m である。

遺構埋土は中央が 10YR3/1 黒褐色シルト層を基調として、その周囲は 10YR5/6 黄褐色シルト層を基調として、黒褐色シルトブロックを含む。遺構埋土の状況から、中央が柱痕で、周囲が柱掘方と判断される。出土遺物はないが、遺構は周辺

の状況から近世から近代に帰属する柱穴と推定される。

15 調査区 051SK

5222 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 0.761m、短軸 0.643m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.1845m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色細粒砂層を基調と

する。

土坑底面には埋設された桶が遺存していた。遺構は近世の整地層の上面から掘削されていることから、近世から近代に帰属すると推定される。

15 調査区 055SK

5222 グリッドにおいて検出した。付近は近世から近代の造成面である。平面形は長軸 0.799m、短軸 0.761m の円形を呈する。遺構検出面からの深さは 0.285m である。

遺構埋土は 10YR3/1 黒褐色細粒砂層を基調とする。

土坑底面には埋設された桶が遺存していた。遺

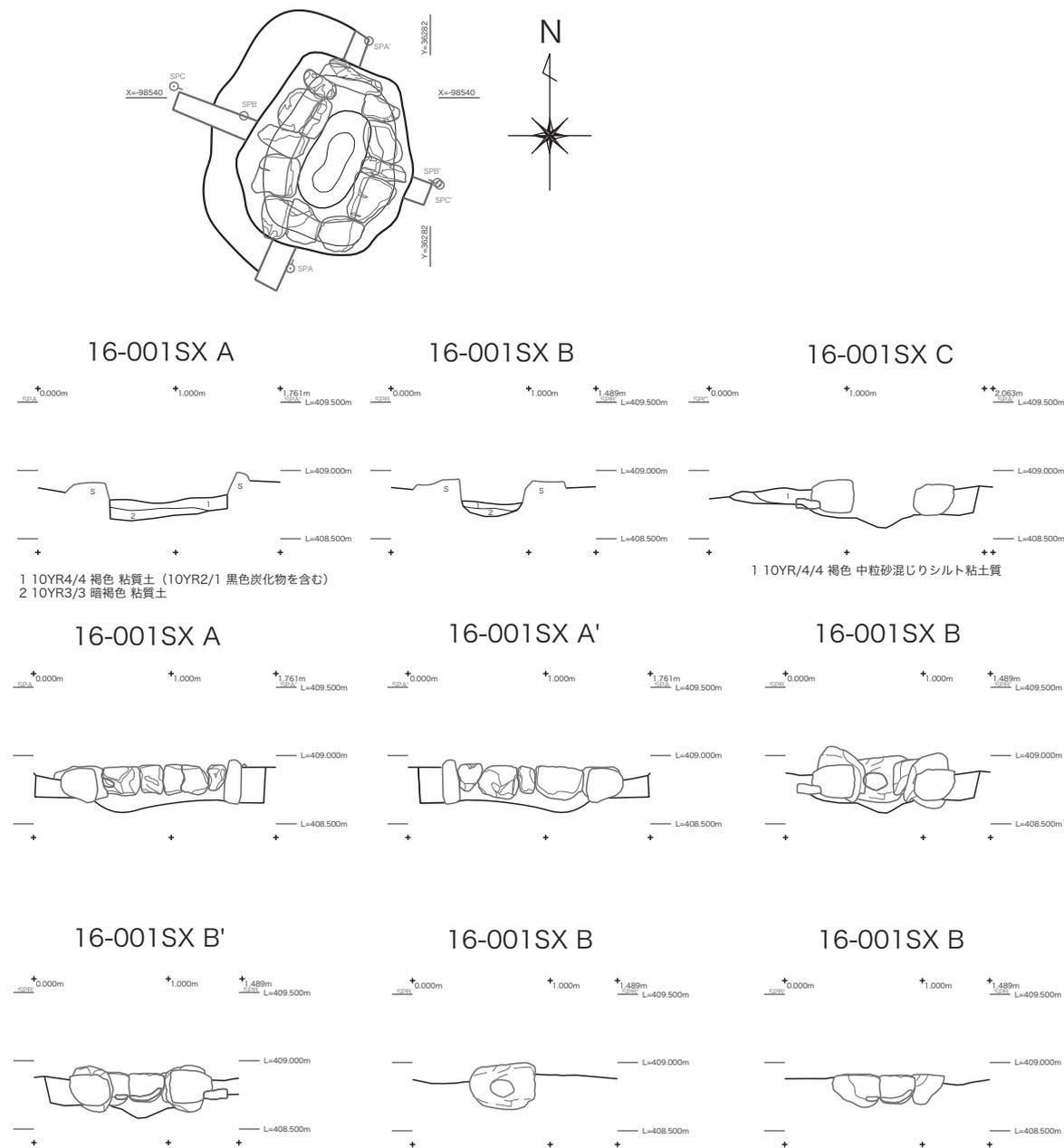


図 2-30 16 調査区 石組 001SX (S=1:50)

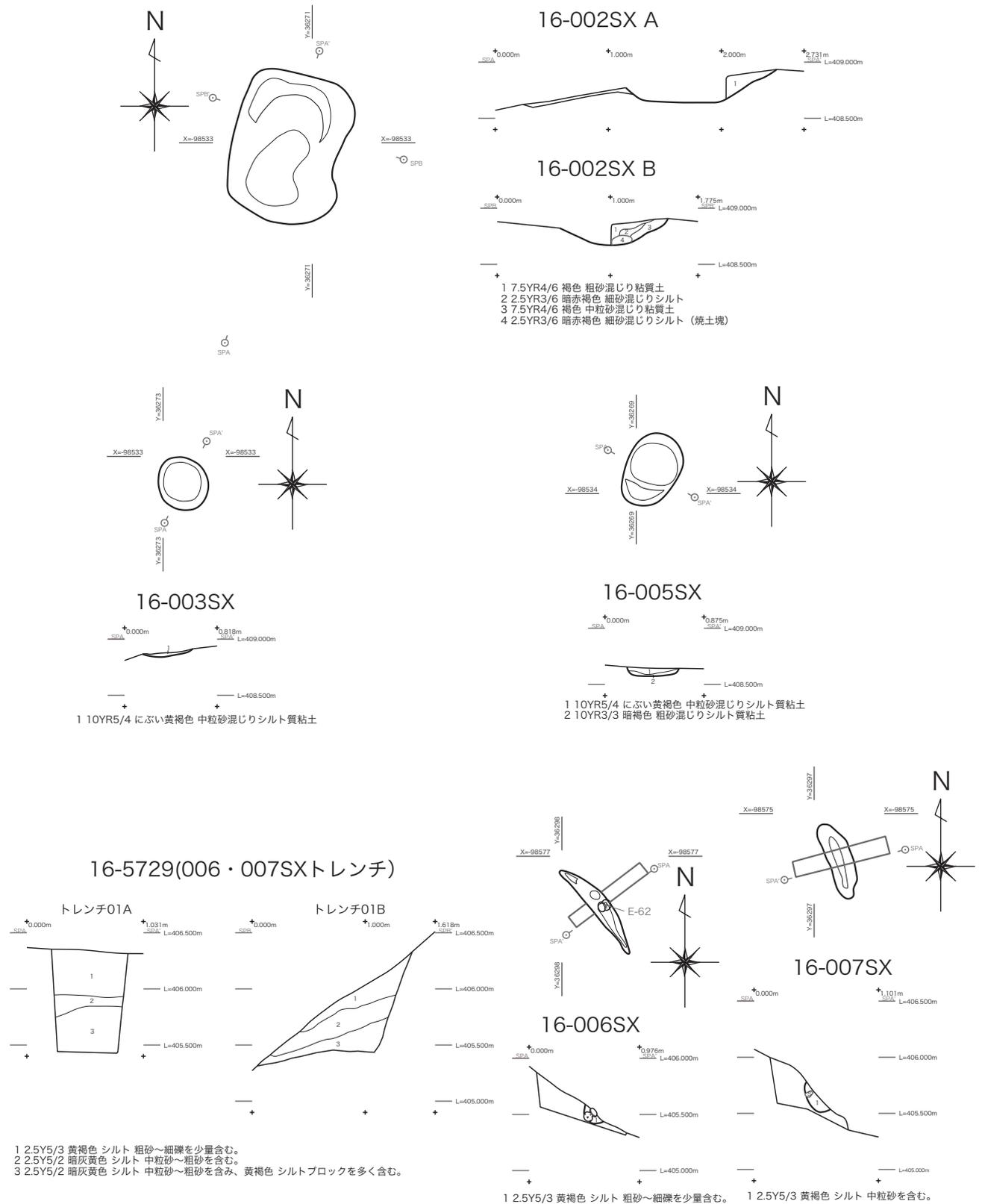


図 2-31 16 調査区 002SX・003SX・005SX・006SX・007SX (S=1:50)

構は近世の整地層の上面から掘削されていることから、近世から近代に帰属すると推定される。

16 調査区 001SX

16 調査区北端の 5328 グリッドにある、近世以降の平坦面の東端付近に築造された石組み遺構。石組みは一段で、南北方向が長軸となる。長軸方向は東西辺とも 4 石で、うち南側から 2 つめの石は小口面を立てて用いる。

短軸方向は北辺が 1 石で南辺が 3 石。それぞれ長軸方向の石を塞ぐように据えている。石組みの内法は、長軸方向が 1.0m で短軸方向が 0.4m、深さ 0.3m を測る。床面および石組みの内法側には被熱した痕跡が明瞭に認められる。

一見すると古墳時代後期～終末期の小石室のようだが、石組み内および掘り方から染付片が出土していることから、所属時期は近世以降とみられる。現状では性格不明だが、火葬施設である可能性が高い。

16 調査区 002SX

001SX 北西側の 5327 グリッドに位置する浅い方形の土坑。長辺 1.33m、短辺 0.97m、深さ 0.22cm を測る。埋土は 3 層からなり、最下層に焼土塊を含む。001SX 同様、火葬施設の可能性がある。

16 調査区 003SX

002SX すぐ西の 5327 グリッドにある浅い皿状の断面を呈する土坑。平面形は直径 0.5m のほぼ正円で、深さは 5cm を測る。

16 調査区 005SX

002SX の南側、5326 グリッドに位置する土坑で、長軸 0.7m、短軸 0.45m、深さ 0.1m を測る。

16 調査区 006SX

16 調査区東側の急斜面 5729 グリッドに形成された浅い凹みから仏餉具とみられる鉄釉の壺が

出土している。斜面上方からの流れ込みである可能性が高い。

16 調査区 007SX

006SX の北側約 2m の 5729 グリッドにある長軸 0.7m、短軸 0.2m、深さ 0.2m を測る平面が三日月状を呈する土坑。

006SX と同様、急斜面に掘削されている。

16 調査区 070SA

16A 区北側の平坦面崖下 5425・5426 グリッドに、北西から南東方向に築かれた柱穴列。柱掘方は 6 基を数え、全長は 11m。柱掘方の平面形は直径 0.6～0.8m の円形で、深さは検出面から 1.05m を測る。底部に柱痕跡をもつものが多く、それらによると柱の直径は 20cm 程度。柱間寸法は 1.8～2.8m 程度と不揃いである。

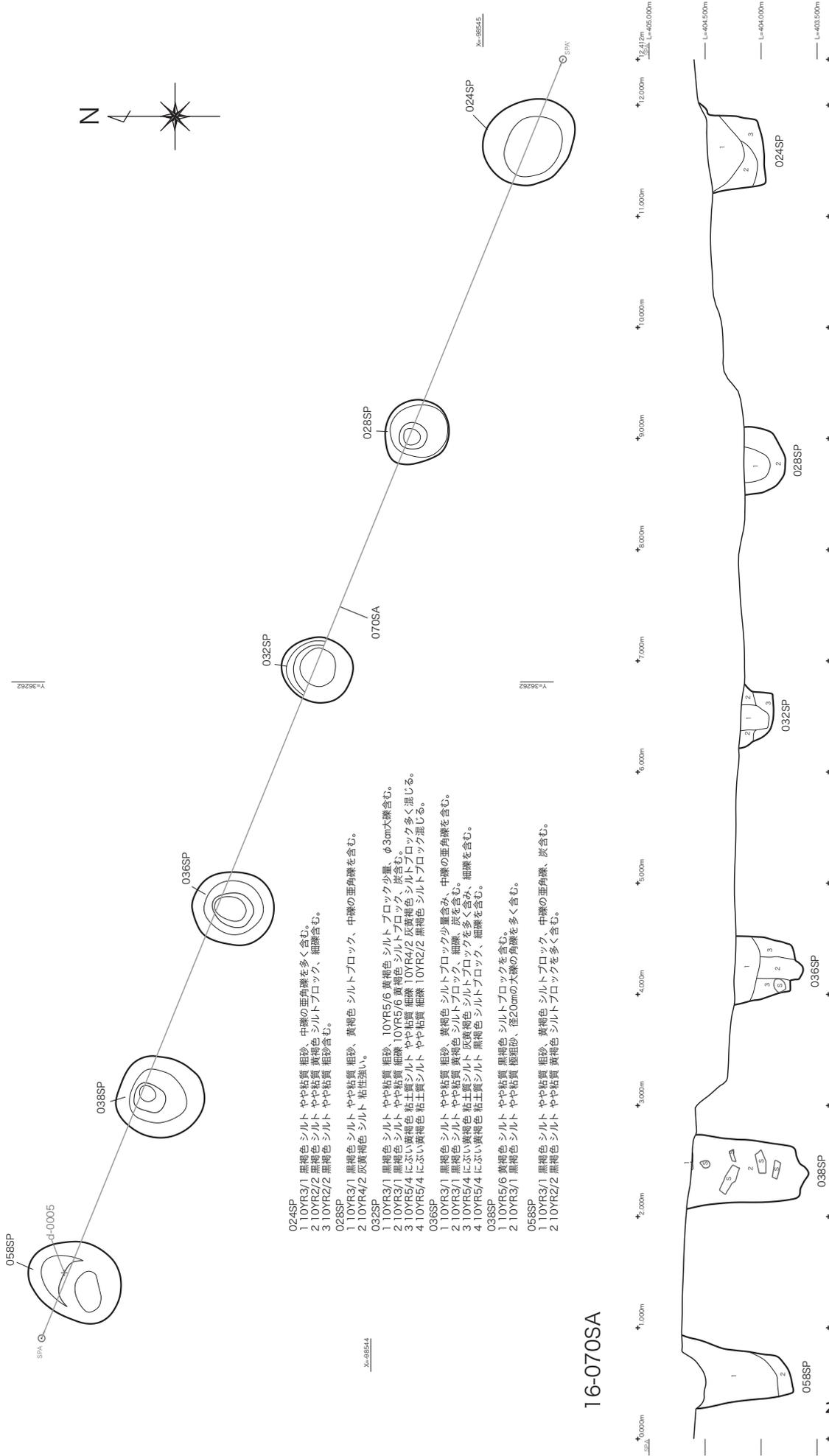
16 調査区西壁土層断面図(図 1-4)にはこの 070SA 最西端の 120SP がかかっている。土層断面図を録った位置が 120SP の中軸でないため、本来の掘り込み面は不明だが、水田耕作土より上の堆積層から掘削されていることは間違いなく、おそらくは表土(近代の石垣に伴う盛土)直下であると想定できる。

この 070SA と後述する 071SA、そして 15 調査区の 064SA は、これらの掘り込み面における等高線に沿っており、064SA の西端が調査開始前にあった石垣の位置にほぼ合致している。

以上のことから、石垣構築に伴う遺構(石垣最下部の土留めなど)ではないが、その前段階に石垣と同じような意図をもって構築されたものと想定できる。

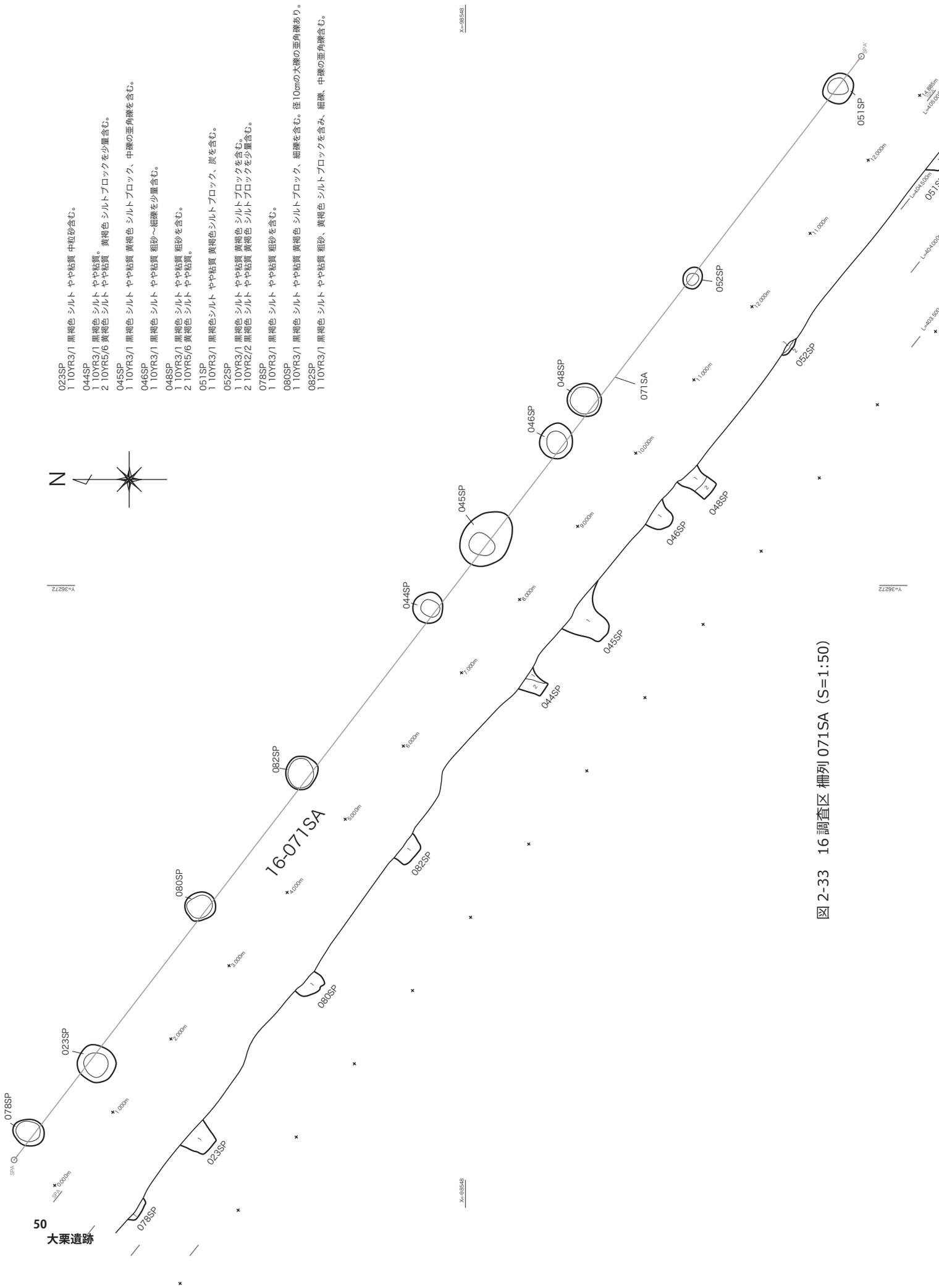
16 調査区 071SA

070SA の東から 2 番目の柱掘方(028SP)の北側 5426・5427・5527 グリッドに、南東方向に伸びる柱穴列。10 基の柱掘方からなり、全長で 14.2m。柱掘方は 20～60cm の円形で、柱痕跡は認められない。深さは最も遺存状態の良い



- 024SP**
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、中礫の亜角礫を多く含む。
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、細礫含む。
 3 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂含む。
- 028SP**
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性強い。
- 032SP**
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、10YR5/6 黄褐色 シルトブロック少量、φ3mm大礫含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 細礫 10YR5/6 黄褐色 シルトブロック、灰含む。
 3 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質シルト やや粘質 細礫 10YR4/2 灰黄褐色 シルトブロック多く混じる。
 4 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質シルト やや粘質 細礫 10YR2/2 黒褐色 シルトブロック混じる。
- 036SP**
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック少量含む、中礫の亜角礫を含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、細礫、灰を含む。
 3 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質シルト 灰黄褐色 シルトブロックを多く含む、細礫を含む。
 4 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質シルト 黒褐色 シルトブロック、細礫を含む。
- 038SP**
 1 10YR5/6 黄褐色 シルト やや粘質 黒褐色 シルトブロックを含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、径20mmの大礫の角礫を多く含む。
- 058SP**
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック、中礫の亜角礫、灰を含む。
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。

図 2-32 16 調査区 柵列 070SA (S=1:50)



- 023SP 1 10YR3/7 黒褐色 シルト やや粘質 中粒砂を含む。
- 044SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質。
- 2 10YR5/6 黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。
- 045SP 1 10YR3/7 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、中濺の垂角礫を含む。
- 046SP 1 10YR3/7 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂～細礫を少量含む。
- 048SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。
- 2 10YR5/6 黄褐色 シルト やや粘質。
- 051SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、炭を含む。
- 052SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。
- 078SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。
- 080SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、細礫を含む。径10cmの大濺の垂角礫あり。
- 082SP 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含み、細礫、中濺の垂角礫を含む。

図 2-33 16 調査区 柵列 071SA (S=1:1.50)

もので、検出面から45cmを測る。柱間寸法は1～2.6mと不揃いである。

前述の070SAよりも簡便なつくりであるが、同様の機能を備えていたと考えられる。070SAとの時期の前後関係は不明だが、15調査区の064SAとともに一連の機能を有する同時期の遺構である可能性が高い。(以上、樋上)

7. 弥生時代～近代の土器・陶磁器

縄文時代の遺物を除けば、大栗遺跡から出土している遺物のほとんどは近代に属する。おそらくは植林以前の宅地で使用されていたものと想定できる。

15 調査区 043SK

40は鉄釉を施した天目茶碗で、瀬戸の大窯第2段階(16世紀中葉頃)に属する。

15 調査区 045SK

41・42は磁器の猪口で、41は外面にヤシの木?が描かれ、高台内に『大明』の文字がある。42は青磁。43は染付の酒杯で、見込み部に扇を持った人物が描かれる。44は染付碗蓋。45は磁器の端反碗で、赤絵が施される。46は染付端反碗。47は磁器の丸碗で赤絵を施す。48・49・50は染付丸碗。51・52は染付平碗。53は磁器の平碗。54は染付皿。55は朱泥の急須。56は鉄釉陶器の甕。

15 調査区 検出 I

39は灰釉陶器の皿で、時期は18世紀後半頃か。

15 調査区 表土掘削

60は弥生土器の壺底部。61は古代の灰釉陶器碗で、黒笹90号窯式期(9世紀後半頃)に属する。

15 調査区 表面採取

38は方形の香炉の底部。57は白磁の酒杯。58・59は染付丸碗。

16 調査区 006SX

62は鉄釉陶器の花瓶で、仏具として用いられた可能性がある。

16 調査区 015SK

63は陶器の鉢で、見込み部に「寿」の一字を描く。

16 調査区 表土掘削

64は陶胎染付の箱形湯呑で、時期は19世紀中葉頃。65は瓶の蓋か。

試掘トレンチ

66は弥生土器の壺底部。67は鉄釉陶器のすり鉢で、時期は幕末頃か。(以上、樋上)

8. 中世以降の石器

82～86は中世以降とみられる砥石である。岩質は82が凝灰岩、83～86は泥質凝灰岩。

出土地点は、82が15調査区の検出Iで5625グリッド。83・84が15調査区の表土掘削で5422グリッド、85が15調査区の045SKで5222グリッド、86が16調査区の038SKで5425グリッドである。(以上、樋上)

9. 近代の木製品

W001・002は漆椀。W003は井戸の底板とみられる。W003は15調査区051SKからの出土。(以上、樋上)

15 調査区 045SK



41



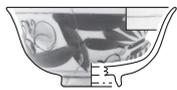
42



43



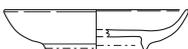
44



45

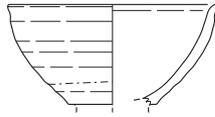


46

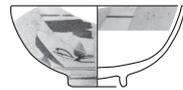


54

15 調査区 043SK



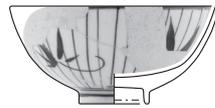
40



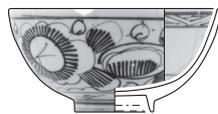
47



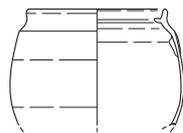
48



49

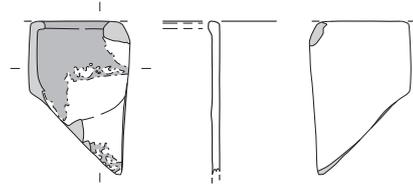


50



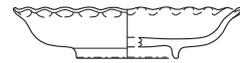
55

15 調査区 表面採取



38

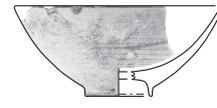
15 調査区 検出 I



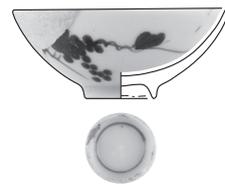
39



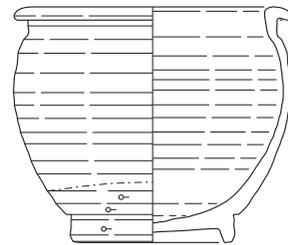
51



52



53



56



图 2-34 15 調査区 043SK · 046SK · 検出 I · 表面採取出土陶磁器 (S=1:4)

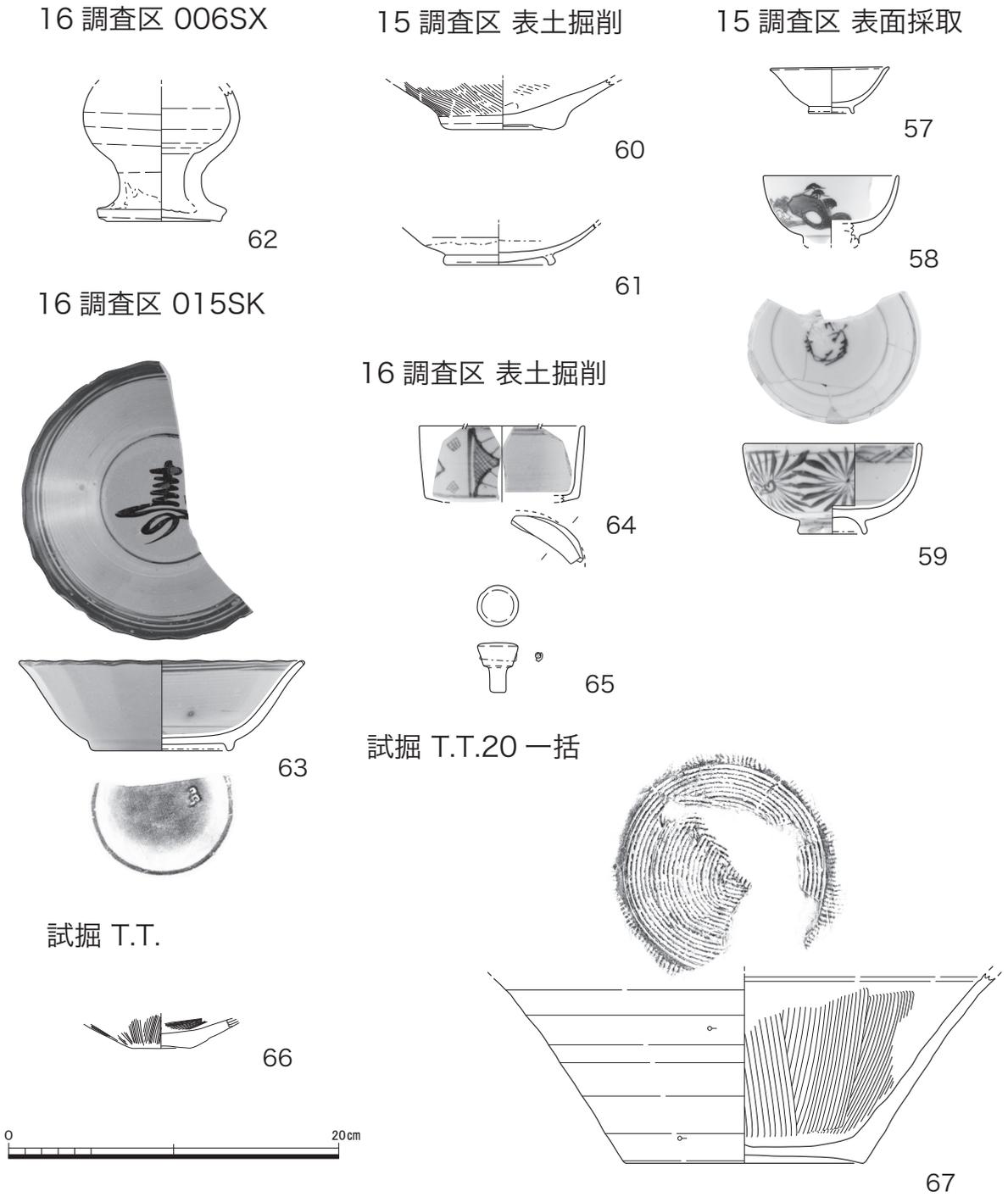


図 2-35 15 調査区 表土掘削・表面採取 / 16 調査区 006SX・015SK・表土掘削 / 試掘トレンチ出土土器・陶磁器 (S=1:4)

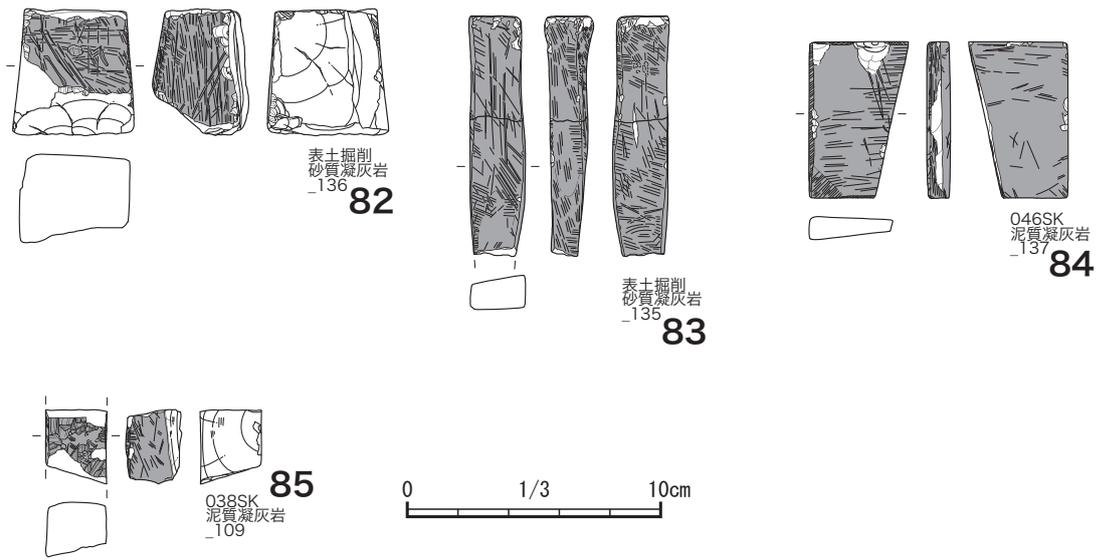


図 2-36 15 調査区 表土掘削・046SK・038SK 出土の砥石 (S=1:3)

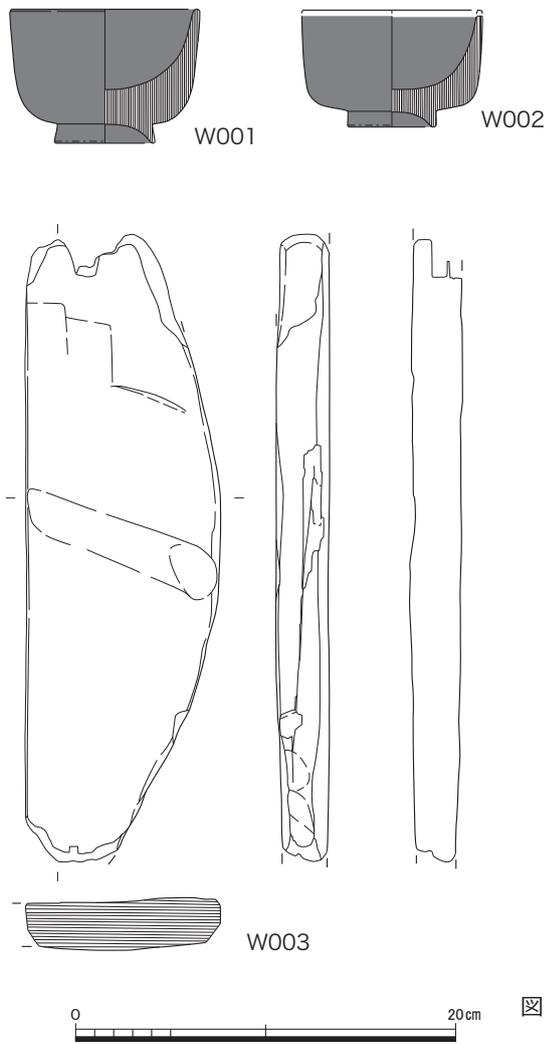
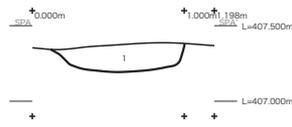
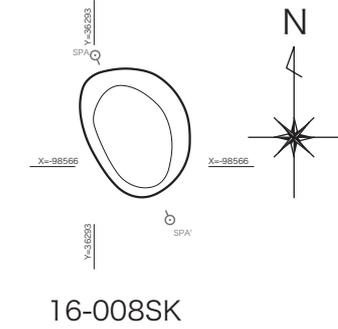
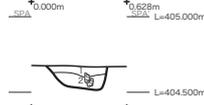
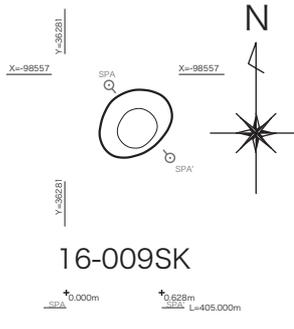


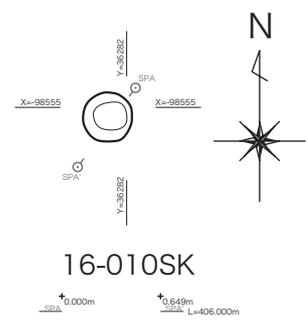
図 2-37 15 調査区 表面採取・051SK 出土木製品 (S=1:4)



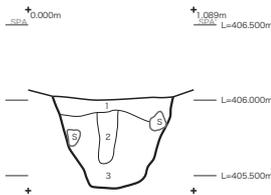
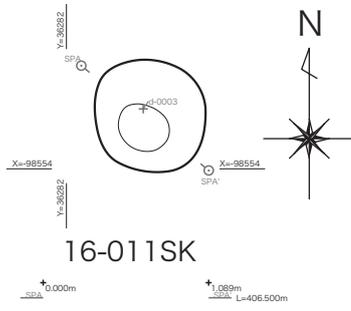
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、中礫の亜角礫、焼土含む。



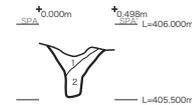
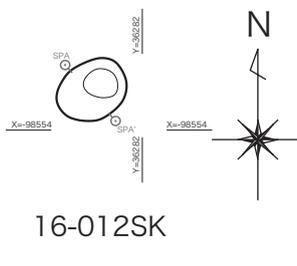
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。
2 10YR5/6 黄褐色粘土質 シルト 中礫の亜角礫を少量含む。



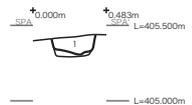
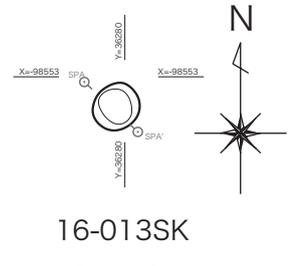
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、径10cmの大礫含む。



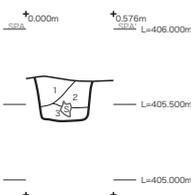
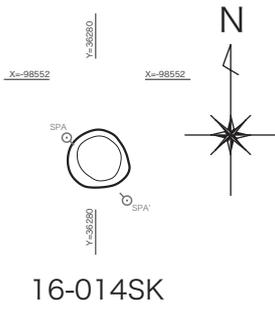
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 細礫、炭含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む、中礫の亜角礫を含む。
3 10YR3/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む、中礫の亜角礫含む



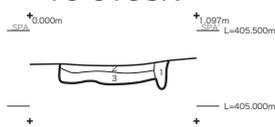
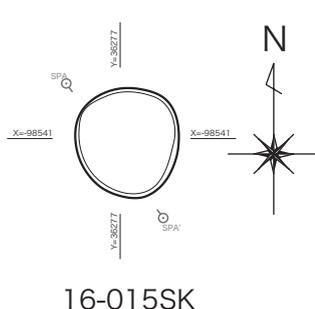
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。
2 10YR5/6 黄褐色 シルト やや粘質 径10cmの大礫の亜角礫を多く含む。



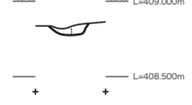
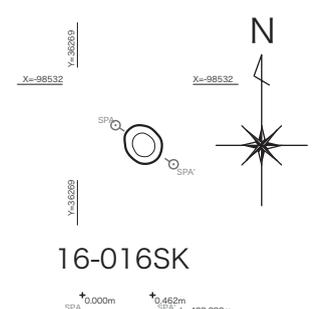
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、亜角礫の中礫を含む。



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 細礫を含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色シルト ブロックを多く含む。
3 10YR5/6 黄褐色 シルト やや粘質 粗砂多く含む。径10cm大礫の亜角礫あり。

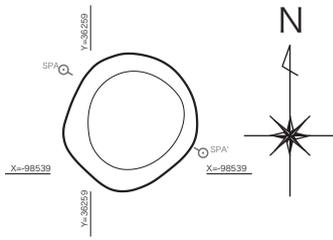


1 10YR3/1 黒褐色 シルト 黄褐色シルト ブロック、中礫の亜角礫含む。
2 7.5YR3/1 黒褐色 シルト 中粒砂含む。
3 10YR5/2 黒褐色 シルト 径10cm大礫の亜角礫多く含む。



1 10YR5/2 黒褐色 シルト 中礫の亜角礫多く含む、焼土含む。

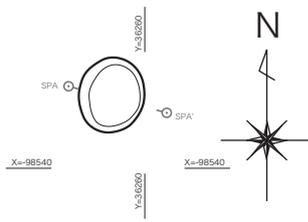
図 2-38 16 調査区 008SK・009SK・010SK・011SK・012SK・013SK・014SK・015SK・016SK (S=1:50)



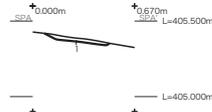
16-017SK



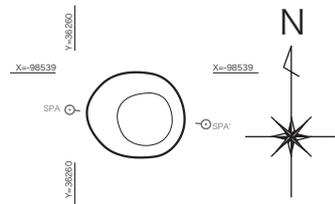
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。



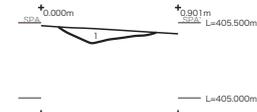
16-018SK



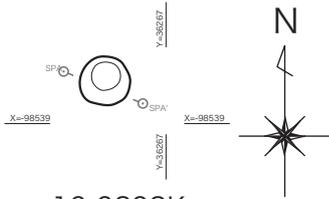
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルト ブロックを少量含む。



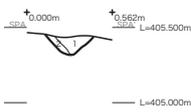
16-019SK



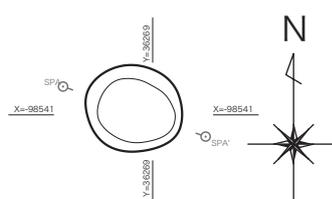
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、細礫を含む。



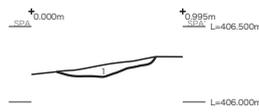
16-020SK



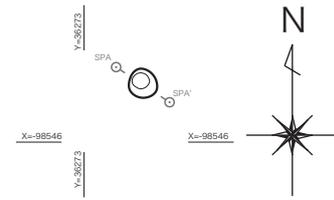
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 中礫の亜角礫を含む。



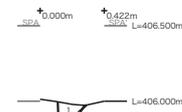
16-021SK



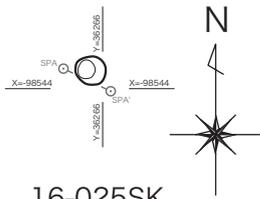
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、炭を含む。



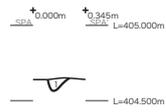
16-022SK



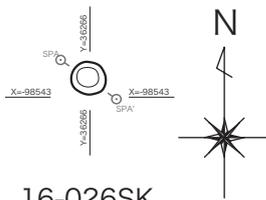
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。



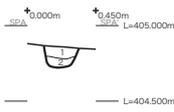
16-025SK



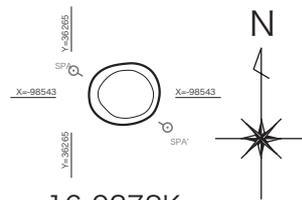
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルト ブロック、炭少量含む。



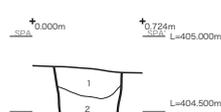
16-026SK



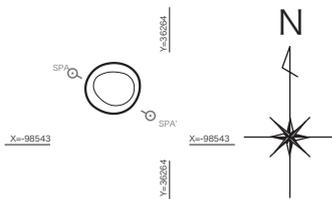
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、炭を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂含む。



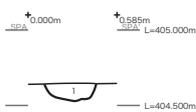
16-027SK



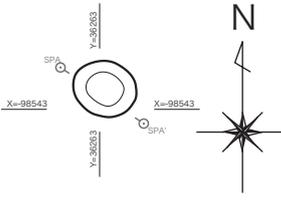
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック含み、径10cm大礫の亜角礫を多く含む。



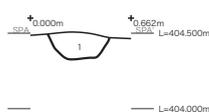
16-029SK



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルトブロック少量含む。

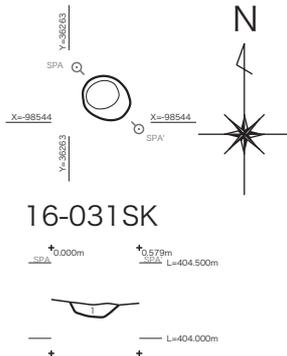


16-030SK



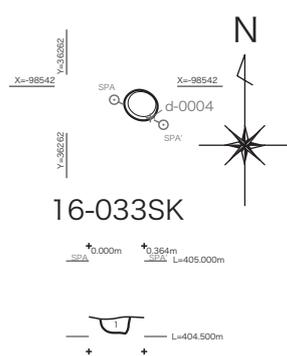
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック少量含み、細礫~中礫の亜角礫を含む。

図 2-39 16 調査区 017SK・018SK・019SK・020SK・021SK・022SK・025SK・026SK・027SK・029SK・030SK (S=1:50)



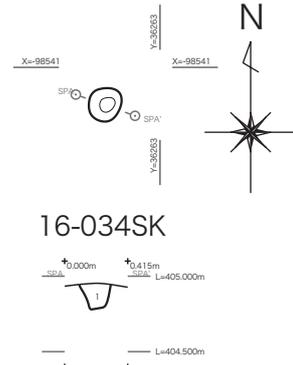
16-031SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。



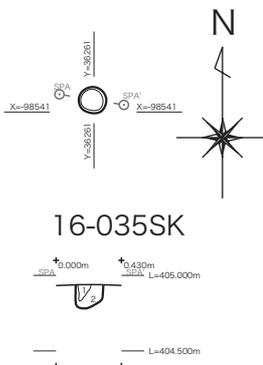
16-033SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。



16-034SK

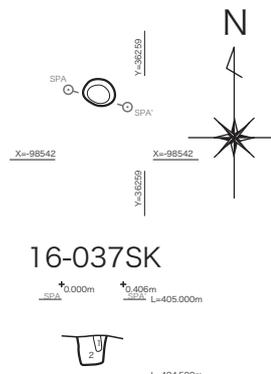
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量、細礫を含む。



16-035SK

1 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性強い 黒褐色 シルトブロックを少量含む。

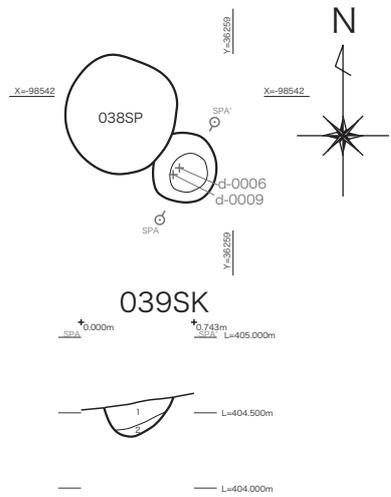
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



16-037SK

1 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性強い 黒褐色 シルトブロック含む。

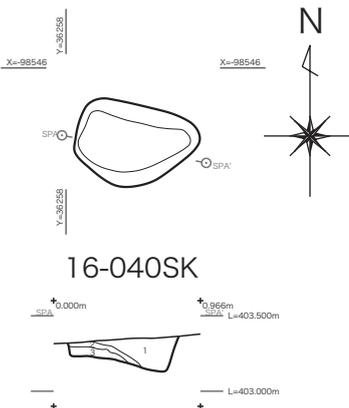
2 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性強い 下部に黄褐色 シルトブロックを多く含む。



039SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック少量含み、中礫の亜角礫、炭含む。

2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック多く含み、炭含む。

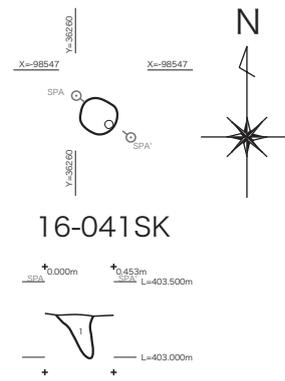


16-040SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。

2 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性強い。

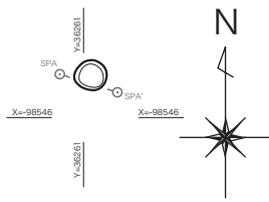
3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、下部に黒褐色 シルトブロック含む。



16-041SK

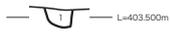
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強い 黄褐色 シルトブロック少量含む。

図 2-40 16 調査区 031SK・033SK・034SK・035SK・037SK・039SK・040SK・041SK (S=1:50)



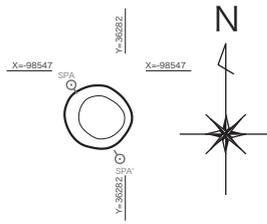
16-043SK

SPA +0.000m SPA' +0.398m L=404.000m



L=403.000m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂～細礫、黄褐色シルトブロックを含む。



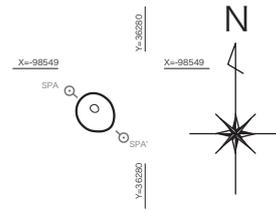
16-047SK

SPA +0.000m SPA' +0.586m L=408.500m



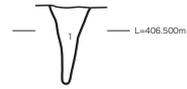
L=407.500m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を少量含む。



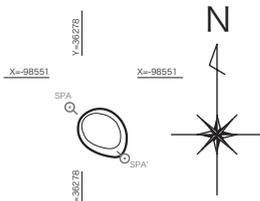
16-049SK

SPA +0.000m SPA' +0.473m L=407.000m



L=406.000m

1 10YR4/1 褐灰色シルト やや粘質 粗砂を多く含む。



16-050SK

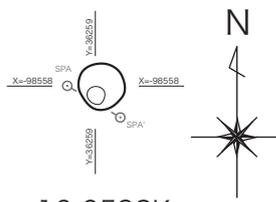
SPA +0.000m SPA' +0.497m L=405.500m



L=405.000m

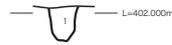
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を少量含む。径10cmの大礫の角礫あり。

2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック少量含む。



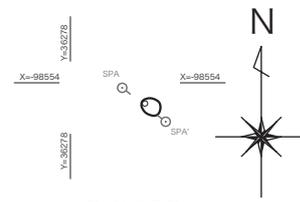
16-053SK

SPA +0.000m SPA' +0.407m L=402.500m



L=401.500m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。



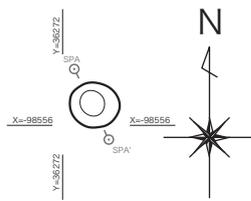
16-055SK

SPA +0.000m SPA' +0.364m L=405.000m



L=404.000m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトブロックを少量含む。



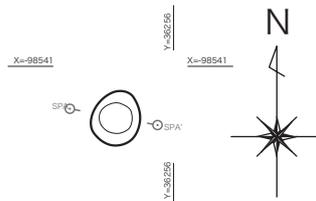
16-056SK

SPA +0.000m SPA' +0.520m L=403.500m



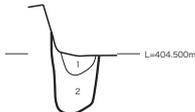
L=402.500m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトブロックを含み、中礫の垂角礫を多く含む。



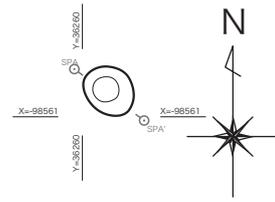
16-057SK

SPA +0.000m SPA' +0.587m L=405.000m



L=404.000m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを多く含む。



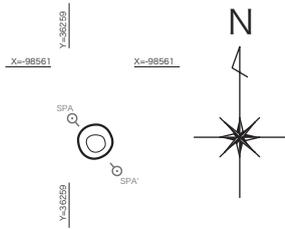
16-060SK

SPA +0.000m SPA' +0.572m L=402.000m

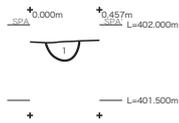
L=401.500m

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトを含む。

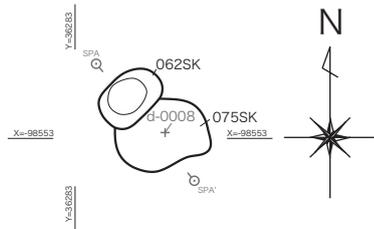
図 2-41 16 調査区 043SK・047SK・049SK・050SK・053SK・055SK・056SK・057SK・060SK (S=1:50)



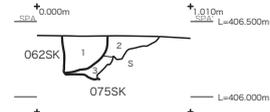
16-061SK



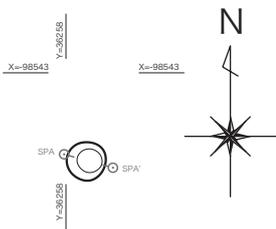
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



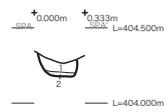
16-062SK 075SK



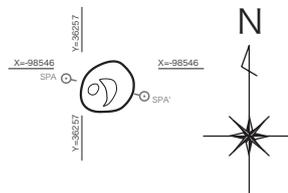
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂少量、下部に黄褐色 シルトブロック多く含む、中礫の歪角礫を含む。(062SK)
 2 10YR5/2 灰黄褐色 シルト やや粘質 (075SK)。
 3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、中礫の歪角礫を含む。(075SK)



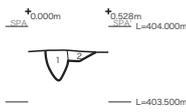
16-063SK



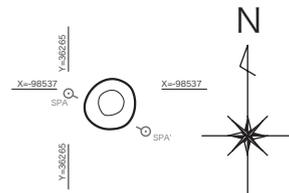
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 中粒砂を含む。
 2 10YR2/2 灰黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック少量含む、中礫の歪角礫を含む。



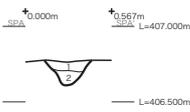
16-065SK



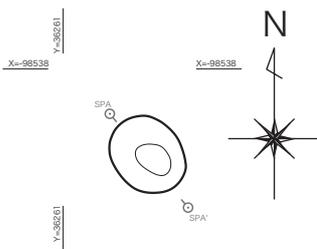
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、灰色 シルトブロックを少量含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、灰色 シルトブロックを少量含む、中礫の歪角礫を含む。



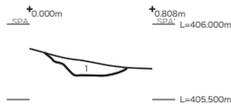
16-067SK



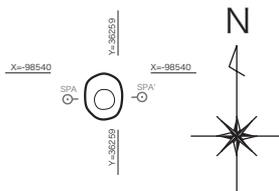
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 細礫、黄褐色 シルトブロック少量含む。
 2 10YR5/4 灰黄褐色 シルト やや粘質 中粒砂を含む。



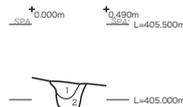
16-069SK



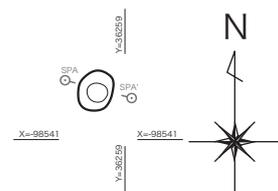
1 10YR5/4 灰黄褐色 シルト やや粘質 中粒砂、細礫を多く含む。



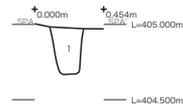
16-072SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 しまりあり 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。

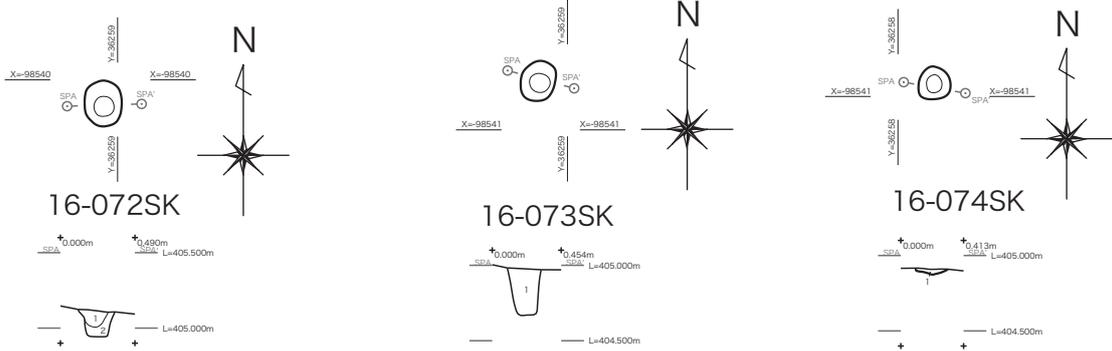


16-073SK

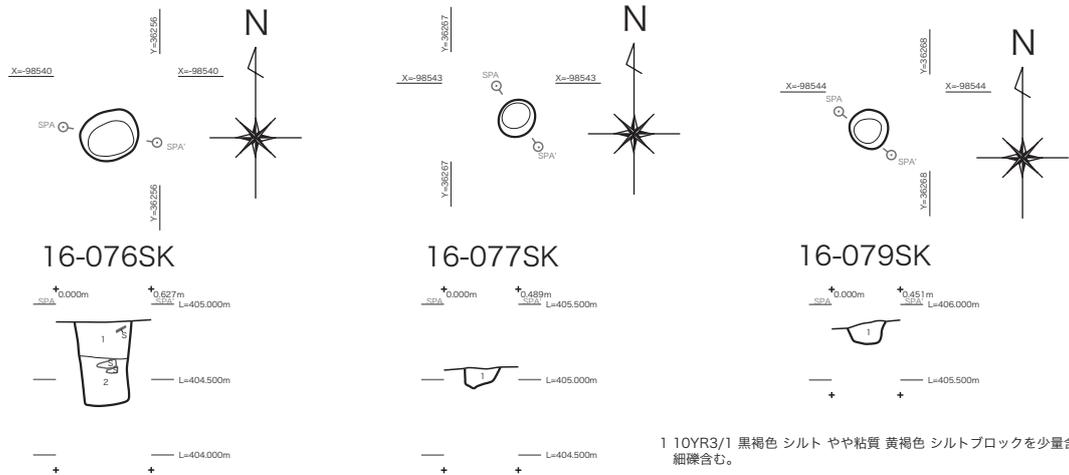


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。

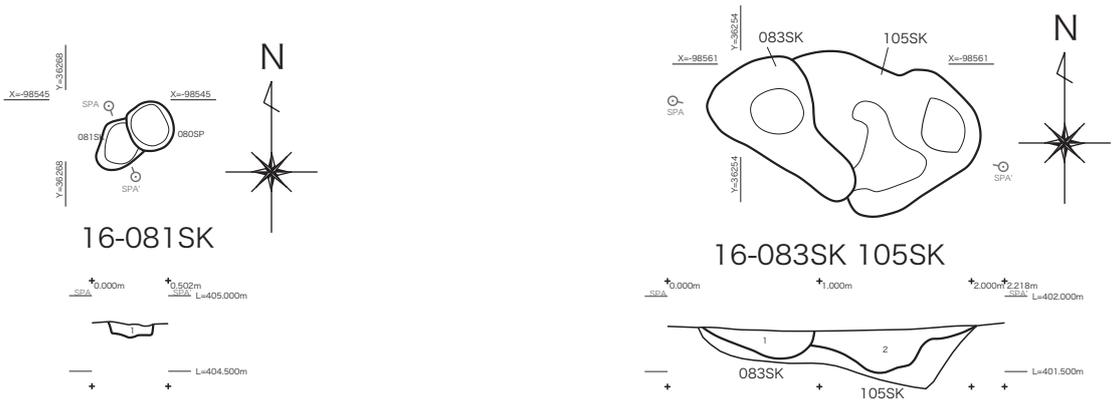
図 2-42 16 調査区 061SK・062SK・075SK・063SK・065SK・067SK・069SK・072SK・073SK (S=1:50)



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 しまりあり 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。

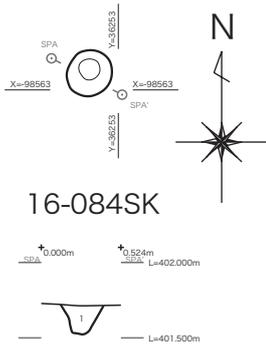


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 炭を多く含む。径15cmの大礫の角礫あり。
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含み、中礫の亜角礫、炭含む。
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。径20cmの大礫の亜角礫あり。



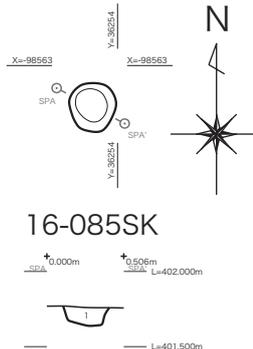
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含み、中礫の亜角礫含む。
 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。(083SK)
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。(105SK)

図 2-43 16 調査区 072SK・073SK・074SK・076SK・077SK・079SK・081SK・083SK・105SK (S=1:50)



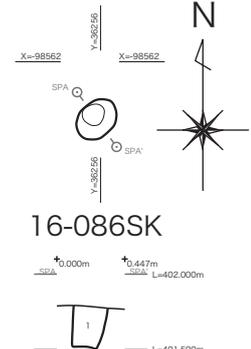
16-084SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量、炭含む。



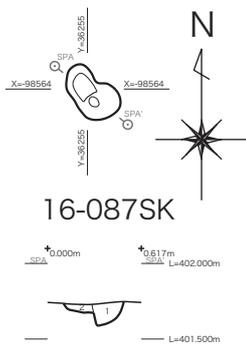
16-085SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。



16-086SK

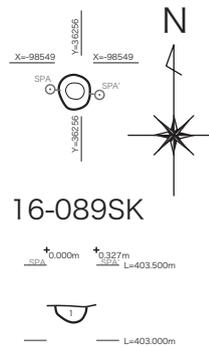
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含み、中礫の亜角礫を含む。



16-087SK

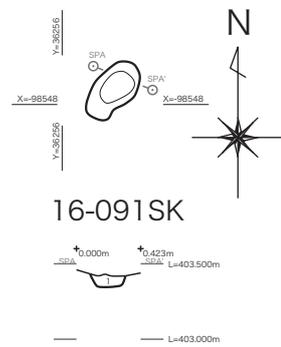
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含み、中礫の亜角礫を含む。

2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



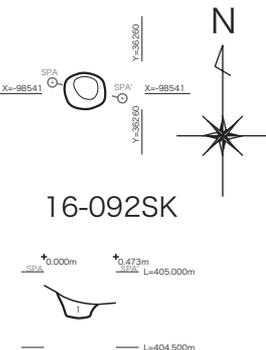
16-089SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 にぶい黄褐色 シルトブロックを含む。細礫、中礫の亜角礫を含む。



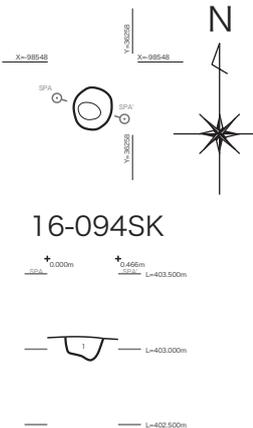
16-091SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 にぶい黄褐色 シルトブロック、細礫を含む。



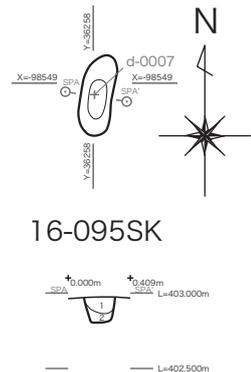
16-092SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック含む。



16-094SK

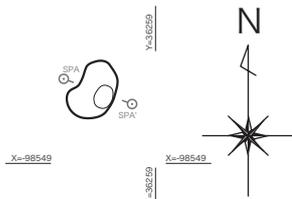
1 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含み、細礫、炭含む。



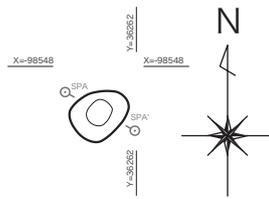
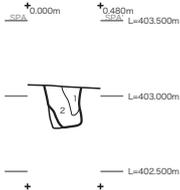
16-095SK

1 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含み、細礫、炭含む。
2 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。

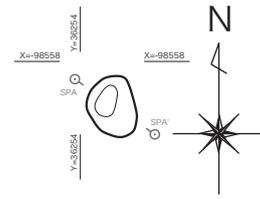
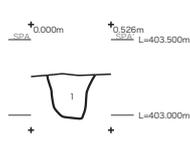
図 2-44 16 調査区 084SK・085SK・086SK・087SK・089SK・091SK・092SK・094SK・095SK (S=1:50)



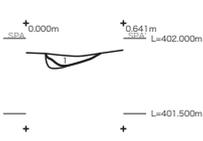
16-096SK



16-097SK



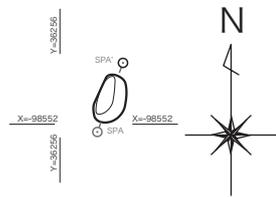
16-098SK



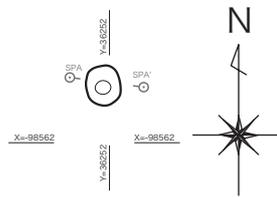
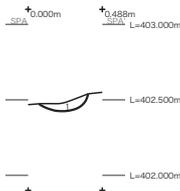
1 10YR5/3 にふい黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、
細礫、中礫の亜角礫を含む。

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。

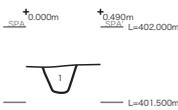
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、下部黄褐色 シルトブロックを少量含む、炭含む。
2 10YR5/3 にふい黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。



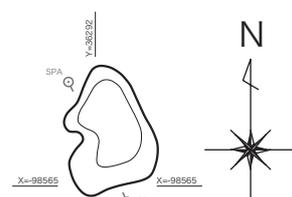
16-099SK



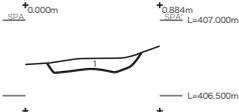
16-100SK



1 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色 シルトブロックを少量含む。

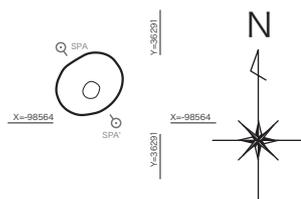


16-101SK

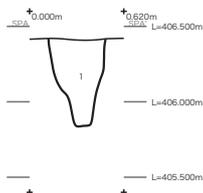


1 10YR3/1 黒褐色 シルト 黄褐色 シルトブロックを少量含む、焼土含む。

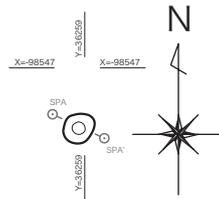
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



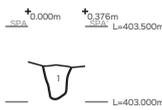
16-102SK



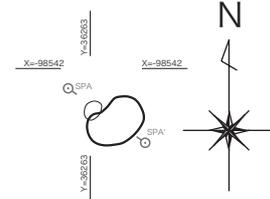
1 10YR3/1 黒褐色 シルト 黄褐色 シルトブロック、焼土を含み、
径10cmの大礫の亜角礫あり。



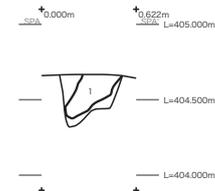
16-103SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。

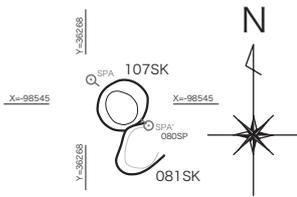


16-104SK

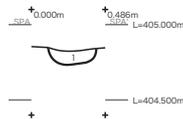


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂 黄褐色 シルトブロック、
中礫の亜角礫を含む。

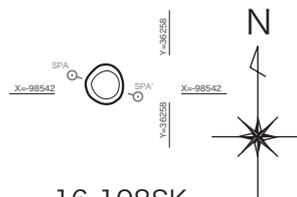
図 2-45 16 調査区 096SK・097SK・098SK・099SK・100SK・101SK・102SK・103SK・104SK (S=1:50)



16-107SK



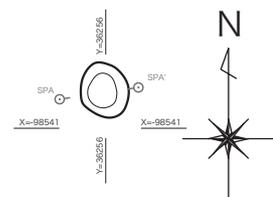
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む、中礫の亜角礫を含む。



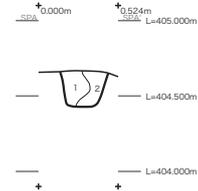
16-108SK



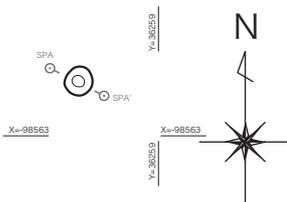
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



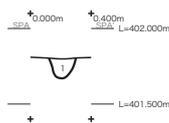
16-109SK



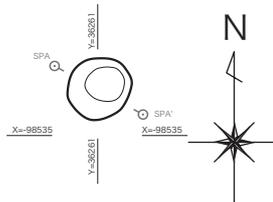
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む、炭含む。



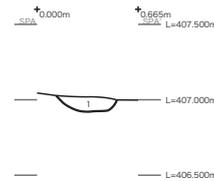
16-110SK



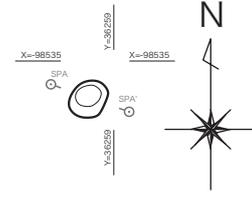
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



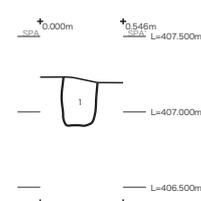
16-111SK



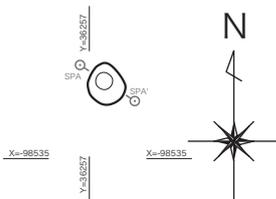
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを多く含む。



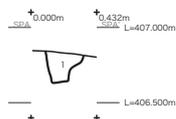
16-112SK



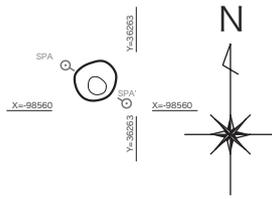
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含み、中礫の亜角礫を含む。



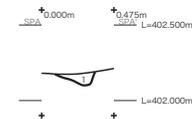
16-116SK



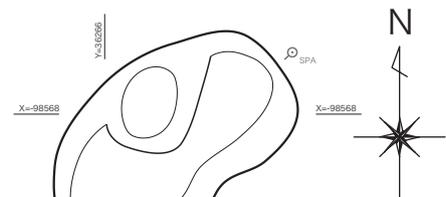
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。



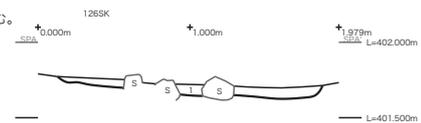
16-121SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。

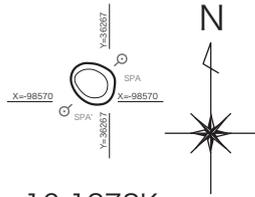


16-126K



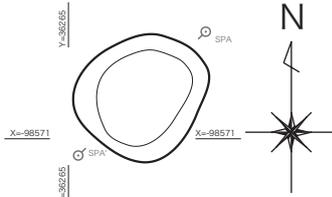
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。

図 2-46 16 調査区 107SK・108SK・109SK・110SK・111SK・112SK・116SK・121SK・126SK (S=1:50)



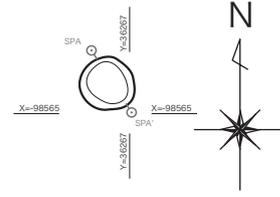
16-127SK

SEA 0.000m SPA 0.515m L=402.000m



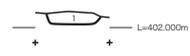
16-128SK

SEA 0.000m SPA 1.000m SPA' 1.74m L=402.000m



16-129SK

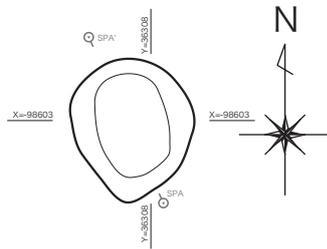
SEA 0.000m SPA 0.488m SPA' L=402.500m



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。

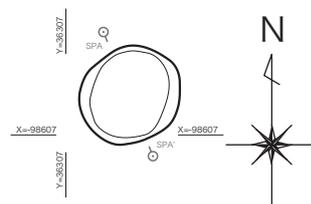
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂 黄褐色 シルトブロックを含む。径10cmの大礫の亜角礫あり。



16-130SK

SEA 0.000m SPA 1.000m SPA' 1.205m L=405.000m

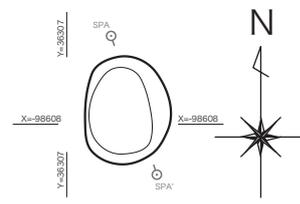


16-131SK

SEA 0.000m SPA 0.885m SPA' L=405.000m



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロック、炭を含む。



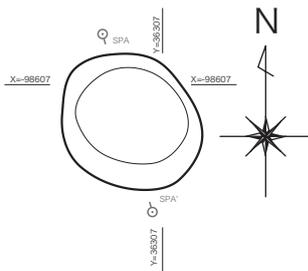
16-132SK

SEA 0.000m SPA 0.988m SPA' L=405.000m



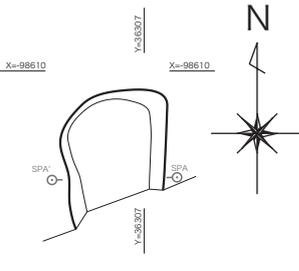
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 下部に黄褐色 シルトブロック、中礫の角礫を含む。



16-133SK

SEA 0.000m SPA 1.000m SPA' 1.225m L=405.000m

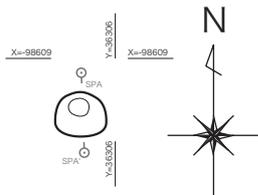


16-134SK

SEA 0.000m SPA 0.823m SPA' L=404.500m

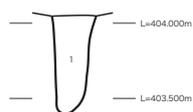


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。



16-135SK

SEA 0.000m SPA 0.530m SPA' L=404.500m



SEA 0.000m SPA 0.530m SPA' L=404.500m

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。

図 2-47 16 調査区 127SK・128SK・129SK・130SK・131SK・132SK・133SK・134SK・135SK (S=1:50)

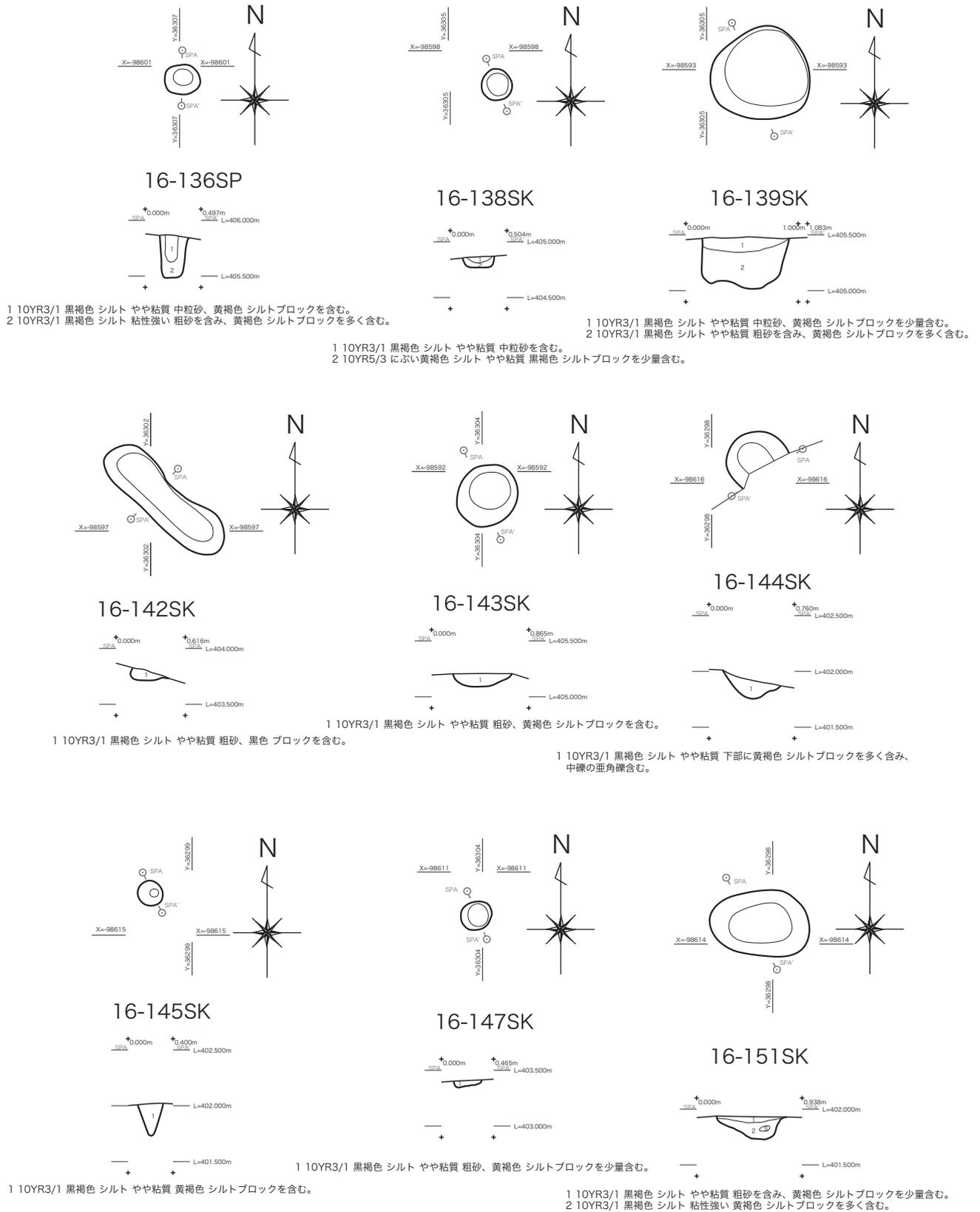
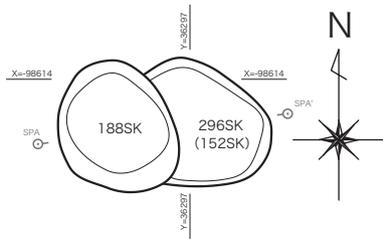
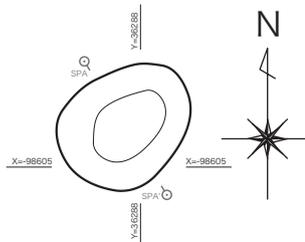
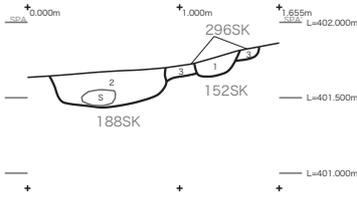


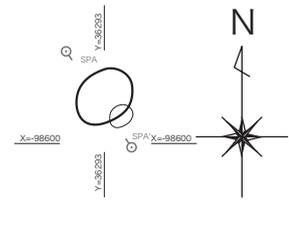
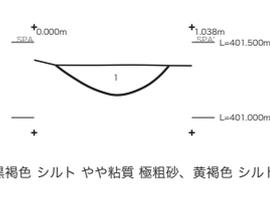
図 2-48 16 調査区 136SP・138SK・139SK・142SK・143SK・144SK・145SK・147SK・151SK (S=1:50)



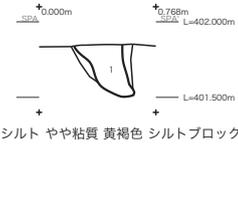
16-152SK 188SK 296SK



16-156SK

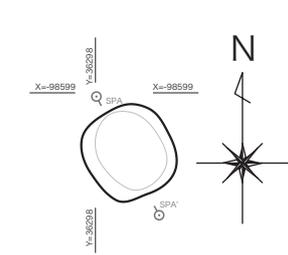


16-157SK

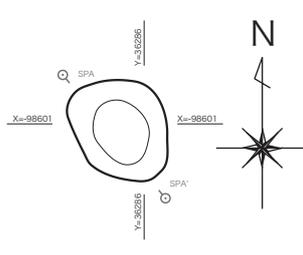
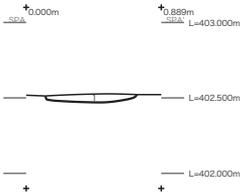


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含み、細礫含む。

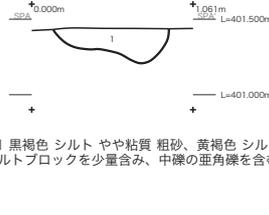
- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 中粒砂を含む。径20cmの大礫の亜角礫あり。(152SK)
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。(188SK)
- 3 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。(296SK)



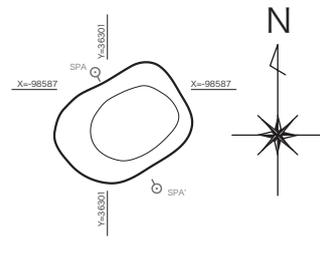
16-158SK



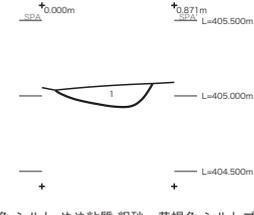
16-159SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含み、中礫の亜角礫を含む。

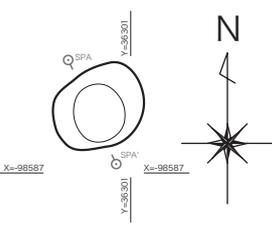


16-160SK

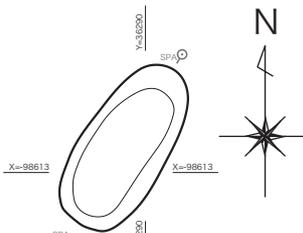
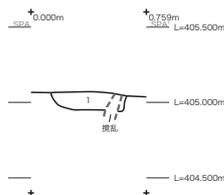


1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。

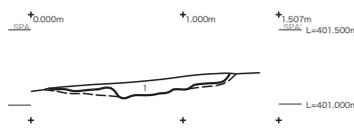
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。



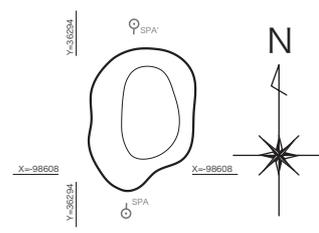
16-161SK



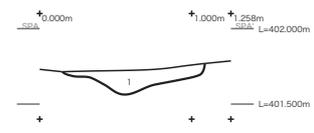
16-162SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。



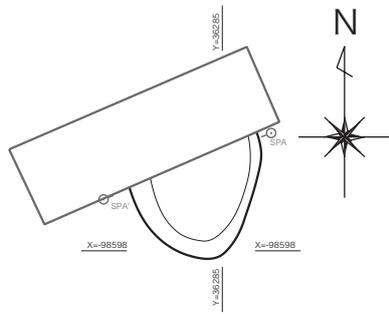
16-163SK



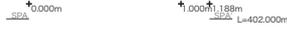
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。径10cmの大礫の亜角礫あり。

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。

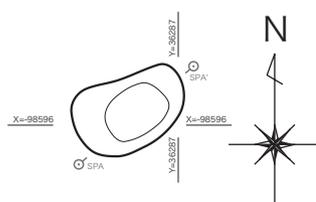
図 2-49 16 調査区 152SK・188SK・296SK・156SK・157SK・
158SK・159SK・160SK・161SK・163SK (S=1:50)



16-166SK



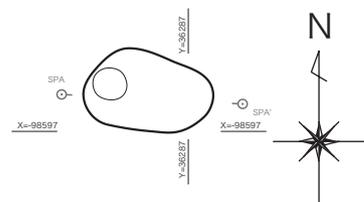
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、黒褐色 シルトブロックを含む。



16-167SK



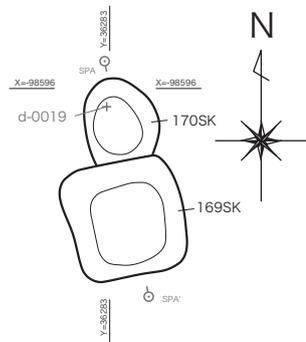
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。



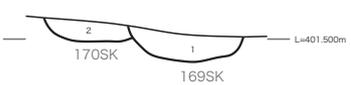
16-168SK



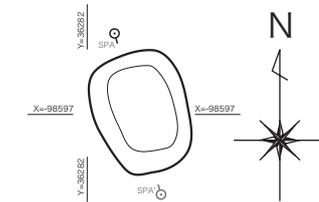
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 中粒砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



16-169SK 170SK



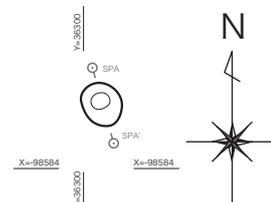
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 下部に 黄褐色 シルトブロックを多く含み、細礫を含む。(169SK)
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。(170SK)



16-171SK



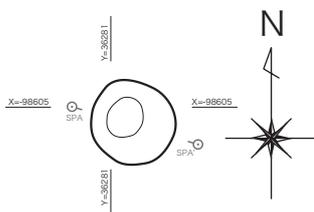
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを多く含む。
2 10YR2/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。



16-172SK



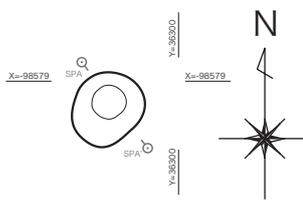
1 2.5YR5/3 黄褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック、炭を含む。



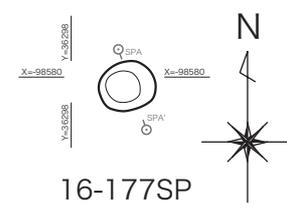
16-174SK



1 2.5YR5/3 黄褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含み、中礫の垂角礫を含む。
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



16-176SK



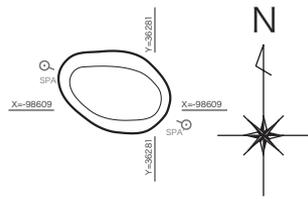
16-177SP



1 2.5YR5/3 黄褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロック、炭を含む。

図 2-50 16 調査区 166SK・167SK・168SK・169SK・

170SK・171SK・172SK・174SK・176SK・177SP (S=1:50)

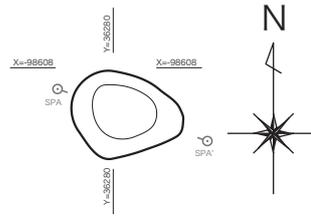


16-178SK

SPA 0.000m SPA' 1.012m L=401.500m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。

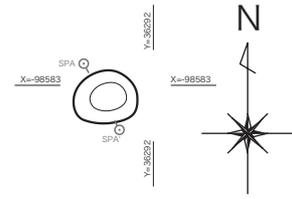


16-179SK

SPA 0.000m SPA' 1.045m L=401.500m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質。
2 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。

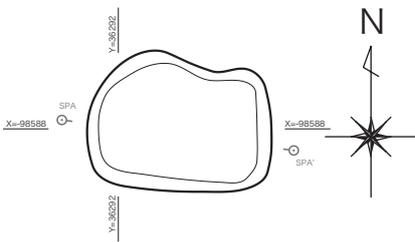


16-180SK

SPA 0.000m SPA' 0.498m L=403.000m



1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 黒褐色シルトブロックを多く含む。

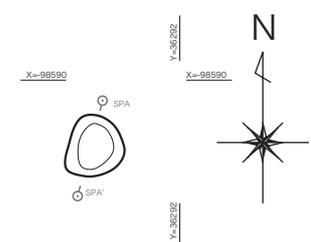


16-182SK

SPA 0.000m SPA' 1.000m SPA' 1.539m L=402.500m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、
黒色シルトブロックを少量含む。



16-183SK

SPA 0.000m SPA' 0.654m L=402.500m



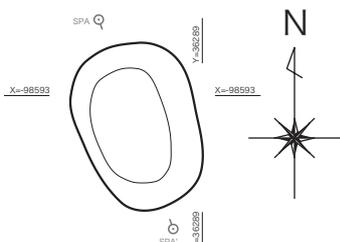
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。

16-184SK

SPA 0.000m SPA' 0.464m L=402.500m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。

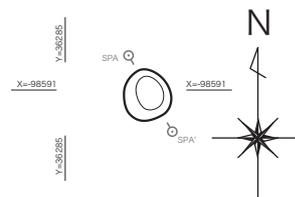


16-185SK

SPA 0.000m SPA' 1.000m SPA' 1.422m L=402.000m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、
黒褐色シルトブロック、細礫を含む。

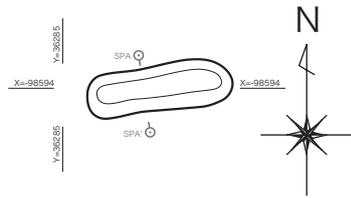


16-186SK

SPA 0.000m SPA' 0.581m L=402.000m



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、
黒褐色シルトブロックを少量含む。



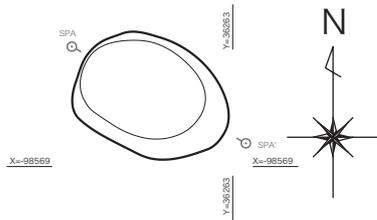
16-187SK

SPA 0.000m SPA' 0.516m L=402.000m

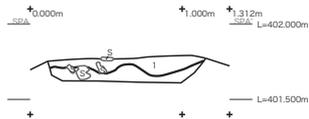


1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。

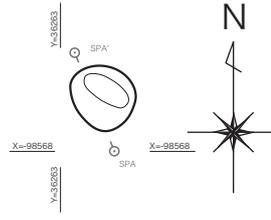
図 2-51 16 調査区 178SK・179SK・180SK・182SK・183SK・184SK・185SK・186SK・187SK (S=1:50)



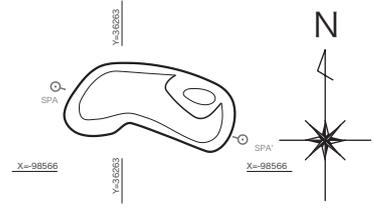
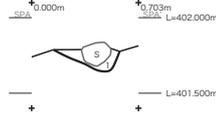
16-190SK



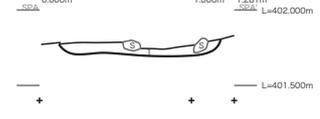
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを多く含む。



16-193SK

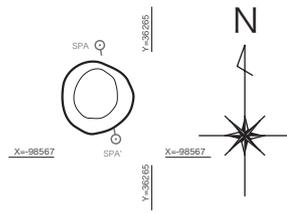


16-195SK

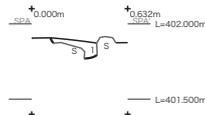


1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質。

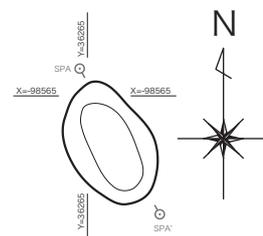
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含み、中稜の亜角稜を含む。



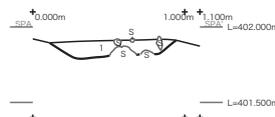
16-196SK



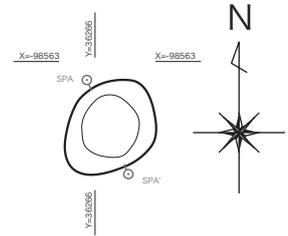
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。



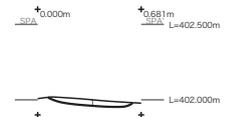
16-197SK



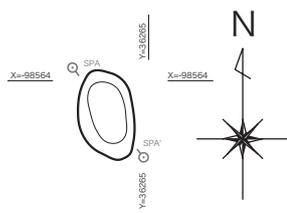
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。



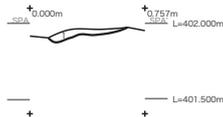
16-198SK



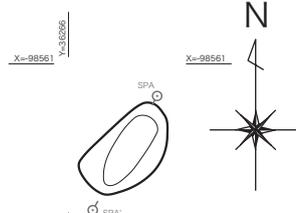
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂含む。



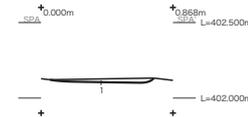
16-199SK



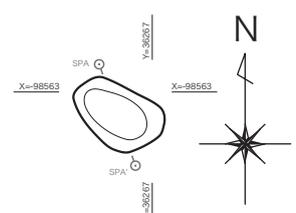
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含み、細礫を多く含む。



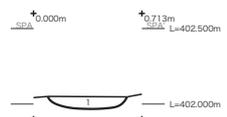
16-201SK



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂含む。

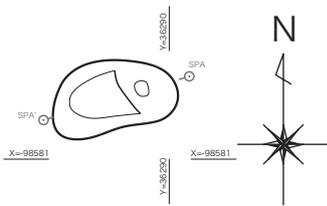


16-202SK

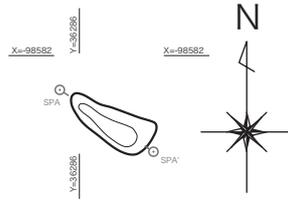
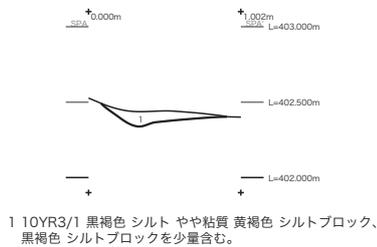


1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂含む。

図 2-52 16 調査区 190SK・193SK・195SK・196SK・197SK・198SK・199SK・201SK・202SK (S=1:50)

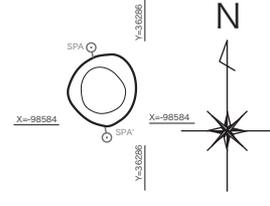


16-203SK



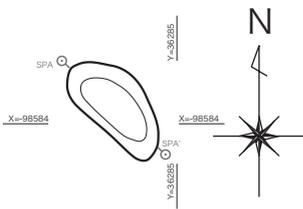
16-205SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。



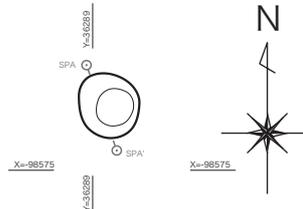
16-206SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。



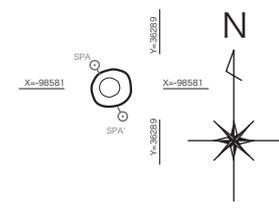
16-207SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 黄褐色シルトブロック、黒色シルトブロックを含む。



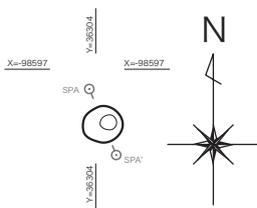
16-211SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含み、炭を含む。
2 10YR5/1 褐色シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。



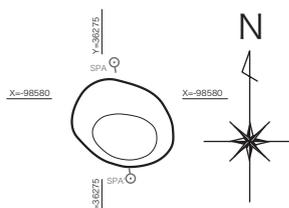
16-213SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。



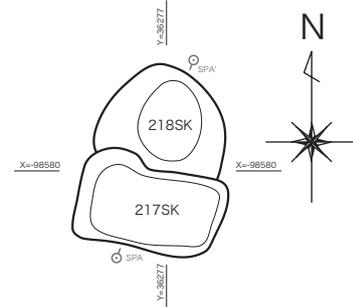
16-215SK

1 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含み、細礫を含む。



16-216SK

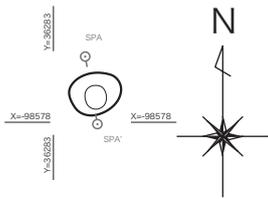
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。



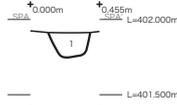
16-217SK 218SK

1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを多く含む。(217SK)
2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。(218SK)

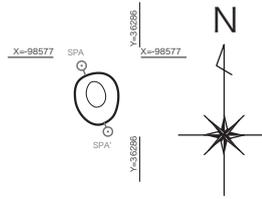
図 2-53 16 調査区 203SK・205SK・206SK・207SK・211SK・213SK・215SK・216SK・217SK・218SK (S=1:50)



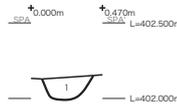
16-219SK



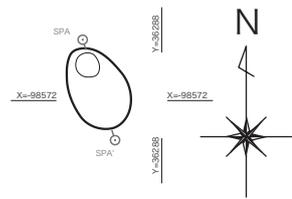
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含み、細礫を含む。



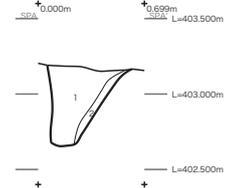
16-221SK



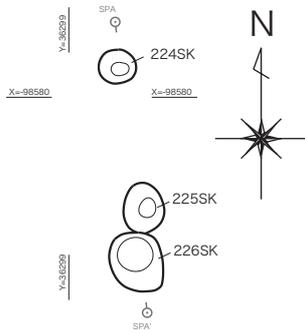
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、下部に黄褐色シルトブロックを多く含む。



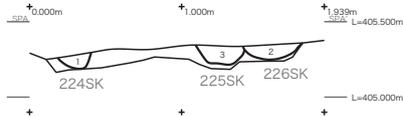
16-222SK



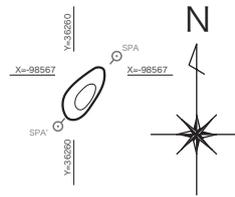
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを多く含む。
2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。



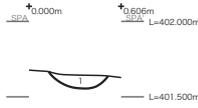
16-224SK 225SK 226SK



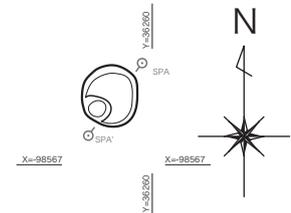
1 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、中礫の歪角礫を含む。(224SK)
2 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。(226SK)
3 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを多く含む。(225SK)



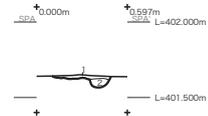
16-231SK



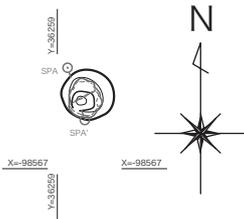
1 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。



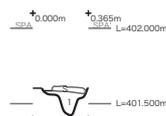
16-232SK



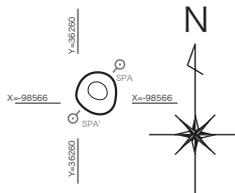
1 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。
2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 粘性強い黄褐色シルトブロック、1層ブロック含む。



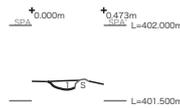
16-233SP



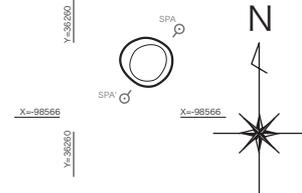
1 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 黄褐色シルトブロックを含む。



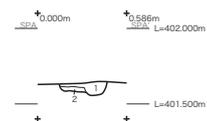
16-234SK



1 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 中粒砂を含む。

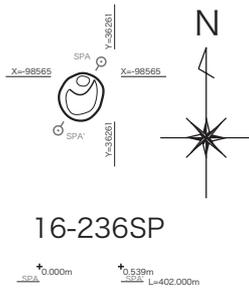


16-235SK



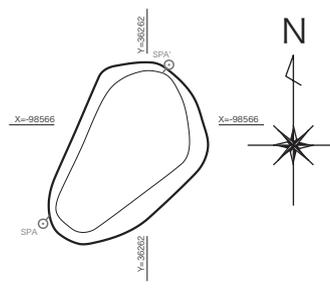
1 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質。
2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い黄褐色シルトブロックを多く含む。

図 2-54 16 調査区 219SK・221SK・222SK・224SK・225SK・226SK・231SK・232SK・233SP・234SK・235SK (S=1:50)



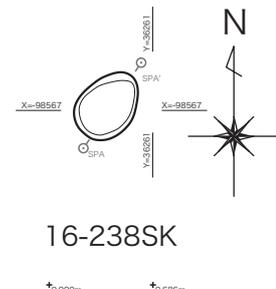
16-236SP

1 10YR3/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含み、炭を含む。



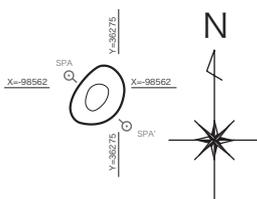
16-237SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。



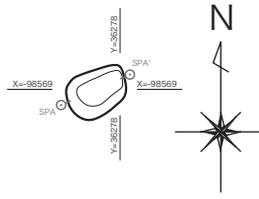
16-238SK

1 10YR3/2 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。



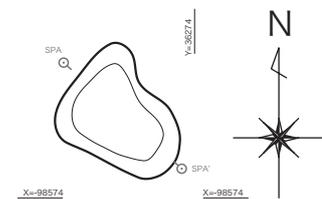
16-243SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粘性強い 黄褐色 シルトブロックを含む。



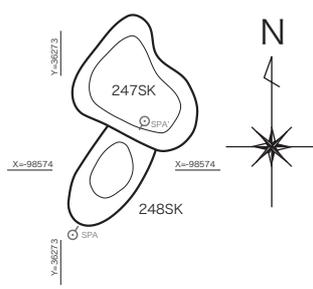
16-244SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂 黒色 シルトブロックを少量含む。



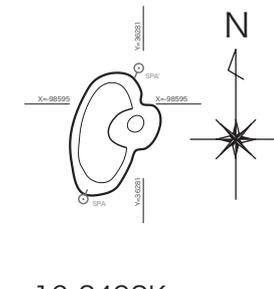
16-247SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含み、下部に黄褐色 シルトブロックを多く含む。



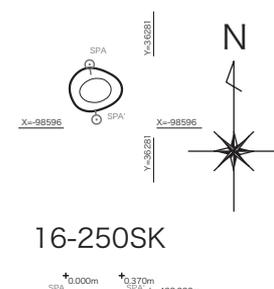
16-248SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを含む。



16-249SK

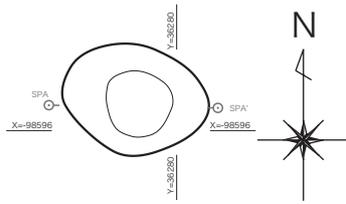
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。



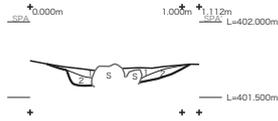
16-250SK

1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質。

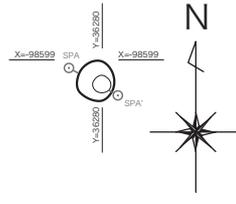
図 2-55 16 調査区 236SP・237SK・238SK・243SK・244SK・247SK・248SK・249SK・250SK (S=1:50)



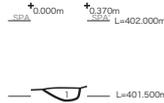
16-251SK



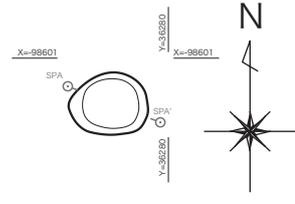
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。
 2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量含む。



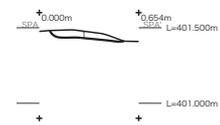
16-252SK



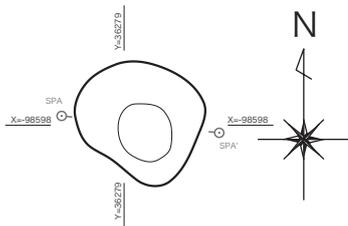
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。



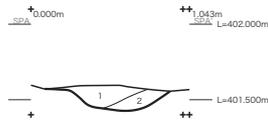
16-253SK



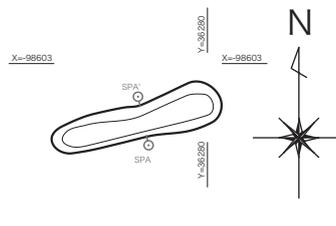
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。



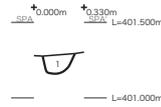
16-254SK



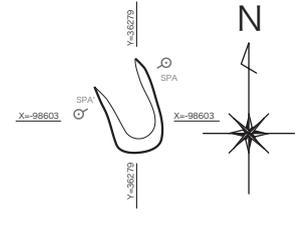
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。
 2 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。



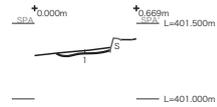
16-255SK



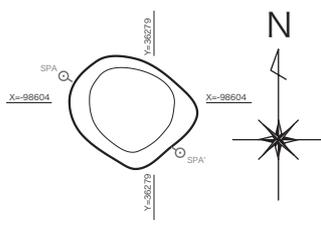
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。



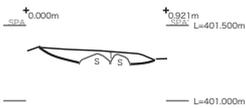
16-258SK



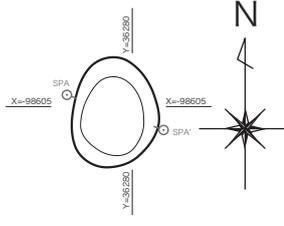
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。



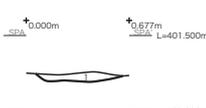
16-259SK



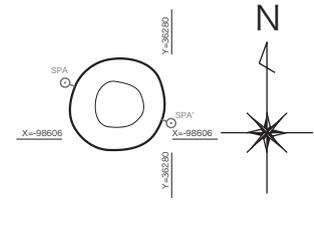
1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。



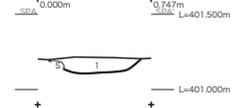
16-261SK



1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。

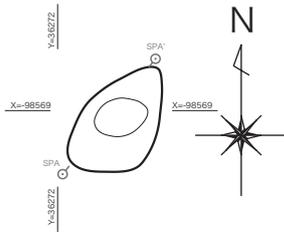


16-262SK

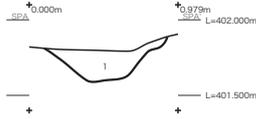


1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。

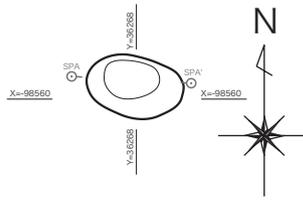
図 2-56 16 調査区 251SK・252SK・253SK・254SK・255SK・258SK・259SK・261SK・262SK (S=1:50)



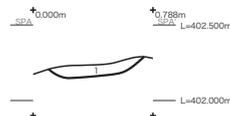
16-264SK



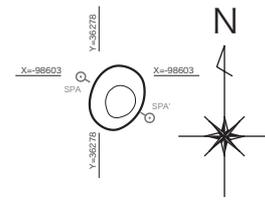
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロック、細礫を含む。



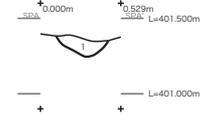
16-265SK



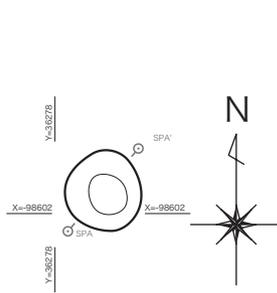
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルト ブロックを含む。



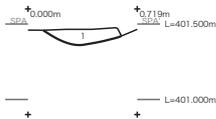
16-267SK



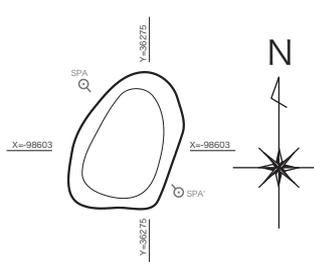
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



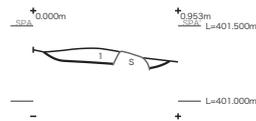
16-268SK



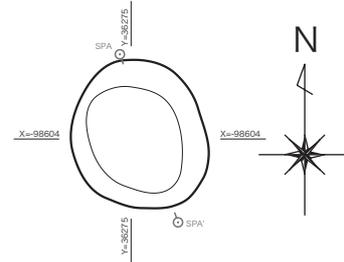
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



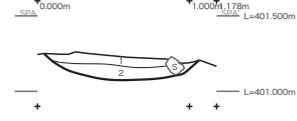
16-269SK



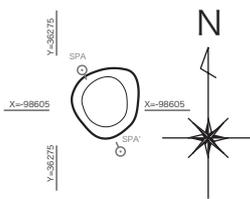
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



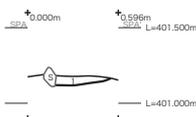
16-270SK



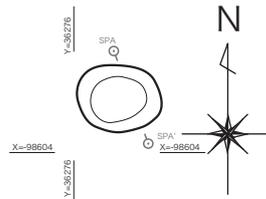
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、中礫の歪角礫を含む。



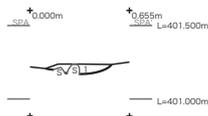
16-271SK



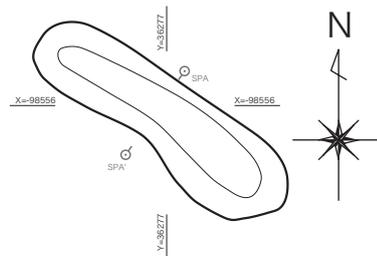
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。



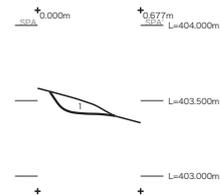
16-272SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。

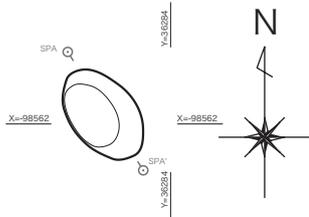


16-275SK



1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 細礫を含む。

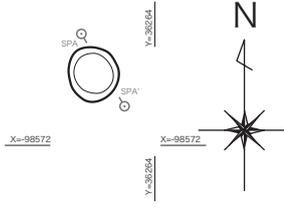
図 2-57 16 調査区 264SK・265SK・267SK・268SK・269SK・270SK・271SK・272SK・275SK (S=1:50)



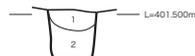
16-276SK



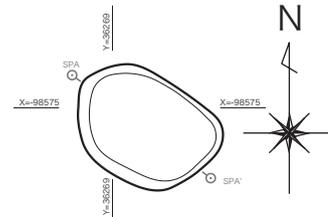
1 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性強い 細礫、中礫の亜角礫を含む。



16-277SK



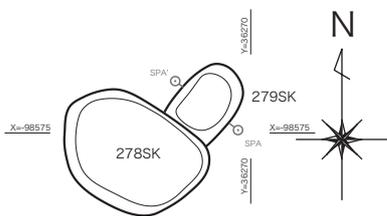
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂、黄褐色 シルトブロックを少量含み、中礫の亜角礫を含む。



16-278SK



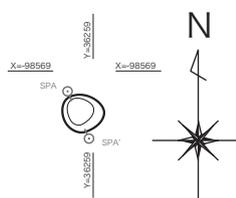
1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 粗砂を含む。



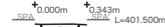
16-279SK



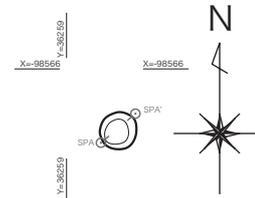
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



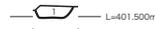
16-280SK



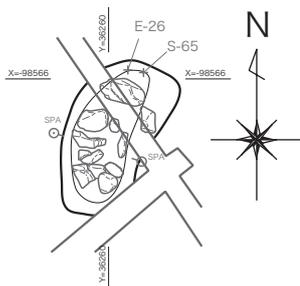
1 10YR3/1 黒褐色 シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色 シルトブロックを少量含む。



16-283SK



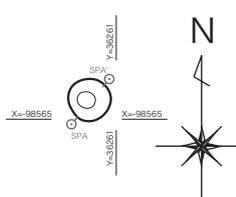
1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。



16-284SK



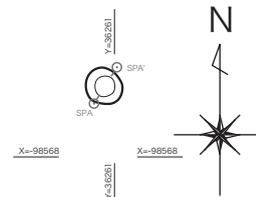
1 10YR4/1 黒褐色 シルト やや粘質 極粗砂、炭を含む。



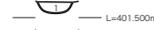
16-286SK



1 10YR3/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘質 黄褐色 シルトブロックを多く含む。



16-293SP



1 10YR3/2 黒褐色 シルト やや粘質 黄褐色 シルトブロックを含む。

図 2-58 16 調査区 276SK・277SK・278SK・279SK・280SK・283SK・284SK・286SK・293SP (S=1:50)

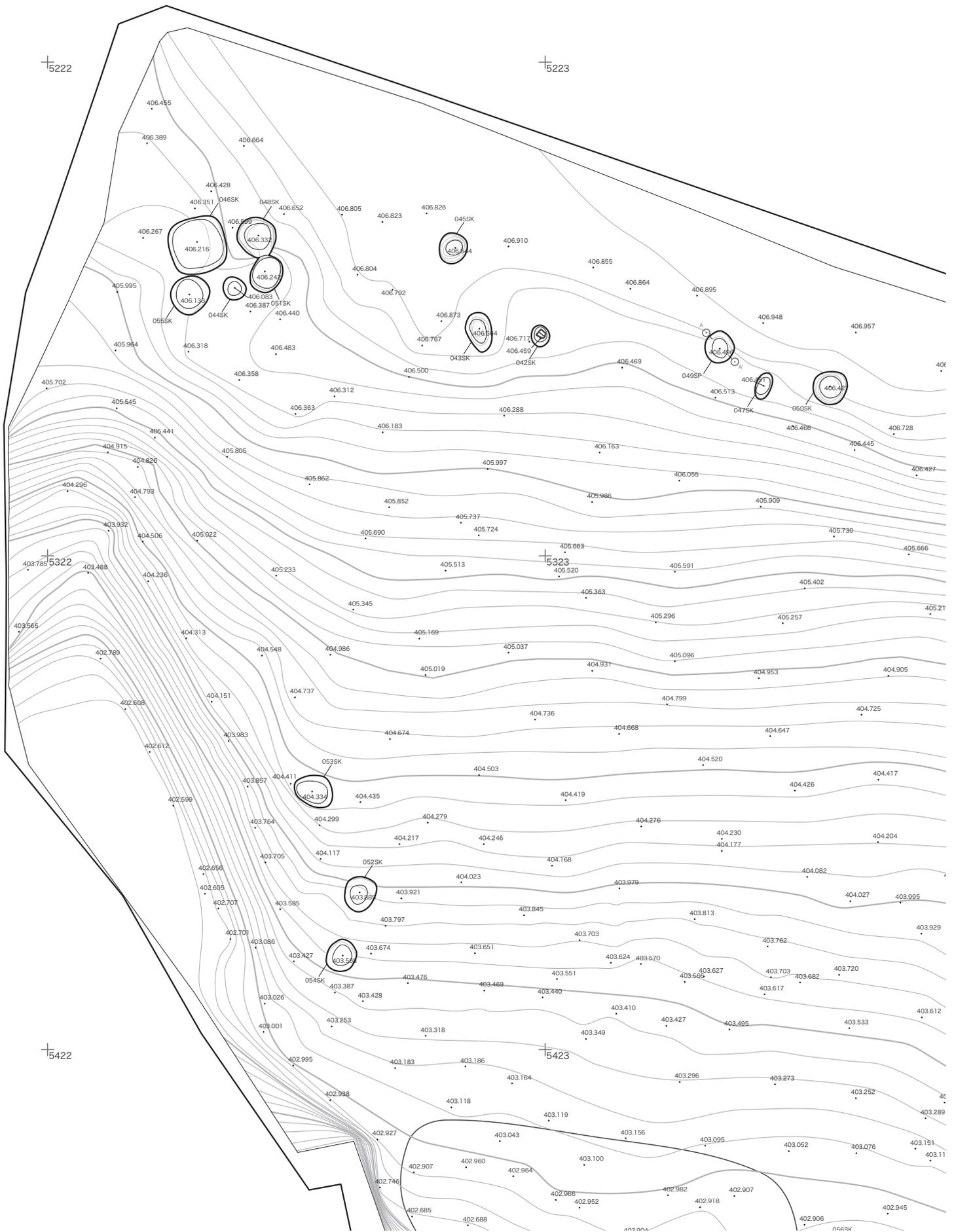


図 2-59 15 調査区 遺構全体図 -1 (S=1:100)

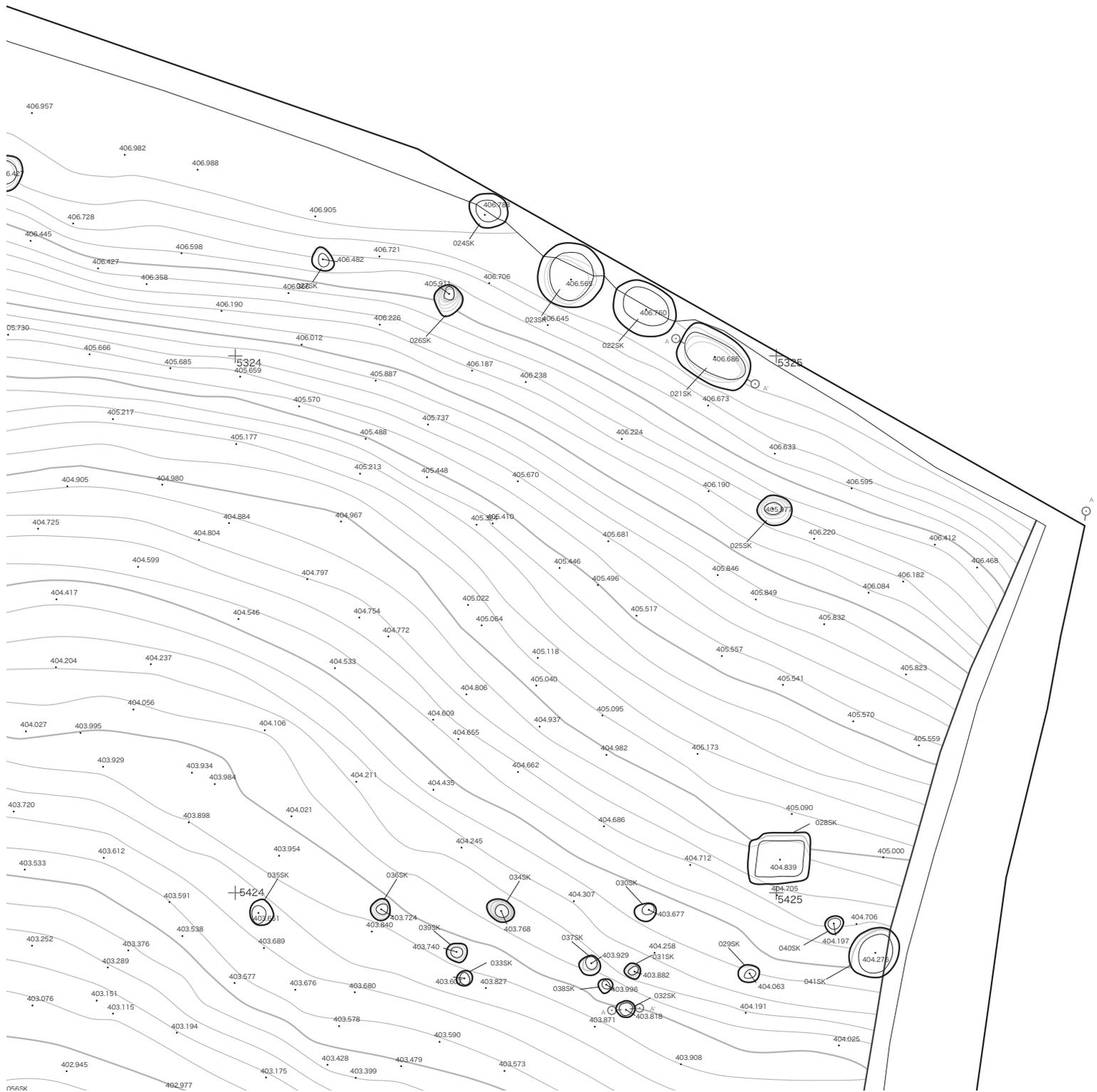


図 2-60 15 調査区 遺構全体図 -2 (S=1:100)

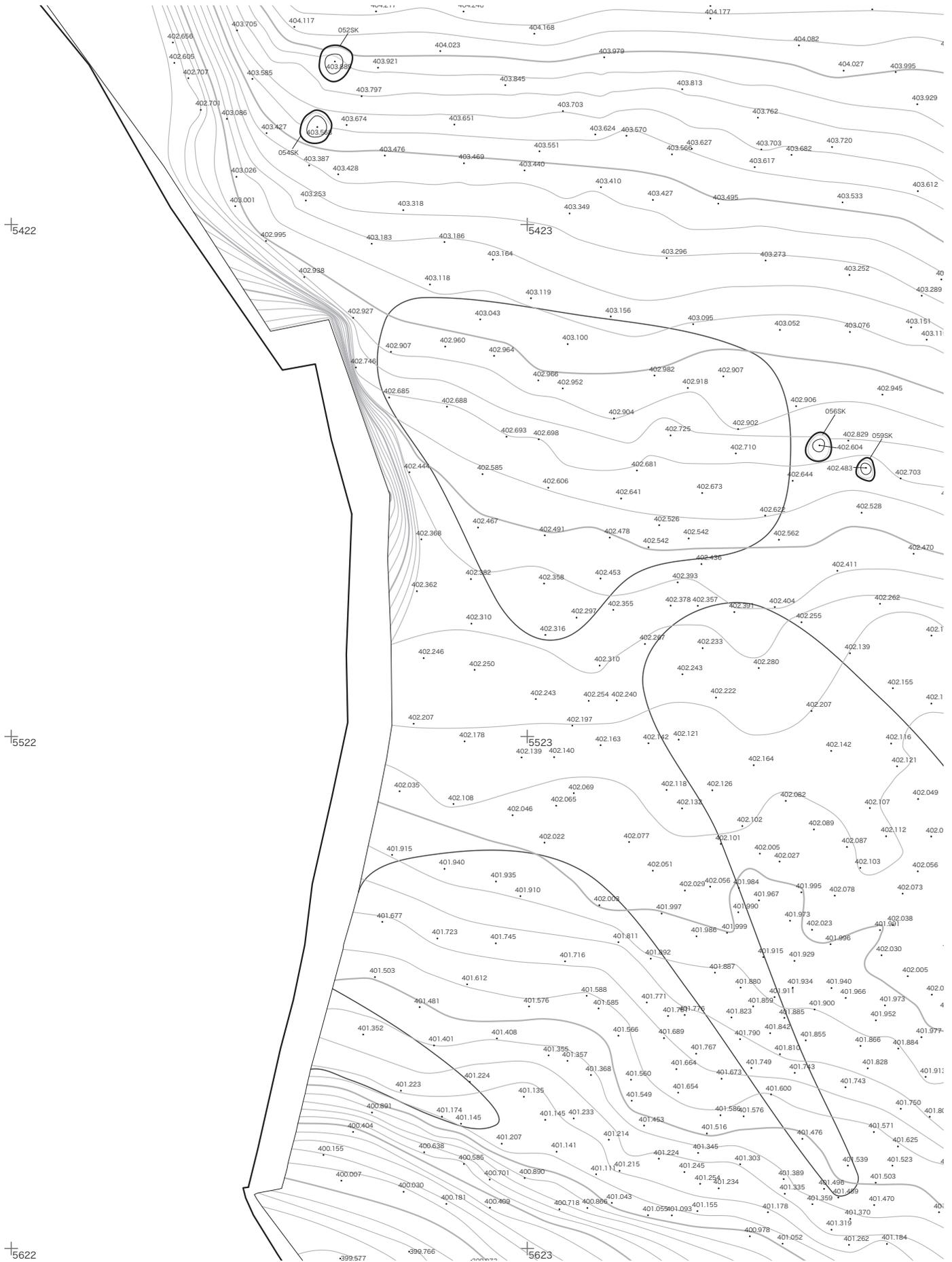


図 2-61 15 調査区 遺構全体図 -3 (S=1:100)

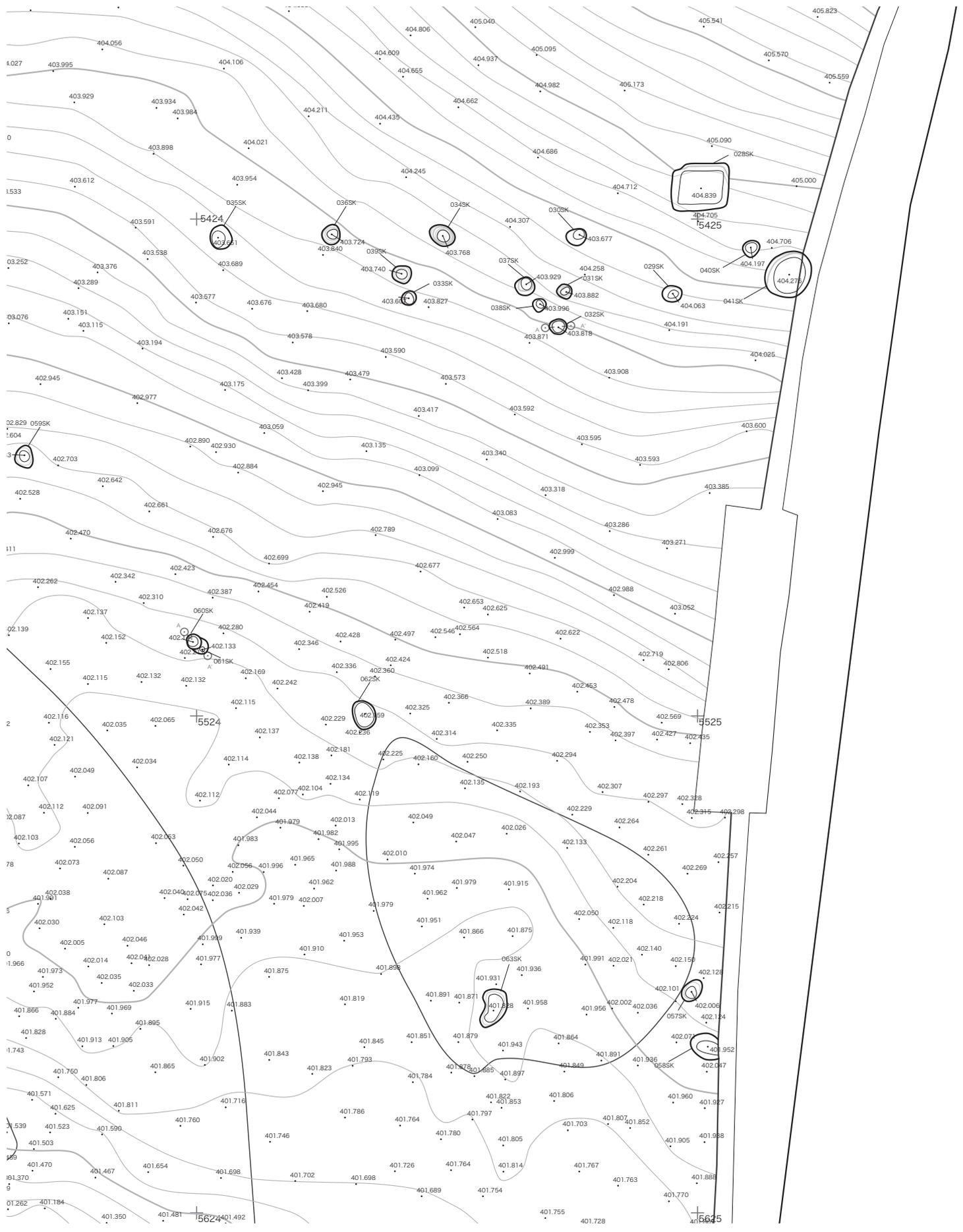


図 2-62 15 調査区 遺構全体図 -4 (S=1:100)

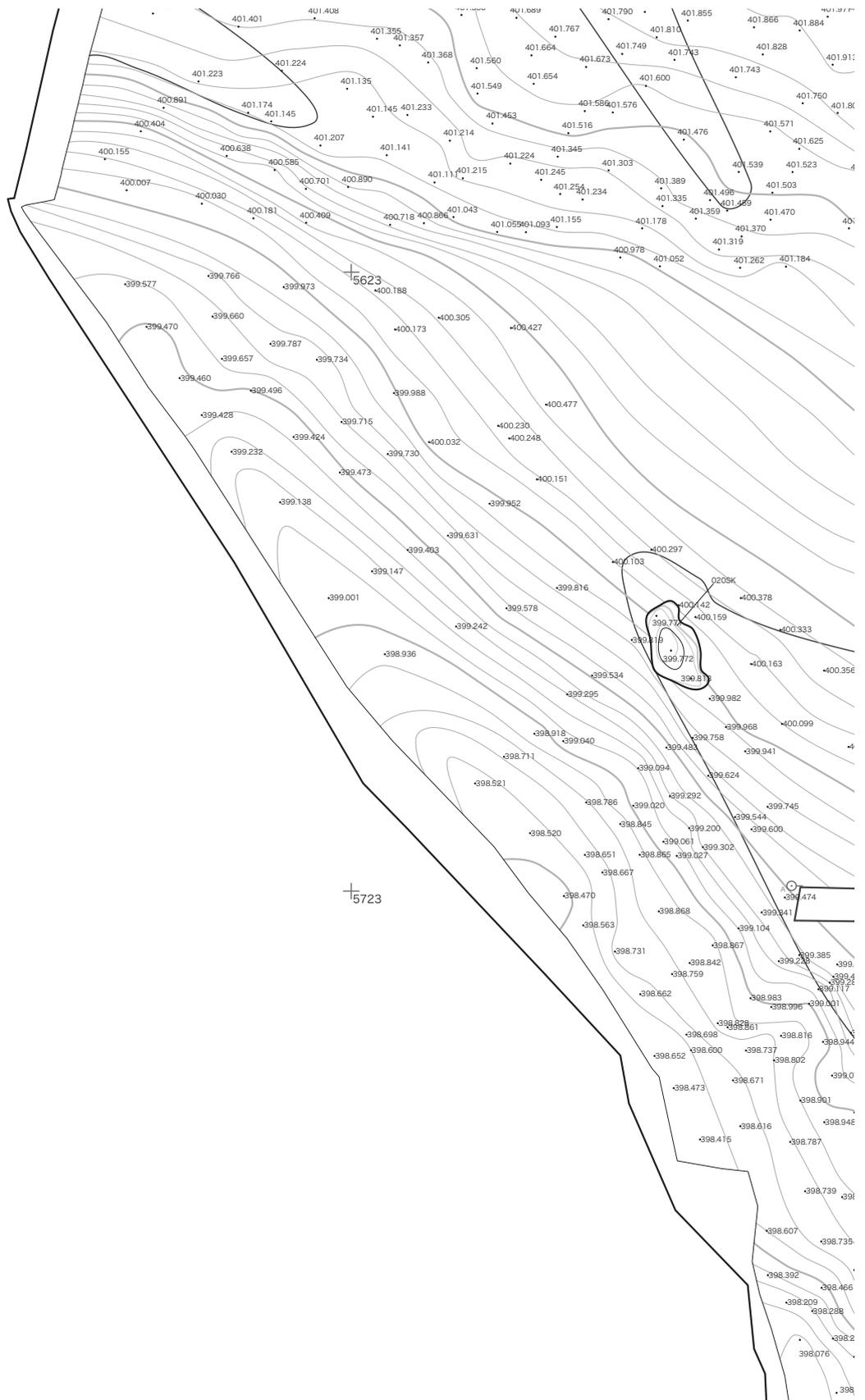


図 2-63 15 調査区 遺構全体図 -5 (S=1:100)

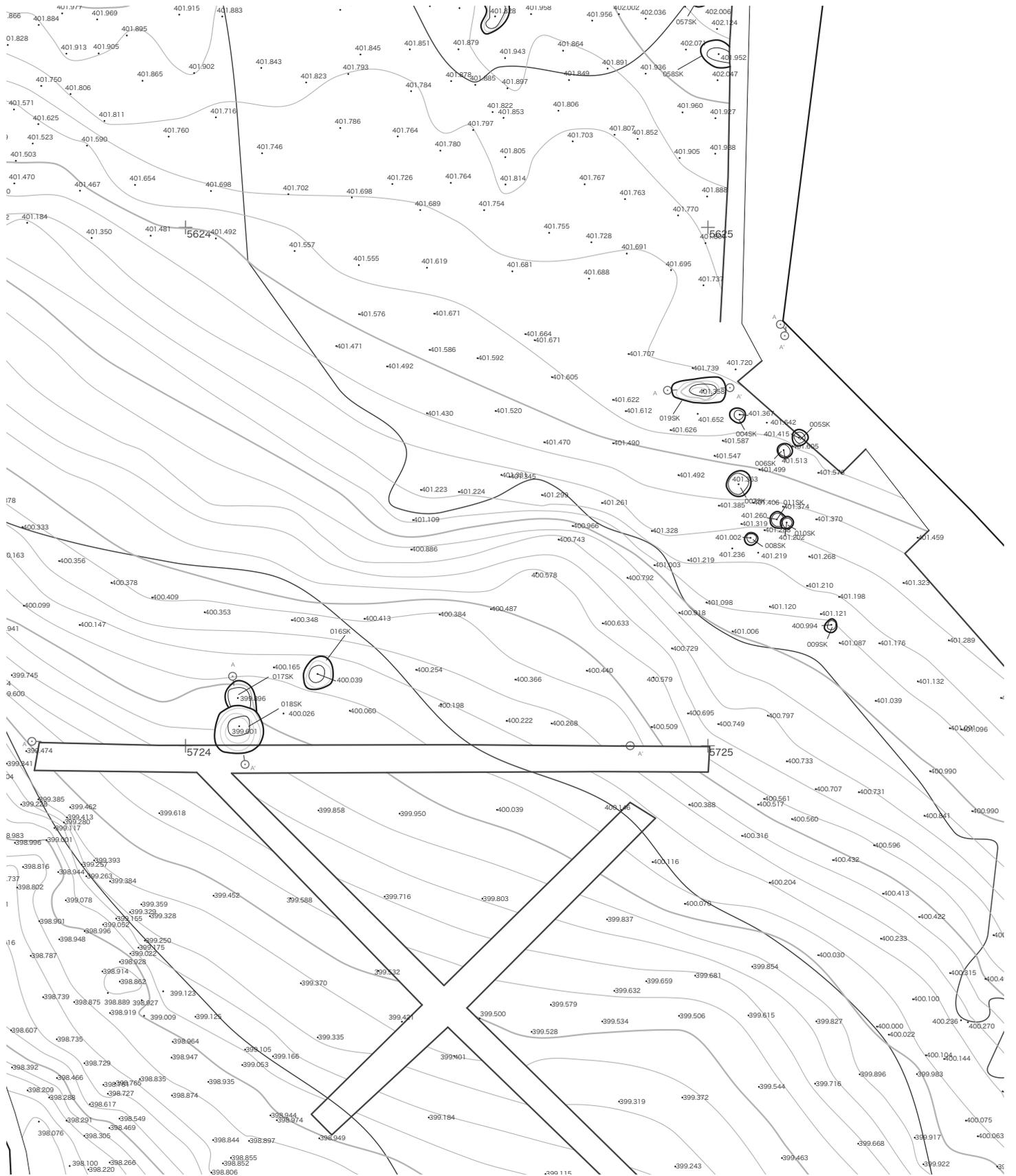


図 2-64 15 調査区 遺構全体図 -6 (S=1:100)

±5626

±5627

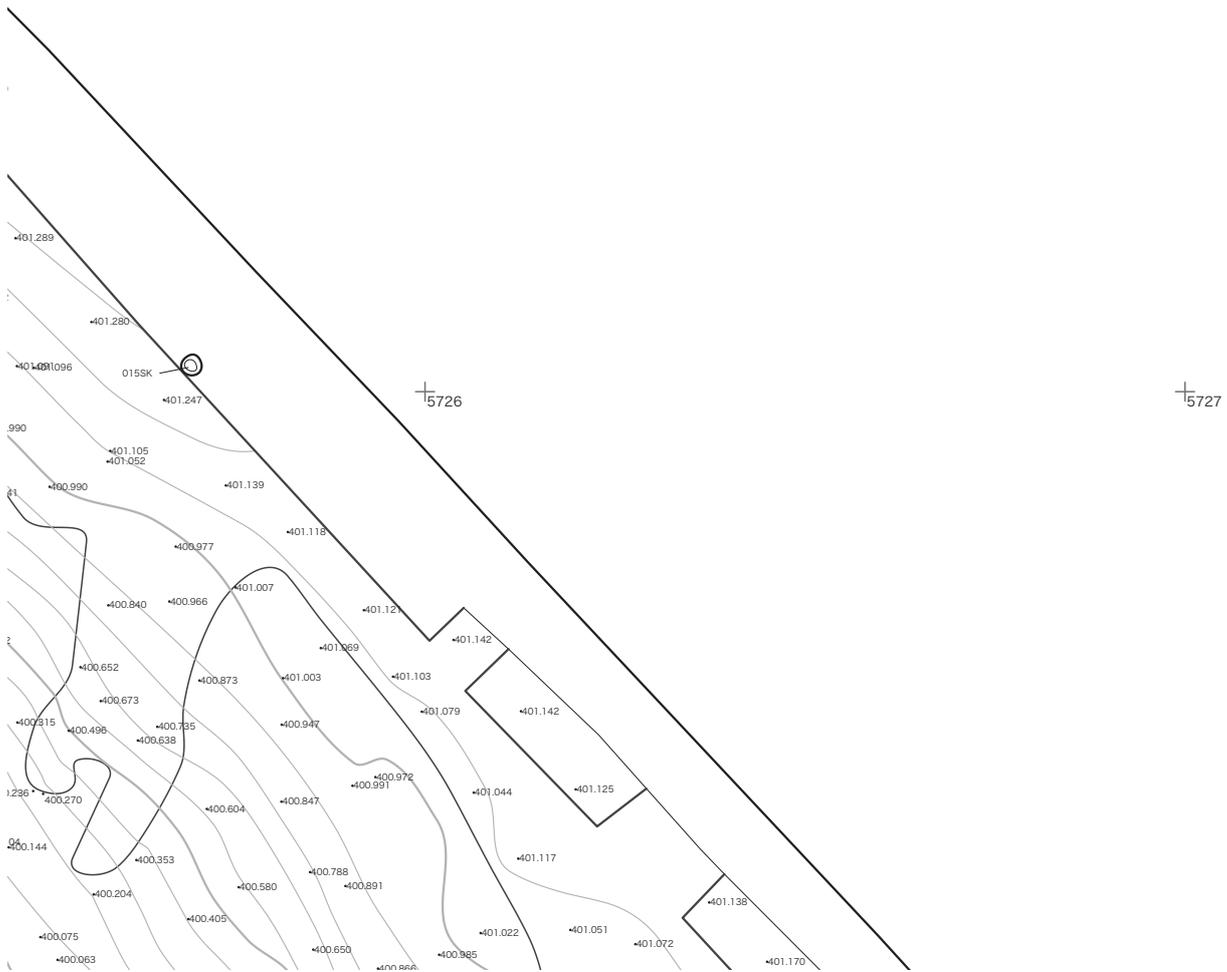


図 2-65 15 調査区 遺構全体図 -7 (S=1:100)

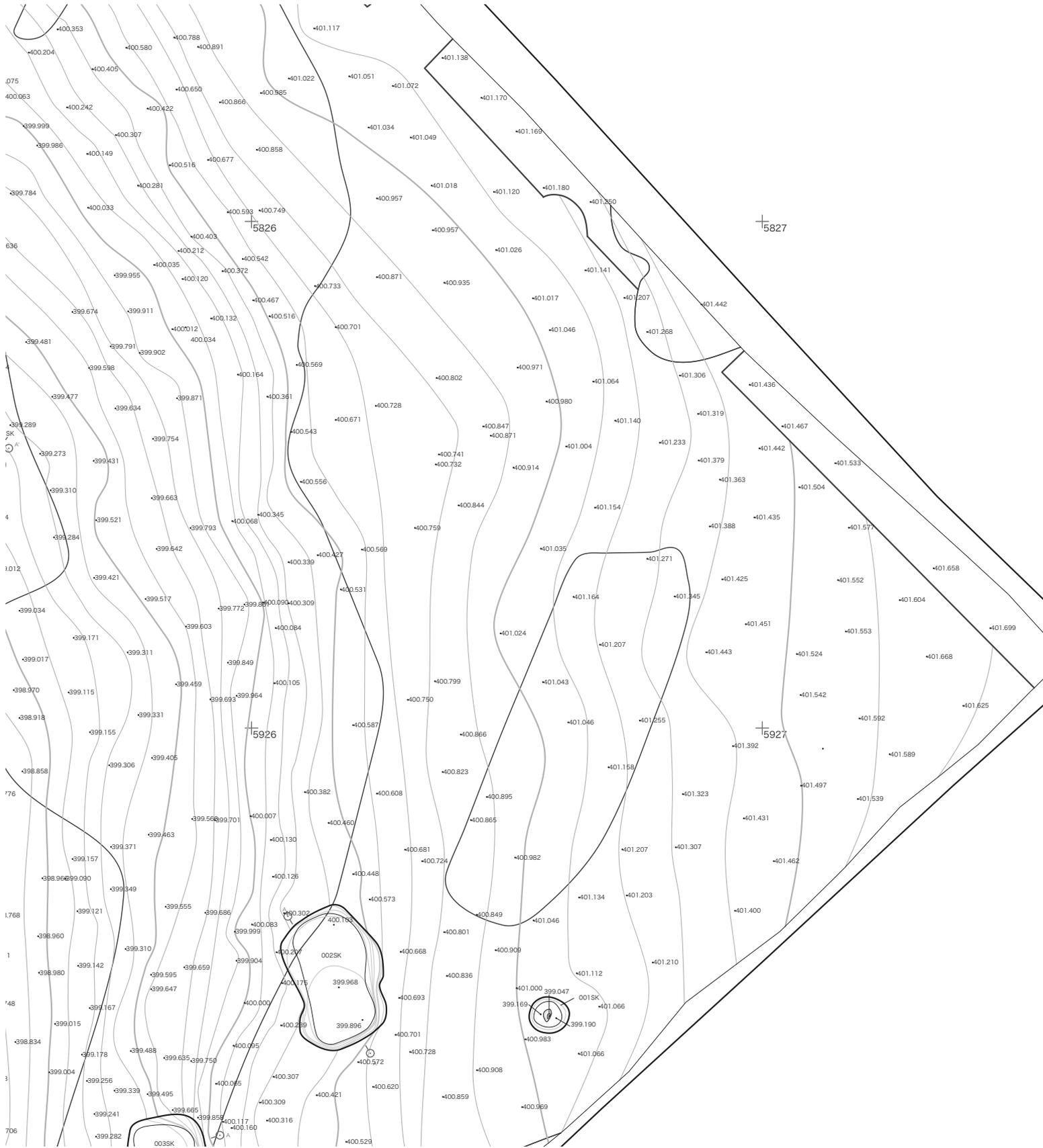


図 2-67 15 調査区 遺構全体図 -9 (S=1:100)

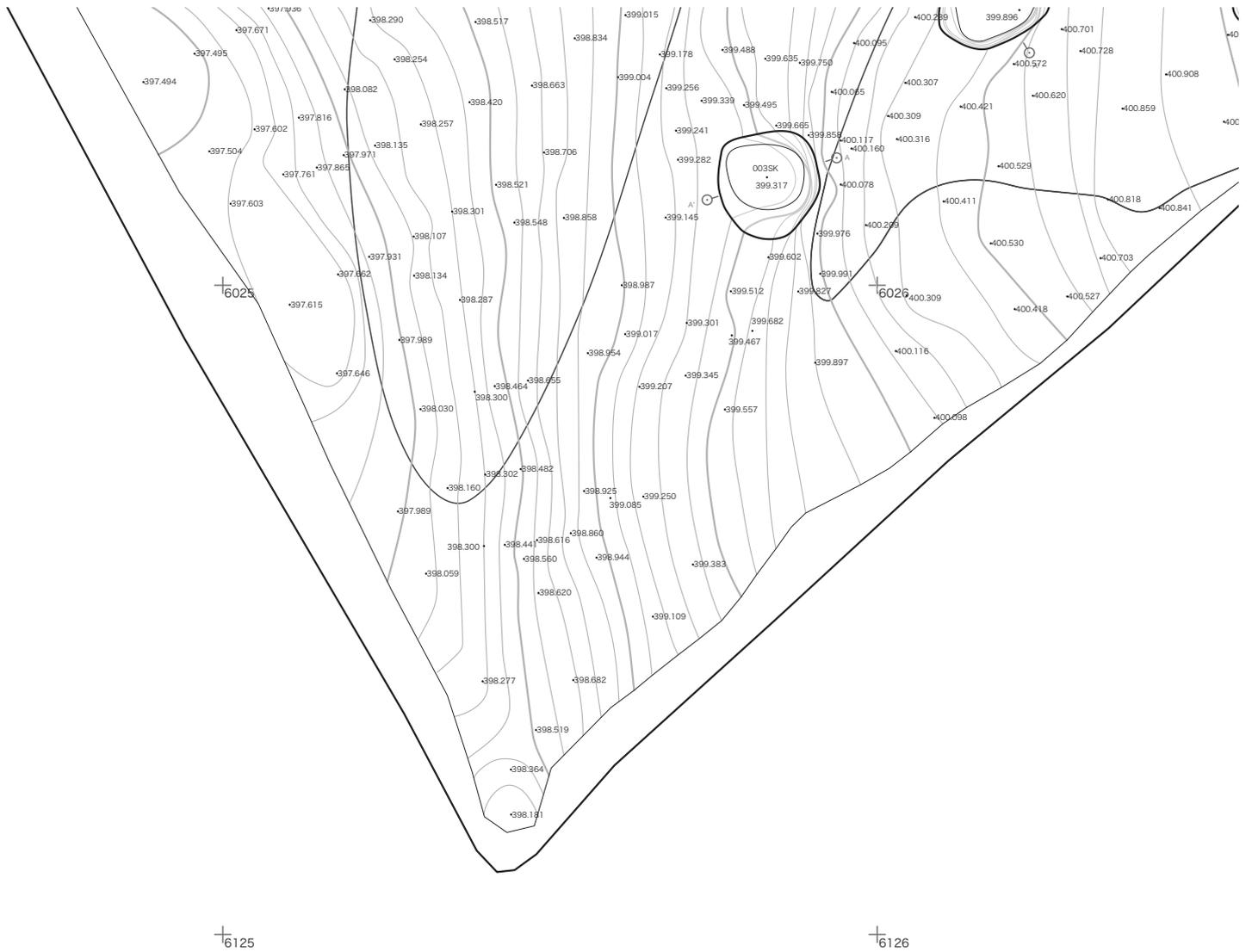


図 2-68 15 調査区 遺構全体図 -10 (S=1:100)



図 2-69 16 調査区 遺構全体図-1 (S=1:100)

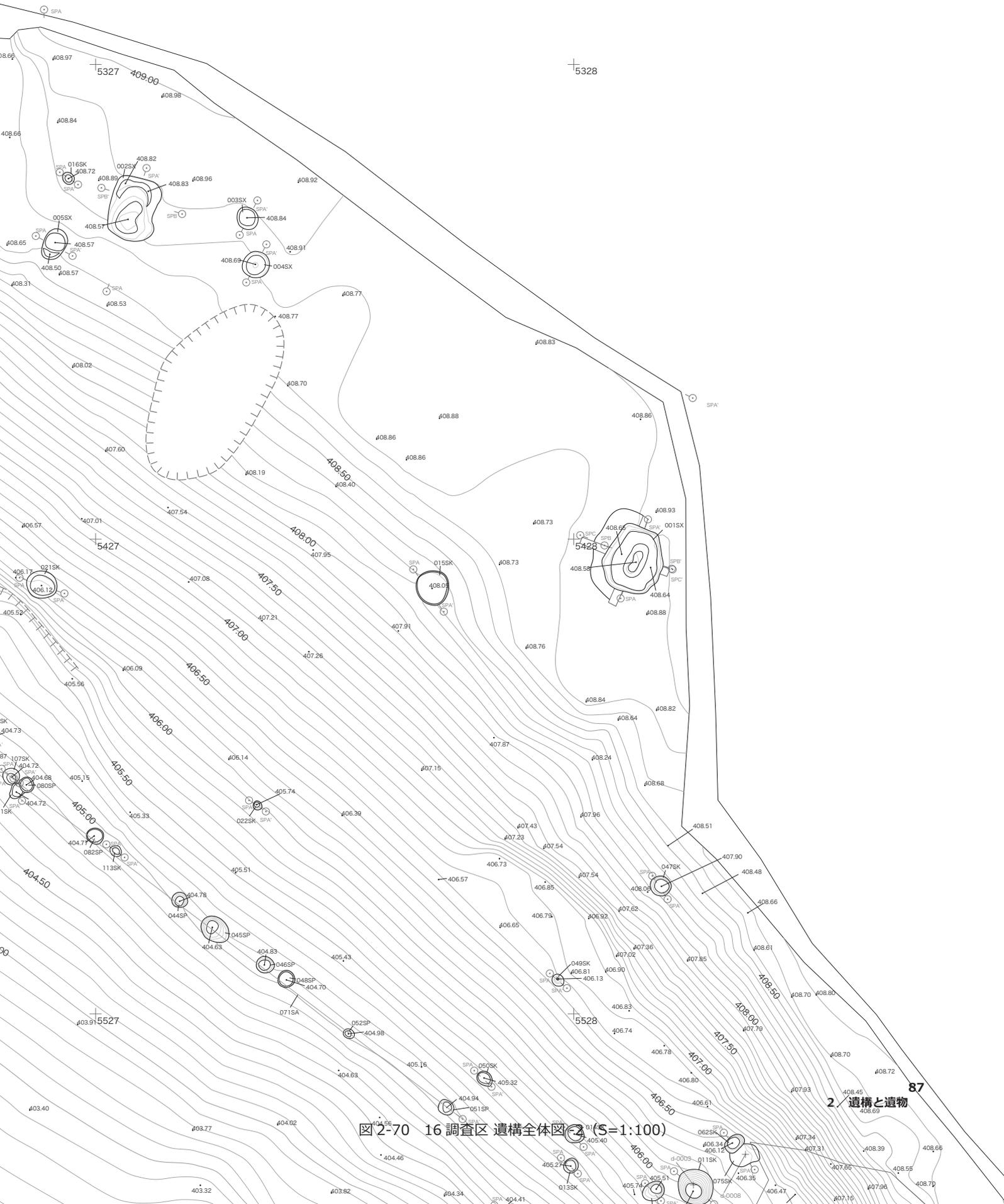


図2-70 16 調査区 遺構全体図② (S=1:100)

2 遺構と遺物 87

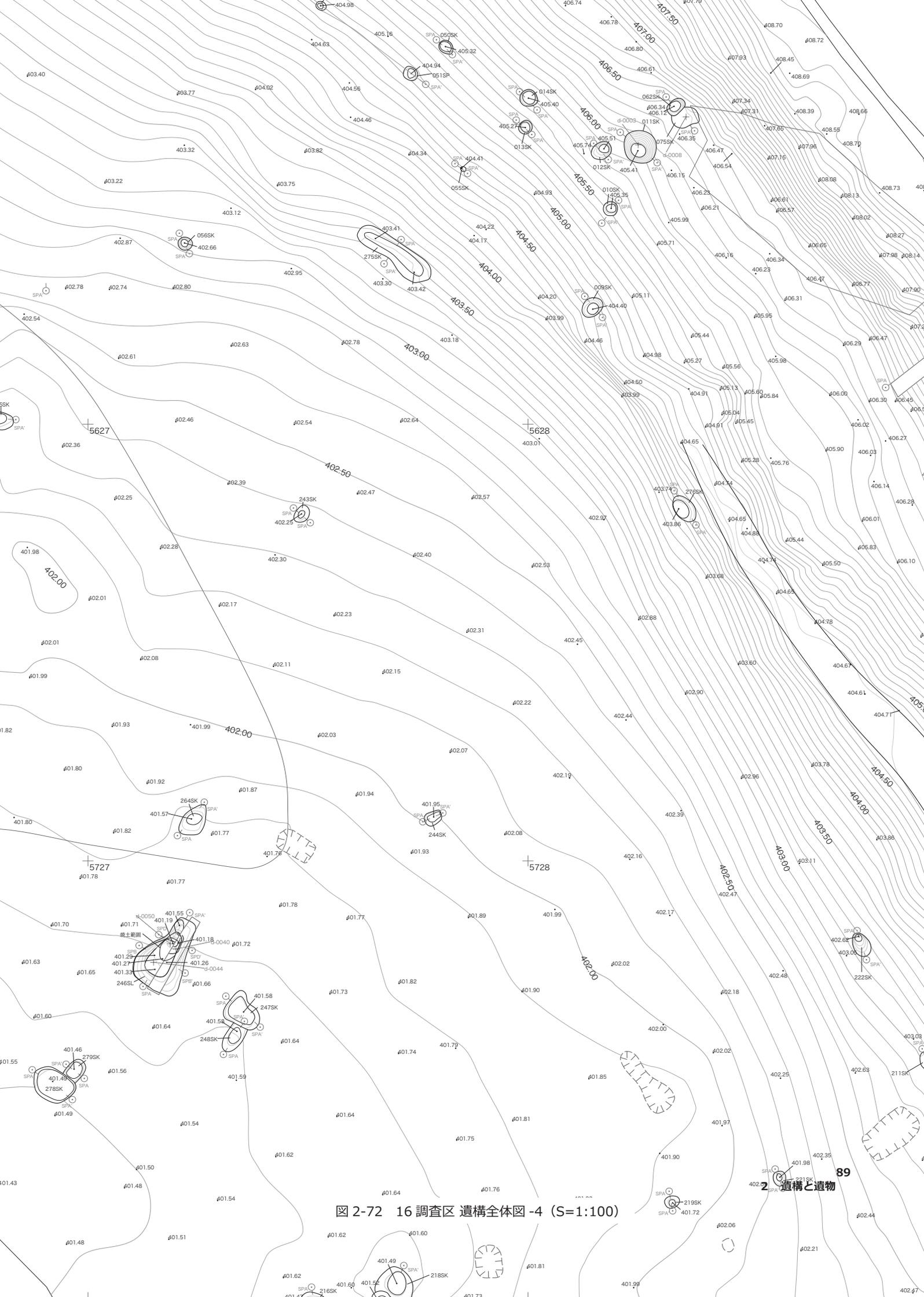


图 2-72 16 調査区 遺構全体図-4 (S=1:100)



図 2-73 16 調査区 遺構全体図-5 (S=1:100)



2 遺構と遺物

図 2-74 16 調査区 遺構全体図 -6 (S=1:100)

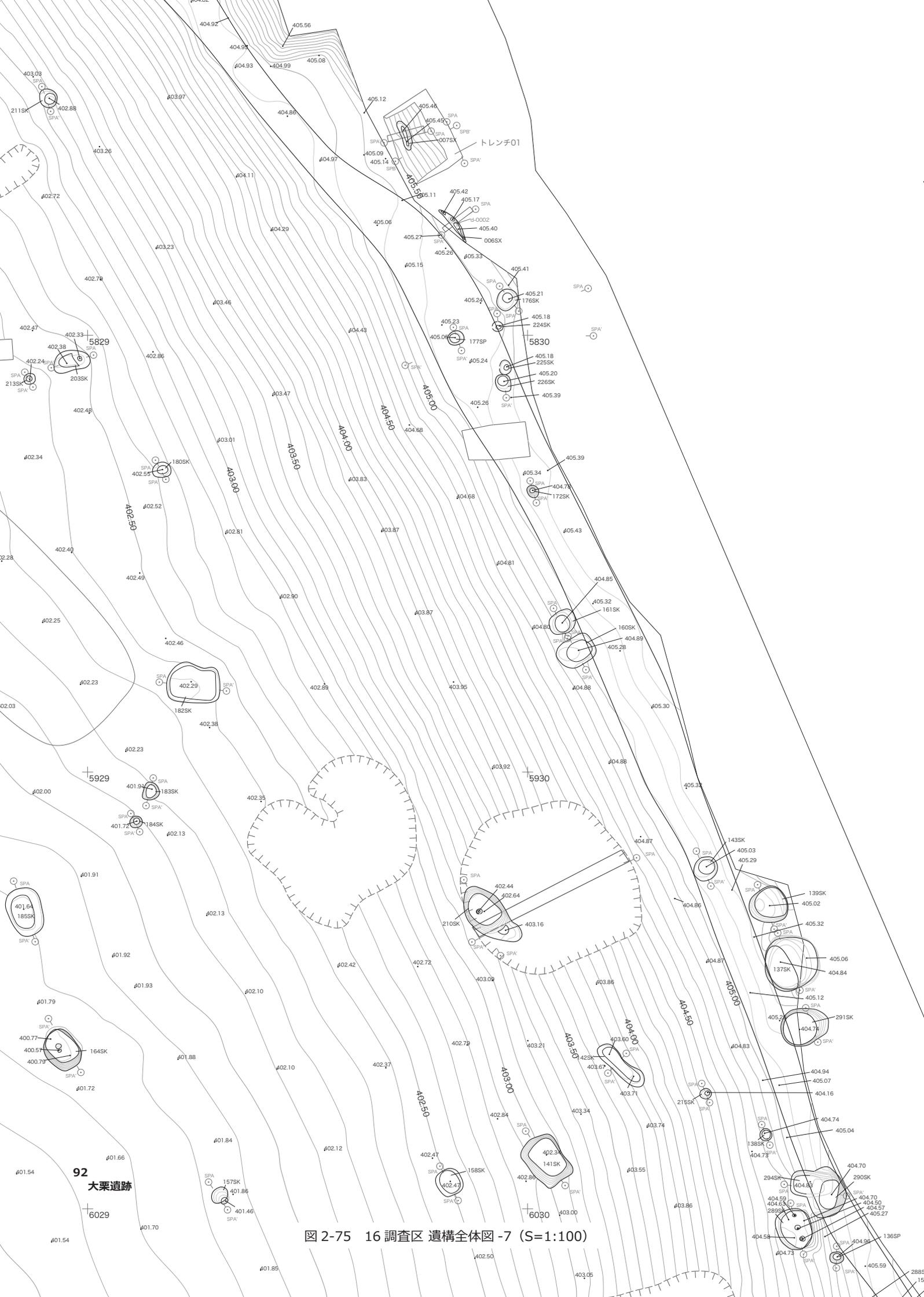


図 2-75 16 調査区 遺構全体図 -7 (S=1:100)



图 2-78 16 調査区 遺構全体図 -10 (S=1:100)

第3章 自然科学分析

1. 大栗遺跡における層序と古環境

鬼頭 剛・古澤 明・(株) パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

1. はじめに

大栗遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を報告する。

2. 試料および分析方法

各調査区で地表から、あるいは遺構検出面からバックホーにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。また、各調査区の層序断面からは火山灰分析、放射性炭素年代測定の試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤 (2003) の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製 # 255 メッシュシート (糸径 $43 \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $57 \mu\text{m}$) を用い、流水中で洗浄した。残渣を # 125 メッシュシート (糸径 $70 \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $133 \mu\text{m}$) を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ ($1/8 \sim 1/16$) に粒度調整した試料を超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉋物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレパラート封入した粒子を偏光

顕微鏡 (100 倍) を用いて観察し、火山灰純層の場合 300 粒子 (1000 粒子の平均値) を古澤 (2003) の区別手法にしたがって区分した。また、火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子 (10000 粒子の平均値) の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置 "MAIOT" を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 、斜方輝石および角閃石で ± 0.0002 程度である (古澤, 1995)。火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SU1510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー (EDX) は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。火山灰分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析 (AMS) 法により測定を行なった。加速器質量分析法は $125 \mu\text{m}$ の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨 (グラファイト) に調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: INTCAL20) を使用した。なお、2 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して産出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.45% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味す

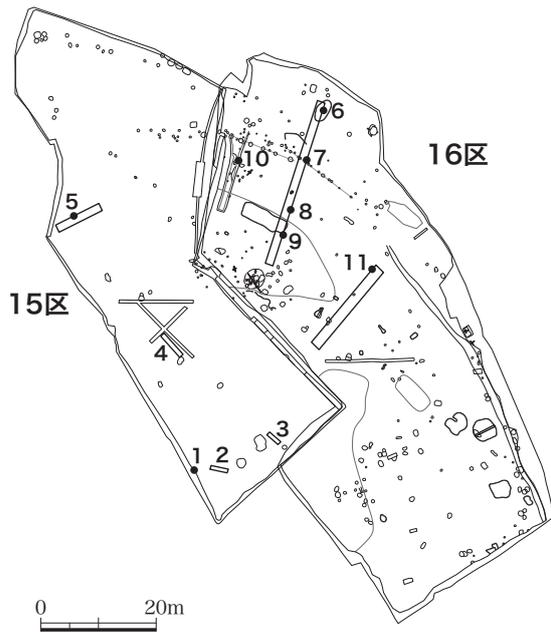


図 3-1-1 大栗遺跡における分析試料採取地点

●は採取地点、数字は地点番号を示す

る。放射性炭素年代測定は株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループが行なった。

3. 分析結果

各調査区での試料採取

15区で地点1から地点5の5地点、16区で地点6から地点11まで6地点の計11地点でバックホーによる深掘を実施し、層序の観察・記載と分析試料を採取した(図3-1-1)。地点番号順に記す。

地点1は15区南西方向の調査区の壁際で



バックホーにより遺構検出面からさらに掘り下げた(図3-1-2・3)。下位層より、標高397.14~398.04mは角礫を主体とする中礫~大礫層であり、礫径5cm~10cmの礫が多くみられる。掘り出された礫の中には礫径として長径(a軸)120cmの礫もみられた。基質は黄褐色~褐

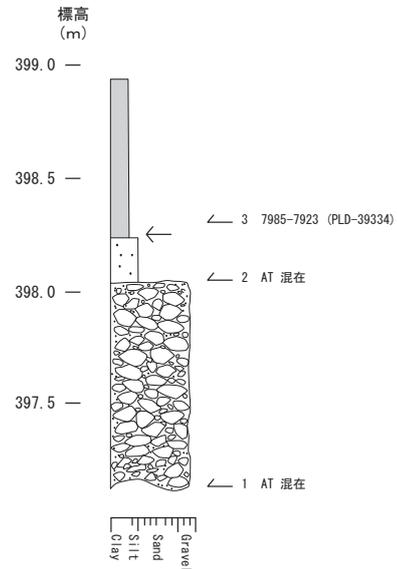


図 3-1-2 地点1(15A区)の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す

放射性炭素年代測定値(PLD-)と検出された火山灰(AT: 始良 Tn)を示す

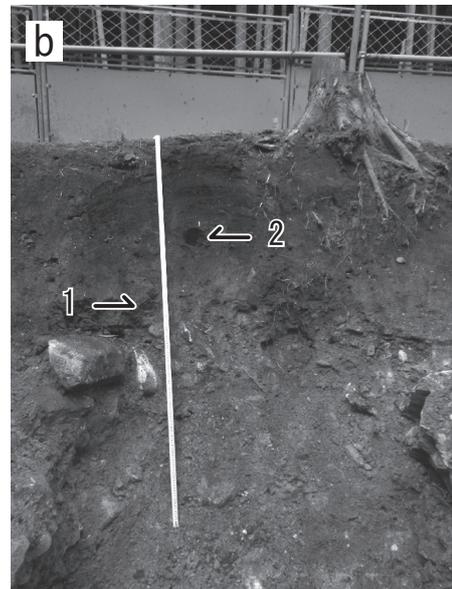


図 3-1-3 地点1(15A)の分析試料採取状況

a. 調査区南壁沿いで掘削(北西から撮影)

b. 層序断面(北から撮影)メジャーの長さは180cm

表 3-1-1 大栗遺跡 15 区における放射性炭素年代測定結果

調査地点 No.	試料 No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
1	3	397.80	黒褐色シルト質粘土層	土壌	7112 ± 28	-27.52 ± 0.23	6036 - 5974 BC (64.48 %)	7985 - 7923 (64.48 %)	PLD - 39334 (AMS)
							5949 - 5916 BC (25.48 %)	7898 - 7865 (25.48 %)	
							6061 - 6039 BC (5.48 %)	8010 - 7988 (5.48 %)	
2	3	398.35	暗褐色粘土層	土壌	7779 ± 29	-26.51 ± 0.23	6653 - 6561 BC (78.89 %)	8602 - 8510 (78.89 %)	PLD - 39335 (AMS)
							6555 - 6505 BC (15.17 %)	8504 - 8454 (15.17 %)	
							6682 - 6673 BC (1.40 %)	8631 - 8622 (1.40 %)	
3	3	400.64	暗褐色粘土層	土壌	5498 ± 25	-25.50 ± 0.25	4364 - 4322 BC (73.59 %)	6313 - 6271 (73.59 %)	PLD - 43744 (AMS)
							4291 - 4260 BC (18.27 %)	6240 - 6209 (18.27 %)	
							4439 - 4425 BC (3.59 %)	6388 - 6374 (3.59 %)	
4	4	398.95	暗褐色～黒褐色礫混じり粘土層	土壌	8681 ± 30	-23.15 ± 0.19	7748 - 7595 BC (95.45 %)	9697 - 9544 (95.45 %)	PLD - 43745 (AMS)

色を呈する細礫～極粗粒砂から構成される。本層の下底、標高 397.14m の基質部分で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 398.04m ~ 398.24m は黄褐色を呈する砂質シルト層からなる。堆積構造はみられない。本層と下位の礫層の層理面は凹凸が激しく不明瞭である。本層と本層を覆う黒褐色シルト質粘土層との境界付近が遺構検出面となる。本層の下部、標高 398.05m で試料 2 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 398.24m ~ 398.94m は黒褐色のシルト質粘土層である。草刈りガマで簡単に削れ、固結度が低くボソボソとした感触を得る。下位層である砂質シルト層との層理面は凹凸が激しく不明瞭である。本層からは平安時代の遺物が出土する。本層の頂部、標高 398.43m が地表面となる。本層の下部、標高 398.31m から採取した試料 3 の放射性炭素年代測定値は 7985 - 7923 cal yrs BP(6036 - 5974 BC : PLD-39334) であった (表 3-1-1)。

地点 2 では 15 区の南端において遺構検出面に巨礫が露出する個所でバックホーによる掘削を行った (図 3-1-4・5)。下位層より、標高 397.57m ~ 397.84m は角礫を主体とする中礫～巨礫層である。礫には長径 (a 軸) 約 1m のものもみられる。礫の淘汰は不良である。基質は黄褐色～褐色を呈する極細粒砂からなり、土壌化している。本層の下底、標高 397.57m の試料 1 から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 397.84m ~ 398.27m は黄褐色を呈する粘土層からなる。堆積構造はみられない。草刈りガマで地層の表面を削ると簡単に削れ、ボソボソとした感触を得る。粘土層には中礫～大礫サイズの礫が含まれる。本層の下部、標高 397.87m の試料

2 から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 398.27m ~ 398.67m は暗褐色を呈する粘土層である。植物の根跡がみられ、堆積構造は破壊されてしまっており観察されない。本層と下位層の黄褐色粘土層との層理面は凹凸が激しく不明瞭である。本層の頂部、標高 398.67m が遺構検出面である。本層の下部、標高 398.35m で試料 3 を採取し、放射性炭素年代測定で 8602 - 8510 cal yrs BD (6653 - 6561 BC : PLD-39335) の数値年代を得た (表 3-1-1)。

地点 3 は 15 区の南東端において、地点 1 や地点 2 に比べて遺構検出面に露出してみられる礫の量が希薄になる個所での深掘である (図 3-1-6・7)。下位層より、標高 399.82m ~ 400.22m は角礫を主体とする中礫～巨礫層である。礫の淘汰は不良で、基質は黄褐色～褐色の極粗粒砂からなる。基質には土壌化がみられる。本層の下部、

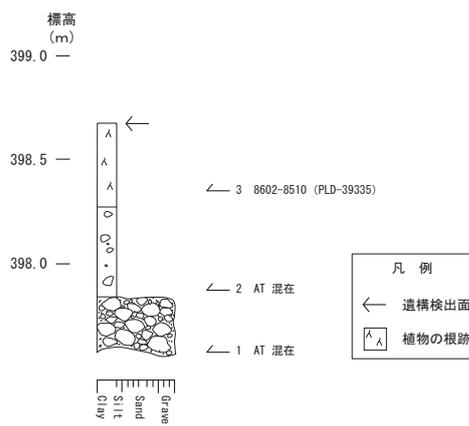


図 3-1-4 地点 2 (15A 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は資料番号、両矢印は遺構検出面を示す放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

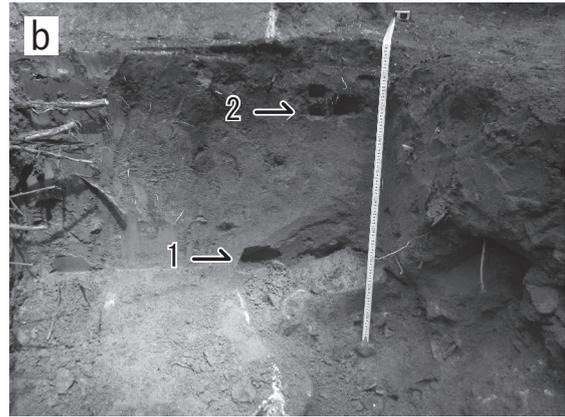


図 3-1-5 地点 2 (15A 区) の分析採取採取状況

a. 深掘掘削状況 (西から撮影)

b. 層序断面 (南から撮影) メジャーの長さは 100cm

標高 399.86m で試料 1 を採取した。分析は行っていない。標高 400.22m ~ 400.62m は赤褐色 ~ 褐色を呈する粘土層である。土壌化が進んでいる。草刈りガマで簡単に削れ、固結度は低く地層全体にボソボソとした感触を得る。堆積構造は認められない。本層と下位の礫層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 400.26m で試料 2 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 400.62m ~ 400.82m は暗褐色を呈する粘土層からなる。堆積構造はみられない。本層の頂

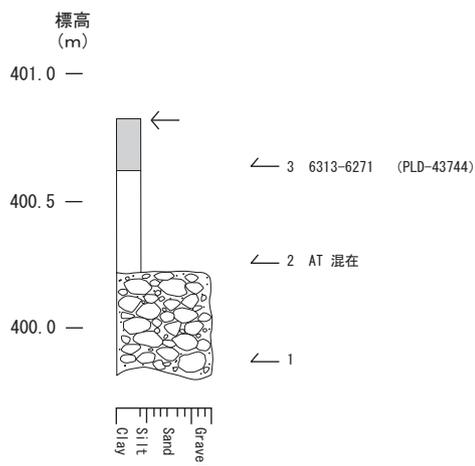
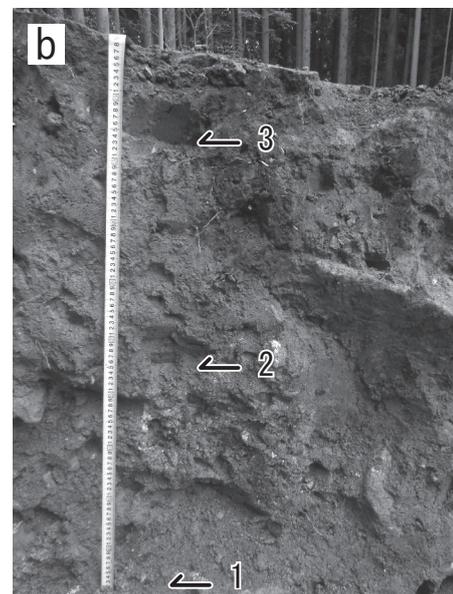


図 3-1-6 地点 3 (15A 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す

放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

図 3-1-7 地点 3 (15A 区) 分析試料採取状況

a. 深掘掘削状況 (北から撮影) 深度 1m

b. 層序断面 (北から撮影) メジャーの長さ 1m

部、標高 400.82m が遺構検出面となる。本層の下部、標高 400.64m で試料 3 を採取し、放射性炭素年代測定値は 6313 - 6271 cal yrs BP (4364 - 4322 BC : PLD-43744) であった (表 3-1-1)。

地点 4 は 15 区中央部で縄文時代の遺物が集中した範囲にあたり、北西 - 南東方向に掘削した (図 3-1-8・9)。下位層より、標高 398.01m ~ 398.41m は角礫を主体とする中礫~巨礫層である。礫には長径 1m のものも見られる。礫の淘汰は不良で、基質は細礫~極粗粒砂からなる。礫よりも基質の量が多い基質支持礫層である。本層の下部、標高 398.05m で試料 1 を採取しているが、分析は行っていない。標高 398.41m ~ 398.75m は黄褐色~褐色を呈する粘土層である。土壌化が著しく、塊状で堆積構造はみられない。本層の下部、標高 398.45m で試料 2 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 398.75m ~ 398.91m は褐色を呈する礫混じりの粘土層である。含まれる礫は中礫サイズから巨礫サイズが認められる。礫には定向配列がみられず、

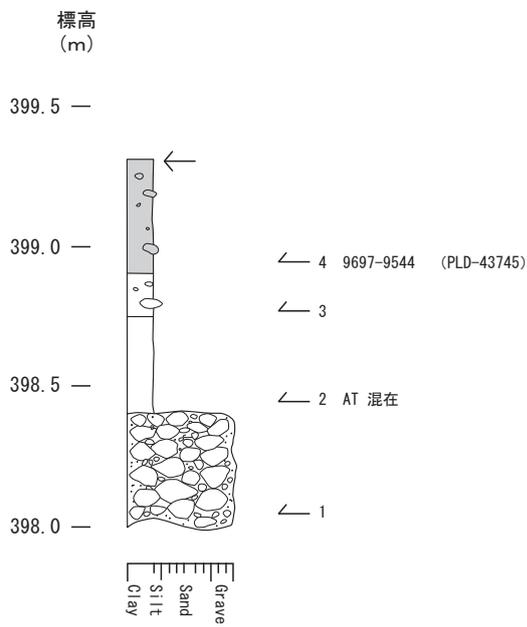


図 3-1-8 地点 4 (15A 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

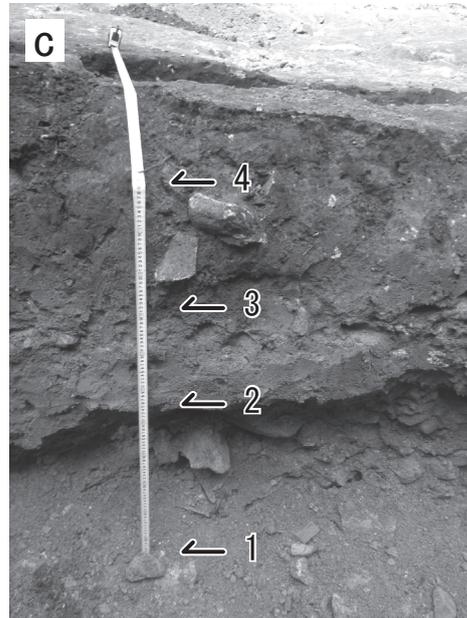


図 3-1-9 地点 4 (15A 区) の分析採取採取状況

- a. 深掘開始状況 (南西から撮影)
- b. 深掘掘削状況 (南西から撮影) 深度は約 1.3m
- c. 層序断面 (南西から撮影) メジャーの長さは 1.1m

無秩序である。粘土層には堆積構造はみられない。本層の下部、標高 398.77m で試料 3 を採取した。分析は行なっていない。標高 398.91m ~ 399.31m は黒褐色～暗褐色の粘土層である。中礫サイズから巨礫サイズまでの幅広い礫径がみられるが、見かけ上長径 (a 軸) 10cm ほどの大礫サイズのものも多く感じられる。含まれる礫は角礫からなり、定向配列はみられず無秩序に配置する。粘土層には堆積構造はみられない。本層が縄文時代の遺物包含層にあたり、本層の頂部、標高 399.31m が遺構検出面となる。本層の下部、標高 398.95m で試料 4 を採取し、放射性炭素年代測定値は 9697 - 9544 cal yrs BP (7748 - 7595 BC : PLD-43745) の数値年代を得た (表 3-1-1)。

地点 5 は 15 区中央部の西端で北東 - 南西方向に掘削した (図 3-1-10・11)。下位層より、標

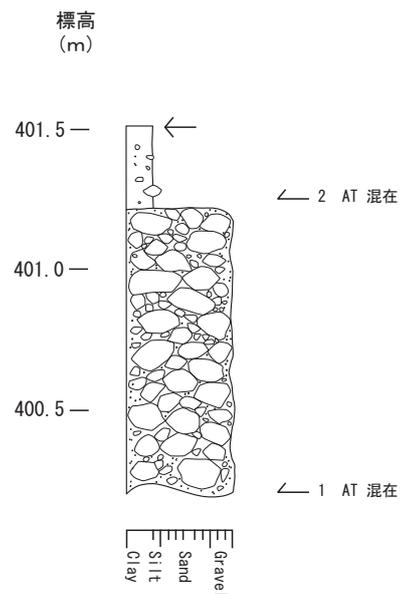


図 3-1-10 地点 5 (15B 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す

放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

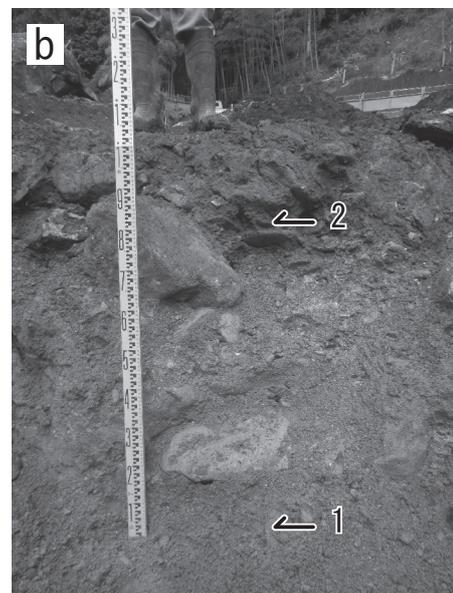


図 3-1-11 地点 5 (15B 区) の分析採取採取状況

a. 深掘掘削状況 (南東から撮影)

b. 層序断面 (南から撮影) スタッフの長さは 1.3m

c. 掘り出された礫層の中の巨礫 スタッフの長さは約 2m

高 400.20m ~ 401.20m は角礫～亜角礫からなる中礫～巨礫層である。見かけ上長径 (a 軸) が 10cm ほどの大礫サイズの礫が多く感じられる。掘り出される巨礫の中には長径 (a 軸)、中径 (b 軸)、短径 (c 軸) とともに 1m を超えるものもみられる (図 3-1-11c)。礫の淘汰は不良で、基質は細礫～極粗粒砂混じりのシルト質粘土からなる基質支持礫層である。本層の下底、標高 400.20m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 401.20m ~ 401.50m は黄褐色～褐色を呈する礫混じりのシルト質粘土層である。粘土層中には中礫サイズから巨礫サイズの角礫～亜角礫を無秩序に含む。礫は不淘汰で、礫に堆積構造はみられない。本層の頂部、401.50m が遺構検出面である。本層の下部、標高 401.24m で試料 2 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。

16 区の北側において北から南への緩斜面にある調査区内の、標高の高い地点 (約 408m) から低い地点 (約 402m) まで南北方向に掘削した (図 3-1-15a)。標高の高い北から順に地点 6、地点 7、地点 8、地点 9 を設定した (図 3-1-1)。地点番号順に記す。

地点 6 は南北トレンチの北端の掘削地点である (図 3-1-12・15b)。下位層より、標高 406.50m ~ 407.25m は角礫を主体とする中礫～巨礫層である。基質は黄褐色～褐色を呈する粘土からなり、礫よりも基質の量が多い基質支持礫層である。基質である粘土の固結度は高く、草刈りガマの刃先に力を入れないと地層を削り取ることができない。礫の淘汰は不良で基質の粘土の中に無秩序に堆積し、定向配列はみられない。礫種は片麻岩のみで構成され、風化が進んでいるものが多い。本層の下底、標高 406.54m で試料 1 を採取し火山灰分析を行なったが、火山灰を起源とする堆積粒子は検出されなかった。標高 407.25m ~ 407.75m も下位層と同じ角礫層であるが、地層に含まれる礫の量が下位層に比べて少なくなるため区別することができる。基質は黄褐色～褐色を呈する粘土で、基質支持礫層である。本層の基質である粘土の固結度も高く、草刈りガマの刃先に

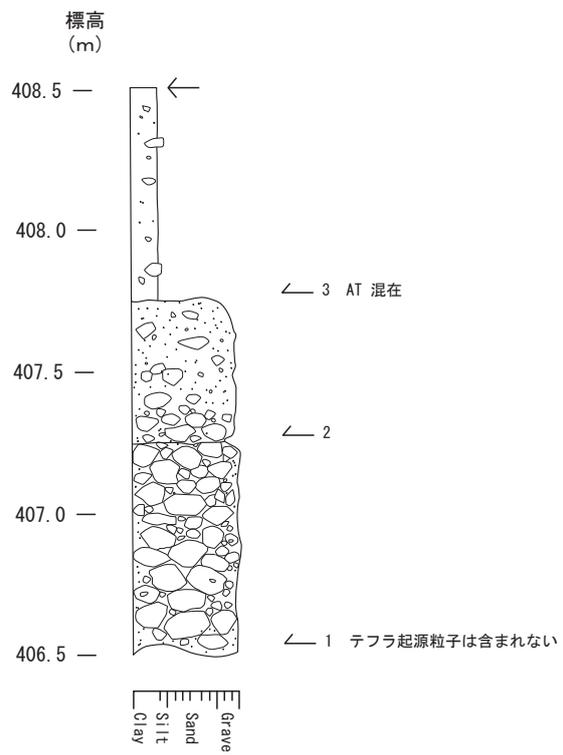


図 3-1-12 地点 6 (16 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

力を入れないと地層を削り取ることができない。礫は不淘汰で基質の粘土の中に無秩序に堆積し、下位の礫層に比べると礫は分散して認められる。礫には定向配列がみられない。礫種は片麻岩のみで構成され、風化が進んでいるものが多い。本層の下部、標高 407.28m で試料 2 を採取した。分析は行っていない。標高 407.75m ~ 408.50m は赤褐色を呈する礫混じり粘土層である。粘土層には中礫サイズから大礫サイズの礫が無秩序に含まれる。粘土層には堆積構造が全くみられない。土壌化が著しい。固結度が高く、草刈りガマで削りにくい。本層と下位層の角礫層との層理面は不明瞭である。本層の頂部、標高 408.50m が遺構検出面となる。本層の下部、標高 407.78m で採取した試料 3 からは始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。

地点 7 は地点 6 と同じ南北トレンチ内の掘削

地点である（図 3-1-13・15c）。下位層より、標高 403.55m～403.67m は黄褐色～褐色を呈する粘土混じりの細粒砂層からなる。淘汰は比較的良好であるものの、堆積構造はみられない。砂を構成する鉱物粒子の風化は進んでいる。固結度は高く、草刈りガマで削りにくい。本層の下部、標高 403.57m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 403.67m～403.77m は黄褐色～褐色を呈する粘土層である。土壌化が著しく、塊状で堆積構造はみられない。固結度は高く、草刈りガマで削りにくい。本層と下位層である砂層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 403.69m で試料 2 を採取した。分析は行っていない。標高 403.77m～404.25m は赤褐色～褐色を呈する礫混じりの粘土層である。粘土層には中礫サイズから大礫サイズの礫が無秩序に含まれる。粘土層には堆積構造が全くみられない。土壌化が著しい。固結度は高く、草刈りガマで削りにくい。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 403.81m で

試料 3 を採取した。分析は行っていない。標高 404.25m～404.81m は赤褐色～褐色の粘土層である。塊状で堆積構造はみられない。下位の粘土層には礫が含まれたが、本層ではみられなくなる。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭であり、礫が含まれる有無により地層が区分される。粘土が土壌化している。固結度は高く、草刈りガマで削りにくい。本層の下部、標高 404.29m で試料 4 を採取した。分析は行っていない。標高 404.81m～405.00m は暗褐色の礫混じり粘土層である。粘土層中には中礫サイズから大礫サイズの礫が無秩序に含まれる。粘土層には堆積構造はみられない。本層の頂部、標高 405.00m が遺構検出面となる。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 404.83m で試料 5 を採取した。

地点 8 も地点 6 と地点 7 と同じ南北トレンチ内の掘削地点である（図 3-1-14・15d）。下位層より、標高 401.70m～401.82m は角礫を主体とする中礫～巨礫層である。礫の淘汰は不良で、定向配列はみられない。基質は黄褐色～褐色を呈

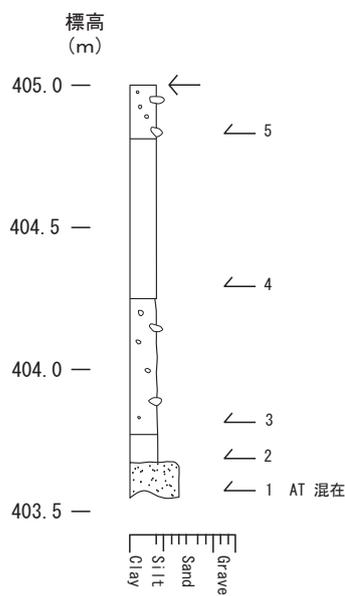


図 3-1-13 地点7(16区)の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

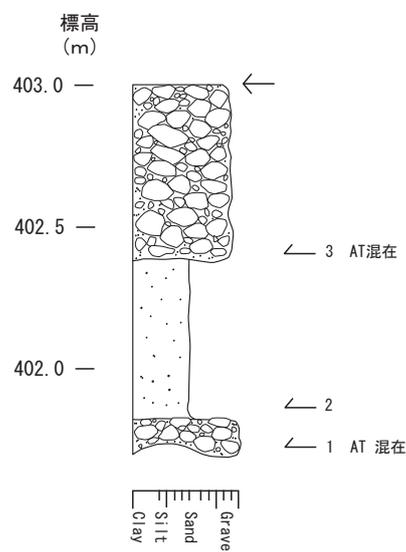


図 4-1-14 地点8(16区)の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

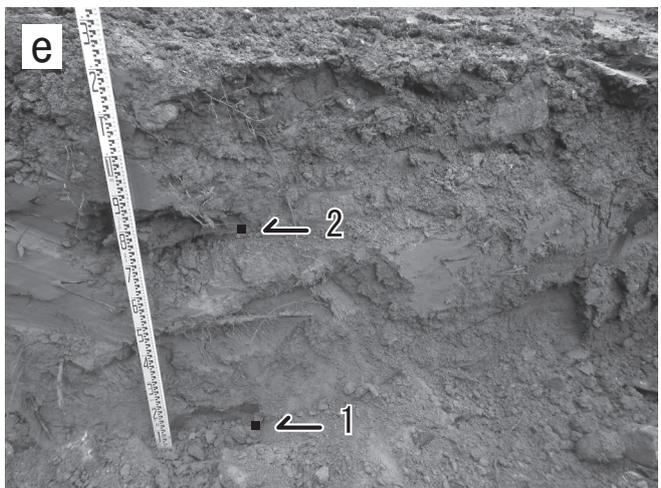
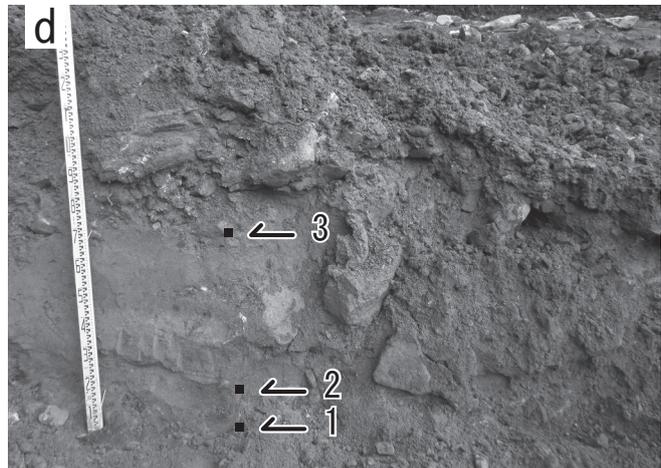
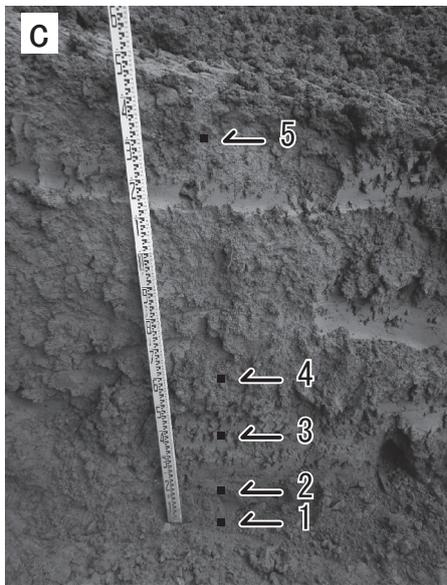
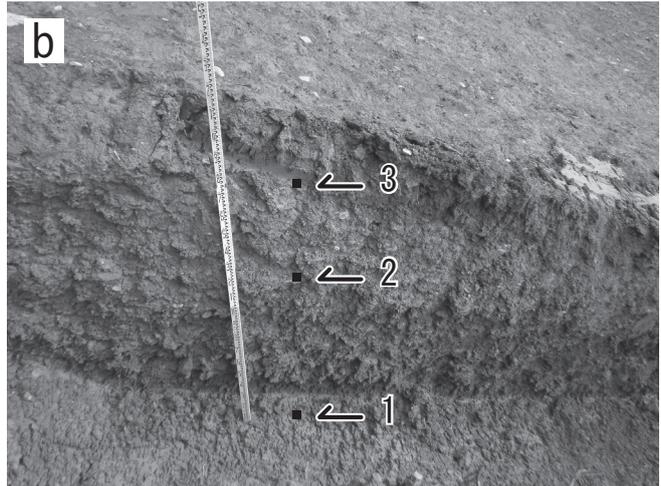


図 3-1-15 地点 6～地点 9 (16 区) の分析採取採取状況

- a. 深掘掘削状況 (北から撮影) スタッフの長さは約 3.5m
- b. 地点 6 の層序断面 (西から撮影) スタッフの長さは 2.5m
- c. 地点 7 の層序断面 (西から撮影) スタッフの長さは 1.6m
- d. 地点 8 の層序断面 (西から撮影) スタッフの長さは 1.5m
- e. 地点 9 の層序断面 (西から撮影) スタッフの長さは 1.3m

する粗粒砂からなる基質支持礫層である。本層の下部、標高 401.72m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 401.82m ~ 402.38m は黄褐色を呈する中粒砂層である。淘汰は良好であるが、堆積構造はみられない。地層全体は塊状で堆積構造は認められない。本層の下部、標高 401.86m で試料 2 を採取しているが、分析は行っていない。標高 402.38m ~ 403.00m は角礫を主体とする中礫~巨礫層である。礫の淘汰は不良で、定向配列はみられない。基質は赤褐色~褐色を呈する極粗粒砂~粗粒砂からなり、礫の量に比べて基質が多い基質支持礫層である。本層の頂部である標高 403.00m が遺構検出面となる。本層の下部、標高 402.40m で試料 3 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。

地点 9 は南北トレンチの南側の掘削地点である (図 3-1-15e・16)。下位層より、標高 401.29m ~ 402.04m は黄褐色~褐色のシルト質砂層である。塊状で淘汰は良好である。堆積構造は認められない。本層の下部、標高 401.33m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標

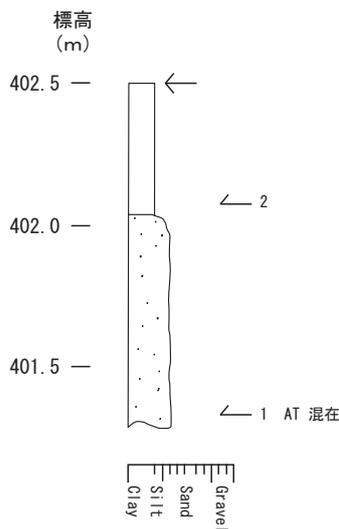


図 3-1-16 地点 9(16 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、
両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出さ
れた火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

高 402.04m ~ 402.50m は赤褐色~褐色の粘土層である。塊状で堆積構造はみられない。本層の頂部、標高 402.50m が遺構検出面となる。本層

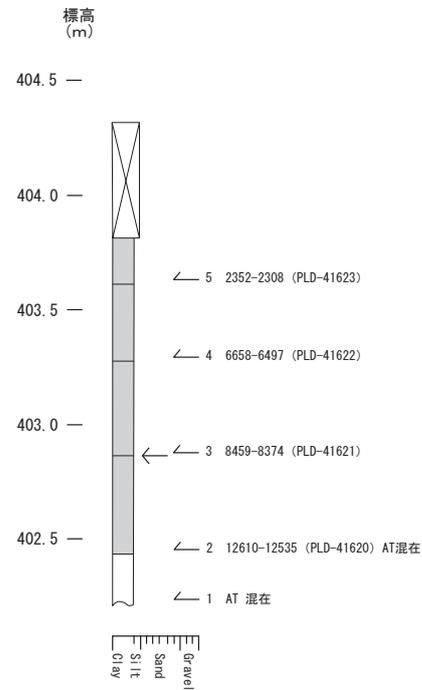


図 3-1-17 地点 10(16 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

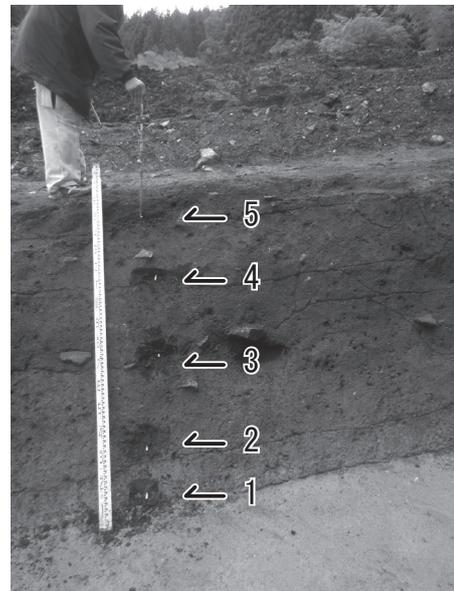


図 3-1-18 地点 10(16 区) の分析採取採取状況

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号
スタッフの長さは 1.7m (東から撮影)

の下部、標高 402.07m で試料 2 を採取しているが、分析は行っていない。

地点 10 は 16 区北側の西端において、地層の層序関係を確認するために設定された地層断面である（図 3-1-17・18）。下位層より、標高 402.22m ~ 402.44m は褐色を呈する粘土層である。塊状で堆積構造はみられない。本層の下部、標高 402.24m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 402.44m ~ 402.87m には一見すると地層全体が黒褐色粘土層に見えるものの、観察すると黒褐色粘土あるいは褐色粘土からなる細片化した粘土のブロックが混在する地層である。粘土ブロックは無秩序に混ざり、堆積構造はみられない。本層と下位の粘土層との層理面は凹凸が激しく、鮮明な層理面を示さず不明瞭である。本層の下部、標高 402.46m で試料 2 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。また、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行い 12610 - 12535 cal yrs BP (10661 - 10586 BC : PLD-41620) の数値年代を得ている（表 3-1-2）。標高 402.87m ~ 403.28m は黒褐色を呈する粘土層からなる。堆積構造はみられない。草刈りガマにより地層の表面は簡単に削れ、固結の程度は低く地層全体にボソボソとした感触がある。本層と下位の粘土ブロック層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 402.88m で試料 3 を採取し、放射性炭素年代測定により 8459 - 8374 cal yrs BP (6510 - 6425 BC : PLD-41621) の測定値であった（表 3-1-2）。標高 403.28m ~ 403.62m は黒褐色の粘土層である。堆積構造はみられない。本層も草刈りガマで簡単に削れ、地

層全体にボソボソとした感触がある。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 403.30m より試料 4 を採取し、放射性炭素年代測定により 6658 - 6497 cal yrs BP (4709 - 4548 BC : PLD-41622) の数値年代を得た（表 3-1-2）。標高 403.62m ~ 403.82m は黒褐色を呈する粘土層である。堆積構造はみられない。本層も草刈りガマで簡単に削れ、地層全体にボソボソとしている。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭である。本層の下部、標高 403.64m で試料 5 を採取し、放射性炭素年代測定より 2352 - 2308 cal yrs BP (403 - 359 BC : PLD-41623) の測定値であった（表 3-1-2）。標高 403.82m ~ 404.32m は現代の人工的な盛土であり、本層の頂部、標高 404.32m が地表となる。

地点 11 は 16 区の中央部において、調査区内の標高の高い地点から低い地点へ北東 - 南西方向に掘削した、その北端地点である（図 3-1-19・20）。下位層より、標高 400.30m ~ 400.40m は角礫を主体とする中礫サイズから巨礫サイズの礫層である。礫は不淘汰であり、堆積構造はみられない。基質は細礫 ~ 粗粒砂からなり、基質支持礫層である。本層の下部、標高 400.32m で試料 1 を採取し、始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標高 400.40m ~ 401.95m は赤褐色 ~ 褐色を呈する粘土層からなる。塊状で堆積構造はみられない。草刈りガマで地層の表面を削った感触では地層全体に風化が進み、ボソボソとした印象を受ける。本層と下位の礫層との層理面は不明瞭である。本層の下底、標高 400.42m で採取した試料 2 から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された。標

表 3-1-2 大栗遺跡 16 区における放射性炭素年代測定結果

調査地点 No.	試料 No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
10	2	402.46	褐色～黒褐色粘土層	土壌	10444 ± 32	-23.47 ± 0.18	10661 - 10586 BC (24.46 %)	12610 - 12535 (24.46 %)	PLD - 41620 (AMS)
							10549 - 10479 BC (18.61 %)	12498 - 12428 (18.61 %)	
							10364 - 10299 BC (17.89 %)	12313 - 12248 (17.89 %)	
							10292 - 10220 BC (17.31 %)	12241 - 12169 (17.31 %)	
							10449 - 10371 BC (15.67 %)	12398 - 12320 (15.67 %)	
							10170 - 10154 BC (1.51 %)	12119 - 12103 (1.51 %)	
10	3	402.88	黒褐色粘土層	土壌	7633 ± 27	-26.88 ± 0.14	6510 - 6425 BC (91.16 %)	8459 - 8374 (91.16 %)	PLD - 41621 (AMS)
							6568 - 6549 BC (4.29 %)	8517 - 8498 (4.29 %)	
10	4	403.30	黒褐色粘土層	土壌	5782 ± 28	-29.01 ± 0.14	4709 - 4548 BC (95.45 %)	6658 - 6497 (95.45 %)	PLD - 41622 (AMS)
							403 - 359 BC (85.39 %)	2352 - 2308 (85.39 %)	
10	5	403.64	黒褐色粘土層	土壌	2299 ± 20	-25.02 ± 0.12	277 - 260 BC (6.06 %)	2226 - 2209 (6.06 %)	PLD - 41623 (AMS)
							244 - 234 BC (4.00 %)	2193 - 2183 (4.00 %)	
							12078 - 11852 BC (95.45 %)	14027 - 13801 (95.45 %)	
11	3	401.96	黒褐色シルト質粘土層	土壌	12028 ± 36	-25.36 ± 0.12	12078 - 11852 BC (95.45 %)	14027 - 13801 (95.45 %)	PLD - 41619 (AMS)

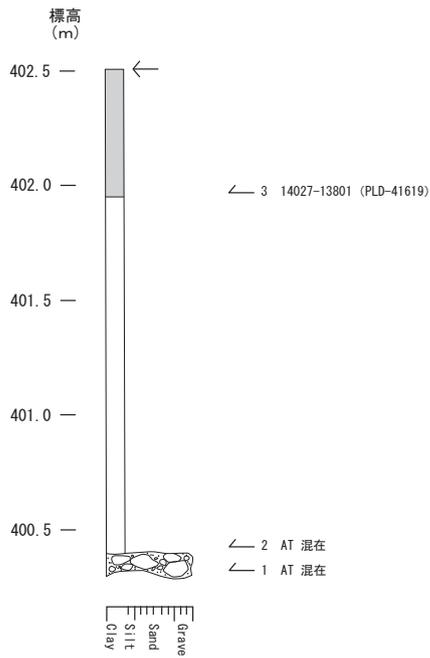


図 3-1-19 地点 11(16 区) の柱状図

片矢印は試料採取層準、数字は試料番号、両矢印は遺構検出面を示す
放射性炭素年代測定値 (PLD-) と検出された火山灰 (AT: 始良 Tn) を示す

高 401.95m ~ 402.50m は黒褐色を呈するシルト質粘土層からなる。堆積構造はみられない。草刈りガマで地層の表面は簡単に削れる。地層全体にボソボソとした感触がある。本層と下位の粘土層との層理面は不明瞭である。本層の頂部、標高 402.50m が遺構検出面となる。本層の下底、標高 401.96m で採取した試料 3 の放射性炭素年代測定では 14027 - 13801 cal yrs BP (12078 - 11852 BC : PLD-41619) の測定値であった (表 3-1-2)。

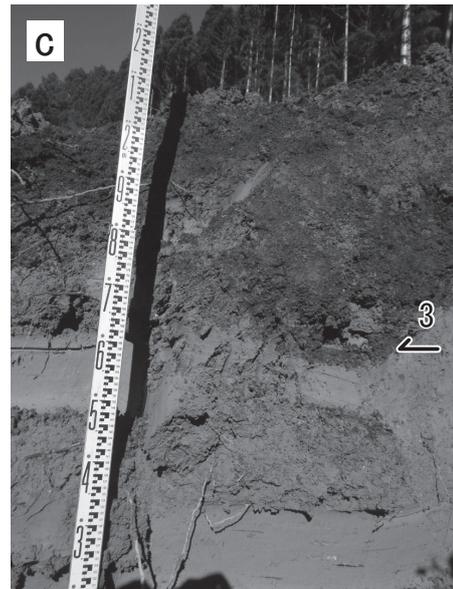
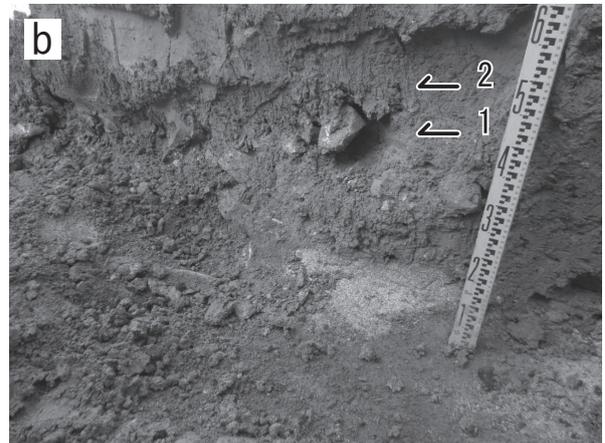


図 3-1-20 地点 11(16 区) の分析採取採取状況

- 深掘掘削状況 (北から撮影) スタッフの長さは約 3.5m
- 最下位の礫層 (東から撮影) スタッフの数字間は 10cm
- 上位で見られる黒褐色シルト質粘土層 (東から撮影) スタッフの長さは約 2m

4. 考察

大栗遺跡の古環境

傾斜面に設定された調査区

大栗遺跡の調査地は東西方向の水平距離約330m、北西-南東方向の水平距離約480mで南東方向へ半島状に突き出した標高370m～440mの舌状地形の南西側にひろがる緩斜面にある。舌状地形の南東端は急傾斜をもつ崖面となり、崖下には境川が北東-南西方向に流れている。調査地のある舌状地形の南には戸神川が南流する。戸神川は調査地点付近から約400m南で境川と合流する。戸神川は、境川との合流地点から北西約2.8kmの「さいの神峠」の標高800m付近、また、同じく境川との合流地点から北へ約2.6kmの設楽町峠の標高690m付近を分水嶺として北西から南東方向へ流れる河川である。調査地のある舌状地形の周辺には舌状地形よりも標高の高い地形がみられ、舌状地形を起点にして北およそ1.2kmの設楽町川向には標高792mの山地が、西へ約1.0kmには標高645mの山地が、北東へ約1.6kmの設楽町怒田には標高558mの山地がある。調査地のある舌状地形は、舌状地形よりも約100m～350mほど高い山地に周囲を囲まれた場所にあたる。標高の高い地形に囲まれているため、舌状地形付近には戸神川や、舌状地形から東へ約2.8kmの標高912mの鹿島山から西へ設楽町小松や同町添沢を通り流下してくる河川もあり、周辺地域からの集水地となっている。

上記のような特徴をもつ舌状地形の南西側斜面に設定された調査区において計11地点で深掘を実施した。深掘で観察された地層を概観すると、下位層には中礫から巨礫サイズの礫層がみられ、それらの礫層をシルト層や粘土層の細粒堆積物が覆うという上方細粒化傾向にあると言える。ところが、ここで注意しなくてはならないのが、今回の調査地が舌状地形を形成する斜面上に調査区が設定されていることである。調査地点全体が水平に近い、たとえば平野を形成する沖積低地の調査地であれば、地下でみられる層序関係の類似は、

同じような堆積環境における水理エネルギーの強弱の差を表すため、同じ堆積システムの基で考察することができる。いっぽう、今回の大栗遺跡の調査地のように、設定された調査区内に標高差が認められる場合には、類似した層序関係が得られたからと言って、すべてが同じ堆積システムの中で成り立つわけではない。そこで、あらためて大栗遺跡の調査地をみると、舌状地形の南西側斜面に設定された調査区の中にも、その標高に差異がみられることがわかる。調査区内の地形全体が一樣に南西側に傾斜するのではなく、調査区内には地形の傾斜角が変わる場所、いわゆる傾斜変換点が存在している。これは樋上(2017)により指摘されたが、調査区内にみられる斜面地形は標高403m付近を境として、それよりも標高の高い地点は周りよりも地形の傾斜が急で、標高403mよりも低い地点は周りよりも地形傾斜が緩くなる傾向が認められる。標高約403mが地形変換点となるのである。ちなみに樋上(2017)により大栗遺跡16区の遺構全体図に示された地形等高線を基にして逆正接(arctan)により地形の傾斜角を求めると、標高403mよりも標高の高い地点の傾斜角が約14度、標高403mよりも標高の低い地点の傾斜角が約7度となり、標高403mよりも高い地点は、低い地点の地形傾斜角の2倍の角度をもっていることがわかる。

基盤岩由来の礫を伴う斜面地の形成

先に述べてきたように、大栗遺跡は標高370m～440mの舌状地形の南西斜面にあり、調査区内には標高403mを境としてその上の急傾斜面と、標高403mよりも低い緩斜面とが認められた。このような調査地内にみられる地形傾斜の特徴に基づき深掘層序の結果をみると、深掘を実施した15区の地点1から地点5までと、16区の地点8から地点11までは標高403mよりも低い地点にあたり、16区の地点6と地点7は標高403mよりも高い地点となる。標高403mよりも高い16区の地点6と地点7では、地層全体が黄褐色～褐色を呈しており、粘土層の固結度は高

く、草刈りガマの刃先に力を加えないと地層を削ることが難しかった。16区地点6では下位の標高406.50m～407.75mには角礫を主体とする中礫～巨礫層が認められた。この礫層の礫間を埋める基質は粘土であった。また、礫は基質である粘土層の中に無秩序に分散してみられた。通常、径2mm以上の礫と径256分の1mmよりも小さな粘土粒子とは、それらが運ばれる水理エネルギーの大きさが異なり分級作用（ソーティング：sorting）がはたらくため同じ場所で同時にたまることはない。慣性重量の大きな礫が先に停止（堆積）し、粘土粒子は礫よりもさらに下流へと運ばれる。径の差が大きい粒子同士が渾然一体となってみられる場合、堆積物重力流である土石流による堆積作用が考えられる。土石流は密度の大きな岩塊を含んだ流れが一気に下流へ流下するため、下位層を侵食しながら下位層との間に明瞭な地層の境界をつくる。ところが、地点6でみられる標高406.50m～407.25mの礫層とその上を覆う標高407.25m～407.75mの礫層との層理面は不鮮明で、下位層との間の層理面が癒着してしまっており、明瞭な層理面をもたないのである。地点6の標高406.50m～407.75mでみられる礫層は角礫からなり、基盤岩を構成する片麻岩のみから構成された。片麻岩からなる基盤岩が風化・角礫化し、崖錐堆積物として斜面を形成し、崖錐礫としての礫と礫との間を風化物としての粘土が充填する。さらに降雨のあった際には礫と、礫の間を埋めた粘土とが一緒にゆっくりと流下するクリーピング堆積物（creeping soils）としてより標高の低い場所へ運ばれ、次第に調査区内の急傾斜面を形成したのかも知れない。このような堆積機構には河川といった河成作用は必要なく、16区の地点6の標高406.50m～407.25mでみられた角礫主体の中礫～巨礫層において、礫層の下底、標高406.54mの試料1の火山灰分析では火山灰を起源とする堆積粒子が検出されなかったのも、これらの礫層の堆積作用に上流部から流下してくるような水が関与しなかった可能性を示唆するのもかも知れない。いずれにせよ、地点6でみ

られたこのような礫層と礫間を埋める粘土からなる厚い地層は、設楽地域においてはじめて観察されるものであった。今後、類似の層相が確認される機会があれば堆積機構の詳細が判明するものと期待する。

いっぽうで、16区地点7では標高402.55m～403.67mに黄褐色～褐色を呈する細粒砂層からなり、砂層を覆って標高403.67m～405.60mまでを赤褐色や黄褐色、褐色の細粒な粘土層が覆った。これらの粘土層には堆積構造はみられず、土壌化が著しかった。他の地点に比べて地層の土壌化が著しいのも地点6と地点7の特徴であり、大気中にさらされて風化が進む程度に地層が堆積してから以降の年数が経過しているものと推定される。この16区の地点6・地点7の堆積時期について、地点6の標高407.75m～408.50mにみられた赤褐色の礫混じり粘土層において、標高407.78mの試料3から始良Tn火山灰(AT)を検出している。また、地点7の標高402.55m～403.67mにみられる黄褐色～褐色の細粒砂層において、標高403.50mの試料1から同じく始良Tn火山灰(AT)が検出されている。このように、地点6と地点7からは始良Tn火山灰(AT)が検出された。始良Tn火山灰(AT)の噴出年代は約2万9000年前～2万6000年前と見積もられている（町田・新井編，2003）。ただ、ここで注意いただきたいのは、火山灰の噴出年代がそのまま地点6や地点7の地層の堆積年代を示しているわけではないことである。地点6と地点7の地層から得られた始良Tn火山灰(AT)は、火山灰層として肉眼で観察されるようなある地層の厚さをもって検出されたわけではなく、堆積物を構成する鉱物の粒子群の中から篩別して抽出したものである。大栗遺跡の調査地点よりも標高の高いところに堆積していた始良Tn火山灰(AT)が、その後の浸食作用により二次的に調査地点まで運ばれてきた可能性も考えられる。しかし、約2万9000年前～2万6000年前と噴出年代がわかっている始良Tn火山灰(AT)が検出されたことから、16区の地点6と地点7の堆積物は少なくとも

も始良 Tn 火山灰 (AT) の噴出年代以降に堆積したことがわかった。

以上のことから、標高 403m よりも高く、急傾斜の斜面堆積物にあたる 16 区の地点 6 と地点 7 では基盤岩の片麻岩由来の角礫とその風化粘土からなる崖錐とクリーニング堆積物から構成されるものと推定された。また、その堆積時期は約 2 万 9000 年前～ 2 万 6000 年前の始良 Tn 火山灰 (AT) の噴出年代以降であることがわかった。

始良 Tn 火山灰 (AT) を伴う斜面地の形成

先に標高 370m ～ 440m の舌状地形の南西斜面において、標高 403m よりも高いところにみられる急斜面 (平均 14 度) の堆積環境と、約 2 万 9000 年前～ 2 万 6000 年前の始良 Tn 火山灰 (AT) の噴出年代以降の堆積時期について述べた。この始良 Tn 火山灰 (AT) は今回の大栗遺跡で実施した深掘の 11 地点すべてで確認される。例えば先に述べた 16 区の地点 6 は、深掘地点の中ではもっとも標高の高い場所で掘削されたが、標高 407.75m ～ 408.50m には赤褐色の粘土層が確認され、標高 407.78m の層準 (試料 3) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出されている (図 3-1-12)。さらに地点 6 の南の地点 7 においては、標高 402.55m ～ 403.67m に黄褐色～褐色の細粒砂層がみられ、標高 403.50m の層準 (試料 1) から始良 Tn 火山灰 (AT) を検出している (図 3-1-13)、16 区中央部の地点 11 においても標高 400.30m ～ 400.40m に角礫を主体とする礫層の標高 400.32m の層準 (試料 1) から、その礫層を覆う標高 400.40m ～ 401.95m の赤褐色～褐色粘土層において標高 400.42m の層準 (試料 2) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出されている。いっぽう、標高 403m よりも低い緩斜面側でも堆積物中から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出される。例えば、15 区南西端の地点 1 では標高 396.63 ～ 397.53m に中礫～大礫層が確認され、標高 396.63m の基質部分 (試料 1) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出し、さらに礫層を覆う標高 397.53m ～ 397.73m の黄褐色砂質シルト層に

おいて標高 397.53m の層準 (試料 2) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出されている (図 3-1-2)。同じ 15 区の地点 2 でも標高 397.57m ～ 397.84m に中礫～巨礫層がみられ、その標高 397.57m の層準 (試料 1) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された (図 3-1-4)。さらに地点 3 においても標高 400.22m ～ 400.62m にみられる赤褐色～褐色の標高 400.26m の層準 (試料 2) から始良 Tn 火山灰 (AT) が検出された (図 3-1-6)。以上のように、大栗遺跡の調査区内においては標高の高低に関わらず、すべての地下層序から始良 Tn 火山灰 (AT) が確認される結果を得ることができた。ところで、始良 Tn 火山灰 (AT) が確認される地層の層相は粗粒な礫層や砂層から細粒なシルト層と粘土層まで多様であり、あらゆる大きさの堆積粒子の中から検出されている。これは、始良 Tn 火山灰 (AT) の降灰以降に大栗遺跡の調査地点を流下する河成作用が活発化したことを示し、調査地点に頻りに碎屑物を堆積させるようになったことを示すものである。例えば 15 区の地点 5 において、標高 400.20m ～ 401.20m には中礫～巨礫層が確認され、掘り出された巨礫の中には径が 1m を超えるものがみられた (図 3-1-11c)。水理エネルギーが大きくなった証拠である。河成作用は碎屑物を運び、その場所に碎屑物をためるとともに、下位の地層を削り、運び出す作用もある。調査区内でみられた標高 403m よりも低い場所でみられた緩斜面は、活発化した河成作用による碎屑物の剝削と堆積の結果であると思われる。また、それは約 2 万 9000 年前～ 2 万 6000 年前の始良 Tn 火山灰 (AT) の降灰以降に生じたと言える。なお、火山灰の噴出年代がそのまま地層の堆積年代を示しているわけではないことを再びお断りしておく。

地層の上方向への累積の時代

標高 370m ～ 440m の舌状地形の南西斜面には始良 Tn 火山灰 (AT) の降灰以降に河成作用が活発化した。標高 403m よりも低い緩斜面はこの頃に原地形が形成されたものと思われる。その後、調査地にはシルト層や粘土層といった、粒度の

細かい細粒な堆積物が卓越するようになる。これは大栗遺跡の地点8を除く深掘地点の地質柱状図にみられるような下位層である礫層から、その上を覆ってシルト層、粘土層へと移り変わる上方細粒化傾向に現れている（地点1・地点2・地点3・地点4・地点5・地点6・地点7・地点9・地点10・地点11）。細粒な堆積物の上方への累積が顕著になることから、この頃に水理エネルギーは小さくなり、止水域あるいは河川の縁辺での堆積が推定される。また、細粒な堆積物の中には地層全体が黒褐色を呈するものがあることから、堆積物中に有機物を大量に含むほどに、この地層の堆積時には植物の生育が盛んであったと思われる。これらの細粒な堆積物の堆積年代について、もっとも古い数値年代を示したのは16区中央部の地点11において標高401.95m～402.50mで確認された黒褐色シルト質粘土層であり、標高401.96mの層準（試料3）の放射性炭素年代測定は14027 - 13801 cal yrs BP（12078 - 11852 BC : PLD-41619）の数値年代を示した（図3-1-19・表3-1-2）。同じく16区北西端の地点10においては、始良Tn火山灰(AT)が検出された標高402.22m～402.44mの褐色粘土層を覆って黒褐色粘土層が標高402.44mから標高403.82mまでに認められ、標高402.46mの層準（試料2）の放射性炭素年代測定値が12610 - 12535 cal yrs BP（10661 - 10586 BC : PLD-41620）、標高402.88mの層準（試料3）が8459 - 8374 cal yrs BP（6510 - 6425 BC : PLD-41621）、標高403.30mの層準（試料4）が6658 - 6497 cal yrs BP（4709 - 4548 BC : PLD-41622）、標高403.64mの層準（試料5）が2352 - 2308 cal yrs BP（403 - 359 BC : PLD-41623）と、約12000年前代から約2300年前代までにいたる数値年代が得られている（図3-1-17・表3-1-2）。大栗遺跡で確認される各地点の深掘層序において、上位層で観察される細粒堆積物には礫層や砂層などが挟まれてこないことから、河成作用の大きな変化は生じなかったようである。始良Tn火山灰(AT)の降灰以降に活発化した河成作用は約

14000年前代には水理エネルギーの小さな環境へと移り変わり、約14000年前代から約2300年前代までは植物の生育が盛んな静穏な環境が続いていたものと推定される。

謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS年代測定グループの伊藤 茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・Zaur Lomtadze氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質雑, 101, 123-133.
- 古澤 明, 2003, 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別, 地質雑, 109, 1-19.
- 樋上 昇, 2017, 大栗遺跡, 平成28年度愛知県埋蔵文化財センター年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 16-18.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新篇 火山灰アトラス [日本列島とその周辺], 東京大学出版会, 336.

2. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その1）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・小林克也

1. はじめに

愛知県設楽町の大栗遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料については樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、001SX から 1 点（試料 No.5 : PLD-42676）、002SX から 2 点（試料 No.10、14 : PLD-42677、PLD-42678）、042SL から 7 点（試料 No.16 ~ 21、26 : PLD-42679 ~ 42684、PLD-42689）、088SL から 8 点（試料 No.22 ~ 25、27 ~ 29、53 : PLD-42685 ~ 42688、PLD-42690 ~ 42692、PLD-42709）、119SL から 4 点（試料 No.30 ~ 33 : PLD-42693 ~ 42696）、230SL から 2 点（試料 No.34、35 : PLD-42697、PLD-42698）、266SL から 3 点（試料 No.39、40、46 : PLD-42699、PLD-42700、PLD-42704）、246SL から 7 点（試料 No.42 ~ 44、49、50、52、52-2 : PLD-42701 ~ 42703、PLD-42705 ~ PLD-42708）の、計 34 点の出土炭化材である。

発掘調査所見によれば、042SL と 119SL、246SL は縄文時代早期、230SL は縄文時代中期後半、266SL は縄文時代中期～後期、088SL は縄文時代早期以降、001SX と 002SX は近代と考えられている。

樹種同定の結果では、試料 No.10 がマツ属複維管束亜属、試料 No.27 がカツラ属、試料 No.16 と 26 がエノキ属、試料 No.17 ~ 21、30、32、33、39、40、42 ~ 44、46、49、50、52、52-2 がクリ、試料 No.34、35 がエゴ

ノキ属、試料 No.14 がタケ亜科であった。なお、試料 No.14 のタケ亜科以外の試料は、いずれも最終形成年輪は残っていなかった。測定試料の情報、調製データは表 3-2-1 ~ 3 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 3-2-4 ~ 7 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、図 3-2-1・2 にマルチプロット図を、図 3-2-3 ~ 7 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

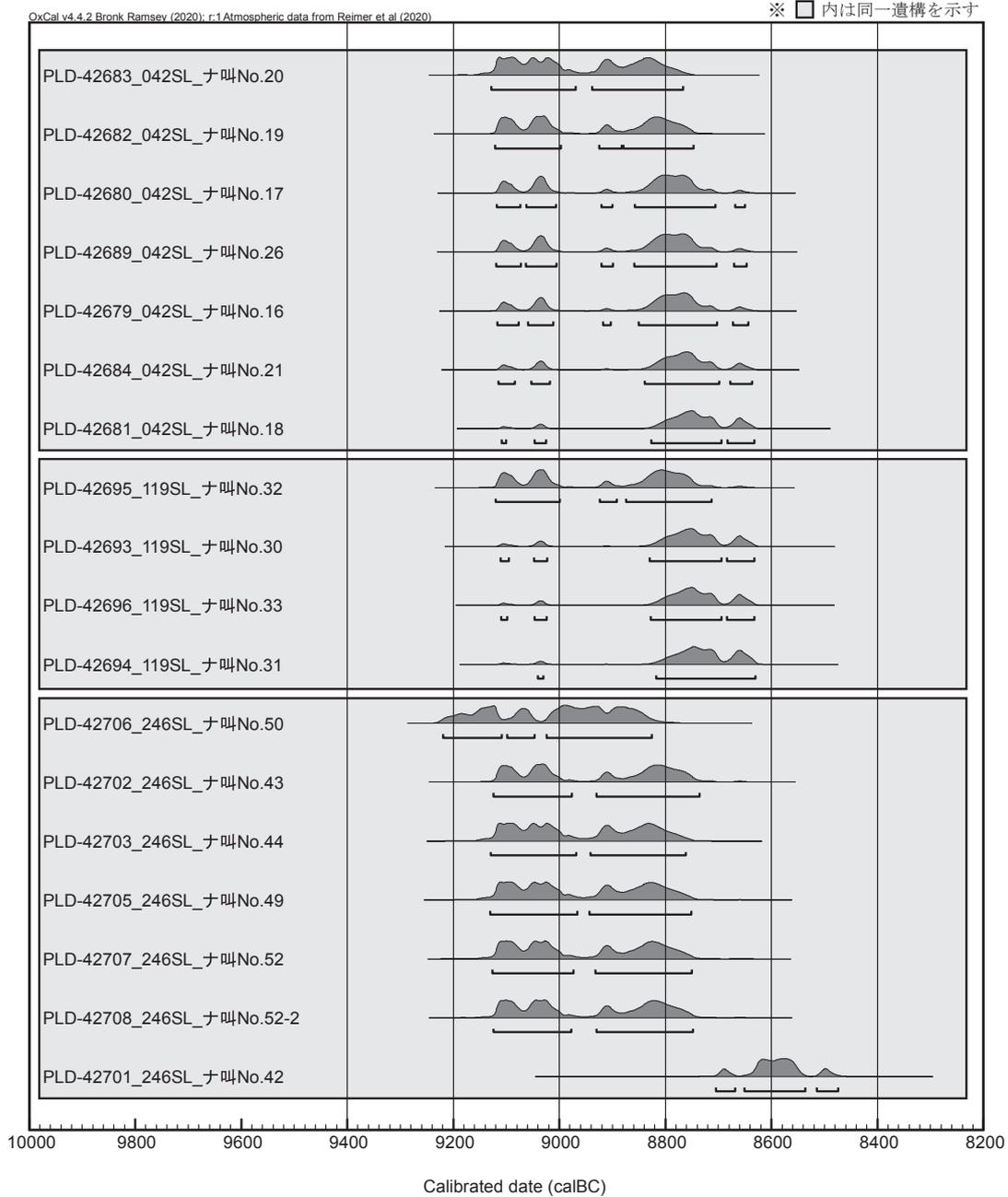


図3-2-1 マルチプロット図-1

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20、暦年較正結果が1950年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH_2 ）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の

暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

以下、 ^{14}C 年代および 2σ 暦年代範囲（確率

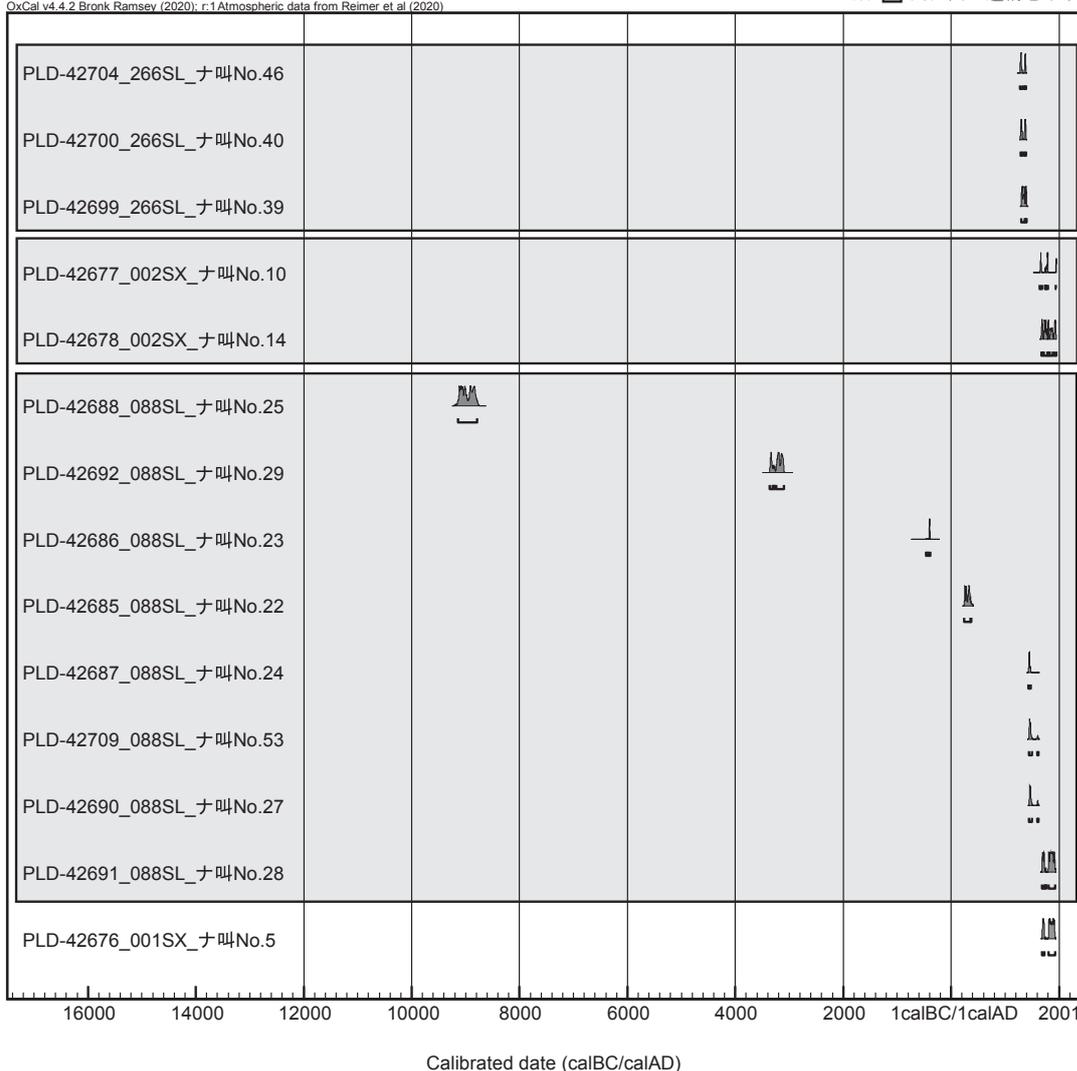


図 3-2-2 マルチプロット図 -2

95.45%) に着目して、遺構ごとに、暦年代の古い順に結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林(2017)を、弥生時代の土器編年と暦年代の対応関係については山本(2007)を、古墳時代の土器編年と暦年代の対応関係については赤塚(2009)を参照した。

042SL から出土した試料 No.20 (PLD-42683)、試料 No.19 (PLD-42682)、試料 No.17 (PLD-42680)、試料 No.26 (PLD-42689)、試料 No.16 (PLD-42679)、試料 No.21 (PLD-42684)、試料 No.18 (PLD-42681) の 7 点は、 ^{14}C 年代が $9555 \sim 9465 \pm 30$ ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が

9130 ~ 8630 cal BC の範囲に収まった。これは、縄文時代早期前葉に相当する。042SL は縄文時代早期の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

119SL から出土した試料 No.32 (PLD-42695)、試料 No.30 (PLD-42693)、試料 No.33 (PLD-42696)、試料 No.31 (PLD-42694) の 4 点は、 ^{14}C 年代が $9515 \sim 9455 \pm 30$ ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 9130 ~ 8630 cal BC の範囲に収まった。これは縄文時代早期前葉に相当する。119SL は縄文時代早期の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

表 3-2-1 測定試料および処理 -1

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-42676	試料No.5 調査区: 16 グリッド: 5328・5428 遺構: 001SX 位置: 北西部	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42677	試料No.10 調査区: 16 グリッド: 5327 遺構: 002SX 層位: 1層	種類: 炭化材 (マツ属複雑管束亜属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42678	試料No.14 調査区: 16 グリッド: 5327 遺構: 002SX	種類: 炭化材 (タケ亜科) 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42679	試料No.16 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 1層 遺物No.④	種類: 炭化材 (エノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42680	試料No.17 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 1層 遺物No.②	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42681	試料No.18 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 1層 遺物No.③	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42682	試料No.19 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 2層 遺物No.①	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42683	試料No.20 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 2層 遺物No.①	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42684	試料No.21 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL 層位: 2層 遺物No.③	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42685	試料No.22 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 層位: 1層 遺物No.①	種類: 炭化材	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42686	試料No.23 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 層位: 1層 遺物No.③	種類: 炭化材	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42687	試料No.24 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 位置: トレンチ内	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42688	試料No.25 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 位置: トレンチ内 遺物No.②	種類: 炭化材	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42689	試料No.26 調査区: 16 グリッド: 5425 遺構: 042SL	種類: 炭化材 (エノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

246SLから出土した試料 No.50 (PLD-42706)、試料 No.43 (PLD-42702)、試料 No.44 (PLD-42703)、試料 No.49 (PLD-42705)、試料 No.52 (PLD-42707)、試料 No.52-2 (PLD-42708)、試料 No.42 (PLD-42701) の7点は、 ^{14}C 年代が $9610 \sim 93300 \pm 30$ ないし ± 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が $9220 \sim 8470$ cal BC の範囲に収まった。これは、縄文時代早期前葉に相当する。246SLは縄文時代早期の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

230SLから出土した試料 No.35 (PLD-42698) は ^{14}C 年代が 4180 ± 25 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が $2885\text{-}2839$ cal BC (21.40%)、 $2816\text{-}2668$ cal BC (73.73%)、 $2643\text{-}2640$ cal BC (0.32%)、試料 No.34 (PLD-42697) は ^{14}C 年代が 4110 ± 20 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が $2861\text{-}2805$ cal BC (25.98%)、 $2754\text{-}2720$ cal BC (11.43%)、 $2703\text{-}2576$ cal BC (58.05%) であった。いずれも縄文時代中期後半に相当する暦年代である。230SLは縄文時代中期後半の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

266SLから出土した試料 No.46 (PLD-42704) は 2σ 暦年代範囲が $1279\text{-}1317$ cal AD (55.30%) および $1360\text{-}1388$ cal AD (40.15%)、試料 No.40 (PLD-42700) は 2σ 暦年代範囲が $1284\text{-}1321$ cal AD (44.35%) および $1358\text{-}1390$ cal AD (51.10%)、

試料 No.39 (PLD-42699) は 2σ 暦年代範囲が 1301-1370 cal AD (74.06%) および 1378-1398 cal AD (21.39%) であった。いずれも鎌倉時代～室町時代に相当する。

266SL は縄文時代中期～後期の遺構と考えられており、測定結果は推定時期よりも 2500 年以上新しい暦年代を示した。何らかの要因で鎌倉時代～室町時代の炭化材が混入した可能性や、266SL が鎌倉時代～室町時代の遺構である可能性などが考えられる。

002SX から出土した試料 No.10 (PLD-42677) は 2σ 暦年代範囲が 1647-1681 cal AD (33.53%)、1740-1753 cal AD (6.03%)、1762-1800 cal AD (44.12%)、1939-1952 cal AD (11.29%)、1952-1954 cal AD (0.48%)、試料 No.14 (PLD-42678) は 2σ 暦年代範囲が 1669-1699 cal AD (14.96%)、1722-1780 cal AD (28.72%)、

1797-1814 cal AD (9.94%)、1834-1889 cal AD (19.30%)、1908-1946 cal AD (20.58%)、1950-1954 cal AD (1.94%) であった。試料 No.10 の暦年代は江戸時代前期～後期および昭和時代、試料 No.14 の暦年代は江戸時代前期～昭和時代に相当する。002SX は近代の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

088SL から出土した試料 No.25 (PLD-42688) は、¹⁴C 年代が 9565 ± 30 ¹⁴C BP、2σ 暦年代範囲が 9142-8787 cal BC (95.45%) であった。これは、縄文時代早期前葉に相当する。試料 No.29 (PLD-42692) は、¹⁴C 年代が 4520 ± 25 ¹⁴C BP、

表 3-2-2 測定試料および処理 -2

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-42690	試料No.27 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 層位: 2層 遺物No.①	種類: 炭化材 (カウラ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42691	試料No.28 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 層位: 2層 遺物No.②	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42692	試料No.29 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 088SL 層位: 2層 遺物No.③	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42693	試料No.30 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 119SL 遺物No.①	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42694	試料No.31 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 119SL 遺物No.②	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42695	試料No.32 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 119SL 遺物No.③	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42696	試料No.33 調査区: 16 グリッド: 5625 遺構: 119SL 遺物No.④	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42697	試料No.34 調査区: 16 グリッド: 5626 遺構: 230SL 位置: 南西部 層位: 2層	種類: 炭化材 (エゴノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42698	試料No.35 調査区: 16 グリッド: 5626 遺構: 230SL 位置: 北東部 層位: 2層	種類: 炭化材 (エゴノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42699	試料No.39 調査区: 16B1 グリッド: 5726 遺構: 266SL 層位: 2層	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42700	試料No.40 調査区: 16 グリッド: 5726 遺構: 266SL 層位: 2層	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42701	試料No.42 調査区: 16 グリッド: 5727 遺構: 246SL 位置: 燃焼部	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42702	試料No.43 調査区: 16 グリッド: 5727 遺構: 246SL 位置: 燃焼部	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42703	試料No.44 調査区: 16 グリッド: 5727 遺構: 246SL 位置: 燃焼部	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-42704	試料No.46 調査区: 16 グリッド: 5726 遺構: 266SL 層位: 2層	種類: 炭化材 (クリ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L,塩酸: 1.2 mol/L)

表 3-2-3 測定試料および処理 -3

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-42705	試料No.49 調査区：16 グリッド：5727 遺構：246SL 位置：燃焼部	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L)
PLD-42706	試料No.50 調査区：16 グリッド：5727 遺構：246SL 層位：5・6・7層	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L)
PLD-42707	試料No.52 調査区：16 グリッド：5727 遺構：246SL 層位：8層下	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L)
PLD-42708	試料No.52-2 遺構：246SL 層位：8層中	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L)
PLD-42709	試料No.53 グリッド：5625 遺構：088SL 層位：2層 遺物No.④	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L)

2σ 暦年代範囲が 3359-3305 cal BC (21.90%)、3301-3283 cal BC (3.75%)、3276-3266 cal BC (1.89%)、3243-3102 cal BC (67.91%) であった。これは、縄文時代中期初頭～前半に相当する。試料 No.23 (PLD-42686) は、2σ 暦年代範囲が 460-441 cal BC (3.89%) および 418-385 cal BC (91.56%) であった。これは、弥生時代前期後半～中期前半に相当する。試料 No.22 (PLD-42685) は、2σ 暦年代範囲が 245-366 cal AD (93.02%) および 369-377 cal AD (2.43%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する。試料 No.24 (PLD-42687) は、2σ 暦年代範囲が 1432-1478 cal AD (95.45%) であった。これは、室町時代の暦年代である。試料 No.53 (PLD-42709) は 2σ 暦年代範囲が 1440-1501 cal AD (89.72%) および 1600-1616 cal AD (5.73%)、試料 No.27 (PLD-42690) は 2σ 暦年代範囲が 1444-1504 cal AD (86.85%) および 1598-1617 cal AD (8.60%) であった。この 2 点の暦年代は、室町時代～江戸時代前期に相当する。試料 No.28 (PLD-42691) は、2σ 暦年代範囲が 1684-1733 cal AD (24.17%)、1757-1759 cal AD (0.37%)、1803-1928 cal AD (70.20%)、1952-1955 cal AD

(0.71%) であった。これは、江戸時代前期～昭和時代に相当する。088SL は縄文時代早期以降の遺構と考えられているが、測定の結果、縄文時代早期前葉～昭和時代にかけてのさまざまな時期の炭化材がみられた。088SL の試料 8 点は、再堆積した炭化材の可能性がある。

001SX の試料 No.5 (PLD-42676) は、2σ 暦年代範囲が 1689-1729 cal AD (24.61%)、1808-1923 cal AD (70.62%)、1954-1954 cal AD (0.22%) であった。これは、江戸時代前期～昭和時代に相当する。001SX は近代の遺構と考えられており、発掘調査所見と測定結果は整合的であった。

引用・参考文献

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代. 日本文化財科学会第 26 回大会実行委員会編「日本文化財科学会第 26 回大会研究機発表要旨集」：14-20, 日本文化財科学会.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. Radiocarbon, 55(4), 1-14.

小林謙一（2017）縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—. 263p, 同成社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20, 日本第四紀

表 3-2-4 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 -1

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-42676 001SX 試料No.5	-26.95 \pm 0.23	111 \pm 19	110 \pm 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1695-1715 cal AD (13.95%) 1717-1725 cal AD (5.52%) 1811-1827 cal AD (10.91%) 1829-1837 cal AD (5.50%) 1845-1851 cal AD (3.88%) 1857-1861 cal AD (2.34%) 1867-1871 cal AD (2.84%) 1878-1899 cal AD (14.68%) 1903-1916 cal AD (8.64%)	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1689-1729 cal AD (24.61%) 1808-1923 cal AD (70.62%) 1954-1954 cal AD (0.22%)
PLD-42677 002SX 試料No.10	-25.54 \pm 0.24	214 \pm 18	215 \pm 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1656-1670 cal AD (24.94%) 1769-1770 cal AD (0.37%) 1779-1797 cal AD (34.03%) 1944-1951 cal AD (8.93%)	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1647-1681 cal AD (33.53%) 1740-1753 cal AD (6.03%) 1762-1800 cal AD (44.12%) 1939-1952 cal AD (11.29%) 1952-1954 cal AD (0.48%)
PLD-42678 002SX 試料No.14	-25.91 \pm 0.20	151 \pm 18	150 \pm 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1678-1695 cal AD (11.16%) 1725-1742 cal AD (11.32%) 1751-1764 cal AD (8.63%) 1774-1777 cal AD (1.30%) 1799-1811 cal AD (8.71%) 1838-1844 cal AD (2.55%) 1853-1856 cal AD (1.24%) 1862-1866 cal AD (1.91%) 1872-1878 cal AD (2.66%) 1916-1942 cal AD (17.31%) 1952-1954 cal AD (1.48%)	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1669-1699 cal AD (14.96%) 1722-1780 cal AD (28.72%) 1797-1814 cal AD (9.94%) 1834-1889 cal AD (19.30%) 1908-1946 cal AD (20.58%) 1950-1954 cal AD (1.94%)
PLD-42679 042SL 試料No.16	-25.05 \pm 0.20	9493 \pm 29	9495 \pm 30	9109-9100 cal BC (3.23%) 9047-9025 cal BC (10.69%) 8826-8741 cal BC (54.35%)	9118-9078 cal BC (9.51%) 9059-9012 cal BC (14.87%) 8918-8904 cal BC (1.17%) 8851-8703 cal BC (66.38%) 8673-8644 cal BC (3.52%)
PLD-42680 042SL 試料No.17	-24.63 \pm 0.19	9501 \pm 29	9500 \pm 30	9111-9097 cal BC (5.94%) 9048-9024 cal BC (13.11%) 8829-8747 cal BC (49.22%)	9119-9074 cal BC (12.46%) 9063-9007 cal BC (18.29%) 8921-8900 cal BC (2.20%) 8858-8706 cal BC (60.91%) 8669-8651 cal BC (1.59%)
PLD-42681 042SL 試料No.18	-25.06 \pm 0.23	9465 \pm 28	9465 \pm 30	8796-8708 cal BC (62.36%) 8666-8655 cal BC (5.91%)	9109-9101 cal BC (0.85%) 9047-9025 cal BC (3.81%) 8827-8695 cal BC (74.31%) 8684-8633 cal BC (16.48%)
PLD-42682 042SL 試料No.19	-23.37 \pm 0.22	9527 \pm 29	9525 \pm 30	9117-9082 cal BC (16.36%) 9055-9016 cal BC (19.40%) 8844-8769 cal BC (32.51%)	9122-8998 cal BC (45.08%) 8925-8883 cal BC (7.50%) 8879-8748 cal BC (42.87%)
PLD-42683 042SL 試料No.20	-25.29 \pm 0.21	9553 \pm 29	9555 \pm 30	9120-9072 cal BC (19.10%) 9063-9004 cal BC (21.78%) 8921-8898 cal BC (8.29%) 8860-8809 cal BC (19.10%)	9129-8969 cal BC (49.79%) 8939-8767 cal BC (45.66%)
PLD-42684 042SL 試料No.21	-25.72 \pm 0.24	9480 \pm 29	9480 \pm 30	9041-9031 cal BC (3.87%) 8817-8713 cal BC (64.40%)	9115-9084 cal BC (5.13%) 9054-9018 cal BC (9.30%) 8840-8699 cal BC (72.59%) 8678-8636 cal BC (8.43%)

表 3-2-5 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 -2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-42685 088SL 試料No.22	-30.62 \pm 0.18	1745 \pm 19	1745 \pm 20	251-264 cal AD (13.17%) 274-293 cal AD (19.67%) 315-349 cal AD (35.43%)	245-366 cal AD (93.02%) 369-377 cal AD (2.43%)
PLD-42686 088SL 試料No.23	-25.54 \pm 0.26	2346 \pm 20	2345 \pm 20	406-394 cal BC (68.27%)	460-441 cal BC (3.89%) 418-385 cal BC (91.56%)
PLD-42687 088SL 試料No.24	-25.12 \pm 0.31	431 \pm 21	430 \pm 20	1440-1459 cal AD (68.27%)	1432-1478 cal AD (95.45%)
PLD-42688 088SL 試料No.25	-25.79 \pm 0.19	9567 \pm 31	9565 \pm 30	9122-9044 cal BC (26.69%) 9027-8998 cal BC (10.28%) 8925-8887 cal BC (12.81%) 8877-8822 cal BC (18.48%)	9142-8787 cal BC (95.45%)
PLD-42689 042SL 試料No.26	-25.41 \pm 0.18	9499 \pm 31	9500 \pm 30	9111-9095 cal BC (6.20%) 9048-9023 cal BC (12.67%) 8829-8745 cal BC (49.40%)	9119-9073 cal BC (12.09%) 9064-9006 cal BC (17.61%) 8921-8899 cal BC (2.30%) 8860-8704 cal BC (61.01%) 8671-8647 cal BC (2.44%)
PLD-42690 088SL 試料No.27	-26.36 \pm 0.17	401 \pm 19	400 \pm 20	1450-1479 cal AD (68.27%)	1444-1504 cal AD (86.85%) 1598-1617 cal AD (8.60%)
PLD-42691 088SL 試料No.28	-25.76 \pm 0.20	121 \pm 19	120 \pm 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1692-1709 cal AD (10.53%) 1720-1727 cal AD (4.87%) 1810-1817 cal AD (4.70%) 1833-1892 cal AD (39.20%) 1906-1920 cal AD (8.86%) 1954-1954 cal AD (0.10%)	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1684-1733 cal AD (24.17%) 1757-1759 cal AD (0.37%) 1803-1928 cal AD (70.20%) 1952-1955 cal AD (0.71%)
PLD-42692 088SL 試料No.29	-26.15 \pm 0.19	4522 \pm 23	4520 \pm 25	3351-3327 cal BC (13.99%) 3230-3182 cal BC (28.13%) 3156-3109 cal BC (26.14%)	3359-3305 cal BC (21.90%) 3301-3283 cal BC (3.75%) 3276-3266 cal BC (1.89%) 3243-3102 cal BC (67.91%)
PLD-42693 119SL 試料No.30	-26.18 \pm 0.19	9467 \pm 30	9465 \pm 30	8801-8708 cal BC (62.47%) 8666-8655 cal BC (5.80%)	9111-9095 cal BC (1.79%) 9049-9023 cal BC (4.88%) 8830-8694 cal BC (72.95%) 8684-8633 cal BC (15.84%)
PLD-42694 119SL 試料No.31	-28.74 \pm 0.18	9454 \pm 30	9455 \pm 30	8780-8704 cal BC (54.33%) 8671-8648 cal BC (13.94%)	9041-9031 cal BC (1.39%) 8818-8631 cal BC (94.06%)
PLD-42695 119SL 試料No.32	-26.94 \pm 0.22	9513 \pm 31	9515 \pm 30	9114-9087 cal BC (11.96%) 9051-9021 cal BC (16.08%) 8835-8755 cal BC (40.23%)	9121-8999 cal BC (39.04%) 8924-8892 cal BC (4.64%) 8875-8713 cal BC (51.77%)

学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C.,

van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern

表 3-2-6 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 -3

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-42696 119SL 試料No.33	-26.13 \pm 0.17	9465 \pm 29	9465 \pm 30	8797-8708 cal BC (62.00%) 8666-8655 cal BC (6.26%)	9110-9099 cal BC (1.10%) 9047-9025 cal BC (4.06%) 8828-8694 cal BC (73.50%) 8685-8633 cal BC (16.80%)
PLD-42697 230SL 試料No.34	-29.45 \pm 0.21	4111 \pm 22	4110 \pm 20	2847-2812 cal BC (21.08%) 2743-2730 cal BC (6.16%) 2694-2687 cal BC (2.91%) 2676-2622 cal BC (31.89%) 2597-2583 cal BC (6.24%)	2861-2805 cal BC (25.98%) 2754-2720 cal BC (11.43%) 2703-2576 cal BC (58.05%)
PLD-42698 230SL 試料No.35	-30.22 \pm 0.23	4180 \pm 24	4180 \pm 25	2877-2857 cal BC (14.16%) 2807-2751 cal BC (39.44%) 2722-2701 cal BC (14.67%)	2885-2839 cal BC (21.40%) 2816-2668 cal BC (73.73%) 2643-2640 cal BC (0.32%)
PLD-42699 266SL 試料No.39	-26.01 \pm 0.22	615 \pm 21	615 \pm 20	1304-1327 cal AD (31.25%) 1350-1366 cal AD (20.15%) 1382-1395 cal AD (16.88%)	1301-1370 cal AD (74.06%) 1378-1398 cal AD (21.39%)
PLD-42700 266SL 試料No.40	-26.35 \pm 0.21	657 \pm 21	655 \pm 20	1292-1307 cal AD (25.38%) 1363-1386 cal AD (42.89%)	1284-1321 cal AD (44.35%) 1358-1390 cal AD (51.10%)
PLD-42701 246SL 試料No.42	-26.27 \pm 0.19	9332 \pm 31	9330 \pm 30	8630-8552 cal BC (68.27%)	8705-8669 cal BC (9.19%) 8651-8537 cal BC (76.13%) 8515-8475 cal BC (10.14%)
PLD-42702 246SL 試料No.43	-26.17 \pm 0.27	9524 \pm 35	9525 \pm 35	9117-9081 cal BC (15.08%) 9056-9015 cal BC (17.94%) 8914-8908 cal BC (1.68%) 8845-8761 cal BC (33.57%)	9125-8977 cal BC (43.51%) 8930-8736 cal BC (51.94%)
PLD-42703 246SL 試料No.44	-26.09 \pm 0.18	9550 \pm 32	9550 \pm 30	9120-9072 cal BC (18.57%) 9063-9004 cal BC (21.49%) 8921-8898 cal BC (7.88%) 8860-8803 cal BC (20.33%)	9130-8968 cal BC (49.03%) 8942-8761 cal BC (46.42%)
PLD-42704 266SL 試料No.46	-25.44 \pm 0.30	673 \pm 22	675 \pm 20	1284-1302 cal AD (41.71%) 1368-1380 cal AD (26.56%)	1279-1317 cal AD (55.30%) 1360-1388 cal AD (40.15%)
PLD-42705 246SL 試料No.49	-25.64 \pm 0.25	9544 \pm 36	9545 \pm 35	9120-9073 cal BC (17.68%) 9062-9005 cal BC (20.72%) 8921-8898 cal BC (6.98%) 8859-8793 cal BC (22.89%)	9131-8967 cal BC (47.70%) 8944-8752 cal BC (47.75%)
PLD-42706 246SL 試料No.50	-25.33 \pm 0.20	9610 \pm 33	9610 \pm 35	9156-9118 cal BC (12.54%) 9078-9058 cal BC (6.03%) 9012-8917 cal BC (32.36%) 8904-8850 cal BC (17.34%)	9099-9047 cal BC (11.03%) 9025-8826 cal BC (59.17%)
PLD-42707 246SL 試料No.52	-25.03 \pm 0.23	9539 \pm 33	9540 \pm 35	9119-9076 cal BC (17.62%) 9060-9009 cal BC (20.20%) 8919-8901 cal BC (5.51%) 8854-8787 cal BC (24.94%)	9126-8974 cal BC (47.46%) 8932-8751 cal BC (47.99%)

Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

35-44, 雄山閣.

山本直人 (2007) 東海・北陸における弥生時代の開始年代. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第2巻 縄文時代から弥生時代へ」:

表 3-2-7 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 -4

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-42708 246SL 試料No.52-2	-25.54 \pm 0.23	9534 \pm 33	9535 \pm 35	9118-9078 cal BC (17.00%) 9058-9012 cal BC (19.54%) 8917-8904 cal BC (4.16%) 8850-8779 cal BC (27.56%)	9125-8978 cal BC (46.43%) 8930-8748 cal BC (49.02%)
PLD-42709 088SL 試料No.53	-25.22 \pm 0.23	409 \pm 21	410 \pm 20	1448-1475 cal AD (68.27%)	1440-1501 cal AD (89.72%) 1600-1616 cal AD (5.73%)

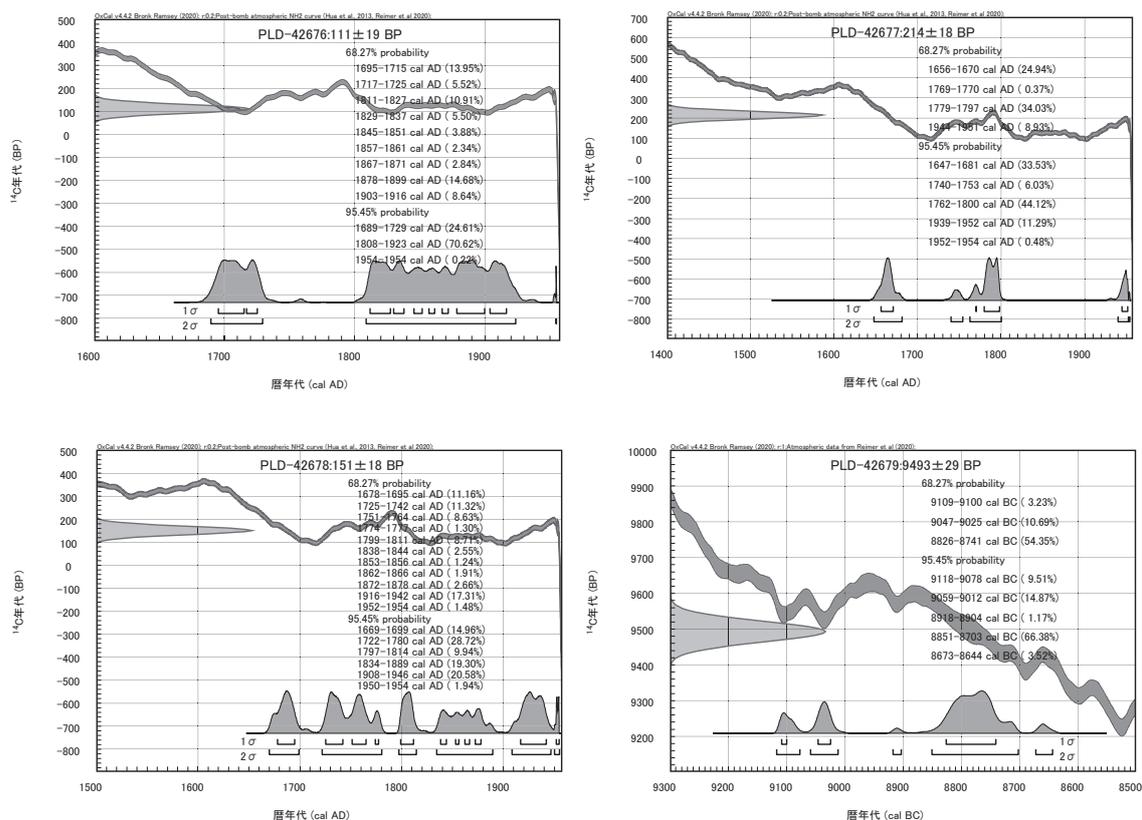


図 3-2-3 暦年較正結果 -1

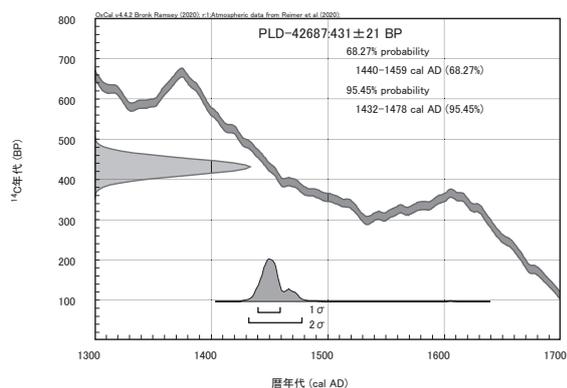
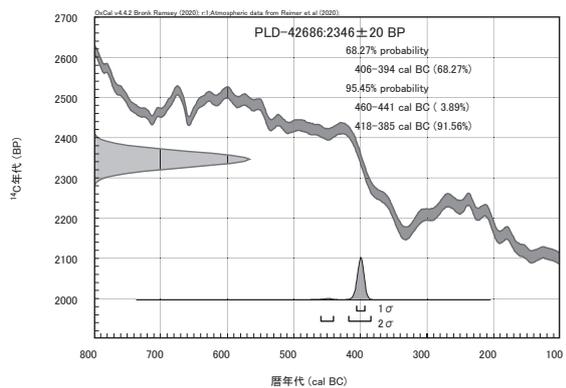
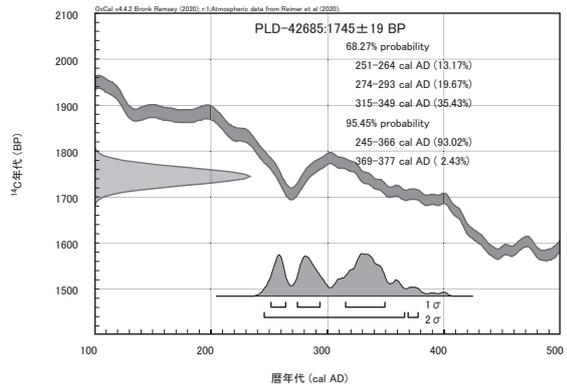
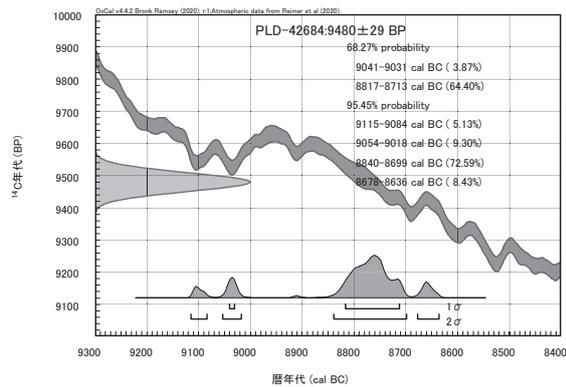
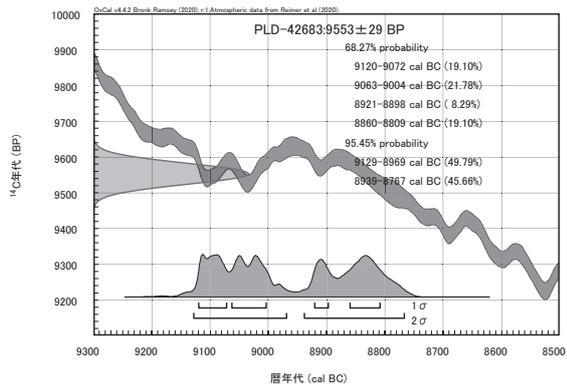
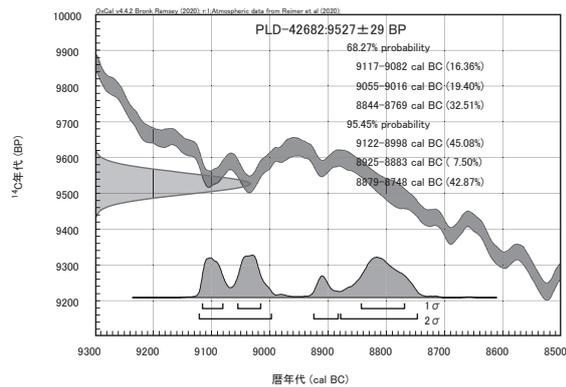
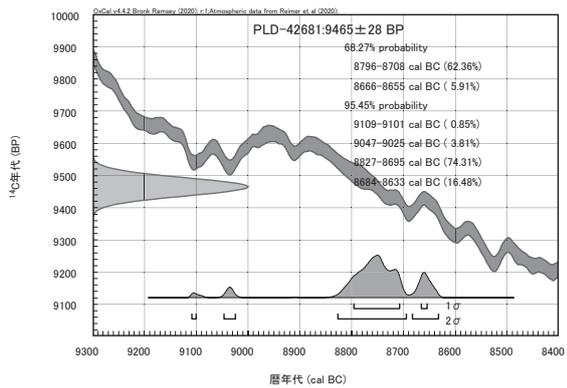
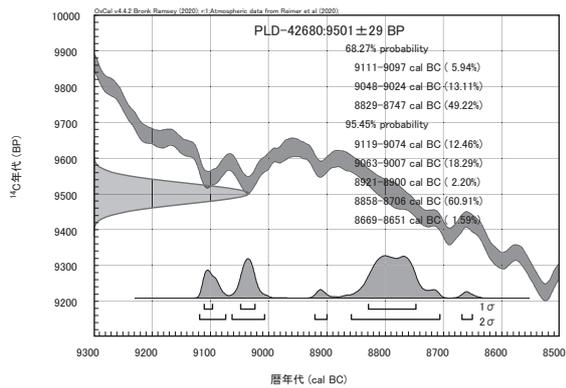


图 3-2-4 曆年較正結果 -2

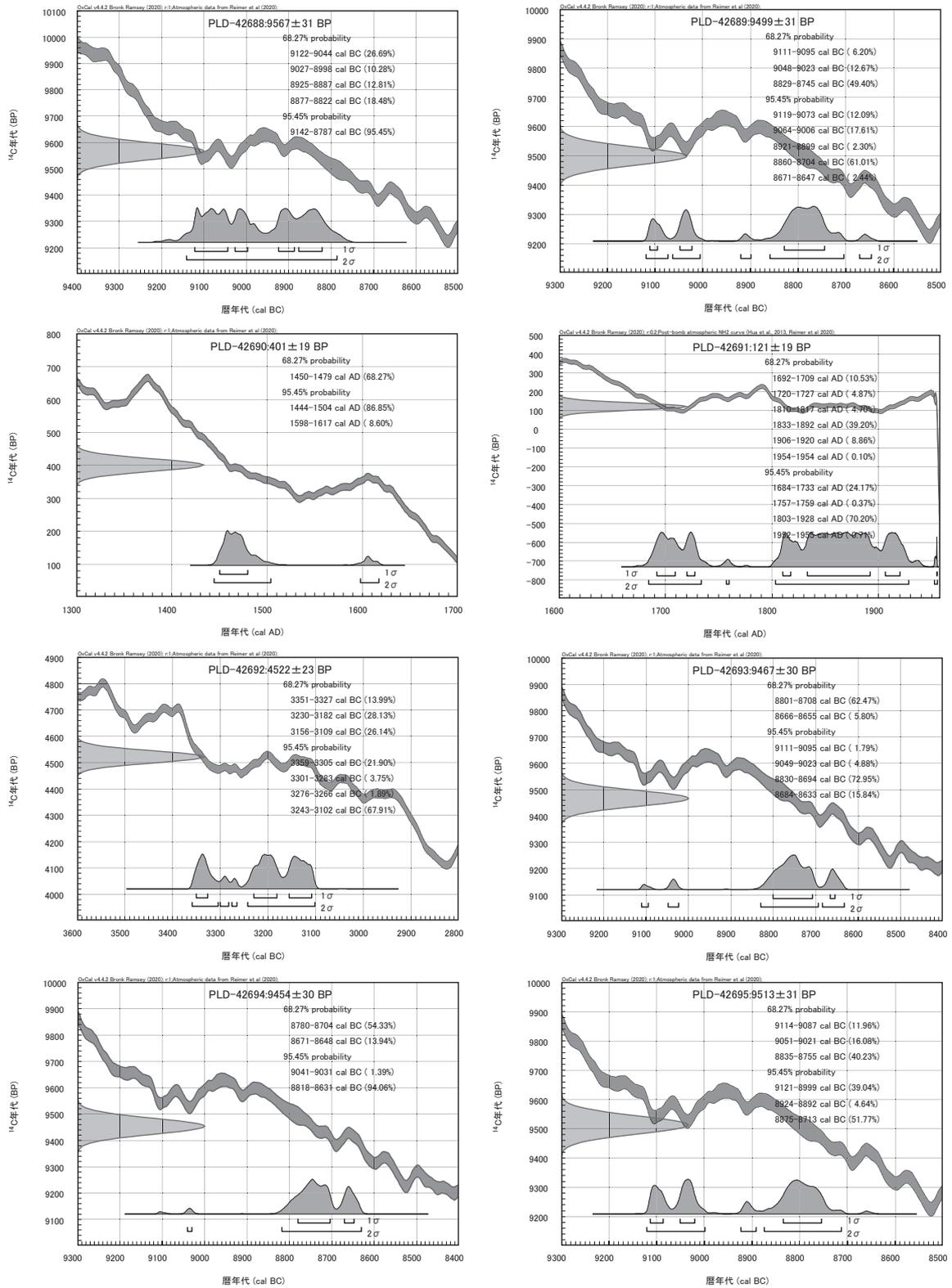


图 3-2-5 曆年較正結果 -3

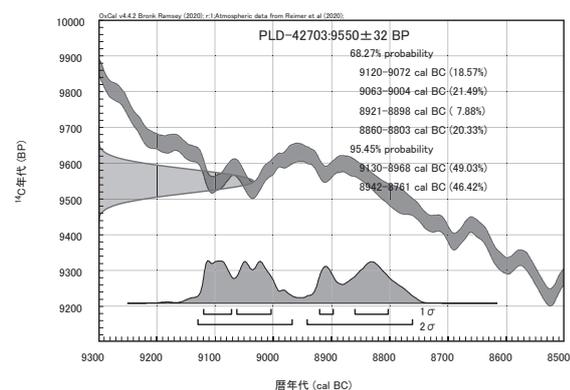
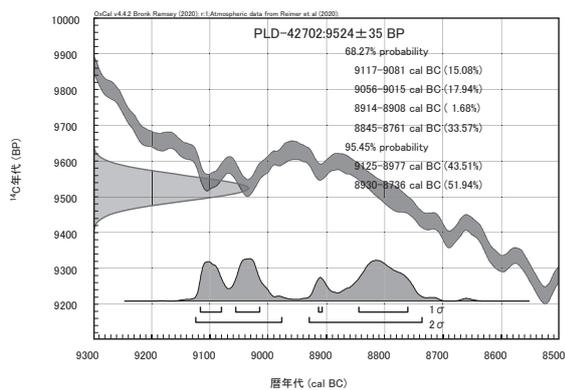
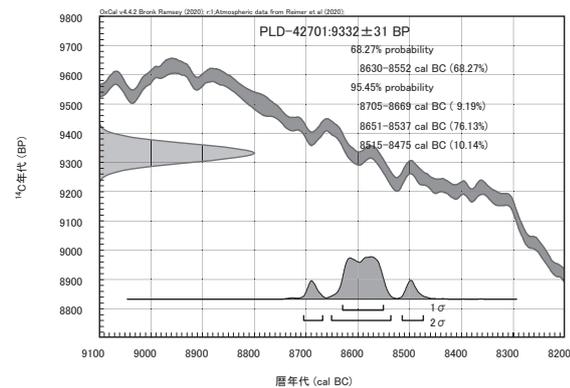
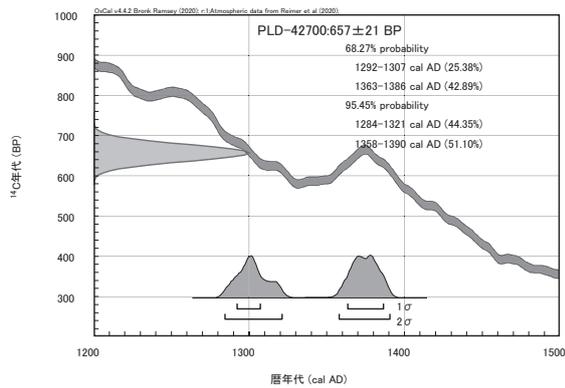
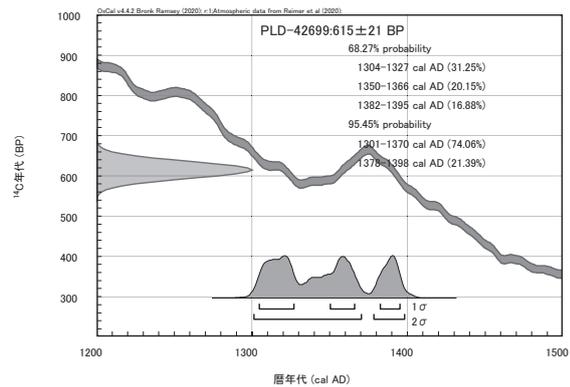
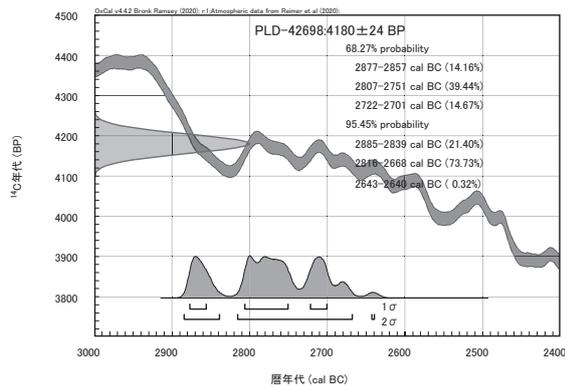
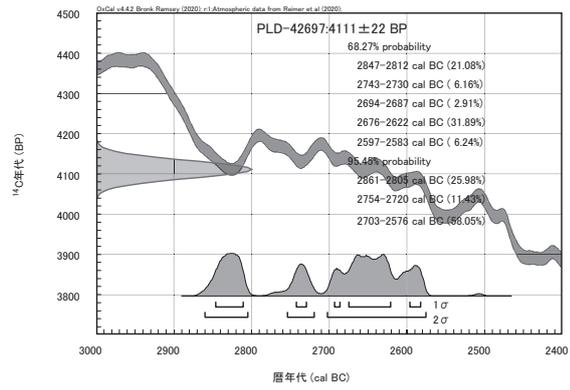
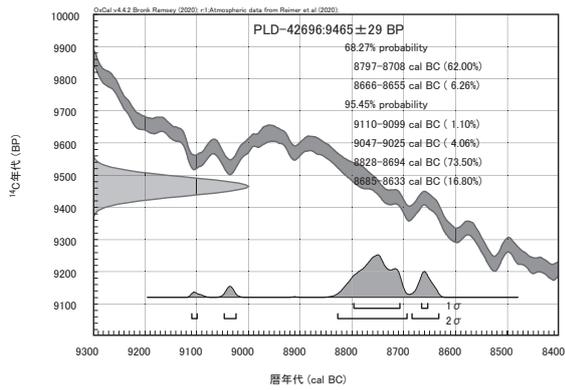


图 3-2-6 曆年較正結果 -4

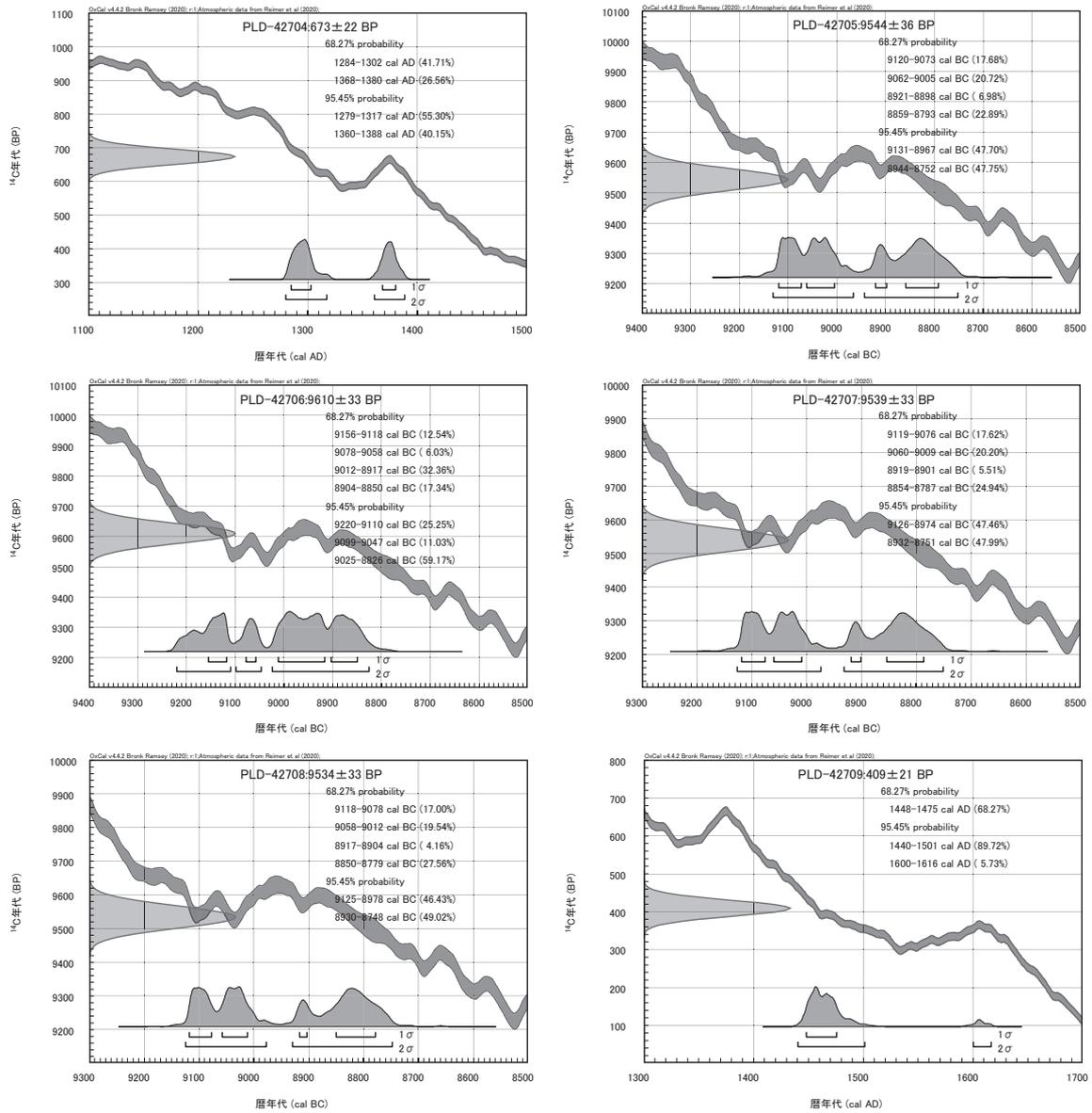


图 3-2-7 曆年較正結果 -5

3. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その2）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadize・小林克也

1. はじめに

愛知県北設楽郡設楽町の大栗遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、縄文時代早期の炉跡と考えられている 119SL から 1 点（試料 No.1：PLD-34263）、042SL から 1 点（試料 No.2：PLD-34300）、246SL から 2 点（試料 No.3：PLD-34301、試料 No.4：PLD-34302）の、計 4 点の出土炭化材である。いずれの試料も最終形成年輪は残っていなかった。測定試料の情報、調製データは表 3-3-1 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、

コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 3-3-2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、図 3-3-1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、

表 3-3-1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-34263	試料No.1 遺物No.④ 調査区：16A1 遺構：119SL	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N)
PLD-34300	試料No.2 遺構：042SL	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N)
PLD-34301	試料No.3 遺構：246SL 遺物No.d-0044	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N)
PLD-34302	試料No.4 遺構：246SL 遺物No.d-0050	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N)

表 3-3-2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-34263 119SL 試料No.1	-26.31 \pm 0.14	9364 \pm 34	9365 \pm 35	8705-8670 cal BC (22.5%) 8655-8597 cal BC (38.9%) 8586-8572 cal BC (6.8%)	8736-8556 cal BC (95.4%)
PLD-34300 042SL 試料No.2	-27.98 \pm 0.21	9525 \pm 33	9525 \pm 35	9116-9074 cal BC (18.8%) 9056-9015 cal BC (16.2%) 8844-8771 cal BC (33.2%)	9125-8998 cal BC (43.8%) 8924-8750 cal BC (51.6%)
PLD-34301 246SL 試料No.3	-26.29 \pm 0.19	9527 \pm 33	9525 \pm 35	9116-9074 cal BC (19.3%) 9057-9015 cal BC (17.1%) 8844-8774 cal BC (31.8%)	9126-8997 cal BC (44.6%) 8926-8750 cal BC (50.8%)
PLD-34302 246SL 試料No.4	-27.43 \pm 0.14	9274 \pm 32	9275 \pm 30	8571-8461 cal BC (68.2%)	8622-8423 cal BC (89.5%) 8405-8392 cal BC (1.5%) 8377-8350 cal BC (4.3%)

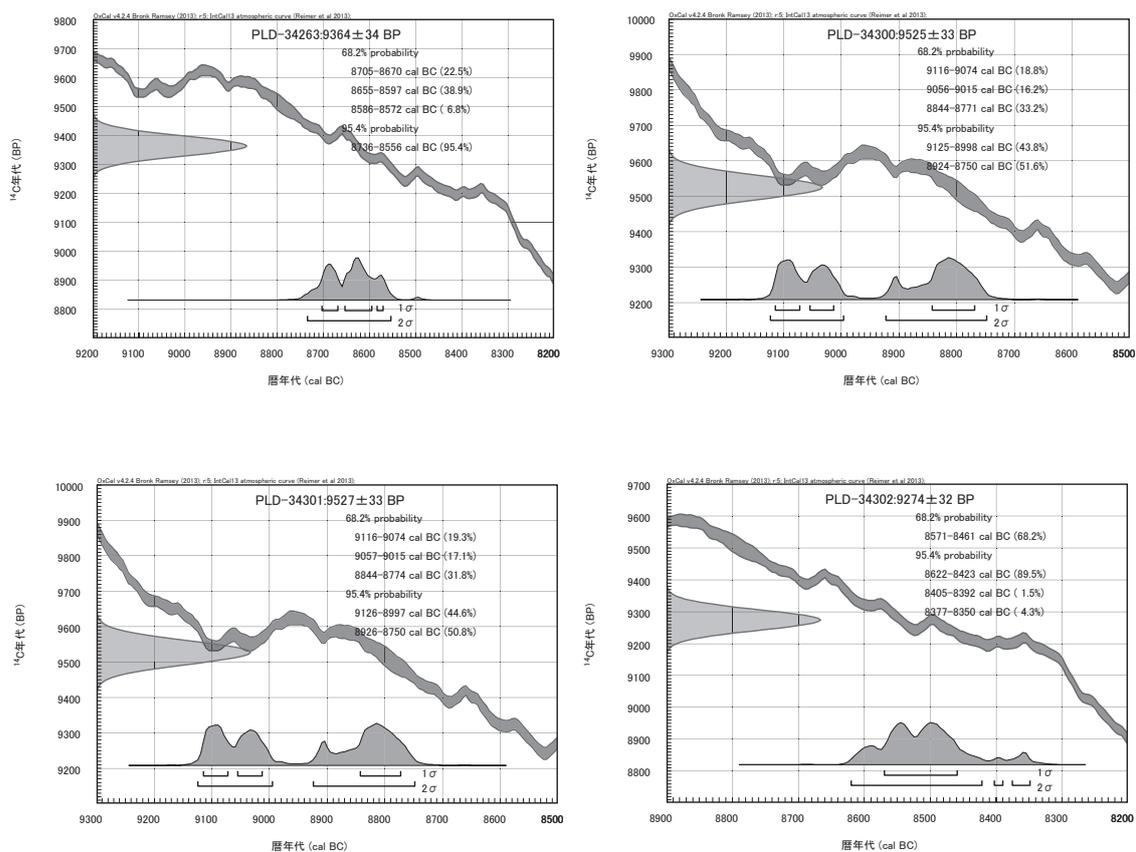


図 3-3-1 暦年較正結果

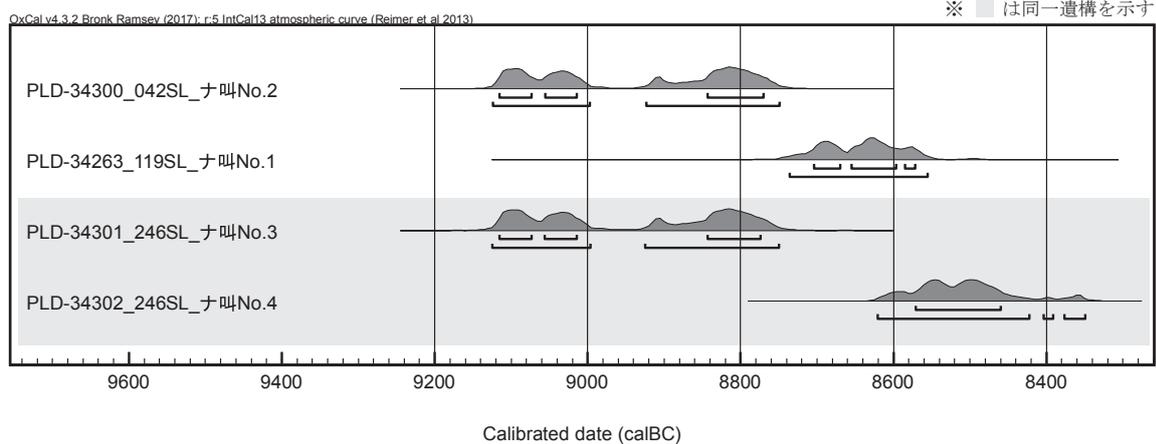


図 3-3-2 マルチプロット図

^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

以下、 ^{14}C 年代および 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目し、暦年代の古い順に結果を整理する。また、図 3-3-2 にマルチプロット図を示

す。なお、縄文時代の暦年代については、小林謙一 (2008)、工藤 (2012)、矢野 (2008) を参照した。

042SL の試料 No.2 (PLD-34300) は、 ^{14}C 年代が 9525 ± 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 9125-8998 cal BC (43.8%) および 8924-8750 cal BC (51.6%) であった。

119SL の試料 No.1 (PLD-34263) は、 ^{14}C 年代が 9365 ± 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 8736-8556 cal BC (95.4%) であった。

246SL の試料 No.3 (PLD-34301) は、 ^{14}C 年代が 9525 ± 35 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 9126-8997 cal BC (44.6%) および 8926-8750 cal BC (50.8%) であった。また、試料 No.4 (PLD-34302) は、 ^{14}C 年代が 9275 ± 30 ^{14}C BP、 2σ 暦年代範囲が 8622-8423 cal BC (89.5%)、8405-8392 cal BC (1.5%)、8377-8350 cal BC (4.3%) であった。246SL から採取された 2 点の炭化材では、異なる時期の暦年代を示した。長期間炉が利用されていた可能性や、もしくは 8622-8350 cal BC 頃に利用されていた炉跡に、古い時期の炭化材が混入した可能性などが考えられる。

試料 No.1 ~ 3 の測定結果はいずれも縄文時代早期前葉、試料 No.4 は縄文時代早期前葉~中葉に相当する。発掘調査所見によれば、炉跡はいずれも縄文時代早期と考えられており、測定結果は

発掘調査所見に対して整合的であった。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代.

小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.

工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—, 373p, 神泉社.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E.,

Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliðason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

矢野健一 (2008) 押型文系土器 (大川式・神宮寺式土器). 小林達雄編「総覧縄文土器」: 154-161, アム・プロモーション.

4. 大栗遺跡における放射性炭素年代測定（その3）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・中村賢太郎

1. はじめに

愛知県設楽町に位置する大栗遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて種実同定と樹種同定を行っている。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 3-4-1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 3-4-2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、図 3-4-1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減

期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ：IntCal20) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」日本第四紀学会, 3-20.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*,

表 3-4-1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41094	試料No : 4 調査区 : 16A グリッド : 5425 遺構 : 039SK 遺物No : d-00009 その他 : X-98542.518,Y36258.607,Z404.239	種類 : 炭化材 (コウヤマキ) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41095	試料No : 5 調査区 : 16B グリッド : 5626 遺構 : 230SL 層位 : 2層 遺物No : d-0026 その他 : X-98566.101,Y36260.883,Z401.47	種類 : 炭化材 (クリ) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41096	試料No : 6 調査区 : 16B グリッド : 5626 遺構 : 230SL 遺物No : d-0029 その他 : X-98566.129,Y36260.959,Z401.451	種類 : 炭化材 (エゴノキ属) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41097	試料No : 7 調査区 : 16B グリッド : 5626 遺構 : 090SI 層位 : 床面中 遺物No : d-0035 その他 : X-98566.198,Y36260.391,Z401.597	種類 : 炭化種実 (クリ) 試料の性状 : 子葉 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41098	試料No : 8 調査区 : 16B グリッド : 5726 遺構 : 274SK 遺物No : d-0040 その他 : X-98572.018,Y36272,Z401.231	種類 : 炭化材 (クリ?) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41100	試料No : 10 調査区 : 16A グリッド : 5625 遺構 : 088SL 層位 : ②④トレ、3層(焼土) その他 : 水洗選別	種類 : 炭化材 (樹種不明) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 0.1 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41101	試料No : 11 調査区 : 16A グリッド : 5427 遺構 : 113SK	種類 : 炭化材 (クリ) 試料の性状 : 部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-41102	試料No : 12 調査区 : 16C グリッド : 5930 遺構 : 137SK 層位 : 底部 その他 : 水洗選別	種類 : 炭化菌類 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L,水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L,塩酸 : 1.2 mol/L)

表 3-4-2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-41094 試料No.4	-24.73 \pm 0.20	491 \pm 19	490 \pm 20	1422-1438 cal AD (68.27%)	1411-1444 cal AD (95.45%)
PLD-41095 試料No.5	-27.91 \pm 0.29	4107 \pm 23	4105 \pm 25	2845-2812 cal BC (19.28%) 2741-2732 cal BC (4.07%) 2674-2620 cal BC (31.95%) 2608-2581 cal BC (12.98%)	2860-2805 cal BC (24.67%) 2754-2720 cal BC (10.26%) 2703-2575 cal BC (60.52%)
PLD-41096 試料No.6	-26.54 \pm 0.39	4097 \pm 22	4095 \pm 20	2838-2817 cal BC (13.47%) 2668-2644 cal BC (15.33%) 2639-2579 cal BC (39.47%)	2854-2808 cal BC (20.53%) 2748-2724 cal BC (6.29%) 2699-2573 cal BC (67.78%) 2511-2505 cal BC (0.85%)
PLD-41097 試料No.7	-25.56 \pm 0.27	9400 \pm 31	9400 \pm 30	8730-8723 cal BC (4.10%) 8713-8628 cal BC (64.17%)	8768-8607 cal BC (91.19%) 8590-8563 cal BC (4.26%)
PLD-41098 試料No.8	-27.60 \pm 0.19	9293 \pm 26	9295 \pm 25	8615-8583 cal BC (21.95%) 8570-8540 cal BC (22.77%) 8513-8482 cal BC (23.55%)	8628-8431 cal BC (95.45%)
PLD-41100 試料No.10	-32.12 \pm 0.32	6244 \pm 34	6245 \pm 35	5303-5248 cal BC (40.96%) 5225-5208 cal BC (12.36%) 5158-5126 cal BC (13.59%) 5088-5085 cal BC (1.35%)	5307-5205 cal BC (61.34%) 5174-5068 cal BC (34.11%)
PLD-41101 試料No.11	-27.18 \pm 0.14	464 \pm 17	465 \pm 15	1432-1446 cal AD (68.27%)	1424-1452 cal AD (95.45%)
PLD-41102 試料No.12	-28.20 \pm 0.22	1552 \pm 19	1550 \pm 20	441-450 cal AD (8.66%) 456-459 cal AD (2.20%) 478-496 cal AD (18.24%) 535-564 cal AD (39.16%)	434-467 cal AD (20.76%) 474-520 cal AD (28.37%) 526-574 cal AD (46.32%)

55(4), 1869-1887.

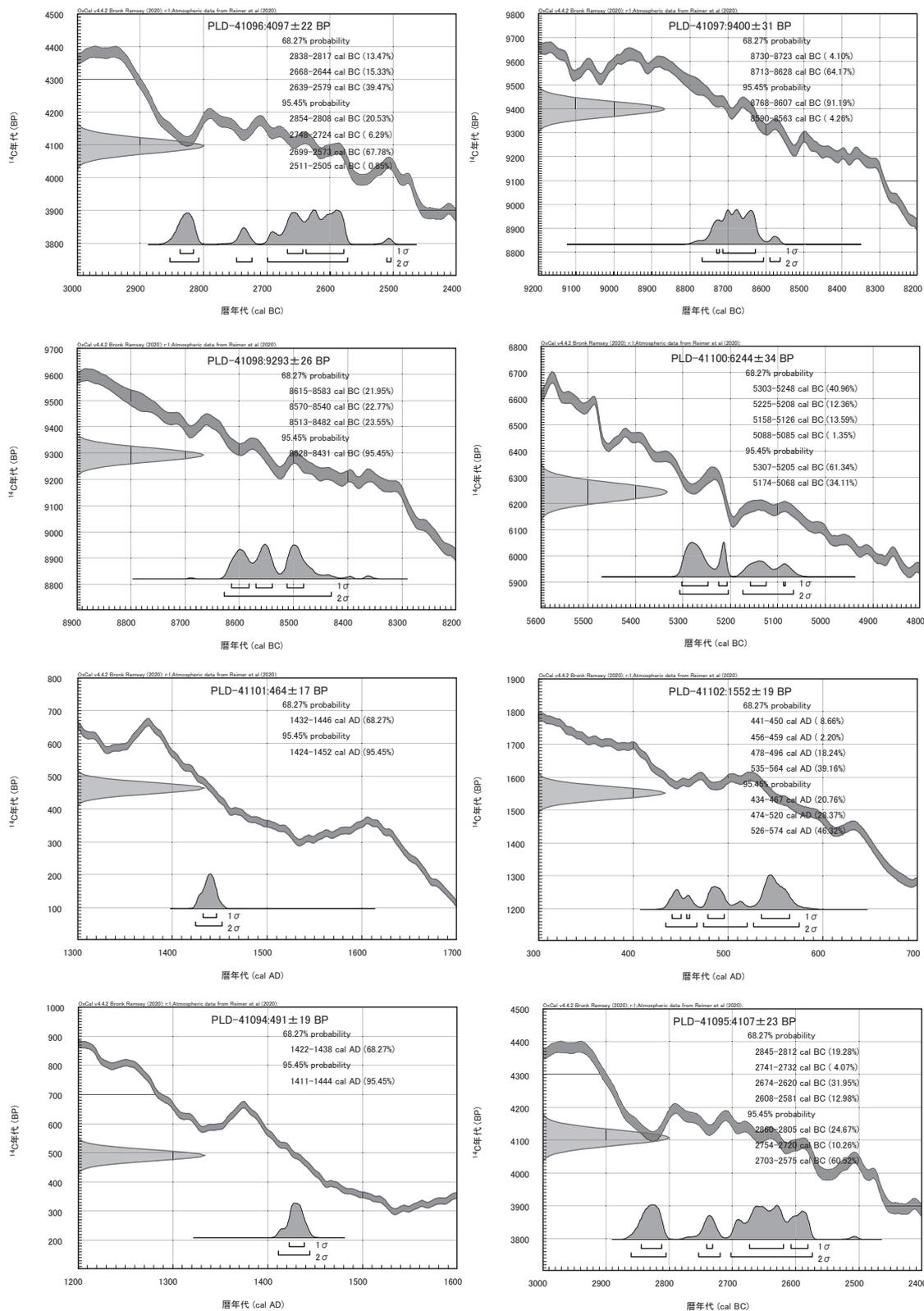


图 3-4-1 曆年較正結果

5. 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也 ((株) パレオ・ラボ)

1. はじめに

愛知県設楽町の大栗遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、縄文時代早期の炉跡 042SL から 7 点、炉跡 119SL から 3 点、煙道付炉穴 246SL から 7 点、縄文時代早期以降の炉跡 088SL から 1 点、縄文時代中期後半の石囲炉 230SL から 2 点、縄文時代中期～後期の集石炉 266SL から 3 点、近代の石組み遺構 002SX から 2 点の、計 25 点である。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面

(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柁目)について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE 社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のマツ属複維管束亜属 1 分類群と、広葉樹のカツラ属とエノキ属、クリ、エゴノキ属の 4 分類群、単子葉のタケ亜科 1 分類群の、計 6 分類群がみられた。クリが 18 点で最も多く、エノキ属とエゴノキ属が各 2 点、マツ属複維管束亜属とカツラ属、タケ亜科が各 1 点であった。同定結果を表 3-5-1 に、一覧を表 3-5-2 に示す。

表 3-5-1 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種	時期 遺構	縄文時代早期			縄文時代 早期以降	縄文時代 中期後半	縄文時代 中期～後期	近代	合計
		042SL	119SL	246SL	088SL	230SL	266SL	002SX	
マツ属複維管束亜属								1	1
カツラ属					1				1
エノキ属	2								2
クリ	5	3	7			3			18
エゴノキ属						2			2
タケ亜科								1	1
合計	7	3	7	1	2	3	2	25	

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon*
マツ科 図 3-5-1 1a-1c(No.10)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分

野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で、切削等の加工は容易である。

(2) カツラ属 *Cercidiphyllum* カツラ科 図 3-5-1
2a-2c(No.27)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は 10～20 段程度の階段穿孔を有し、道管要素の末尾にらせん肥厚が確認できる。放射組織は上下端 1～3 個が直立する異性で、幅 1～2 列となる。

カツラ属にはカツラとヒロハカツラがある。代表的なカツラは温帯の谷筋の肥沃な土地に生える日本固有種で、落葉高木の広葉樹である。材は軽軟で、切削加工は容易である。

(3) エノキ属 *Celtis* アサ科 図 3-5-1
3a-3c(No.26)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1～3 列が方形となる異性で、幅 1～5 列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとまって生育せず、現在では薪炭材などに利用される程度である。

(4) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図 3-5-1
4a-4c(No.20)

年輪のはじめに大型の道管が 1～3 列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(5) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図 3-5-1
5a-5c(No.34)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり数も減

る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は 10 段程度の階段状である。放射組織は上下端 1～3 列が方形となる異性で、幅 1～4 列となる。

エゴノキ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの 3 種がある。材はやや重硬で緻密である。

(6) タケ亜科 *Subfam. Bambusoideae* イネ科 図 3-5-1
6a(No.14)

向軸側の原生木部、その左右の 2 個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間、日本には 12 属がある。

4. 考察

縄文時代早期の炉跡 042SL ではエノキ属とクリ、炉跡 119SL ではクリ、煙道付炉穴 246SL ではクリがみられた。また、縄文時代早期以降の炉跡 088SL の炭化材はカツラ属、縄文時代中期後半の石囲炉 230SL の炭化材は 2 点ともエゴノキ属、縄文時代中期～後期の集石炉 266SL では 3 点ともクリであった。試料はいずれも燃料材の残渣と考えられている。

エノキ属とカツラ属、クリ、エゴノキ属は薪炭材として普通に利用される樹種で、遺跡周辺に生育可能である(平井, 1996)。遺跡周辺に生育していた樹木が伐採利用されたと考えられる。

近代の石組み遺構 002SX では、マツ属複維管束亜属とタケ亜科がみられた。タケ亜科は、残存径が 4mm 程度であった。遺構の用途は不明であるが、試料は燃料材の残渣であると考えられる。燃料材としてのマツ属複維管束亜属は、油分が多く、高火力で燃焼する樹種である(伊東ほか, 2011)。また、タケ亜科は火着きが良く、燃焼性が高い(室井, 1973)。タケ亜科が着火材として、マツ属複維管束亜属が燃料として利用された可能性が考えられる。

引用文献

平井信二 (1996) 木の百科—解説編—.

642p, 朝倉書房.

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口

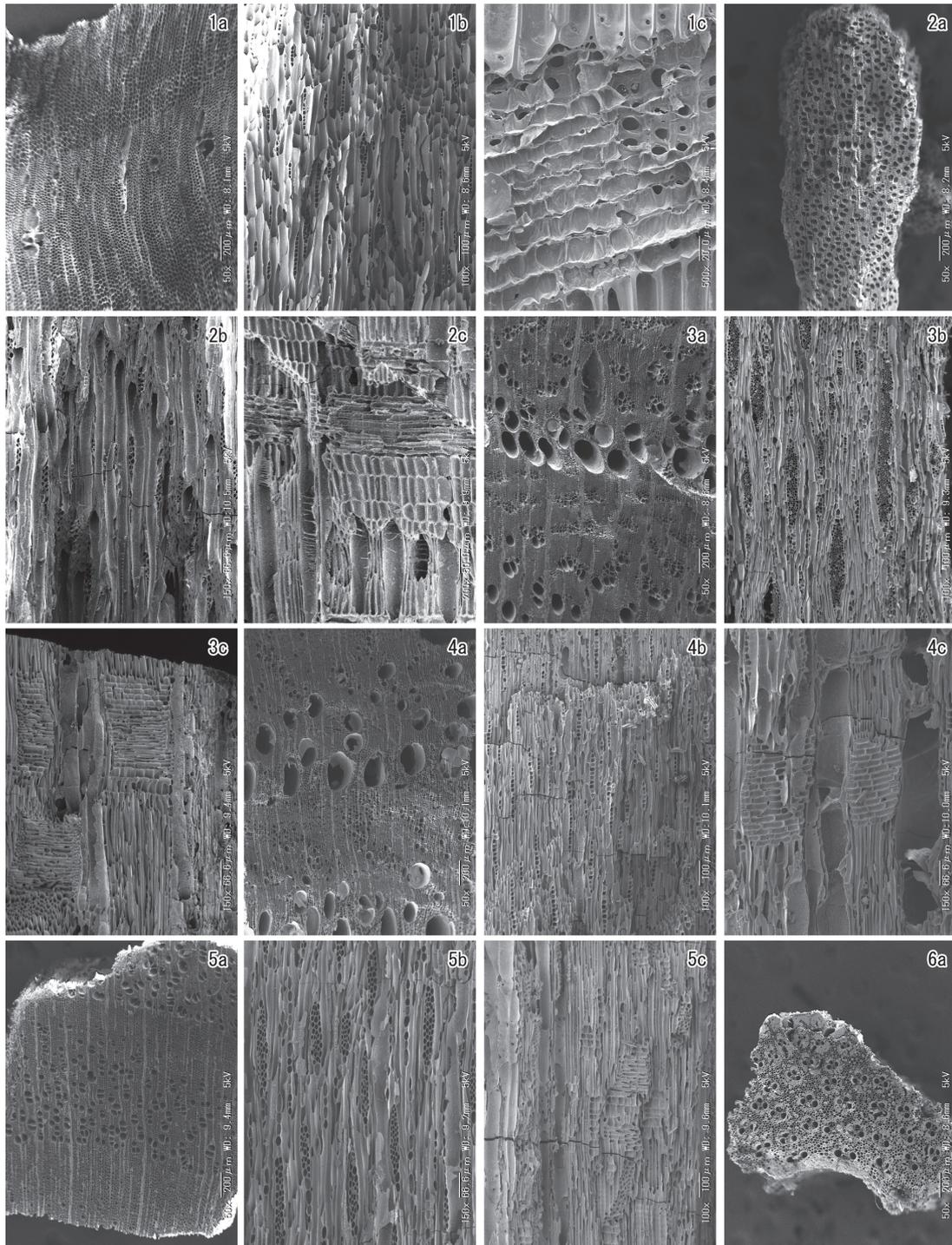
和穂 (2011) 日本有用樹木誌. 238p, 海青社.

室井 綽 (1973) ものと人間の文化史 10・竹.

311p, 法政大学出版局.

表 3-5-2 大栗遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

No.	発掘区	グリッド	出土遺構	位置	層位	試料No.	種類	樹種	調査所見の時期	年代測定番号
10	16	5327	002SX		1層		炭化材	マツ属複雑管束亜属	近代	PLD-42677
14	16	5327	002SX				炭化材	タケ亜科	近代	PLD-42678
16	16	5425	042SL		1層	④	炭化材	エノキ属	縄文時代早期	PLD-42679
17	16	5425	042SL		1層	②	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42680
18	16	5425	042SL		1層	③	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42681
19	16	5425	042SL		2層	①	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42682
20	16	5425	042SL		2層	①	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42683
21	16	5425	042SL		2層	③	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42684
26	16	5425	042SL	最下部			炭化材	エノキ属	縄文時代早期	PLD-42689
27	16	5625	088SL		2層	①	炭化材	カツラ属	縄文時代早期以降	PLD-42690
30	16	5625	119SL			①	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42693
32	16	5625	119SL			③	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42695
33	16	5625	119SL			④	炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42696
34	16	5626	230SL	南西部	2層		炭化材	エゴノキ属	縄文時代中期後半	PLD-42697
35	16	5626	230SL	北東部	2層		炭化材	エゴノキ属	縄文時代中期後半	PLD-42698
39	16B1	5726	266SL		2層		炭化材	クリ	縄文時代中期～後期	PLD-42699
40	16	5726	266SL		2層		炭化材	クリ	縄文時代中期～後期	PLD-42700
42	16	5727	246SL	燃焼部			炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42701
43	16	5727	246SL	燃焼部			炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42702
44	16	5727	246SL	燃焼部			炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42703
46	16	5726	266SL		2層		炭化材	クリ	縄文時代中期～後期	PLD-42704
49	16	5727	246SL	燃焼部			炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42705
50	16	5727	246SL		5・6・7層		炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42706
52	16	5727	246SL		8層下		炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42707
52-2	16	5727	246SL		8層中		炭化材	クリ	縄文時代早期	PLD-42708



大栗遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No. 10)、2a-2c. カツラ属 (No. 27)、3a-3c. エノキ属 (No. 26)、4a-4c. クリ (No. 20)、
5a-5c. エゴノキ属 (No. 34)、6a. タケ亜科 (No. 14)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

図 3-5-1 大栗遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

6. 大栗遺跡から出土した炭化材の樹種同定

黒沼保子・バンダリ スダルシャン ((株) パレオ・ラボ)

1. はじめに

北設楽郡設楽町の大栗遺跡から出土した炭化種実2点と炭化材5点について同定を行った。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

2. 試料と方法

2-1. 種実同定

試料は、肉眼で確認・回収された竪穴住居090SIの床面中の種実1試料と、土坑137SKから採取された土壌試料1試料の、計2試料である。土坑137SKの土壌試料は、2 lを最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。考古学的な所見による竪穴住居090SIの推定時期は縄文時代中期であるが、種実の放射性炭素年代測定の結果は縄文時代早期前葉に相当する暦年代を示した。また、土坑137SKの試料は、放射性炭素年代測定の結果、古墳時代中期～後期に相当する暦年代を示した(放射性炭素年代測定の項参照)。

炭化種実の同定および計数は、肉眼で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。同定した試料は、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

2-2. 樹種同定

試料は、調査区16Aの土坑039SKから1点(試料No.4)と土坑113SKから1点(試料No.11)、調査区16Bの炉230SLから2点(試料No.5、6)と土坑274SKから1点(試料No.8)の、計5点の出土炭化材である。

年代測定の結果、土坑039SK(試料No.4)と土坑113SK(試料No.11)出土の炭化材は室町時代、炉230SL出土の炭化材2点(試料No.5、6)は縄文時代中期後半、土坑274SK出土の炭化材(試料No.8)は縄文時代早期前葉に相当する暦年代を示した(放射性炭素年代測定の項参照)。

樹種同定では、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VHX-D510)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

3-1. 種実同定

同定した結果、竪穴住居090SIの試料は木本植物で広葉樹のクリ炭化子葉であった。土坑137SKの土壌試料からは炭化種実は検出されず、炭化した不明菌類が含まれていたが、同定の対象外とした(表3-6-1)。

以下に、産出した炭化種実について遺構別に記載する。

竪穴住居090SI床面中：クリ炭化子葉の破片が7点得られた。このうち、1点を用いて放射性炭素年代測定(PLD-41097)が行われた。

表3-6-1 大栗遺跡から出土した炭化種実

	No.	7	12
	遺構	090SI	137SK
		(竪穴住居)	(土坑)
	層位	床面中	-
	考古学的な推定時期	縄文中期	-
	放射性炭素年代測定結果	縄文早期前葉	古墳中期～後期
分類群	水洗量	現地取上げ	2 l
クリ	炭化子葉	(7)	
不明	炭化菌類		(2)
括弧内は破片数			

土坑 137SK：不明菌類の破片が2点得られた。このうち、1点を用いて放射性炭素年代測定(PLD-41102)が行われた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版1に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠する。

(1) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉ブナ科

完形ならば側面観は広卵形で、表面一面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。最大の破片で、残存高7.0mm、残存幅10.4mm、残存厚4.6mm。

(2) 不明 Unknown 炭化菌類

傘は楕円形で、表面には隆線状突起が密生する。内壁の子実層に微細な孢子を持つように見える。長さ3.8mm、幅4.5mm。

3-2. 樹種同定

樹種同定の結果、針葉樹のコウヤマキと、広葉樹のクリとエゴノキ属の3分類群が確認された。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図 3-6-2 2a-2c (No.5)、3a-3c (No.11)、4a-4c (No.8)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。なお、状態が悪く横断面の道管配列がやや不明確な試料はクリ?とした。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図 3-6-2 5a-5c (No.6)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり、数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は1~4列幅で、異性である。

エゴノキ属は熱帯から温帯にかけて分布する落

表 3-6-2 樹種同定結果

試料No.	調査区	グリッド	遺構	遺構の種別	遺物No.	樹種	年代測定番号
4	16A	5425	039SK	土坑	d-00009	コウヤマキ	PLD-41094
5	16B	5626	230SL	炉	d-0026	クリ	PLD-41095
6	16B	5626	230SL	炉	d-0029	エゴノキ属	PLD-41096
8	16B	5726	274SK	土坑	d-0040	クリ?	PLD-41098
11	16A	5427	113SK	土坑	-	クリ	PLD-41101

結果を表 3-6-2 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版2に示す。

(1) コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc. コウヤマキ科 図 3-6-2 1a-1c (No.4)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。分野壁孔はやや小型の窓状となる。

コウヤマキは、福島県以南の温帯から暖帯上部に生育する常緑針葉高木である。材は耐朽性および耐湿性が強く、強靱である。

葉小高木で、エゴノキやハクウンボク、コハクウンボクの3種がある。材はやや重硬で、緻密である。

4. 考察

種実同定では、縄文時代の竪穴住居 090SI の床面中からは、野生植物で食用として利用可能なクリが得られた。食用になる部位である子葉が得られており、保管中や調理中に炭化した可能性がある。古墳時代中期~後期と推測される土坑 137SK の土壌試料から採取されたのは、不明菌類のみであった。木材に付着していた菌類が炭化

し、堆積した可能性などが考えられる。

樹種同定では、土坑 274SK 出土の縄文時代早期前葉の炭化材（試料 No.8）はクリ？であった。用途は不明である。炉 230SL 出土の縄文時代中期後半の炭化材 2 点（試料 No.5、6）は、クリとエゴノキ属であった。これらは燃料材と考えられる。土坑 039SK 出土の室町時代の炭化材（試料 No.4）はコウヤマキ、土坑 113SK 出土の室町時代の炭化材（試料 No.11）はクリであった。試料 No.4 のコウヤマキは、器具や建築材などが使用后などに燃やされた可能性がある。

引用・参考文献

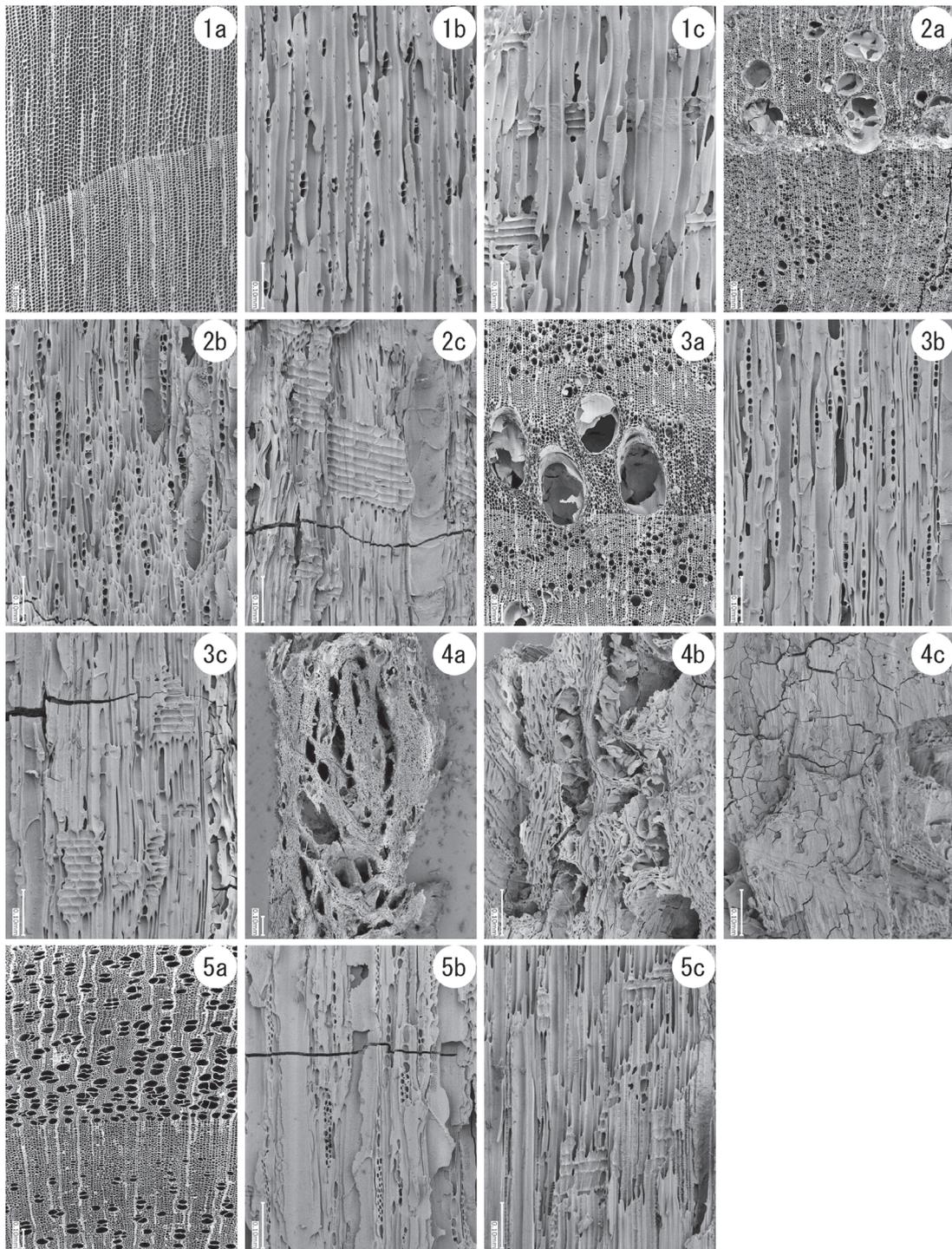
平井信二（1996）木の百科. 394p, 朝倉書店.
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.
米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



大栗遺跡から出土した炭化種実

1. クリ炭化子葉（090SI、床面中、No.7 : PLD-41097）、2. 不明炭化菌類（137SK、No.12 : PLD-41102）

図 3-6-1 大栗遺跡から出土した炭化種実



炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. コウヤマキ (No. 4) 、2a-2c. クリ (No. 5) 、3a-3c. クリ (No. 11) 、4a-4c. クリ? (No. 8) 、5a-5c. エゴノキ属 (No. 6)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面

図 3-6-2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真

7. 大栗遺跡出土黒曜石の蛍光 X 線分析 (XRF) による原産地同定

(株) 第四紀 地質研究所

1. 実験条件

1-1 蛍光 X 線分析 (XRF)

大栗遺跡出土黒曜石遺物の分析はエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (日本電子製 J S X-3200) で行なった。直接試料台に設置し、非破壊で分析した。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法 (F P 法) による自動定量計算システムが採用されており、6 C ~ 9 2 U までの元素分析ができ、ハイパワー X 線源 (最大 30 k V、4 m A) の採用で微量試料 ~ 最大 290 mmφ × 80 mm H までの大型試料の測定が可能である。小形試料では 1 6 試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルク F P 法でおこなった。F P 法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X 線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルク F P 法 (スタンダードレス方式)、分析雰囲気 = 真空、X 線管ターゲット素材 = R h、加速電圧 = 30 k V、管電流 = 自動制御、分析時間 = 200 秒 (有効分析時間) である。分析対象元素は Si, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zr の 14 元素、分析値は黒曜石の含水量 = 0 と仮定し、酸化物の重量 % を 100 % にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量 % は小数点以下 2 桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量 % では小数点以下 3 ~ 4 桁の微量となり、小数点以下 2 桁では 0 と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下 4 桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度 (重量 %) で SiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaO の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の 4 組の組み合わせで図を作成した。

1-2 蛍光 X 線分析 (EDS)

蛍光 X 線分析 (XRF) 結果に基づいて分類された大栗遺跡出土遺物のうち強被熱遺物を対象として蛍光 X 線分析 (EDS) で分析した。

日本電子製 5300LV 型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15 k V、分析法: スプリント法、分析倍率: 200 倍、分析有効時間: 100 秒、分析指定元素 10 元素で行った。

強被熱遺物の表面の形状を電子顕微鏡で走査し、被熱による状況を撮影し、検討した。

2. 分析結果

分析結果は表 3-7-1 化学分析表に表示した。分析結果に基づいて主要元素と微量元素の酸化物濃度 (重量 %) で SiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaO の各相関図を作成し、Rb と Sr については積分強度で Rb-Sr 相関図を作成し、4 組の図を作成した。

強被熱遺物と判定された試料は別に蛍光 X 線分析 (EDS) を行い、画像の診断とともに被熱状況を図 3-7-3 大栗遺跡・K₂O-CaO 図 (K: 0-12) に記載し、蛍光 X 線分析 (XRF) 結果との照合を行った。

蛍光 X 線分析 (XRF) 結果に基づいて原産地を特定し、表 3-7-1 化学分析表に記載し、原産地のみを記載した表 3-7-3 原産地対比表を作成した。被熱の状況については K₂O の値が小さい方から被熱、弱被熱、強比熱の 3 段階に分類した。

2-1 蛍光 X 線分析 (XRF) 結果

表 3-7-1 化学分析表には分析結果、表 3-7-3 原産地対比表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

分析結果に基づいて新鮮なもの、強被熱したものと 2 段階に分類した。表 3-7-3 原産地対比表に示すように和田峠系一 1 が 2 点、残りの 7 点が和田峠系二 2 であり、6 点是非被熱、強被熱が 1 点である。大栗 9 の試料は緑色を呈する現代のガラスで、分析値も異常である。

長野県内に分布する黒曜石は、和田峠周辺の西餅屋、東餅屋、小深沢地区をあわせた和田峠系一 1、男女倉 5～7 地区と星ヶ塔地区をあわせた和田峠系二 2、北八ヶ岳の麦草峠周辺と冷山地区をあわせた蓼科系の 3 地域に分かれる。和田峠系の黒曜石はフォッサマグナ中央部の大規模流紋岩中に産する。高松山一虫倉山の南斜面を北西一南東方向に走る鷹山断層の南側での黒曜石はガスの抜けた気泡痕がなく、均質で、ハンマーでうち欠くと貝殻状に割れ、鋭利な刃先が打ち出される黒曜石である。この黒曜石を産する流紋岩は新生代第四紀の約 70～130 万年前に噴出、あるいは貫入したものである。麦草峠と冷山の黒曜石は第四紀に噴出した八ヶ岳火山群の丸山溶岩流に被覆された同じ流紋岩の中に形成されたもので、26～27 万年前とされている。

1) 和田峠系一 1 が 2 点、残りの 7 点が和田峠系二 2 であり、6 点是非被熱、強被熱が 1 点である。

2) 大栗 9 の試料は緑色を呈する現代のガラスで分析値も異常である。

2-2 蛍光 X 線分析 (EDS) 結果

強被熱遺物の分析 (XRF) 結果は表 3-7-2 強被熱遺物・EDS・化学表に記載してある。蛍光 X 線分析 (XRF) 結果に基づいて分類された強被熱遺物の 5 個の表面を電子顕微鏡で観察し、その表面を蛍光 X 線分析装置 (EDS) で分析した。

1) 大栗 8 の強被熱 1 個の分析結果に基づいて表 3-7-3 大栗遺跡・K₂O-CaO 図 (K:0-12) を作成した。図に示すように蛍光 X 線分析 (XRF) の分析領域と蛍光 X 線分析 (EDS) を比較すると、蛍光 X 線分析 (EDS) の分析領域は蛍光 X 線分析 (XRF) の分析領域より 1～2% 大きい領域として図の右側にずれている。このことは分析の際の蛍光 X 線の分析深度の違いを示すもので、蛍光 X 線分析 (XRF) は深く、蛍光 X 線分析 (EDS) 2) は浅くそのために生じた結果である。

3) 蛍光 X 線分析 (XRF) と蛍光 X 線分析 (EDS) の両者の分析結果はともに被熱すると K₂O の値が高く出ることを示しており、異なる分析装置で分析した結果がともに補完しあい、被熱の精度を明確にしていることを示している。

4) 黒曜石の新鮮なものは打ち欠いた面が平滑で、ガラスの表面のようにになっているものである。しかし強比熱の電子顕微鏡写真では分析表面に多くの線条痕や冷却過程で取り込んだ灰などの規則正しい配列がみられ、混濁しているのが特徴である。

5) 強被熱遺物の表面は全体にくすんでおり、新

表 3-7-1 化学分析表 -1

試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total	Rb/0	Sr/0	原産地	種類	グリッド
大栗1	2.7849	0.0000	12.1606	78.7272	0.5221	4.3780	0.5523	0.1036	0.0695	0.6710	0.0149	0.0010	0.0011	0.0138	100.0000	1367	86	和田峠系-2	楔形石器	6025
大栗2	2.6339	0.0000	12.0938	78.7541	0.5305	4.6501	0.5072	0.1066	0.0691	0.6297	0.0109	0.0060	0.0014	0.0065	99.9998	1027	557	和田峠系-2	剥片	5724
大栗3	2.1126	0.0000	12.2444	77.8832	0.4289	5.8069	0.5336	0.1192	0.0910	0.7402	0.0154	0.0058	0.0039	0.0149	100.0000	1100	404	和田峠系-2	剥片	5624
大栗4	2.9131	0.0000	11.9048	78.6956	0.5096	4.5614	0.5351	0.1144	0.0623	0.6636	0.0157	0.0078	0.0052	0.0114	100.0000	1412	688	和田峠系-2	剥片	6127
大栗5	3.2711	0.0000	12.0044	77.4946	0.5526	5.2553	0.5346	0.1074	0.0835	0.6637	0.0156	0.0046	0.0016	0.0110	100.0000	1459	424	和田峠系-2	剥片	6127
大栗6	3.2480	0.0000	11.9565	78.5655	0.5165	4.3910	0.5549	0.0939	0.0602	0.5825	0.0150	0.0034	0.0025	0.0103	100.0002	1340	293	和田峠系-2	剥片	5626
大栗7	2.6830	0.0000	12.3805	78.7585	0.1800	4.5942	0.5085	0.0870	0.0963	0.6710	0.0256	0.0000	0.0054	0.0102	100.0002	2555	0	和田峠系-1	加工痕ある剥片	5524
大栗8	1.4436	0.0000	11.7790	77.5107	0.4738	7.4330	0.4996	0.1155	0.0718	0.6363	0.0146	0.0058	0.0056	0.0108	100.0001	1254	485	和田峠系-2・強被熱	剥片	5522
大栗9	3.0694	1.0309	5.2408	62.7420	0.4355	5.9457	18.9193	0.3225	0.0779	2.1583	0.0061	0.0362	0.0000	0.0152	99.9998	282	1629	ガラス	破片	5427
大栗10	2.4528	0.0000	13.5963	77.4162	0.1826	4.6830	0.6268	0.1149	0.0969	0.7910	0.0248	0.0000	0.0038	0.0109	100.0000	2275	0	和田峠系-1	剥片	表採

表 3-7-2 化学分析表 -2

試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Total
大栗-8	1.49	0.00	11.89	72.56	0.00	9.31	0.81	0.00	1.45	2.48	99.99

表 3-7-3 原産地対照表

試料名	原産地	器種	グリッド
大栗9	ガラス	破片	5427
大栗7	和田峠系-1	加工痕ある剥片	5524
大栗10	和田峠系-1	剥片	表採
大栗1	和田峠系-2	楔形石器	6025
大栗2	和田峠系-2	剥片	5724
大栗3	和田峠系-2	剥片	5624
大栗4	和田峠系-2	剥片	6127
大栗5	和田峠系-2	剥片	6127
大栗6	和田峠系-2	剥片	5626
大栗8	和田峠系-2・強被熱	剥片	5522

鮮な黒曜石の表面のような透明感はなく混濁しているのが特徴である。この混濁した表面は被熱過程で表面が一度溶けて灰などを取り込み冷却したことを示している。混濁した表面に取り込まれた灰はK2Oを多く含むもので、K2Oの高い値はその現象を反映しているものである。

引用文献

- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析 (XRF) 北越考古学、第11号、23-38/
 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51.
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集



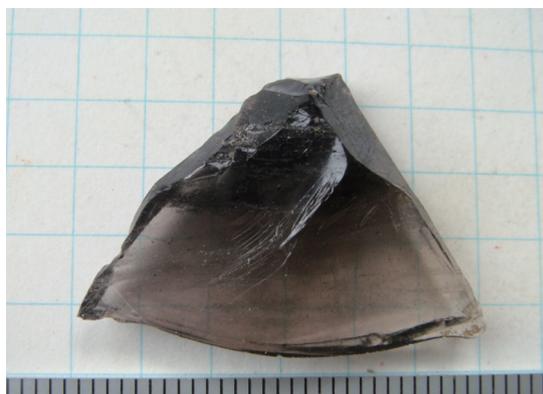
大栗 -1



大栗 -2



大栗 -3



大栗 -4

図 3-7-1 大栗遺跡出土黒曜石写真 -1



大栗-5



大栗-6



大栗-7



大栗-8



大栗-9



大栗-10

图 3-7-2 大栗遺跡出土黒曜石写真 -2

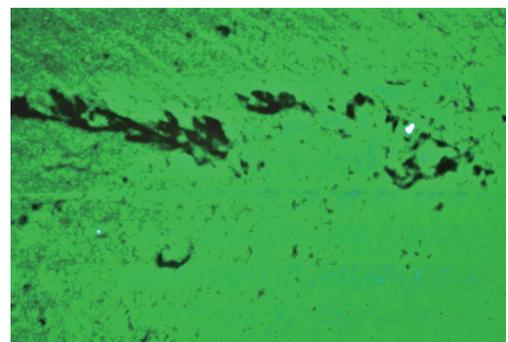


图 3-7-3 大栗遺跡・強被熱 EDS 写真

第4章 総括

大栗遺跡の遺構変遷について

大栗遺跡では、縄文時代早期から近代にかけての遺構を検出した。最後に、その遺構の変遷についてまとめておく。

縄文時代早期 (図 4-1-1)

縄文時代早期の遺構は 2016 年度の調査区で確認した。屋外炉が 5 基 (うち煙道付炉穴が 3 基) と陥し穴が 9 基である。ただし、煙道付炉穴を除く屋外炉 2 基については、出土炭化材の AMS¹⁴C 年代測定値に新しい時代が混じることから、この時期の遺構ではない可能性を含んでいる。

また、2015 年度調査区では押型文土器や石器が集中する地点も確認している。

この時期の遺構の配置は、調査区中央の緩斜面に煙道付炉穴があり、南東側の急斜面から緩斜面への傾斜変換点付近に陥し穴が集中する。2015 年度調査区の遺物集中地点は居住域であった可能性も想定できる。

縄文時代中期 (図 4-1-2)

縄文時代中期は 2016 年度調査区の平坦面に位置する竪穴建物 090SI のみである。この竪穴建物は円形のプランで、中央に石囲炉を有する。中期後半の取組式に属する土器や、打製石斧・石器・磨石・敲石・台石などの石器類も出土している。

弥生時代～古代

弥生時代や古代の遺物も若干出土しているが、これに伴う明確な遺構は存在しない。

中世

中世に属する可能性が高い遺構には、2016 年度調査区の西端部に設定したメインセクションで確認した水田がある。

この水田については遺構として検出・掘削をし

なかつたために平面プランは不明だが、メインセクションを見れば緩斜面に、等高線に平行して畦畔を築いていることがわかる (図 4-2)。なかには水田区画の幅が 2m ほどしかない区画もあることから、水田一つ一つの区画が小さい「小区画水田」であった可能性が高い。2021 年度に調査を行なった大崎遺跡では、中世に属するとみられる小区画水田を広範囲に検出・掘削することができた。おそらく大栗遺跡においても、中世には大崎遺跡と同様の景観が広がっていたと想定できる。

また中世に関しては、縄文時代と想定していた遺構から出土した炭化材に鎌倉～室町時代の年代を示すものが若干認められることから、所属時期不明の多数の土坑のうちのいくつかは中世の活動の痕跡である可能性を有する。

近世～近代 (図 4-1-3)

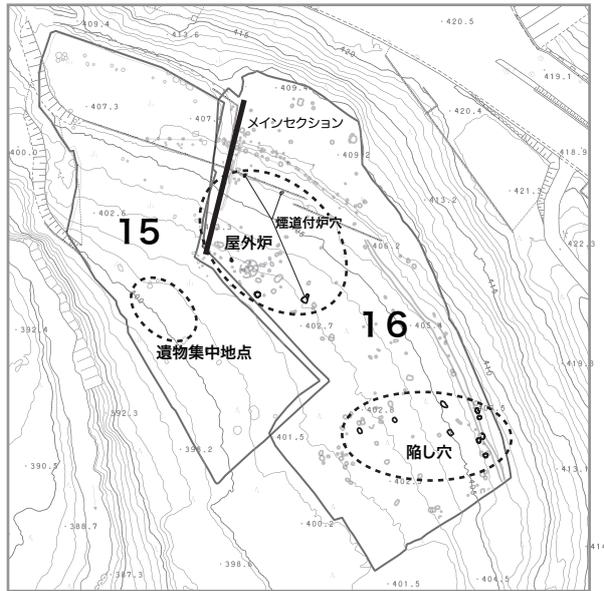
近世のある時期には、柵列が 3 基築かれている。メインセクションでは、柵列 2 の最西端の柱掘方が水田耕作土より上の面から掘削されていることから、中世の水田遺構より新しいことは疑いない。

この 3 基の柵列は、ほぼ等高線に平行して設置されている。近代に築かれた石垣は、後述する宅地と墓域を造るために造成した平場の土留めとしての機能を有していた。柵列 3 基はこの後世の石垣の位置に極めて近いことが、図 4-1-3 を見ればわかる。おそらくは、近代の宅地に先行する時期の平場造成のために築かれた土留めとしての機能を持っていたのではないかと想定する。特に柵列 2 (070SA) は柱掘方が直径約 70cm、深さも検出面から 1m を超えていることから、土留めのための柵列と考えるのが妥当であろう。

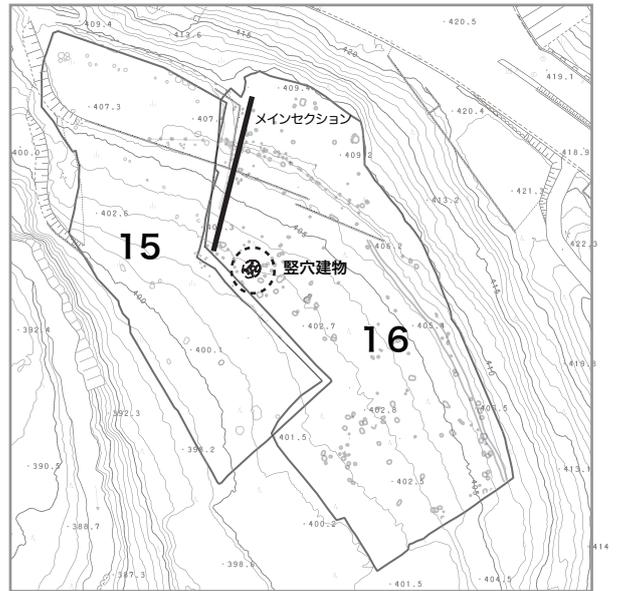
近代 (図 4-1-4)

近代には石垣を構築して、前段階の平場を拡張している。西側の平場 1 には宅地があったことが

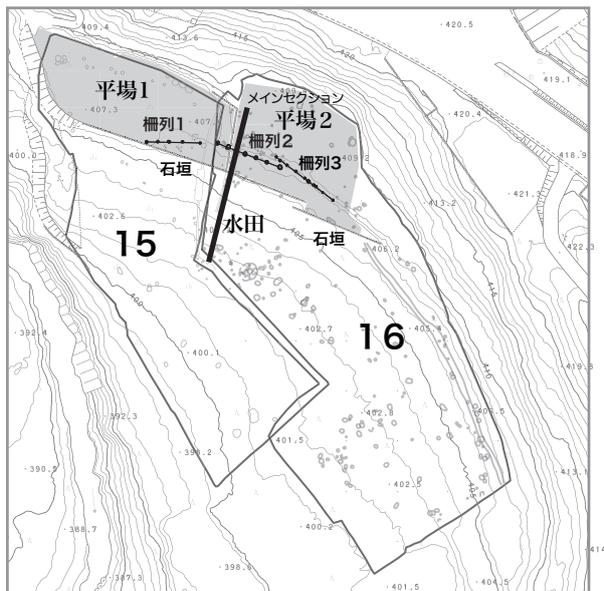
1. 縄文時代早期



2. 縄文時代中期



3. 近世～近代



4. 近代

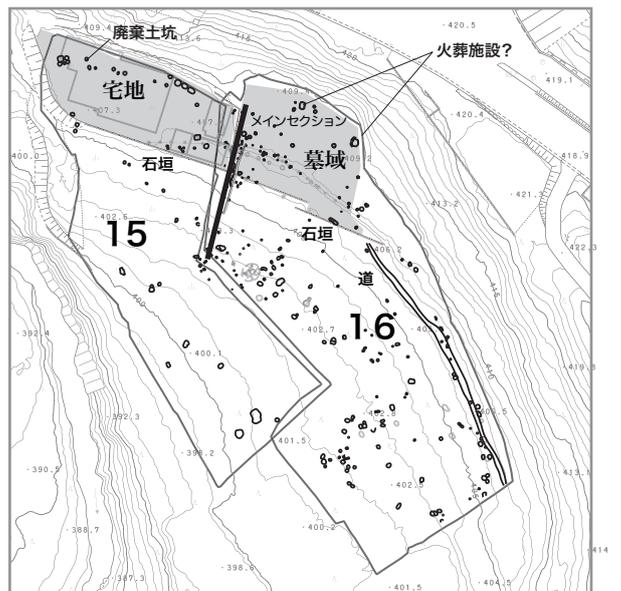


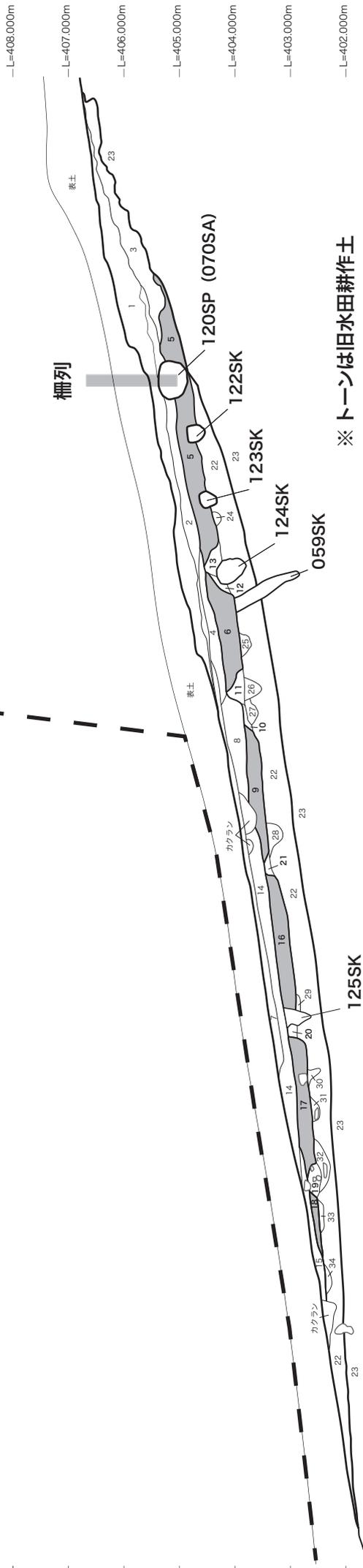
図4-1 大栗遺跡の遺構変遷図 (S=1:1,500)

わかっている。さらにそこから一段高い西側の平場2では、何かを焼いた痕跡を持つ土坑2基があり、うち1基(001SX)は石組みを有する。おそらく、西側の宅地に伴う墓域として機能していたのであろう。

この宅地も第二次大戦後は解体・撤去されて、調査開始前にはすでに杉の植林地となっていた。

・0.000m ・5.000m ・10.000m ・15.000m ・20.000m ・25.000m

石垣



※ トーンは旧水田耕作土

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 礫の混じり少ない。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 明黄褐色土ブロック状に混じる。
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト φ10cm以下の礫、明黄褐色土ブロック状に混じる。
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫（一部の礫は発熱赤色化）。
- 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫少量混じる。耕作土。
- 6 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫（明黄褐色土が粒状に混じる）耕作土。
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫多く混じる。
- 9 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の角礫、明黄褐色シルトを粒状に混じる。耕作土。
- 10 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の角礫、明黄褐色シルトを粒状に混じる。耕作土。
- 11 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。固くしまる。畦。
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。固くしまる。畦。
- 13 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。畦。
- 14 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫少量混じる。耕作土。
- 15 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の角礫混じる。
- 16 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。耕作土。
- 17 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い。耕作土。
- 18 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫多く混じる。畦。
- 19 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い。φ10cm以下の礫少量混じる。畦。
- 20 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強い。φ5cm以下の礫少量混じる。畦。
- 21 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。
- 22 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。φ10cm以下の角礫が少量混じり下位の23層との境界は漸移的な変化。23層の土壌化層。
- 23 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黒褐色シルトがブロック状に多く混じる。
- 24 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト φ5cm以下の礫多く混じる。
- 25 10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱い。
- 26 10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱い。φ10cm以下の礫多く混じる。
- 27 10YR3/2 黒褐色シルト しまり弱い。
- 28 10YR2/3 黒褐色シルト φ10cm以下の礫少量混じる。
- 29 10YR2/3 黒褐色シルト φ10cm以下の礫少量混じる。
- 30 10YR3/3 暗褐色シルト 植栽痕と混わる。
- 31 10YR3/3 暗褐色シルト φ20cm以下の角礫多く混じる。石の抜き取り痕か。
- 32 10YR3/3 暗褐色シルト φ20cm以下の風化岩混じる。上層の影響による変化か。
- 33 10YR3/1 黒褐色シルト φ5cm以下の礫明黄褐色土がブロック状に混じる。
- 34 10YR3/3 暗褐色シルト しまり弱い。植栽痕。
- 059SK 1 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫を含む。
- 120SK 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり弱い (070SAの続き)
- 122SK 1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土粒状に混じる。
- 123SK 1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土粒状に混じる。
- 124SK 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。
- 125SK 1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。

図 4-2 2016 年度調査区 西壁土層断面図 (S=1:100)

2015年度 遺構一覽表-2

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	備考
15C	0385K	5424	1	0.275	0.261	0.1505	10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150828	無	
	0393K	5424	1	0.392	0.377	0.237	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。	20150828	無	
	0405K	5425	1	0.349	0.313	0.546	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。	20150828	無	
	0415K	5425	1	1.036	0.874	0.4415	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。	20150828	無	
	0423K	5222	1	0.437	0.366	0.3185	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150828	有	セクション図あり d-0060
	0433K	5222	1	0.807	0.518	0.33	10YR3/3 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。中濼の角礫を1点含む。	20150831	有	
	0445K	5222	1	0.484	0.441	0.3775	10YR3/3 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを含む。灰化物を少量含む。	20150831	無	
	0455K	5222	1	0.625	0.567	0.3495	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 中濼の亜角礫を多く含む。	20150831	有	
	0465K	5222	1	1.298	1.255	0.34	10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中濼の角礫を多く含む。黄褐色シルトの小ブロックを含む。	20150831	有	
	0475K	5223	1	0.554	0.311	0.2995	10YR3/1 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	
	0485K	5222	1	-0.86	-0.77	0.3605	10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを含む。大濼の亜角礫を1点含む。	20150904	無	
	0495P	5223	1	0.651	0.592	0.3365	1.10YR3/1 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 中濼の角礫を含む。 2.10YR5/6 黄褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	セクション図あり
	0505K	5223	1	0.712	0.682	0.426	10YR4/4 褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	
	0515K	5222	1	0.761	0.643	0.1845	10YR3/1 黒褐色 中粒砂少量含む細粒砂層 中濼の角礫を含む。	20150904	有	
	0525K	5322	1	0.715	0.62	0.224	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	
	0535K	5322	1	0.821	0.644	0.204	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	
	0545K	5322	1	0.656	0.58	0.169	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150904	無	
	0555K	5222	1	0.799	0.761	0.285	10YR3/1 黒褐色 中粒砂少量含む細粒砂層 中濼の角礫を含む。	20150904	有	
	0565K	5423	1	0.575	0.492	0.1885	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150907	無	
	0575K	5524	1	0.498	0.345	0.1375	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150907	無	
0585K	5525	1	0.678	0.506	0.15	10YR3/1 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを少量含む。黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150907	無		
0595K	5423	1	0.458	0.362	0.212	1.10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 暗褐色細粒砂ブロックを含む。黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。 2.10YR3/3 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層	20150914	無		
0605K	5423	1	0.377	0.353	0.1155	10YR3/4 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを少量含む。灰化物を極少量含む。	20150914	無	061SKを切る。 セクション図あり	
0615K	5424	1	0.398	0.325	0.106	7.5YR4/3 褐色 シルト少量含む粘土層 灰化物を極少量含む。	20150914	無	060SKに切られる。 セクション図あり	
0625K	5424	1	0.589	0.451	0.139	10YR3/4 暗褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを含む。灰化物を極少量含む。	20150914	無		
0635K	5524	1	0.821	0.534	0.1465	10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。灰化物を極少量含む。	20150915	有		
15A	中央トレンチ						1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。(018SK) 2 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒色細粒砂の小ブロックを含む。にぶい黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。 3 10YR4/3 褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを少量含む。黒色細粒砂の小ブロックを少量含む。 4 10YR6/1 相灰色 細粒砂少量含むシルト層 大濼の亜角礫を含む。細礫を含む。 5 10YR4/6 褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150806	有	A区西端の遺物密集地帯 セクション図あり d-0042、一括
	北東壁セクション						1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを含む。中濼の亜角礫を少量含む。客土。 2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを非常に多く含む。黒褐色細粒砂の小ブロックを含む。 3 10YR4/4 褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒色シルトの小ブロックを含む。にぶい黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。 4 10YR5/6 黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。 5 10YR4/6 褐色 細粒砂少量含むシルト層 中濼の亜角礫を多く含む。黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150806		
	東壁セクション						1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 中濼の角礫を含む。表土。 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細粒砂少量含むシルト層 細礫を非常に多く含む。暗褐色極細粒砂の小ブロックを含む。大濼の角礫を含む。客土。 3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 細礫を少量含む。客土。 4 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色シルトの小ブロックを含む。中濼の亜角礫を少量含む。客土。 5 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。暗褐色シルトの小ブロックを少量含む。 6 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを含む。黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。 7 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを含む。 8 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトの小ブロックを非常に多く含む。黒褐色細粒砂の小ブロックを含む。 9 10YR4/4 褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを含む。にぶい黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。 10 10YR5/6 黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。	20150831	有	セクション図あり d-0058、一括

2016年度 遺構一覽表-1

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	備考
16A	0015X	5328・5428	1	1.9	1.53	0.33	セクション④参照		土師器、炭化物	石組み遺構 火葬施設か
16A	0025X	5327	1	1.42	1.19	0.34	セクション④参照		陶磁器	埋土に焼土多量
16A	0035X	5327	1	0.5	0.44	0.07	セクション④参照			埋土に焼土多量
16A	0045X	5327	1	0.58	0.56	0.15	セクション④参照			埋土に焼土多量
16A	0055X	5326	1	0.68	0.47	0.12	セクション④参照			埋土に焼土多量
16A	0065X	5729	1	0.96	0.17	0.44	1. 2.5V5/3 黄褐色シルト 粗砂～細砂を少量含む。 中粒砂を含む。	2016-10-14	陶磁器	
16A	0075X	5729	1	0.7	0.22	0.3	1. 2.5V5/3 黄褐色シルト 中粒砂を含む。	2016-10-14		
16A	0085X	5629	1	0.89	0.67	0.56	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、中礫の亜角礫、焼土含む。	2016-10-14		
16A	0095X	5528	1	0.52	0.41	0.39	セクション④参照			
16A	0105X	5528	1	0.33	0.33	0.23	セクション④参照			
16A	0115X	5528	1	0.8	0.75	0.8	セクション④参照			
16A	0125X	5528	1	0.48	0.39	0.45	セクション④参照			
16A	0135X	5527・5528	1	0.32	0.3	0.22	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、亜角礫の中礫を含む。	2016-10-14		
16A	0145X	5527・5528	1	0.42	0.39	0.35	セクション④参照			
16A	0155X	5427	1	0.74	0.69	0.37	セクション④参照			
16A	0165X	5326	1	0.27	0.23	0.12	1. 10YR5/2 黒褐色シルト 中礫の亜角礫多く含む、焼土含む。	2016-10-18	陶磁器、鉄滓	
16A	0175X	5325	1	0.92	0.86	0.23	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-18		
16A	0185X	5325	1	0.5	0.43	0.19	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-18		
16A	0195X	5326	1	0.65	0.57	0.23	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、細礫を含む。	2016-10-18		
16A	0205X	5326	1	0.34	0.33	0.29	セクション④参照			
16A	0215X	5426	1	0.66	0.58	0.28	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、炭を含む。	2016-10-18		
16A	0225X	5427	1	0.2	0.18	0.31	セクション④参照			
16A	0235X	5426	1	0.42	0.4	0.36	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 中粒砂含む。	2016-10-18		071SA
16A	0245X	5426	1	0.86	0.74	0.85	セクション④参照			070SA
16A	0255X	5426	1	0.21	0.19	0.14	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、炭少量含む。	2016-10-18		
16A	0265X	5426	1	0.23	0.22	0.19	セクション④参照			
16A	0275X	5426	1	0.47	0.41	0.46	セクション④参照			
16A	0285X	5426	1	0.63	0.57	0.51	セクション④参照			070SA
16A	0295X	5426	1	0.36	0.34	0.21	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルトブロック少量含む。	2016-10-18		
16A	0305X	5426	1	0.43	0.37	0.22	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック少量含む、細礫～中礫の亜角礫を含む。	2016-10-18		
16A	0315X	5426	1	0.32	0.28	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-18		
16A	0325X	5426	1	0.64	0.59	0.3	セクション④参照			070SA
16A	0335X	5426	1	0.22	0.18	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。	2016-10-18	陶磁器、石器、鉄滓	
16A	0345X	5426	1	0.24	0.22	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量、細礫を含む。	2016-10-18		
16A	0355X	5426	1	0.18	0.18	0.19	セクション④参照			
16A	0365X	5425・5426	1	0.73	0.66	0.74	セクション④参照			070SA
16A	0375X	5425	1	0.21	0.18	0.23	セクション④参照			
16A	0385X	5425	1	0.8	0.75	1.12	セクション④参照			070SA
16A	0395X	5425	1	0.47	0.44	0.48	セクション④参照			038と重複
16A	0405X	5425	1	0.83	0.57	0.26	セクション④参照			
16A	0415X	5426	1	0.24	0.25	0.54	1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い、黄褐色シルトブロック少量含む。	2016-10-18		
16A	0425X	5425	1	0.6	0.4	0.17	セクション④参照			鉄治炉
16A	0435X	5426	1	0.22	0.2	0.2	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂～細礫、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-18		
16A	0445X	5427	1	0.34	0.33	0.31	セクション④参照			071SA
16A	0455X	5427	1	0.65	0.51	0.54	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。	2016-10-18		071SA
16A	0465X	5427	1	0.38	0.33	0.31	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂～細礫を少量含む。	2016-10-18		071SA

2016年度遺構一覽表-2

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	備考
16A	047SK	5428	1	0.45	0.42	0.39	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を少量含む。	2016-10-18		
16A	048SP	5427	1	0.367	0.35	0.42	セクション図参照	2016-10-18		071SA
16A	049SK	5427	1	0.27	0.24	0.6	1. 10YR4/1 補灰色シルト やや粘質 粗砂を多く含む。	2016-10-18		
16A	050SK	5527	1	0.36	0.29	0.21	セクション図参照	2016-10-18		
16A	051SP	5527	1	0.35	0.31	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、灰を含む。	2016-10-18		071SA
16A	052SP	5527	1	0.24	0.2	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-18		071SA
16A	053SK	5525	1	0.31	0.31	0.73	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-19		
16A	055SK	5527	1	0.14	0.11	0.3	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-19		
16A	056SK	5527	1	0.33	0.3	0.42	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトブロックを含み、中線の亜角縁を多く含む。	2016-10-19		
16A	057SK	5425	1	0.37	0.32	0.55	セクション図参照	2016-10-19		土師器
16A	058SP	5425	1	0.86	0.69	1.13	セクション図参照	2016-10-19		土器
16A	059SK	5425	1	0.26	-0.16	0.66	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む、細線を含む。	2016-10-19		070SA 西壁断面で確認。
16A	060SK	5526	1	0.36	0.3	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトを含む。	2016-10-19		
16A	061SK	5525	1	0.23	0.23	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-19		
16A	062SK	5528	1	0.45	0.31	0.16	セクション図参照	2016-10-19		
16A	063SK	5425	1	0.26	0.26	0.19	セクション図参照	2016-10-19		セクション上面で検出。
16A	064SK	5425	1	-1.54	-0.76	0.36	セクション図なし	2016-10-19		セクション上面で検出。
16A	065SK	5425	1	0.37	0.32	0.29	セクション図参照	2016-10-19		セクション上面で検出。
16A	066SK	5425	1	-2.75	-0.51	0.4	セクション図なし	2016-10-19		セクション上面で検出。
16A	067SK	5326	1	0.35	0.33	0.55	セクション図参照	2016-10-19		セクション上面で検出。
16A	069SK	5326	1	0.55	0.45	0.29	1. 10YR5/4 灰黄褐色シルト やや粘質 中粒砂、細線を多く含む。	2016-10-19		
16A	070SA	5425・5426	1	11.03	-	-		2016-10-19		024・028・032・036・038・058・120で構成される棚列。
16A	071SA	5426・5427・5527	1	14.14	-	-		2016-10-19		023・044~046・048・051・052・078・080・082で構成される棚列。
16A	072SK	5425	1	0.3	0.24	0.27	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-25		
16A	073SK	5425	1	0.27	0.23	0.35	セクション図参照	2016-10-25		
16A	074SK	5425	1	0.23	0.22	0.06	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-25		
16A	075SK	5528	1	-0.64	-0.49	0.21	セクション図参照	2016-10-25		土師器
16A	076SK	5425	1	0.39	0.34	0.59	セクション図参照	2016-10-25		062SKと重複
16A	077SK	5426	1	0.26	0.23	0.58	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 灰を多く含む。径15mmの大線の角縁あり。	2016-10-25		
16A	078SP	5426	1	0.34	0.29	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。	2016-10-25		071SA
16A	079SK	5426	1	0.26	0.25	0.19	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む、細線含む。	2016-10-25		
16A	080SP	5426	1	0.33	0.32	0.23	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む、径10mmの大線の亜角縁あり。	2016-10-25		071SA
16A	081SK	5426	1	0.3	-0.28	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む、中線の亜角縁を含む。	2016-10-25		080と重複
16A	082SP	5426・5427	1	0.36	0.33	0.2	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-25		071SA
16A	083SK	5525	1	1.11	0.86	0.19	セクション図参照	2016-10-27		
16A	084SK	5525	1	0.31	0.3	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量、灰を含む。	2016-10-27		
16A	085SK	5525	1	0.33	0.31	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-27		
16A	086SK	5525	1	0.3	0.22	0.31	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-27		
16A	087SK	5525	1	0.41	0.26	0.17	セクション図参照	2016-10-27		
16A	088SL	5525	1	0.75	0.49	0.15	セクション図参照	2016-10-27		
16A	089SK	5425	1	0.23	0.21	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 にふい黄褐色シルトブロックを含む、細線、中線の亜角縁を含む。	2016-10-27		セクション上面で検出。
16A・B	090SX	5525・5526	1	3.66	3.23	0.16		2016-10-27		平面円形 堅欠遺物か。遺物は根株最上層で出土。耕作土内の遺物か。
16A	091SK	5425	1	0.45	0.25	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 にふい黄褐色シルトブロック、細線を含む。	2016-10-31		陶磁器、石器 セクション上面で検出。

2016年度 遺構一覽表-3

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	備考
16A	0925K	5425	1	0.27	0.24	0.2	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-10-31		
16A	0945K	5425	1	0.28	0.25	0.18	1. 10YR5/3 に近い黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。細礫、炭を含む。	2016-10-31		
16A	0955K	5425	1	0.54	0.21	0.28	1. 10YR5/3 に近い黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。細礫、炭を含む。	2016-10-31	石器	
16A	0965K	5425	1	0.4	0.27	0.33	セクション図参照	2016-10-31		
16A	0975K	5426	1	0.39	0.3	0.29	1. 10YR5/3 に近い黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、細礫、中礫の垂角礫を含む。	2016-10-31		
16A	0985K	5525	1	0.39	0.32	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-31		
16A	0995K	5525	1	0.33	0.2	0.14	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-31		
16A	1005K	5625	1	0.27	0.23	0.24	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-10-31		
16A	1015K	5629	1	0.8	0.6	0.35	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック、焼土を含み、径10mmの大礫の垂角礫あり。	2016-10-31		
16A	1025K	5629	1	0.46	0.38	0.43	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック、焼土を含み、径10mmの大礫の垂角礫あり。	2016-10-31		
16A	1035K	5425	1	0.2	0.19	0.31	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-01		
16A	1045K	5425	1	0.39	0.26	0.3	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 黄褐色シルトブロック、中礫の垂角礫を含む。	2016-11-01		
16A	1055K	5625	1	1.19	-0.88	0.29	セクション図参照	2016-11-01	土師器	
16A	1075K	5426	1	0.35	0.35	0.14	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。中礫の垂角礫を含む。	2016-11-02		081と重複
16A	1085K	5425	1	0.26	0.25	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-02		
16A	1095K	5425	1	0.37	0.32	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを多く含む。炭を含む。	2016-11-04		
16A	1105K	5425	1	0.19	0.18	0.18	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-04		
16A	1115K	5326	1	0.43	0.4	0.18	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを多く含む。	2016-11-04		
16A	1125K	5325	1	0.26	0.22	0.36	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含み、中礫の垂角礫を含む。	2016-11-04		
16A	1135K	5427	1	0.26	0.23	0.2	1. 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-09	陶磁器・炭化物	
16A	1145K	5325	1	0.31	0.27	0.37	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-09		
16A	1155K	5325	1	0.26	0.23	0.48	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-09		
16A	1165K	5325	1	0.25	0.24	0.24	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-09		
16A	1195L	5526	1	0.61	0.41	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、炭、焼土を含む。	2016-11-11		
16A	1205P	5425	1	0.72	0.43	0.52	1. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト しまり弱い (070SAの黒さ)	2016-11-11		070SA 西壁断面で検出 未掘削。
16A	1215K	5526	1	0.28	0.27	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-11		
16C	1225K		1	-	-	0.33	1. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土層状に混じる。	2016-11-11		西壁断面で確認
16C	1235K		1	-	-	0.32	1. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。明黄褐色土層状に混じる。	2016-11-11		西壁断面で確認
16C	1245K		1	-	-	0.53	1. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。	2016-11-11		西壁断面で確認
16C	1255K		1	-	-	0.48	1. 10YR3/1 黒褐色シルト しまり弱い。断面中の土坑。	2016-11-11		西壁断面で確認
16B	1265K	5626	1	1.74	1.09	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-28		
16B	1275K	5626	1	0.31	0.26	0.09	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを多く含む。	2016-11-28		
16B	1285K	5726	1	0.87	0.76	0.23	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。径10mmの大礫の垂角礫あり。	2016-11-28		
16B	1295K	5626	1	0.36	0.35	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-28		
16C	1305K	6030	1	0.89	0.8	0.34	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-15		
16C	1315K	6030	1	0.69	0.62	0.34	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、炭を含む。	2016-11-15		
16C	1325K	6030	1	0.71	0.57	0.37	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黄褐色シルトブロック、中礫の角礫を含む。	2016-11-15		
16C	1335K	6030	1	1	0.86	0.53	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-15		
16C	1345K	6130	1	0.74	-0.7	0.36	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。	2016-11-15		
16C	1355K	6030	1	0.33	0.29	0.68	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-11-15		断面写真なし
16C	1365P	6030	1	0.32	0.27	0.48	セクション図参照	2016-11-15		
16C	1375K	5930	1	1.09	0.63	0.72	セクション図参照	2016-11-15		
16C	1385K	5930	1	0.28	0.27	0.14	セクション図参照	2016-11-15		
16C	1395K	5930	1	0.89	0.83	0.6	セクション図参照	2016-11-15		
16C	1415K	5929-5930	1	1.17	0.85	0.81	セクション図参照	2016-11-15		
16C	1425K	5930	1	1.3	0.32	0.32	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒色ブロックを含む。	2016-11-15		
16C	1435K	5930	1	0.58	0.53	0.28	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。	2016-11-15		

2016年度 遺構一覽表-4

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	出土遺物	備考
16C	144SK	6129	1	0.53	-0.35	0.29	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黒褐色シルトブロックを多く含む、中線の垂角線を含む。		2016-11-16
16C	145SK	6129	1	0.23	0.22	0.32	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-16
16C	147SK	6130	1	0.28	0.25	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-16
16C	151SK	6129	1	0.9	0.58	0.27	セクション図参照		2016-11-17
16C	152SK	6129	1	-	-	-	セクション図参照		2016-11-17
16C	154SK	6030	1	0.89	0.82	0.76	セクション図参照		2016-11-17
16C	156SK	6028	1	0.93	0.75	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-17
16C	157SK	5929	1	0.41	0.32	0.38	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロックを少量含む、細線を含む。		2016-11-17
16C	158SK	5929	1	0.6	0.58	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロックを多く含む。		2016-11-17
16C	159SK	6028	1	0.76	0.61	0.19	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む、中線の垂角線を含む。		2016-11-18
16C	160SK	5830	1	0.88	0.64	0.25	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-18
16C	161SK	5830	1	0.63	0.5	0.3	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂を含む、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-18
16C	162SK	6128・6129	1	1.2	0.58	0.17	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む、黒褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-18
16C	163SK	6029	1	0.94	0.67	0.21	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。 径10cmの大礫の垂角線あり。		2016-11-18
16C	164SK	5928	1	0.94	0.75	1.23	セクション図参照		2016-11-18
16C	165SK	5928	1	1.11	0.75	0.75	セクション図参照	土器・石器	2016-11-18
16C	166SK	5928	1	0.91	-0.66	0.06	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。	土器	2016-11-18
16C	167SK	5928	1	0.78	0.5	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-18
16C	168SK	5928	1	0.85	0.53	0.37	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 中粒砂を含む、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-18
16C	169SK	5928	1	0.77	0.75	0.3	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 下部に黒褐色シルトブロックを多く含む、細線を含む。		2016-11-18
16C	170SK	5928	1	-0.55	0.49	0.19	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-18
16C	171SK	5928	1	0.8	0.62	0.22	セクション図参照		2016-11-18
16C	172SK	5830	1	0.3	0.25	0.58	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロック、炭を含む。		2016-11-18
16C	174SK	6028	1	0.56	0.55	0.05	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-18
16C	176SK	5729	1	0.51	0.44	0.2	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む、中線の垂角線を含む。		2016-11-18
16C	177SP	5729・5829	1	0.37	0.32	0.18	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロック、炭を含む。		2016-11-18
16C	178SK	6028	1	0.75	0.53	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-18
16C	179SK	6027・6028	1	0.75	0.58	0.19	セクション図参照		2016-11-18
16C	180SK	5829	1	0.42	0.35	0.14	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 黒褐色シルトブロックを多く含む。		2016-11-21
16C	182SK	5829	1	1.22	0.92	0.17	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-21
16C	183SK	5929	1	0.41	0.37	0.31	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。		2016-11-21
16C	184SK	5929	1	0.29	0.26	0.39	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-21
16C	185SK	5928	1	1.11	0.77	0.19	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-21
16C	186SK	5928	1	0.34	0.31	0.03	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-21
16C	187SK	5928	1	0.96	0.28	0.07	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-21
16C	188SK	6129	1	0.88	0.76	0.26	セクション図参照		2016-11-21
16B	190SK	5826	1	1.04	0.77	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを少量含む、中線の垂角線を含む。		2016-11-28
16B	193SK	5826	1	0.45	0.4	0.17	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを多く含む。		2016-11-28
16B	195SK	5826	1	1.07	0.45	0.26	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質		2016-11-28
16B	196SK	5826	1	0.48	0.47	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-28
16B	197SK	5826	1	0.84	0.55	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-28
16B	198SK	5826	1	0.7	0.56	0.07	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂を含む。	断面写真無し	2016-11-28
16B	199SK	5826	1	0.62	0.37	0.06	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黒褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-28
16B	201SK	5826	1	0.68	0.4	0.05	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂を含む。	断面写真無し	2016-11-28
16B	202SK	5826	1	0.63	0.39	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂を含む。	断面写真無し	2016-11-28
16B	203SK	5828・5829	1	0.84	0.48	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-30
16B	205SK	5828	1	0.59	0.22	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-30

2016年度 遺構一覧表-5

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	出土遺物	日付	備考
16B	206SK	5828	1	0.47	0.45	0.07	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む。		2016-11-30	
16B	207SK	5828	1	0.77	0.39	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒色シルトブロックを含む。		2016-11-30	
16C	210SK	5929	1	1.66	0.85		1 セクション図参照		2016-11-30	
16B	211SK	5728	1	0.45	0.41	0.25	セクション図参照		2016-11-30	
16B	213SK	5828	1	0.28	0.25	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-11-30	
16C	215SK	5930	1	0.27	0.24	0.31	1. 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを少量含む、細礫を含む。		2016-11-30	
16B	216SK	5727・5827	1	0.69	0.54	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-02	
16B	217SK	5727・5827	1	0.86	0.52	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを多く含む。		2016-12-02	
16B	218SK	5727・5827	1	0.86	0.69	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	219SK	5728	1	0.35	0.28	0.21	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	221SK	5728	1	0.34	0.29	0.2	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、下部に黄褐色シルトブロックを多く含む。		2016-12-02	
16B	222SK	5728	1	0.56	0.39	0.6	セクション図参照		2016-12-02	
16C	224SK	5729	1	0.23	-0.14	0.11	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロック、中礫の亜角礫を含む。		2016-12-02	
16C	225SK	5829	1	0.33	-0.27	0.19	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを多く含む。		2016-12-02	
16C	226SK	5829	1	0.4	0.35	0.17	1. 2.5YR5/3 黄褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	230SL	5626	1	0.79	0.79	0.29	セクション図参照		2016-12-02	石器
16B	231SK	5625・5626	1	0.4	0.18	0.14	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-02	
16B	232SK	5625	1	0.4	0.39	0.1	セクション図参照		2016-12-02	
16B	233SK	5625	1	0.34	0.34	0.21	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	234SK	5626	1	0.27	0.26	0.07	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 中粒砂を含む。		2016-12-02	
16B	235SK	5626	1	0.34	0.32	0.09	セクション図参照		2016-12-02	
16B	236SK	5626	1	0.31	0.29	0.1	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む、灰を含む。		2016-12-02	
16B	237SK	5626	1	1.3	0.9	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	238SK	5626	1	0.49	0.36	0.03	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。		2016-12-02	
16B	243SK	5627	1	0.43	0.31	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16B	244SK	5627	1	0.41	0.3	0.09	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂 黒色シルト ブロックを少量含む。		2016-12-02	煙道付炉穴
16B	246SL	5727	1	1.77	1.17	0.54	セクション図参照		2016-12-02	
16B	247SK	5727	1	0.86	0.56	0.08	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、下部に黄褐色シルトブロックを多く含む。		2016-12-02	
16B	248SK	5727	1	0.67	0.4	0.07	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-02	
16C	249SK	5928	1	0.85	0.54	0.28	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	250SK	5928	1	0.34	0.29	0.06	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	251SK	5927・5928	1	0.95	0.74	0.13	セクション図参照		2016-12-05	
16C	252SK	5927・5928	1	0.26	0.25	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。		2016-12-05	
16C	253SK	6027	1	0.51	0.42	0.07	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。		2016-12-05	
16C	254SK	5927	1	0.83	0.72	0.26	セクション図参照		2016-12-05	
16C	255SK	6027	1	1.15	0.21	0.17	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	258SK	6027	1	-0.61	0.34	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。		2016-12-05	
16C	259SK	6027	1	0.76	0.66	0.16	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-05	
16C	261SK	6027・6028	1	0.72	0.58	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	262SK	6027	1	0.63	0.61	0.17	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを含む。		2016-12-05	
16B	264SK	5627	1	0.84	0.52	0.31	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロック、細礫を含む。		2016-12-05	
16C	265SK	5626	1	0.63	0.41	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを含む。		2016-12-05	土器
16B	266SL	5726	1	1.06	1.04	0.38	セクション図参照		2016-12-05	
16C	267SK	6027	1	0.43	0.35	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	268SK	6027	1	0.52	0.51	0.15	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-05	
16C	269SK	6027	1	0.96	0.65	0.11	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを少量含む。		2016-12-06	
16C	270SK	6027	1	1.02	0.88	0.18	セクション図参照		2016-12-06	石器

2016年度遺構一覧表-6

発掘区	遺構名	グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ	埋土	日付	出土遺物	備考
16C	271SK	6027	1	0.45	0.44	0.1	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。	2016-12-06		
16C	272SK	6027	1	0.55	0.44	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-06		
16B	275SK	5527	1	1.94	0.43	0.32	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含む。	2016-12-06		
16B	276SK		1	0.67	0.43	0.34	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 細砂、中級の亜角礫を含む。	2016-12-06		
16B	277SK	5726	1	0.37	0.34	0.33	セクション図参照	2016-12-06		
16B	278SK	5726	1	0.96	0.71	0.05	1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強い 粗砂を含む。	2016-12-06		
16B	279SK	5726	1	0.49	0.39	0.08	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-07		
16B	280SK	5625	1	0.26	0.26	0.08	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-08		
16B	281SK	5625	1	0.23	0.23	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂を含み、黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-08		
16B	282SK	5625	1	0.26	0.25	0.13	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-08		
16B	283SK	5625	1	0.26	0.25	0.1	1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘質 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-12-08		
16B	284SK	5625・5626	1	1.06	0.59	0.11	1. 10YR4/1 黒褐色シルト やや粘質 極粗砂、灰を含む。	2016-12-08	土器、石器	230Sと重複し切られる。攪乱扱いであつた為、断面なし。
16B	286SK	5626	1	0.28	0.28	0.21	セクション図参照	2016-12-08		
16B	287SK	5625	1	0.32	0.28	0.29	セクション図参照	2016-12-08		
16C	288SK	6030	1	0.92	0.6	0.23	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 粗砂、黄褐色シルトブロックを多く含む。	2016-12-09		
16C	289SK	6030	1	0.94	0.76	0.61	セクション図参照	2016-12-09		
16C	290SK	5930・6030	1	1.17	0.87	0.83	セクション図参照	2016-12-09		
16C	291SK	5930	1	0.76	0.74	0.62	セクション図参照	2016-12-09		
16B	293SK	5626	1	0.25	0.22	0.07	1. 10YR3/2 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを含む。	2016-12-09		
16C	294SK	5930	1	0.95	0.61	0.47	セクション図参照	2016-12-09		
16A・B・C	295SF	5638・5629・5728・5729・5629・5830・5930・6030・6031	1	-55.82	1.3	-		2016-12-19		道路状遺構
16C	296SK	6129	1	0.85	-0.63	0.12	1. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘質 黄褐色シルトブロックを少量含む。	2016-12-19		

縄文時代石器一覽表-1

登録番号S	調査年度	発掘区	グリッド	遺構	層位	ドット番号(d-)	器種	分類1	分類2	石材	被熱	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	日付
1	2015	15A	5724	中央トレンチ		42	加工痕ある剥片			凝灰岩		4.1	4.9	0.7	10.1	150803
2	2015	15A	5724	中央トレンチ			剥片			安山岩		5.1	5.4	1.1	20.8	150804
3	2015	15A	5623	検出1		41	剥片			安山岩D		5.1	4.2	1.2	24.3	150731
4	2015	15A	5624	検出1		44	剥片			凝灰岩		3.2	3.3	0.7	4.4	150803
5	2015	15A	5624	検出1		43	剥片			黒曜石		(1.1)	1.4	0.5	0.9	150803
6	2015	15A	5625	検出1		1	加工痕ある剥片			溶結凝灰岩		3.7	3.1	1.0	12.4	150708
7	2015	15A	5625	検出1			加工痕ある剥片			安山岩D		5.6	6.1	1.9	59.7	150708
8	2015	15A	5625	検出1			剥片			泥質凝灰岩		(3.2)	3.4	0.6	8.3	150708
9	2015	15A	5723	検出1		40	剥片			溶結凝灰岩		(3.4)	3.3	0.6	3.9	150731
10	2015	15A	5724	検出1		24	剥片			安山岩B		5.4	4.5	1.1	21.8	150729
11	2015	15A	5724	検出1			剥片			凝灰岩		5.7	2.6	1.3	12.4	150729
12	2015	15A	5724	検出1		32	剥片			黒曜石		2.9	(1.1)	0.5	1.4	150731
13	2015	15A	5724	検出1		23	剥片			溶結凝灰岩		5.0	3.7	2.7	55.4	150729
14	2015	15A	5724	検出1		20	剥片	面極		溶結凝灰岩		3.9	2.6	0.9	9.6	150729
15	2015	15A	5724	検出1		21	剥片			溶結凝灰岩		4.3	3.0	0.9	14.3	150729
16	2015	15A	5724	検出1		56	剥片			溶結凝灰岩		1.8	2.9	0.6	2.5	150806
17	2015	15A	5724	検出1		7	剥片			凝灰岩		4.6	2.8	0.9	8.7	150729
18	2015	15A	5724	検出1		53	剥片			凝灰岩		(2.7)	2.4	0.6	3.0	150806
19	2015	15A	5724	検出1		29	剥片			凝灰岩		(1.8)	2.6	0.5	2.5	150731
20	2015	15A	5724	検出1		15	剥片			凝灰岩		(1.6)	1.6	0.2	0.4	150729
21	2015	15A	5724	検出1		22	剥片			溶結凝灰岩		(1.0)	2.3	0.7	2.4	150729
22	2015	15A	5724	検出1		57	剥片			砂質凝灰岩		4.2	4.4	1	8.3	150806
23	2015	15A	5724	検出1		54	剥片			砂質凝灰岩		2.3	2.7	0.7	3.4	150806
24	2015	15A	5724	検出1		48	剥片			砂質凝灰岩		4.2	4.7	0.7	8.3	150805
25	2015	15A	5724	検出1		38	剥片			砂質凝灰岩		(2.3)	3.3	0.5	3.0	150731
26	2015	15A	5724	検出1		37	剥片			安山岩D		4.5	3.7	0.4	6.6	150731
27	2015	15A	5724	検出1		35	剥片			泥質凝灰岩		6.2	4.2	1.1	20.3	150731
28	2015	15A	5724	検出1		16	剥片			凝灰岩		2.0	3.0	0.3	0.9	150729
29	2015	15A	5724	検出1		51	剥片			凝灰岩		2.7	5.3	0.6	5.8	150805
30	2015	15A	5724	検出1		53	剥片			凝灰岩		(2.0)	2.9	0.5	2.8	150806
31	2015	15A	5724	検出1		39	剥片			砂質凝灰岩		2.9	4.3	0.6	6.7	150731
32	2015	15A	5724	検出1		8	剥片			砂質凝灰岩		3.8	5.0	0.9	11.5	150729
33	2015	15A	5724	検出1		45	剥片			泥質凝灰岩		2.8	5.0	1.1	10.8	150805
34	2015	15A	5724	検出1		52	剥片			凝灰岩		2.4	5.1	1.1	9.5	150805
35	2015	15A	5724	検出1		34	剥片			溶結凝灰岩		1.2	2.3	0.4	0.8	150731
36	2015	15A	5724	検出1		10	剥片			安山岩B		8.0	5.4	5.8	355.7	150729
37	2015	15A	5724	検出1		17	石核	剥片素材		凝灰岩		6.0	4.9	2.2	56.4	150729
38	2015	15A	5725	検出1			石器状石核			安山岩B		1.1	8.5	3.4	408.8	150708
39	2015	15A	5824	検出1			石鏃	有茎		溶結凝灰岩		3.7	1.7	0.4	2.6	150727
40	2015	15A	5824	検出1		4	石鏃?			凝灰岩		(1.0)	1.1	0.2	0.2	150729
41	2015	15A	5824	検出1		9	剥片	面極		溶結凝灰岩		2.3	1.3	0.9	2.2	150729
42	2015	15A	5824	検出1		5	剥片			凝灰岩		2.2	2.8	0.4	1.5	150729
43	2015	15A	5826	検出1			剥片			溶結凝灰岩		(4.4)	3.5	1.1	15.1	150727
44	2015	15A	5925	検出1		3	剥片			安山岩B		5.5	5.7	1.2	36.9	150728
45	2015	15A	6025	検出1		2	楔形石器			黒曜石		2.8	2.2	1.0	5.8	150710
46	2015	15B	5524	O63SK			剥片			黒曜石		(1.9)	2.1	1.0	3.4	150915
47	2015	15B	5524	検出1		62	剥片			砂質凝灰岩		(4.6)	3.5	0.6	5.9	150915

縄文時代石器一覧表-2

登録番号S	調査年度	発掘区	グリッド	遺構	層位	ドット番号(d+)	器種	分類1	分類2	石材	焼熱	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	日付
48	2015	15C	5222	042SK		60	台石			花崗岩	○	19.5 (15.8)	8.1	4071.9	151004	
49	2015	15C	5424	検出1		59	剥片			溶結凝灰岩		(4.2)	4.3	10.0	150904	
50	2015	15C	5424	検出1		61	剥片			凝灰岩		3.5	5.4	16.4	151104	
51	2015	16A	5528	011SK		3	石鏃	有溝		楯基性岩		(1.5)	4.1	64.7	161024	
52	2016	16A1	5425	095SK		7	剥片			溶結凝灰岩		2.4	0.4	1.5	161101	
53	2016	16A1	5626	検出面		10	磨石・敲石類	両端に敲打痕	中央表裏に窪み痕、円鏢	砂質凝灰岩	○	10.8	8.7	3.7	498.5	161118
54	2016	16B1	5626	090SI	床面中	37	削器			安山岩(付マカイト?)		6.4	3.1	1.3	25.1	161207
55	2016	16B1	5626	090SI		20	加工痕ある剥片			安山岩		7.2	5.7	1.4	77.1	161129
56	2016	16B1	5626	090SI	床面	30	剥片			黒曜石		(2.0)	1.9	0.7	2.5	161206
57	2016	16B1	5626	090SI	床面中	36	打製石斧	短冊形?	裏面に摩滅	安山岩		9.2	5.1	1.8	107.2	161207
58	2016	16B1	5626	090SI		23	磨石・敲石類		円鏢	片麻岩	○	7.4	6	3.7	210.6	161201
59	2016	16B1	5626	230SL	1層		剥片			安山岩B		(6.2)	1.7	0.8	8.2	161202
60	2016	16B1	5626	230SL	2層	28	剥片			凝灰岩		(2.8)	3.2	0.7	4.5	161205
61	2016	16B1	5626	230SL		25	剥片			溶結凝灰岩		(3.3)	1.1	0.4	1.3	161202
62	2016	16B1	5626	230SL		54	剥片			溶結凝灰岩		(0.5)	2.2	0.9	1.1	161219
63	2016	16B1	5626	230SL		51	台石			花崗岩		(13.7)	19.5	9.5	5000.0	161219
64	2016	16	5726	266SL		47	剥片			溶結凝灰岩		(2.1)	2.0	1.1	4.9	161212
65	2016	16B1	5626	284SK		48	磨石・敲石類			片麻岩	○	10	6.7	6.7	576.5	161212
66	2016	16B1	5626	検出面		33	削器			泥質凝灰岩		4.6	2.2	0.6	5.3	161206
67	2016	16B1	5626	検出面		34	剥片			泥質凝灰岩		3.1	2.3	0.7	4.7	161206
68	2016	16B1	5726	検出面		27	剥片			凝灰岩		4.2	4	1.1	21.9	161205
69	2016	16B1	5726	検出面			剥片			溶結凝灰岩		4.4	3.5	1	13.3	161208
70	2016	16B1	5726	検出面		38	石核			溶結凝灰岩		5	6.5	3.9	92.3	161208
71	2016	16B1	5726	検出面		39	磨石・敲石類			片麻岩		8	8.1	6.3	550.3	161208
72	2016	16B1	5726	検出面			磨石・敲石類			片麻岩		10.1	6	2.7	249.1	161208
73	2016	16C1	5928	164SK			剥片			安山岩		7.8	3.9	2.5	65.9	161129
74	2016	16C1	6927	270SK			磨製石斧	刃部のみ		楯基性凝灰岩		(6.1)	5.8	3.2	197.0	161206
75	2016	16C1	5828	検出面		16	剥片			安山岩		(4.1)	4.1	0.9	14.3	161122
76	2016	16C1	5926	検出面			打製石斧	刃部		安山岩		(3.8)	4.3	0.9	18.0	161130
77	2016	16C1	6127	検出面		12	剥片			黒曜石		2.4	1.4	1.1	4.6	161118
78	2016	16C1	6127	検出面		11	剥片			黒曜石		(2.0)	2.8	0.5	3.0	161118
79	2015	15B	5522	表採			剥片			黒曜石		(1.4)	2.3	0.7	2.2	150918
80	2016	16	-	表採			加工痕ある剥片			安山岩		(4.2)	3.7	0.5	9.3	161219
81			-	TT36	一括		剥片			溶結凝灰岩		(4.9)	(4.4)	1.4	24.4	140613
82	2015	15A	5625	検出1			砥石	中近世		凝灰岩		(3.0)	2.9	0.9	12.9	150714
83	2015	15B	5422	表土掘削			砥石	中世以降		砂質凝灰岩		(5.0)	4.5	3.4	102.9	150910
84	2015	15B	5422	表土掘削			砥石	中世以降		砂質凝灰岩		9.5	2.3	1.3	4.1	150910
85	2015	15C	5222	045SK			砥石	中世以降		泥質凝灰岩		6.2	3.8	1	33.1	150904
86	2016	16A1	5425	038SK			砥石	中世以降		泥質凝灰岩		3	2.4	2	20.6	161021

土器・陶磁器（縄文以外）一覽表-2

登録番号	年度	調査区	グリッド	遺構	日付	種別	器種	時期	法量			残存率%	調査1		調査2		胎土	色調(胎土)	色調(釉)	備考	
									口径(匣元径)	底径(匣元径)	高さ(匣元高)		内面	外面	内面	外面					
E-57	15	15C	5223	表採	150904	白磁	酒杯		7.0	2.8	2.8	7/12	胎土	胎土・釉ハギ	胎土	胎土	胎土	N9/O白			
E-58	15	15C	5223	表採	150904	磁器	糸付丸罎(丸罎、溜のみ)		8.0	-	4.2	4/12	胎土	胎土・文様	胎土	なし	胎土	胎土	N9/O白		
E-59	15	15C	5223	表採	150904	磁器	糸付丸罎		10.4	4.0	5.5	6/12	胎土	胎土・文様・釉ハギ	胎土	胎土	胎土	胎土	N9/O白		手書き
E-60	15	15C		表土掘削	150810	弥生土器	甕		-	6.3	3.1	底部2/12	胎土	胎土・文様・釉ハギ	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-61	15	15C	5425	表土掘削	150819	灰輪削器	柄か?		-	6.4	2.3	底部12/12	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-62	16	16A1	5729	006SX	161021	鉄輪削器	花瓶(得利用)		-	6.8	(8.3)	底部1/12	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-63	16	16A1	5427	015SK	161104	陶器(半磁?)	鉢(型押し)		17.0	8.0	5.5	7/12	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-64	16	16A1	5326	表土除去中	161006	陶器(半磁?)	箱形湯のみ		-	-	(4.7)	底片	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-65	16	16A1	5326	表土除去中	161006	陶器(半磁?)	馬の住居		3.1	2.5	2.5	完形	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-66	14	試掘	TT-10	一括	140604	弥生土器	甕		-	6.0	2.1	1/8	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
E-67	14	試掘	TT-20	一括	140606	鉄輪削器	すり鉢		-	(1.44)	(11.6)	9/12	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土

砥石（縄文以外）一覽表

登録番号	調査年度	発掘区	グリッド	遺構	器種	分類1	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	日付
S-82	2015	15A	5625	検出1	砥石	中近世	凝灰岩	(3.0)	2.9	0.9	12.9	150714
S-83	2015	15B	5422	表土掘削	砥石	中世以降	砂質凝灰岩	(5.0)	4.5	3.4	102.9	150910
S-84	2015	15B	5422	表土掘削	砥石	中世以降	砂質凝灰岩	9.5	2.3	1.3	41	150910
S-85	2015	15C	5222	045SK	砥石	中世以降	泥質凝灰岩	6.2	3.8	1	33.1	150904
S-86	2016	16A1	5425	038SK	砥石	中世以降	泥質凝灰岩	3	2.4	2	20.6	161021

写真図版





2016 年度調査区 遠景（南から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 完掘状況（南東から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 042SL 完掘状況（南から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 119SL 完掘状況（南東から）



2016 年度調査区 090SI 全景（北西から）



2016 年度調査区 090SI 石囲炉 230SL（西から）



2015 年度調査区 046SK 陶磁器出土状況（南から）



2016 年度調査区 火葬施設 001SX（西から）



2015 年度調査区 全景その1（北西から）



2015 年度調査区 全景その2（西から）



2015 年度調査区 全景その3 (北西から)



2015 年度調査区 全景その4 (北東から)



2015 年度調査区 中央トレンチ断面（東から）



2015 年度調査区 深鉢 E-4 出土状況(西から)



2015 年度調査区 剥片 S-47 出土状況（南から）



2015 年度調査区 002SK（南東から）



2015 年度調査区 003SK（西から）



2015 年度調査区 032SK (南から)



2015 年度調査区 051SK 桶底 (南東から)



2016 年度調査区 全景その1 (上空西から)



2016 年度調査区 煙道付炉穴 119SL 完掘
状況 (南東から)



2016 年度調査区 煙道付炉穴 119SL 検出
状況 (南から)



2016 年度調査区 全景その2 (真上から)



2016 年度調査区 全景その3 (真上から)



2016 年度調査区 西壁土層断面（東から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 042SL 検出状況（南から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 042SL 土層断面（西から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 042SL 土層断面（東から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 042SL 完掘状況（東から）



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 土層断面 A (南東から)



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 土層断面 A/D (南から)



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 土層断面 D 南西から



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 土層断面 B (南西から)



2016 年度調査区 煙道付炉穴 246SL 煙道完掘状況 (南西から)



2016 年度調査区 屋外炉 088SL 完掘状況 (北東から)



2016 年度調査区 屋外炉 088SL 土層断面 (南から)



2016 年度調査区 屋外炉 088SL 土層断面 (北から)



2016年度調査区 屋外炉 266SL 土層断面 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 137SK 土層断面 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 139SK 完掘状況 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 141SK 断ち割り状況 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 154SK 土層断面 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 154SK 完掘状況 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 164SK 断ち割り状況 (南西から)



2016年度調査区 陥し穴 165SK 土層断面 (南西から)



2016 年度調査区 陥し穴 210SK 土層断面（南西から）



2016 年度調査区 陥し穴 289SK 土層断面（西から）



2016 年度調査区 陥し穴 290SK・294SK 土層断面（東から）



2016 年度調査区 陥し穴 291SK 土層断面（南西から）



2016 年度調査区 陥し穴分布状況（東から）



2016 年度調査区 竪穴建物跡 090SI 遠景（南から）



2016 年度調査区 竪穴建物跡 090SI 床面検出状況（北西から）



2016 年度調査区 竪穴建物跡 090SI 床面完掘状況（北西から）



2016 年度調査区 竪穴建物跡 090SI 内 石囲炉 230SL 検出状況（北から）



2016 年度調査区 竪穴建物跡 090SI 内 石囲炉 230SL 土層断面（北西から）



2016 年度調査区 柵列 070SA・071SA 完掘状況（上空南から）



2016 年度調査区 柵列 070SA 完掘状況（東から）



2016 年度調査区 柵列 070SA- 柱穴 038SP 土層断面（東から）



2016 年度調査区 火葬施設 001SX 焼土面検出状況（西から）



2016 年度調査区 火葬施設 001SX 焼土面検出状況（南から）



2016 年度調査区 火葬施設 001SX 土層断面（南西から）



2016 年度調査区 火葬施設 002SX 土層断面（東から）



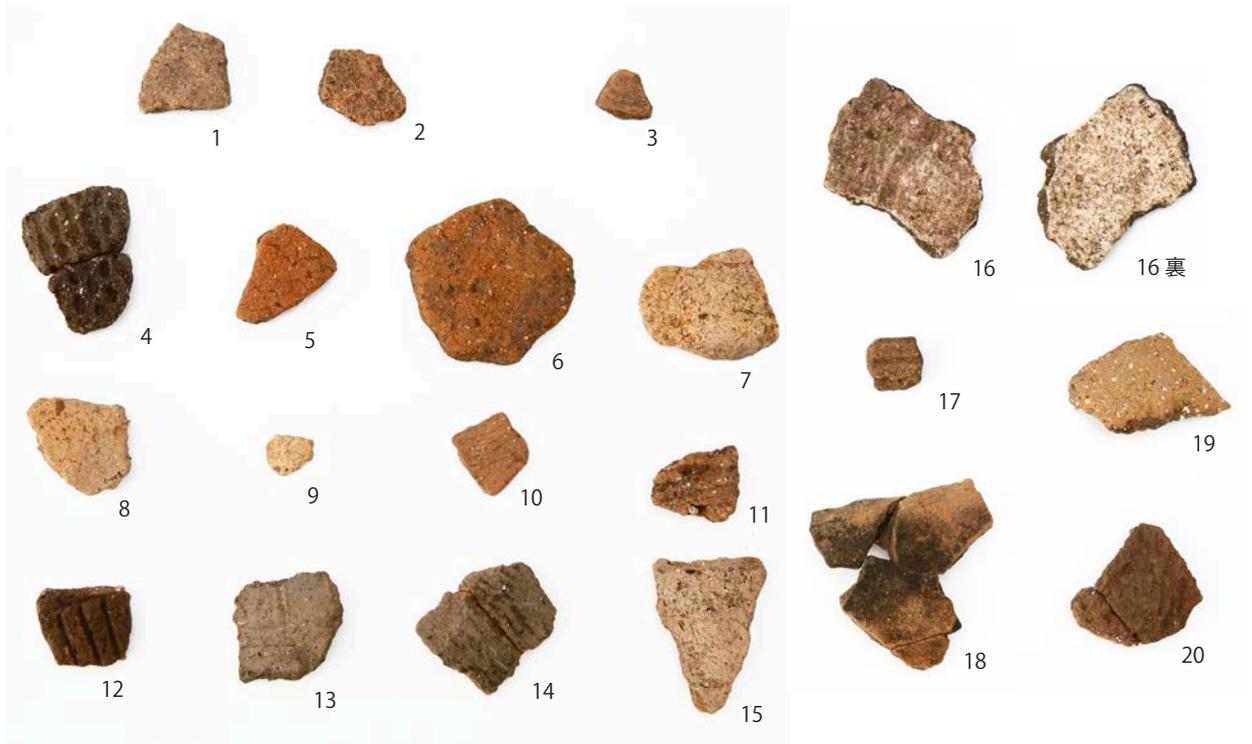
2016 年度調査区 柱穴 011SK 石錘 S-51 出土状況（南西から）



2016 年度調査区 006SX 花瓶 E-62 出土状況（西から）



2016 年度調査区 006SX 花瓶 E-62 出土状況（東から）





39



40



6



14



41



13



34



36



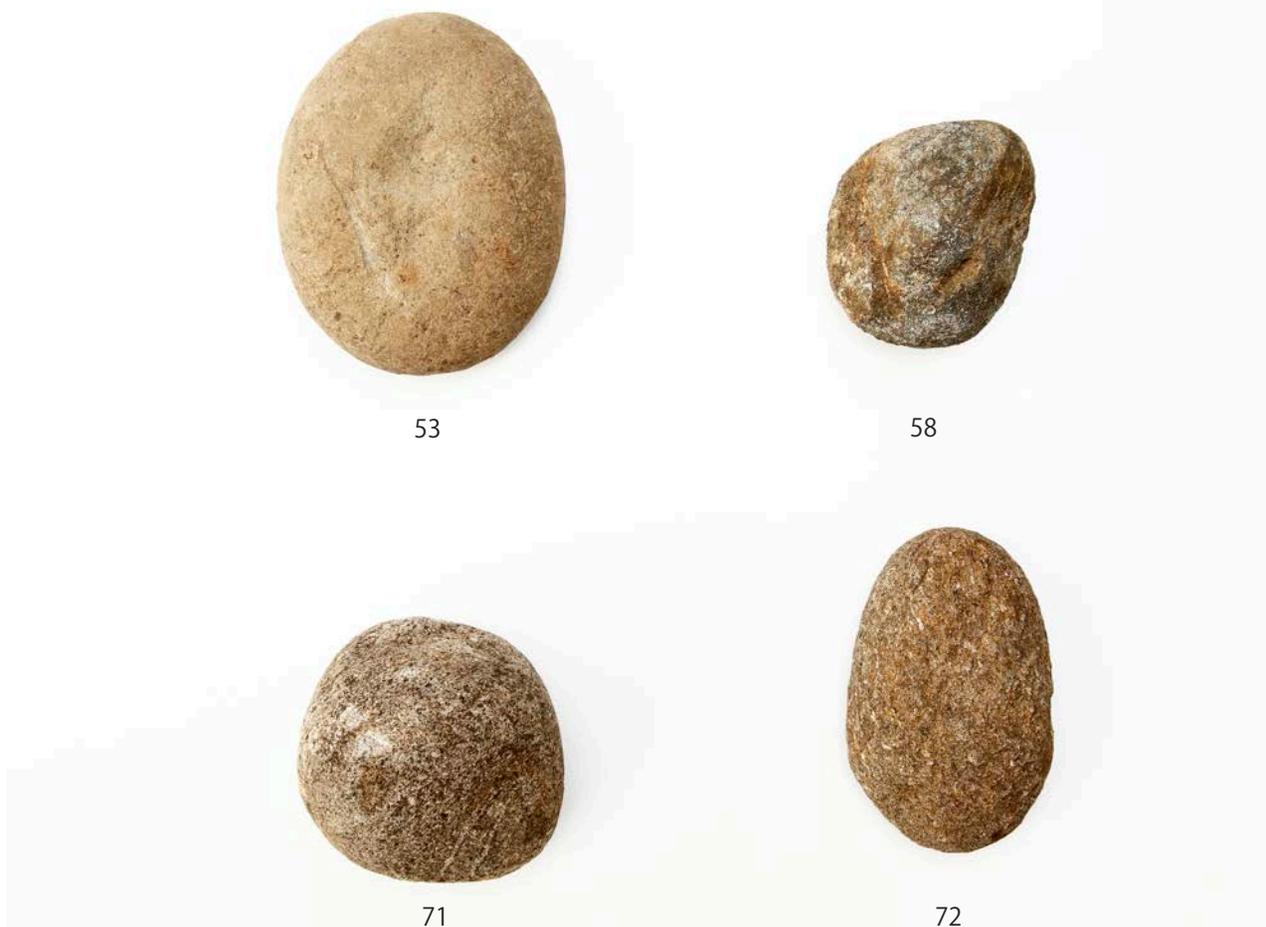
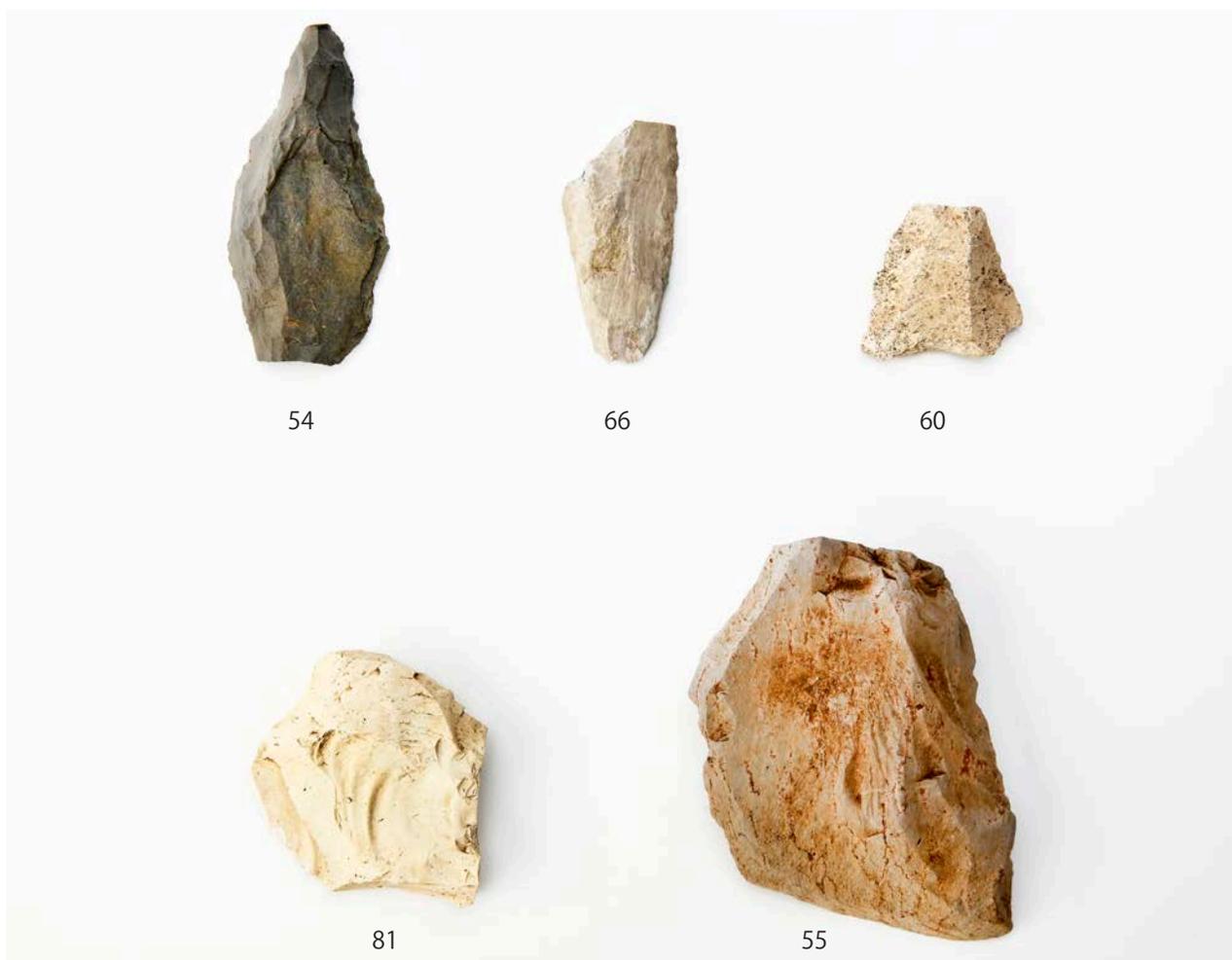
37



38



51





57表

76表

74表

57裏

76裏

74裏



63表



63裏



70



38



39



41



40



42





43



44



45



48



46



47



50



49



51



52



55



54



53



56



57



59



58



63



60



61



63



62



64



66



65





ふりがな	おおぐりいせき
書名	大栗遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第218集
編著者名	樋上 昇・鬼頭 剛・川添和暁・早野浩二・鈴木恵介・田中 良ほか
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2022 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおぐり 大栗	あいちけんきたしたらぐん 愛知県北設楽郡 したらちようかわむき 設楽町川向	23561	700163	35 度 6 分 40 秒	137 度 33 分 52 秒	2015.7 } 2015.9 2016.9 } 2016.12	5,550	設楽ダム

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大栗遺跡	集落跡	縄文時代早期	煙道付炉穴 3 基、 屋外炉 2 基、陥し穴 9 基	縄文土器、石器	煙道付炉穴の遺存 状況が極めて良好
	集落跡	縄文時代中期	竪穴建物 1 棟	縄文土器、石器	石囲炉を有する 竪穴建物
	集落跡	中世～近代	火葬施設 2 基、 柵列 3 基、土坑	陶磁器	土留めの可能性を 有する大型柵列

文書番号	発掘届出：埋文（27 埋セ第 147 号 / 28 埋セ第 51-1 号） 発掘届出：県教委（27 教生第 53 号 / 28 教生第 1508 号） 完了報告（27 埋セ第 81 号 / 27 埋セ第 85 号） 文化財認定（27 教生第 1910 号 / 28 教生第 3008 号）
------	---

要約	奥三河山間部の戸神川左岸の傾斜地に立地する縄文時代早期から近代の集落跡。 縄文時代早期は煙道付炉穴と陥し穴、縄文時代中期は竪穴建物が認められる。 また、近世～近代には大型の柵列と石組の火葬施設が確認されている。
----	---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第218集

大栗遺跡

2022年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社